

三重県案内記

82
578

Ⓜ

025647-000-6

82-578

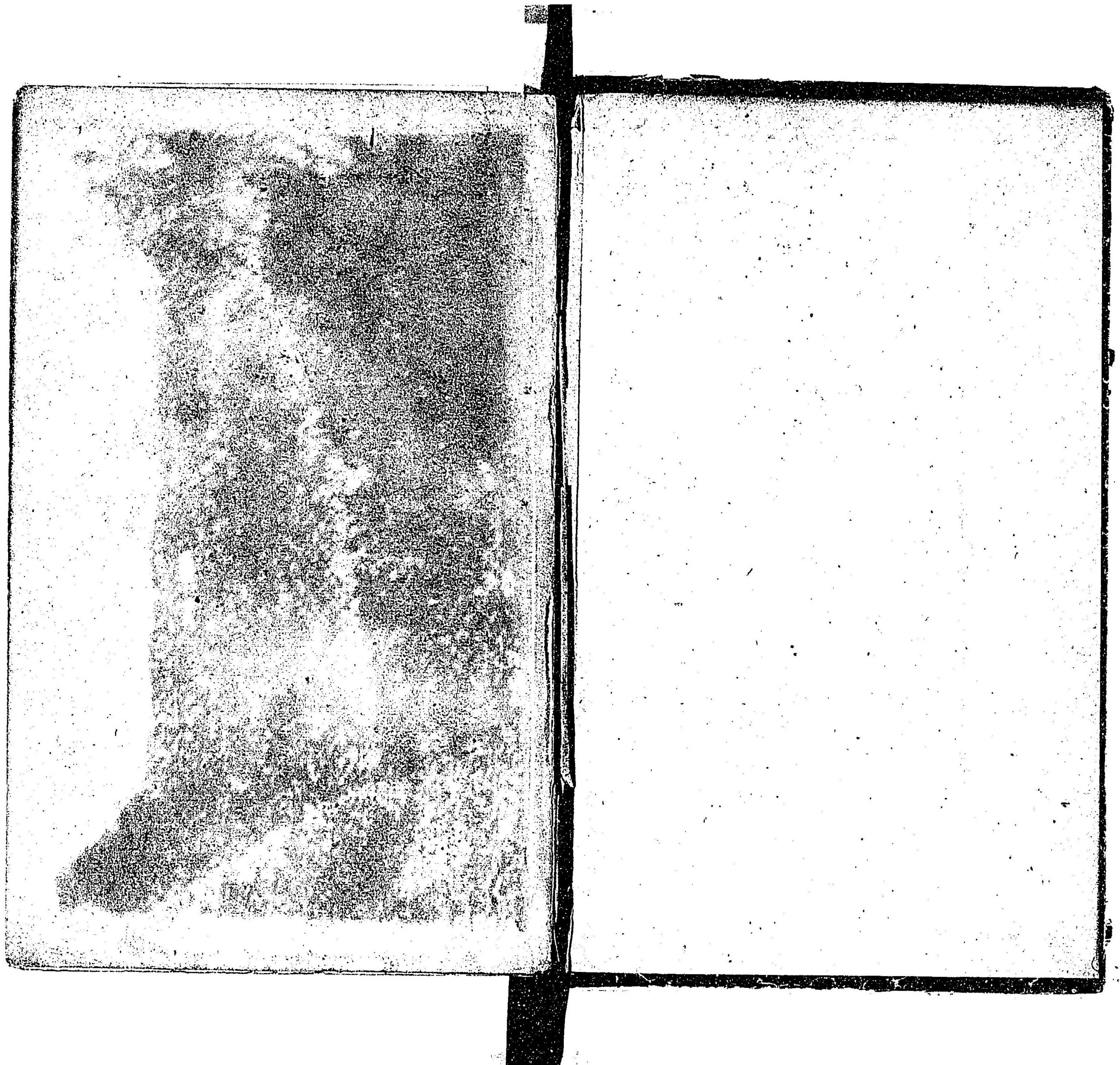
三重県案内記

梅原 三千 / 著

M36

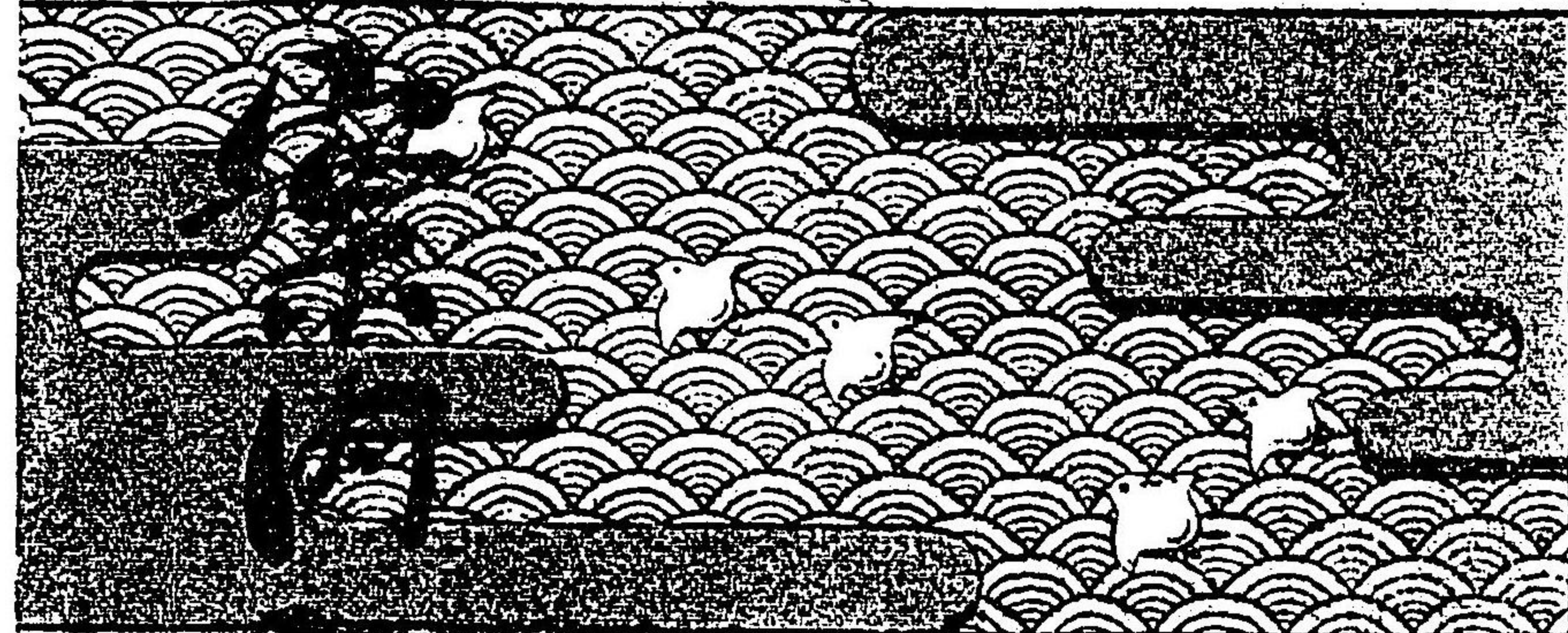
ADC-3164



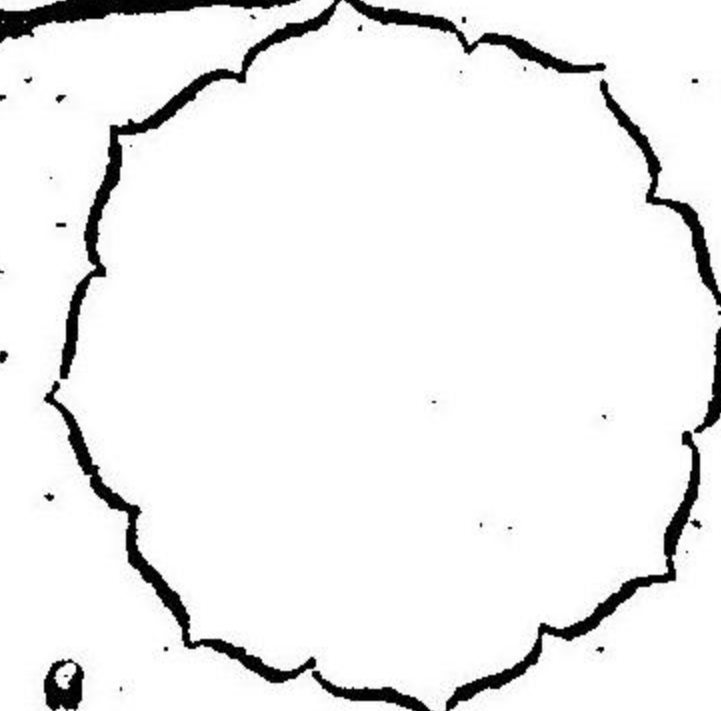


82
578

三
重
縣



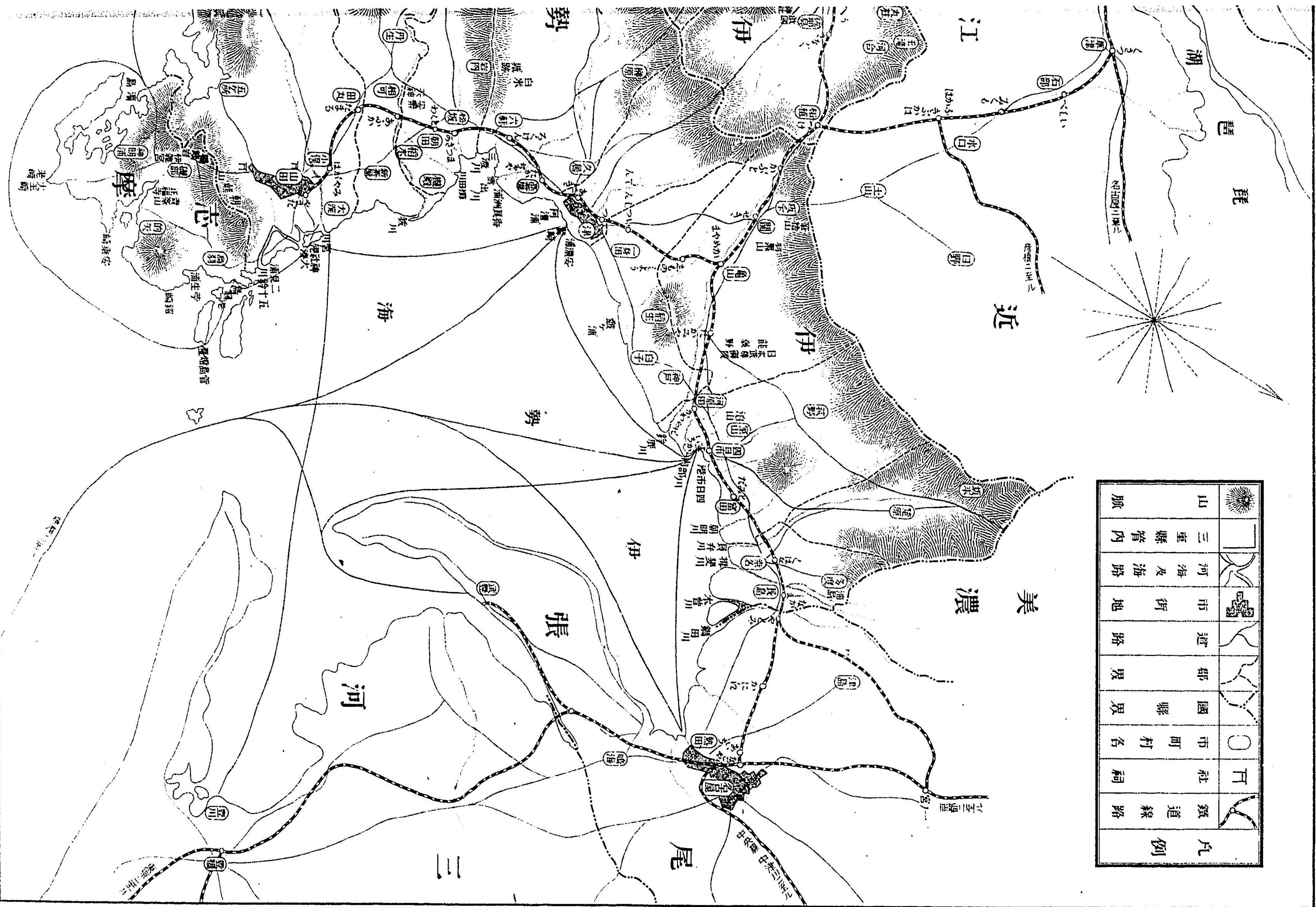
津
河
記



三重縣は神風の伊勢の國を中心として其の兄弟の國なる伊賀國及古名伊勢島てふ志摩と紀州熊野の一部南北半婁郡とを併せ四國二市十五郡十九町三百二十五村面積二百六十二方里人口百餘方を管し日本の中央部太平洋岸に伊勢内海を控へて畿内山脈の東に展開せる沃饒の地域なり其の生産額は最近の調査に據るに金四千百八十万圓に達し農産其の過半を占め工産は其の三分一に居る重要な品目を擧ぐれば米、麥、大豆、葉藍、菜種、繭以下農産物十種及生糸、製茶、綿糸、清酒、綿織物、醬油、油、油滓、陶磁器、漆器、漁網、素麵、菓子、煙草以下十七種其の他木材、魚貝、海藻等の産額又大に見る可き者あり其の集散点たる樞要の都邑は津、宇治山田、四日市、桑名、松坂、上野の六市街を推し鳥羽、尾鷲、木の本諸港は外海岸重要の海港たり 掛巻も畏き 天祖天照大神の鎮座ましまして長へに國基を擁護し給へる全國唯一の靈境たるは言ふを待たず縣内到處の山水は歴史と風致とに富み軟和の氣候と明媚の風光とは以て避暑避寒の樂土遊息慰安の仙郷と稱するに足れり若し夫れ交通の便は海に汽船の定期航海あり陸に關西參宮の兩鐵道あり大坂よりは鐵路四時間程東京よりは十二時間程にして大廟に賽するを得べく而して縣内著名の名勝を探らんとせば僅に五六日以て能く其の大半を歴覽するを得るなり



山	三重縣管内	河海及海路	市街地	道	郡界	國縣界	市町村各	社	鐵道線路	凡例



江 伊 勢

近

美 濃

張

伊

河

尾

三

志 摩

朝 日

山 崎

浦 生

島 田

島 田

島 田

島 田

島 田

島 田

島 田

島 田

島 田

島 田

島 田

島 田

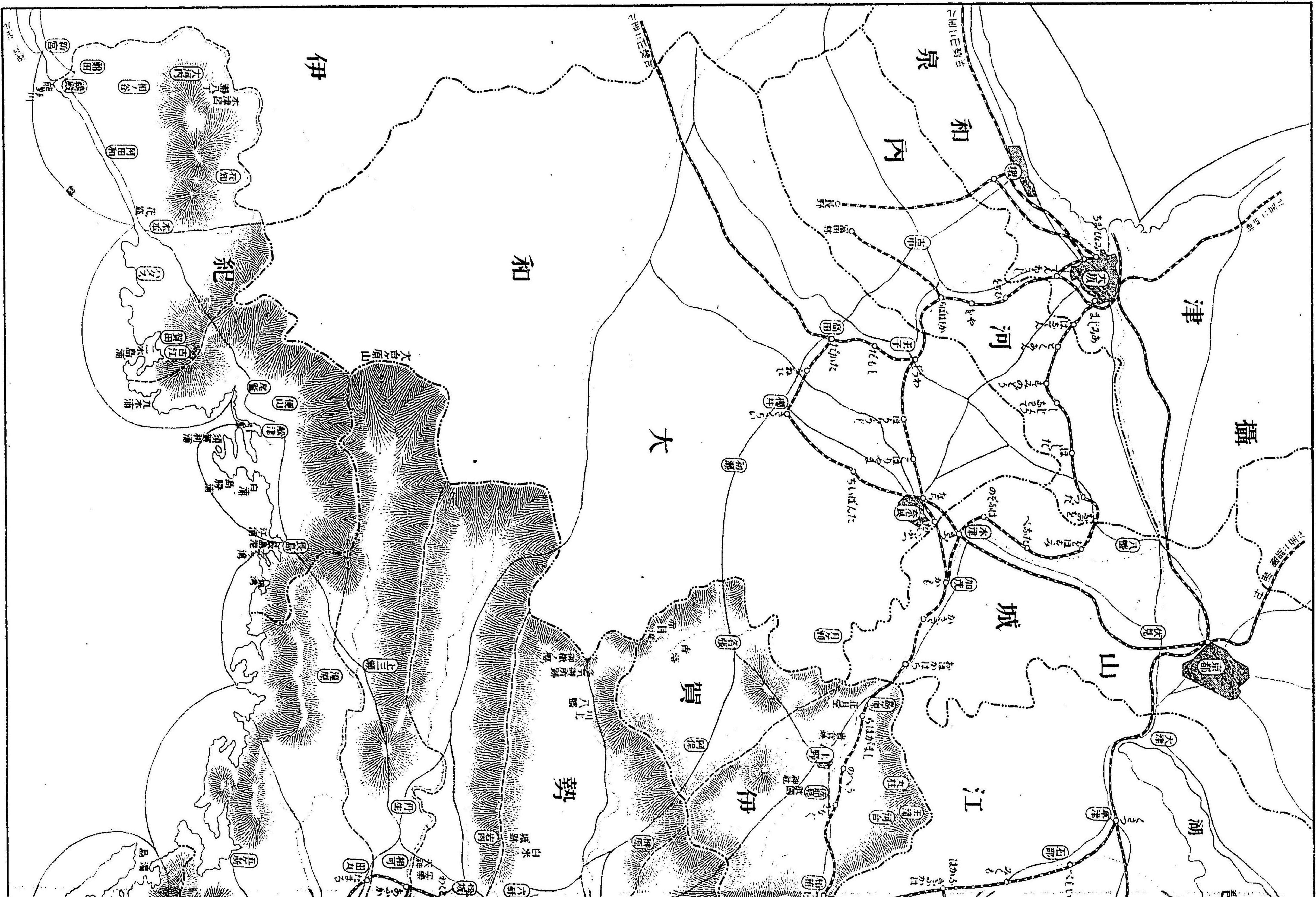
島 田

島 田

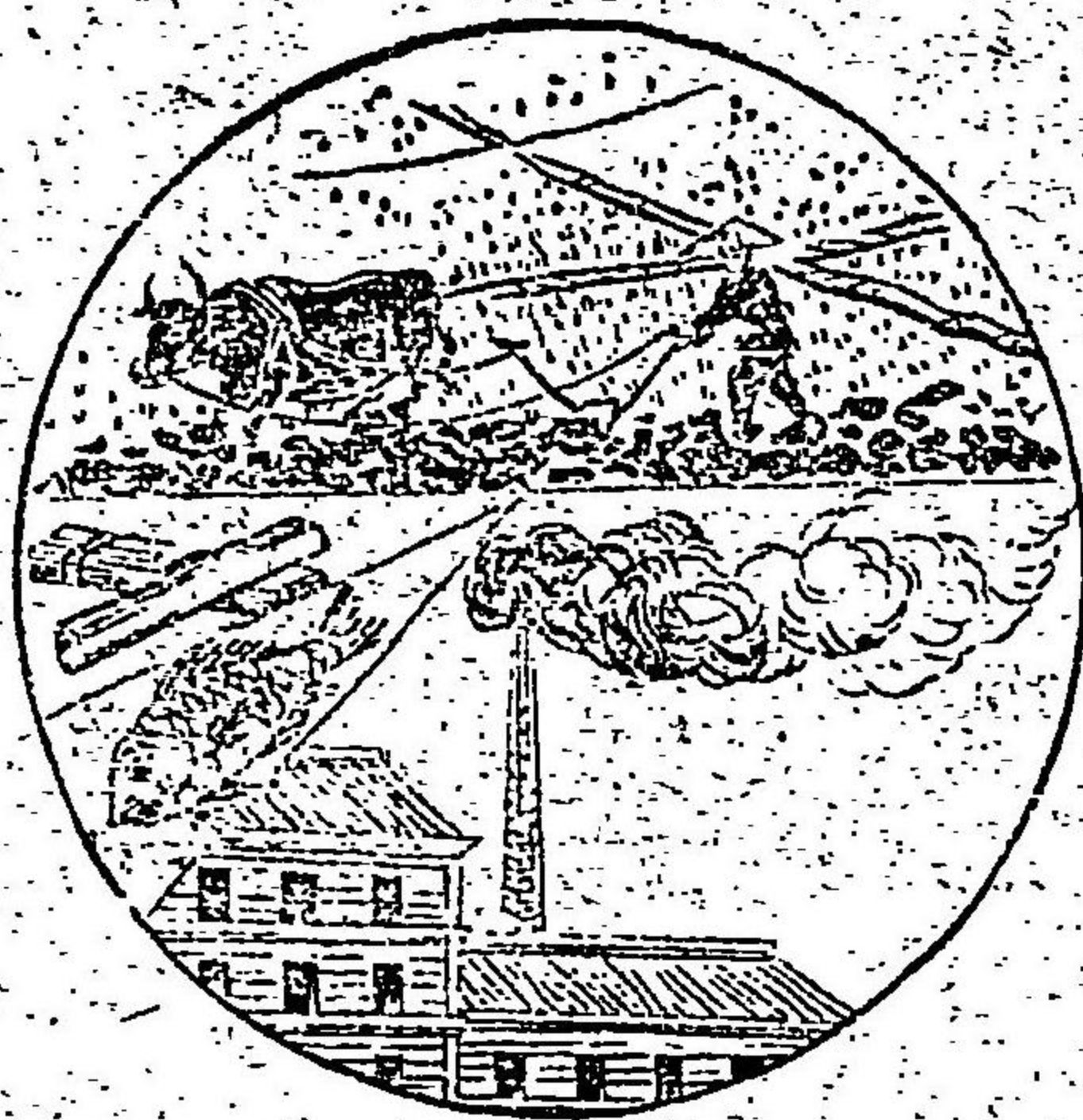
島 田

島 田

島 田



縣下物產價額品別比較圖



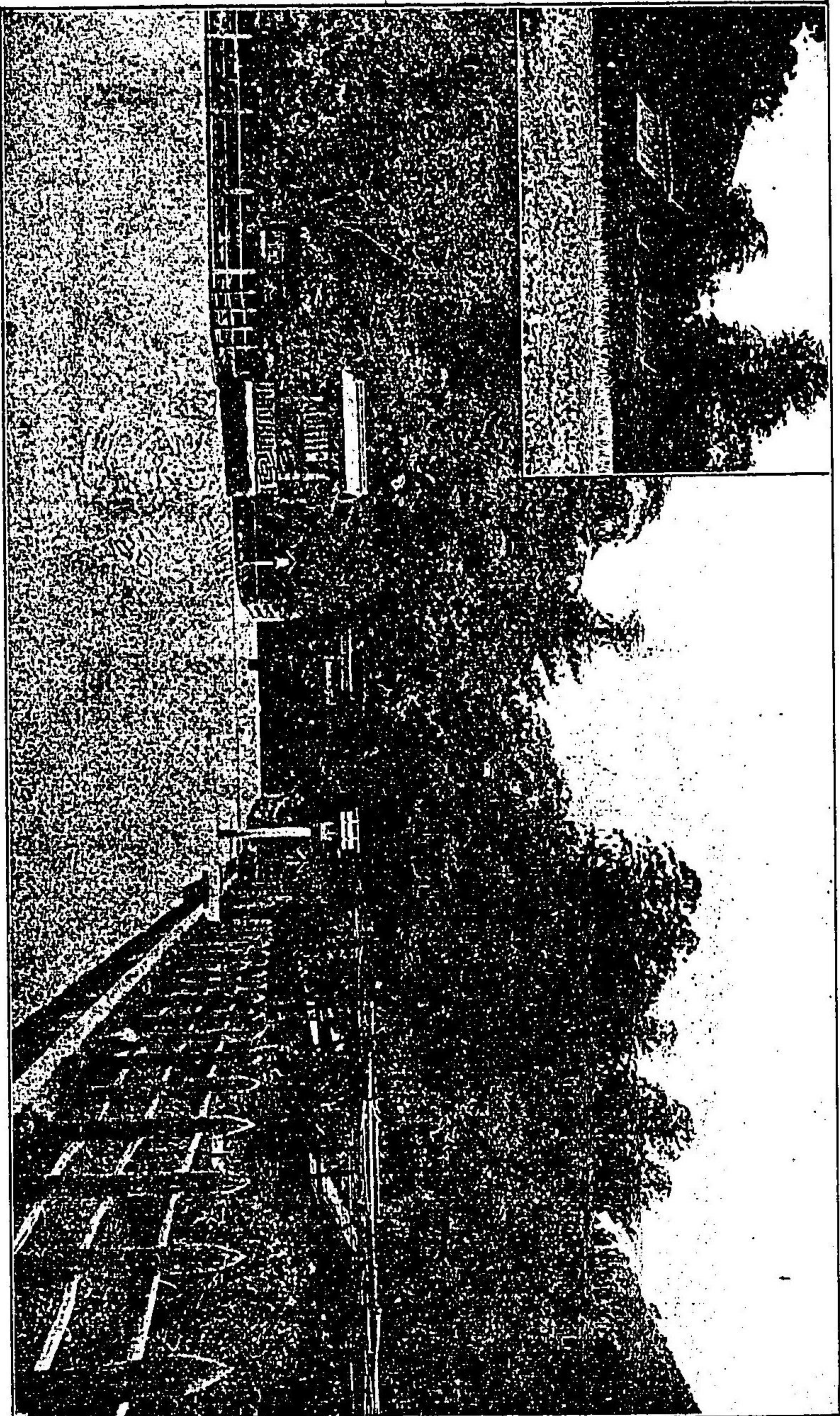
農產	工產	水產	林產	森林面積	立木地	無立木地	林產物價額	用材	薪炭林	竹	雜林產
三〇,三九,六三	一六,〇〇,五二	三,三三,二〇〇	二,三五,八三	三〇,四六	四,八七三	一四,二五,三六	六三,二九四	二六,七三	一四,〇七	二,五七三	一四,〇七



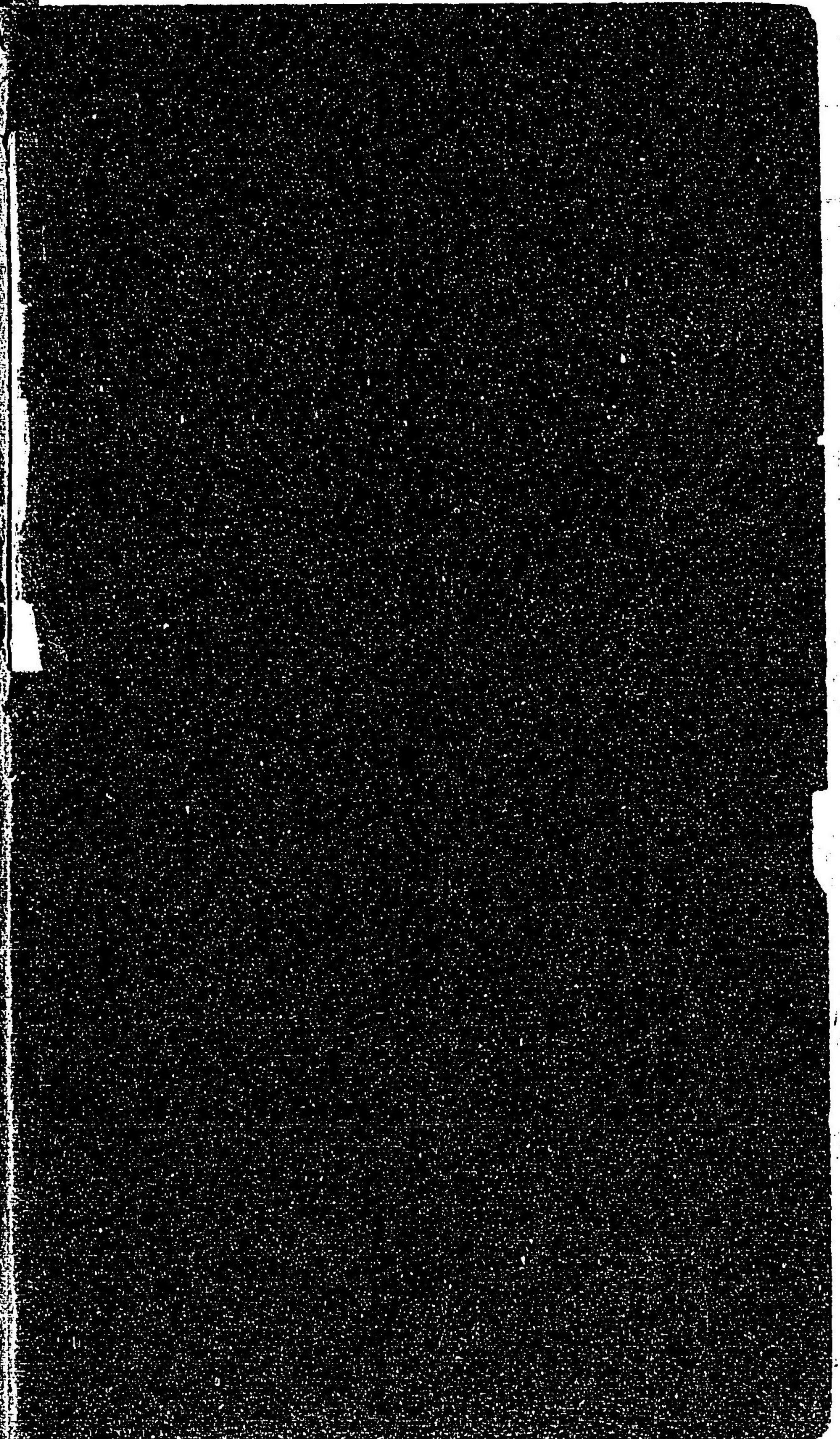
兩宮及御神寶拜觀所



三 宮 一 之 鳥 居 內 正 正 殿



殿正御宮内 居鳥のー宮内 川



天照皇大神宮又五十鈴宮と稱し奉る。神武天皇以來宮室内に祀らせ給ひしが第十代崇神天皇の御宇に藝瀨の恐れありとて大和の國笠縫邑に崇めまつり給ひしを次の帝垂仁天皇の二十六年十月に遷座せられしなり。申すも畏れければ此の大御神は高天原をしらしめし三種の神器を、天孫瓊々杵尊に授けて豊葦原瑞穗國を統治せしめ世界無比の國基を闢かせ給ひし。大御祖にして我が皇室の御歴代は天日嗣とて其の御末にましますなれば千代万世の後まで君民ともに仰ぎ尊み奉るべき無上の御宮なり。

御製一長しは民安かれと祈るなるわか世を守れ伊勢の大神
皇居附下御所一神風の御勢の内外の宮柱ゆるなき世をなほいのるか

宮域 神路山麓惣として東南を擁し五十鈴川濠々として西方を限り蔚々たる古杉老櫨は太古の瑞色を呈し秀靈幽遠いと神々しく其の面積六拾七町三反餘と承はる。

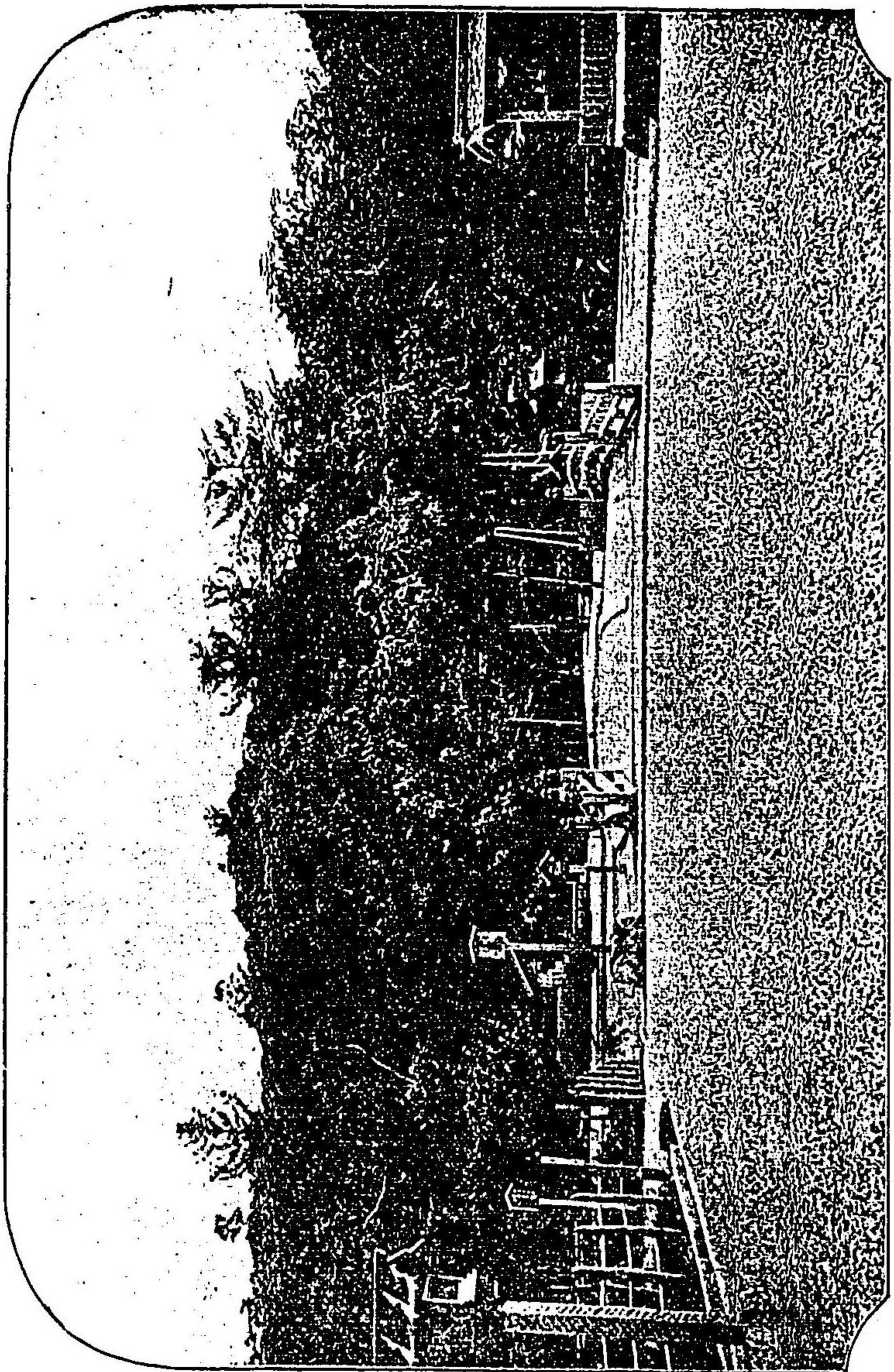
御正殿 萱葺堀立柱南向きの御殿なり御屋根には千木鯉木を据わ高欄には五色の玉を飾り周らすに五重の御垣を以てす神代の國風を其儘に存せらるゝ宮殿なりと齋齋祀れる御靈代は、大御神が御手づから、天孫に授け給ひて『吾が魂』と詔らせ給ひし八咫の御鏡にして相殿神には天手力雄命萬幡豊秋津姫命御同座あらせらる(皇大神宮儀式帳分冊に據る)

東西寶殿 東寶殿には御奉納物類西寶殿には舊御裝束類御物類等御神寶を納め奉る。
外玉垣御門 衆庶の參拜は板垣南鳥居を入りて此の御門際に至る。正式參拜には皇族は内玉垣南御門の内に勅任以上は同御門際に奏任は八重賢木の際まで判任宮は外玉垣南御門の内際まで進むことを許さる(外宮參拜亦同じ)

此の他城内御建物は、第一鳥居、第二鳥居、外幣殿、御稻御倉、由貴御倉、御酒殿、御饗調倉、忌火屋殿、御葺木屋、五丈殿、内御殿、中御殿、外御殿、御馬洗場二ヶ所、御井一、鳥居口御橋、裏參道御橋、風日祈宮御橋、行在所、參集所、表衛士見張所、裏衛士見張所、參集所附風舎、神樂殿等あり

別宮九所 荒祭宮、風日祈宮は宮城内にあり就中荒祭宮は別宮の第一にして天照大神の荒魂神鎮座し給ふ月讀宮、月讀荒御魂宮、伊佐奈岐宮、伊佐奈彌宮は本宮より北方十八丁度會郡四郷村大字中村にあり瀧原宮、瀧原並宮は本宮の西南拾里半度會郡瀧原村大字野後に在り伊雜宮は本宮の東南三里志摩國磯部村大字上の郷に在り

御遷宮 天武天皇の御代勅して二十年を以て正遷宮の期と定め給ひ持統天皇の四年始めて遷御の大禮を行はせ給ひき爾後明治廿二年迄に式年正遷宮を行はせられしこと五十六回なりと又年中御祭典は歳旦大御饌を始め三十八回いと壯嚴に奉祭せらる。
神苑 宇治橋より宮域に接し樹木花卉を植む神域清美の景致を添ふ。皇太子殿下御手植の松は榮びて照代の瑞祥を呈し大山野津両大將の献品は征清の紀念をこゝに留む



外宮

豊受大神宮又度會宮と稱し奉る百穀の發生を掌り衣食を幸ひ給ふ御神なり内宮鎮座より四百八十二年の後第二十二代雄略天皇二十二年九月 天照大御神の神託により丹波國與謝郡(今は丹後に入る)麻奈爲原よりこゝに移させ給ふ宮域は八十七町七反餘南方一帯高倉山に連り老樹翁蔚として千歳の色を帯び幽邃清淨の靈區なり

掛巻もかしこき豊の宮柱直き心は空に知るらん 後成 何事のははしますとはしらねともかたしけなきに涙こぼる 西行

御正殿 宮殿の構造凡て内宮に同じ相殿神三座正殿内に御同座あらせらる

東西寶殿 東寶殿には御幣錦綾御調の糸を納め西寶殿には幣馬の鞍及古神寶を納む

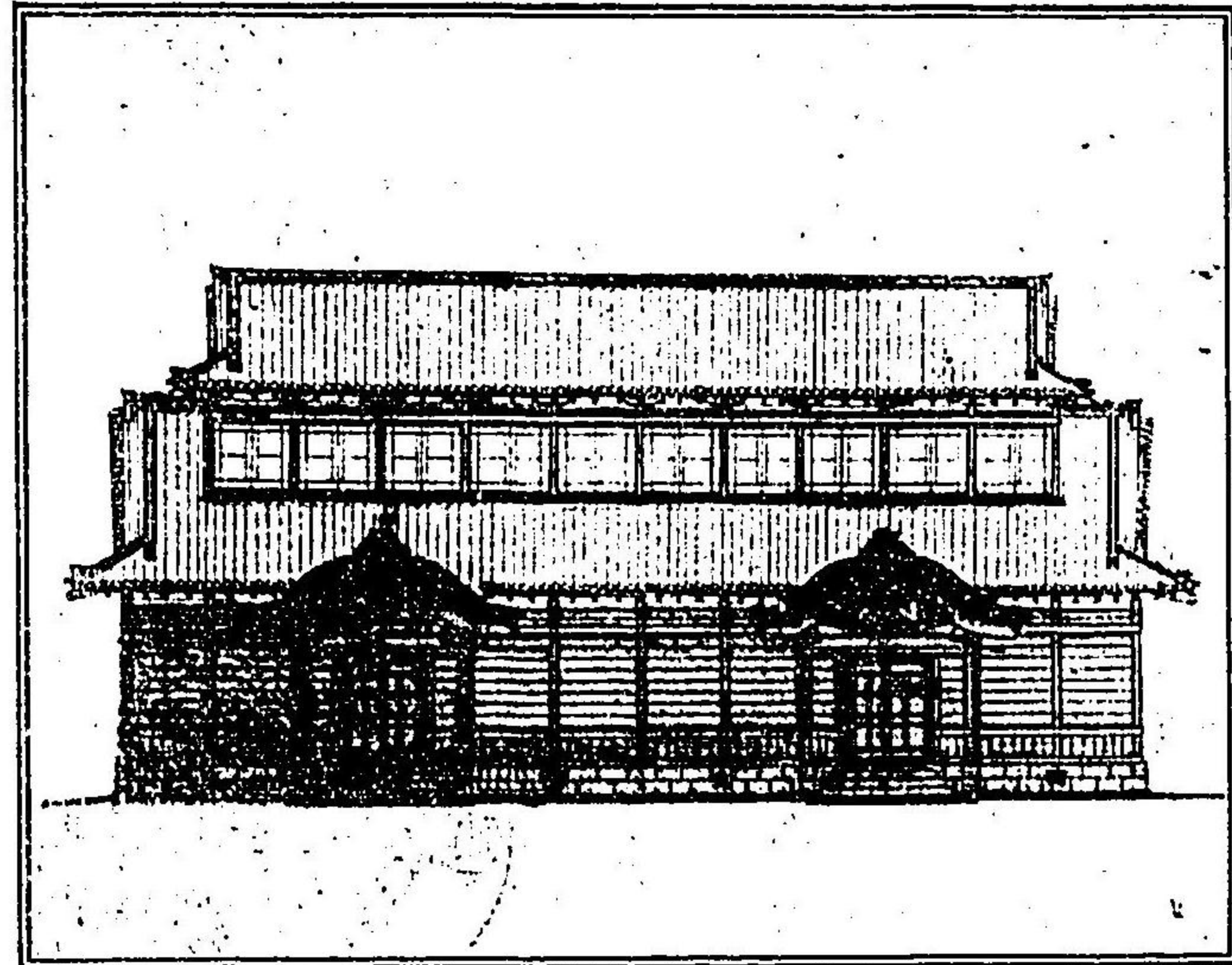
宮域内御建物は大畧内宮と同じければ省く大宮院の周圍は外宮は九百二十五丈内宮は九百三十丈東西寶殿の位地内宮は正殿の後方左右にあり又外宮の中ノ重鳥居は内宮には八重寶木の鳥居と申すとなん

別宮四所 多賀宮土宮風宮は宮域内に在り月夜見宮は宇治山田町大字宮後町にあり

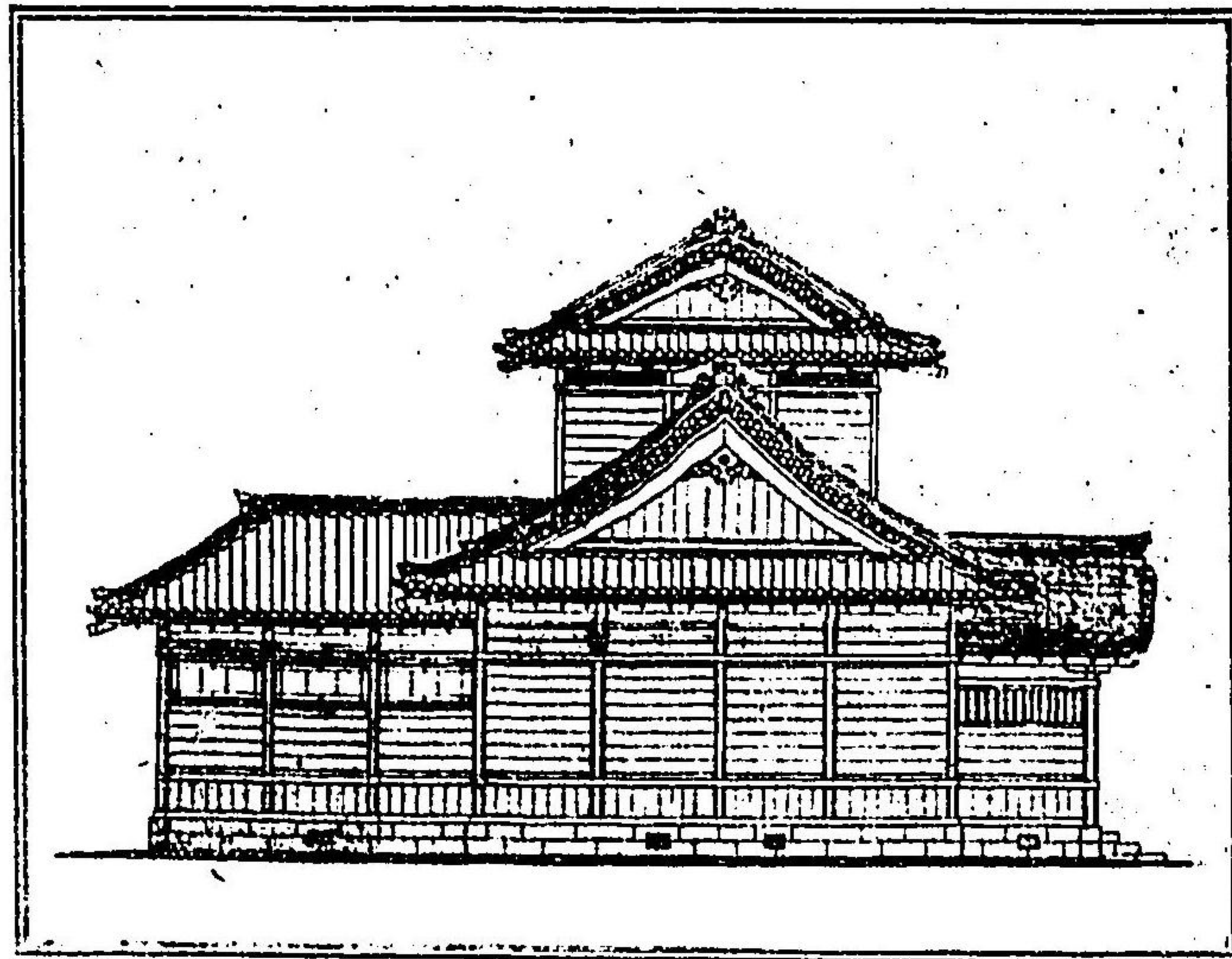
御遷宮 正遷宮の起原并に奉祭は内宮と畧相同じければ省く

神苑 北御門外より宮域に沿ひて苑地をなす迂徑數條羊腸として貫通す茲にも

皇太子殿下御手植の松并に征清紀念献納品あり昔神社の森を繞りて勾玉池を穿ち白蓮を植ゆ兩宮神苑は宮域の清淨を保たんが爲め神苑會の數万圓を擲ちて經營したる所也

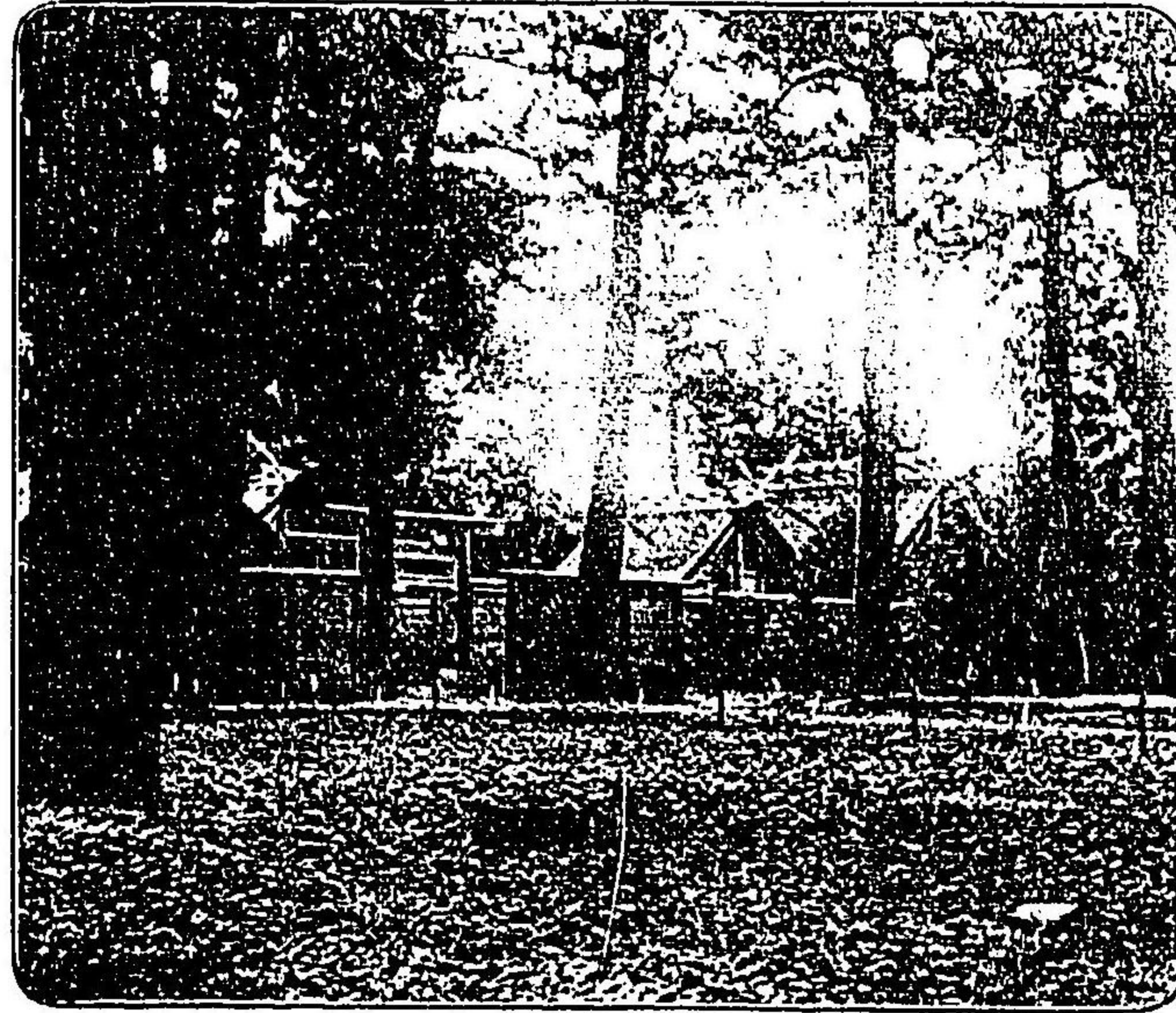


面正所觀拜寶神御

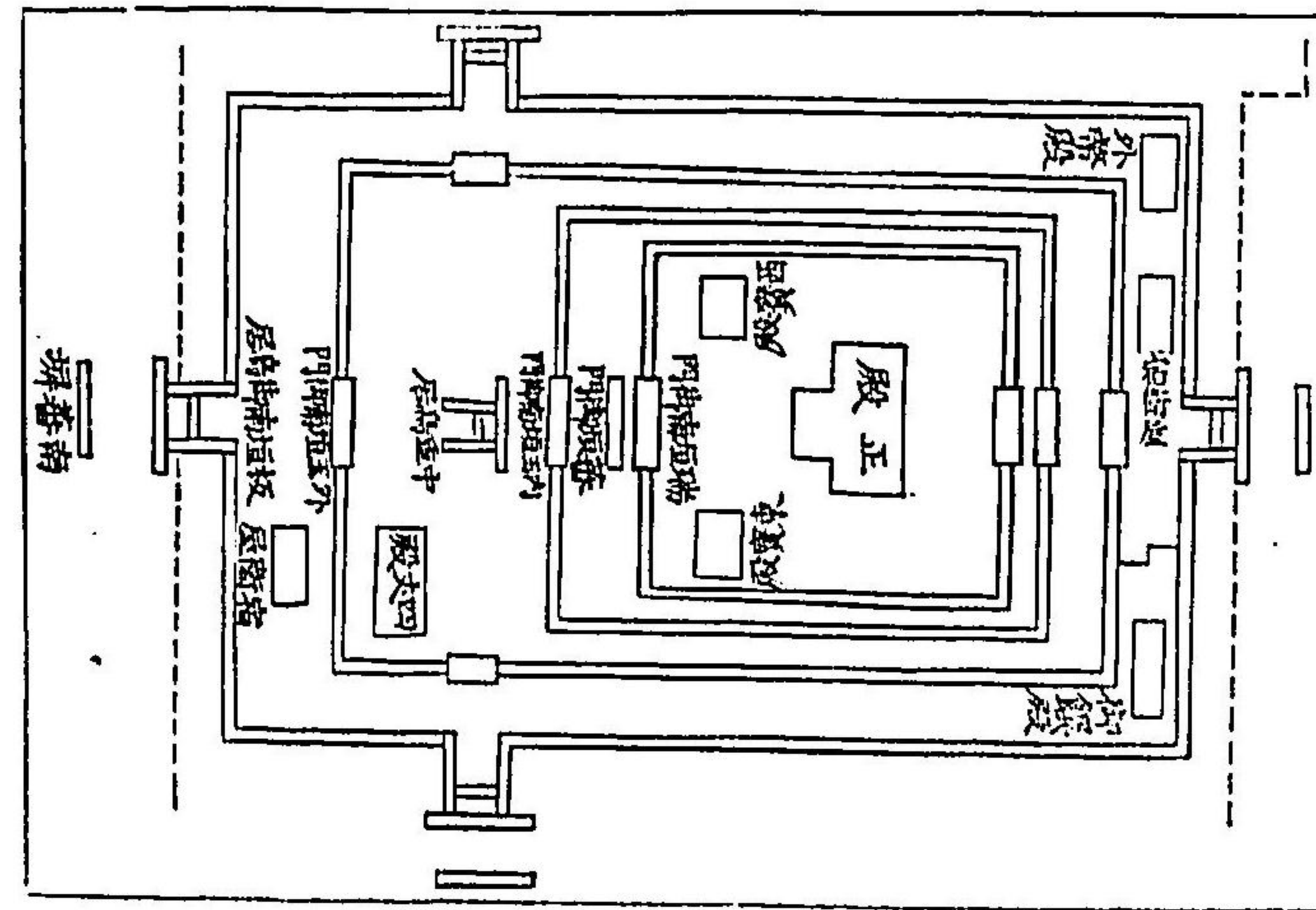


面側同

九



宮外



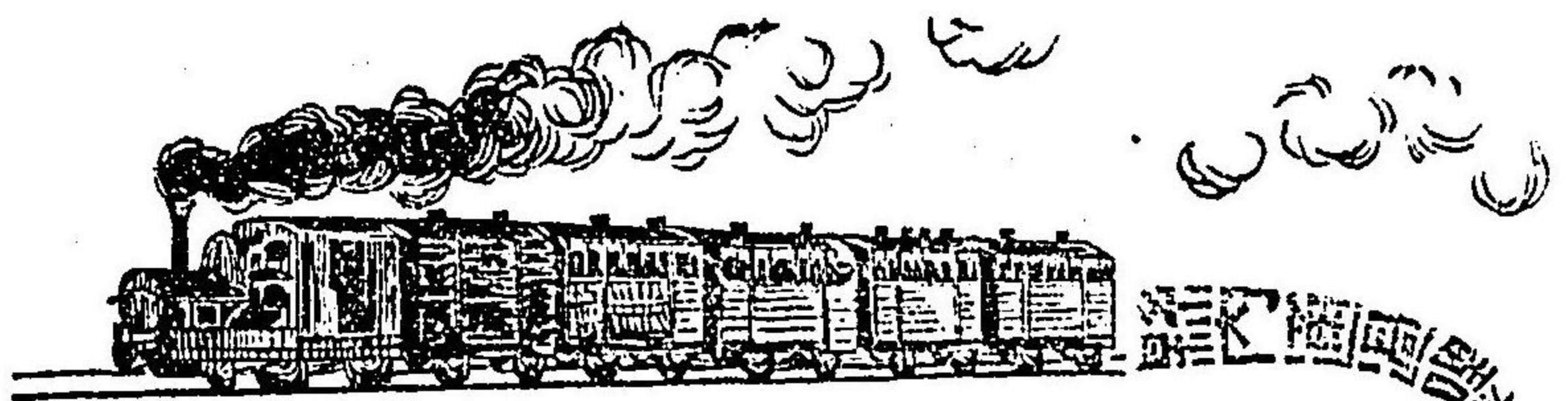
(丈五拾貳百凡圍周) 院宮大宮外

八

御神寶拜觀所は兩宮と二見浦との中央に位せる倉田山に在り此山は濱郷四郷の兩村に跨り宇治山田町に密接し岡阜進進數十町に亘り東南神路朝熊鉦ヶ岳に對して御下に五十鈴川の清流を俯瞰し西北には双鑑浦邊漂渺たる伊勢海を望見する神部第一の勝區にして神苑會殿古館の建設地に卜定せる所たり今同博覽會の開設に際し三重協贊會は神苑會と協同し山上高潔の地に御神寶拜觀所を建築して之を神宮司廳に獻納し以て御神寶陳列奉藏の所に充て篤志者の拜觀を許るされんことを請ふて允可を得たり抑も御神寶とは東西御寶殿に納め奉る所の御式年御遷宮式御裝束類御物類其の他尊嚴犯すべからざる無上の御寶物なれば之れを宮域外に出して拜觀を許さるゝは實に前古未嘗有の特典にして拜觀者の榮譽最も大なりと謂ふべしさて登山の順路は宇治山田町岩淵町より電氣鐵道に沿ふて設けたる新道凡そ六町之れを本道とし又尾上岡本兩町の間架する小田橋よりも同じく六町古市町より凡そ三町二見街道二軒茶屋よりは凡そ七町何れも皆人車馬車の便あり

御宇宮... 見浦との中央に位する倉田山に在り此山は濱郷四
 ... 密接し阿草巖遊敷十町に亘り東南神路朝熊岐
 ... 流を傳へし西北には又蘆浦邊遊敷たる伊
 ... 古蹟にして神宮會殿古蹟の建設地に卜定せる所
 ... 三重場行會は神宮會と協同し山上高潔の地に
 ... 神宮會殿に敷けり以て御神寶置列奉養の所に
 ... 可を得たり抑も御神寶とは
 ... 御八年御宇宮へ御移東項御物類其の他尊嚴犯す
 ... 宮城外に出して拜觀を許さるゝは實
 ... 拜觀者奉養最る夫をりと謂ふべしきて登山の
 ... 氣親に詣ふて養ひたる新道凡る六町之れ
 ... 小門橋より同た六町古市町よ
 ... 皆人車馬車の便あり

名古屋より
關西線
 愛知縣境より
 龜山に至る
北勢の一部



長島線全線開通

輸出入商品	
輸出ノ部	輸入ノ部
米	三、九二四、八八九
雜穀	七九〇、三六九
生糸	三三、四二〇
織物	七五、五七五
綿糸	三〇九、七七一
木材	九〇八、六〇一
雜貨	一五、五五四、四六九
計	三、三三七、〇九四
一ヶ年鐵道	四、〇三六、一七二
乗客	二六二、五七三、二二三
貨物	六、七五、〇九一
貨金	



電信一日平均通數
發六〇二通 着六八九通
人口一人二付
郵便物數
取集二二通 配達一三三

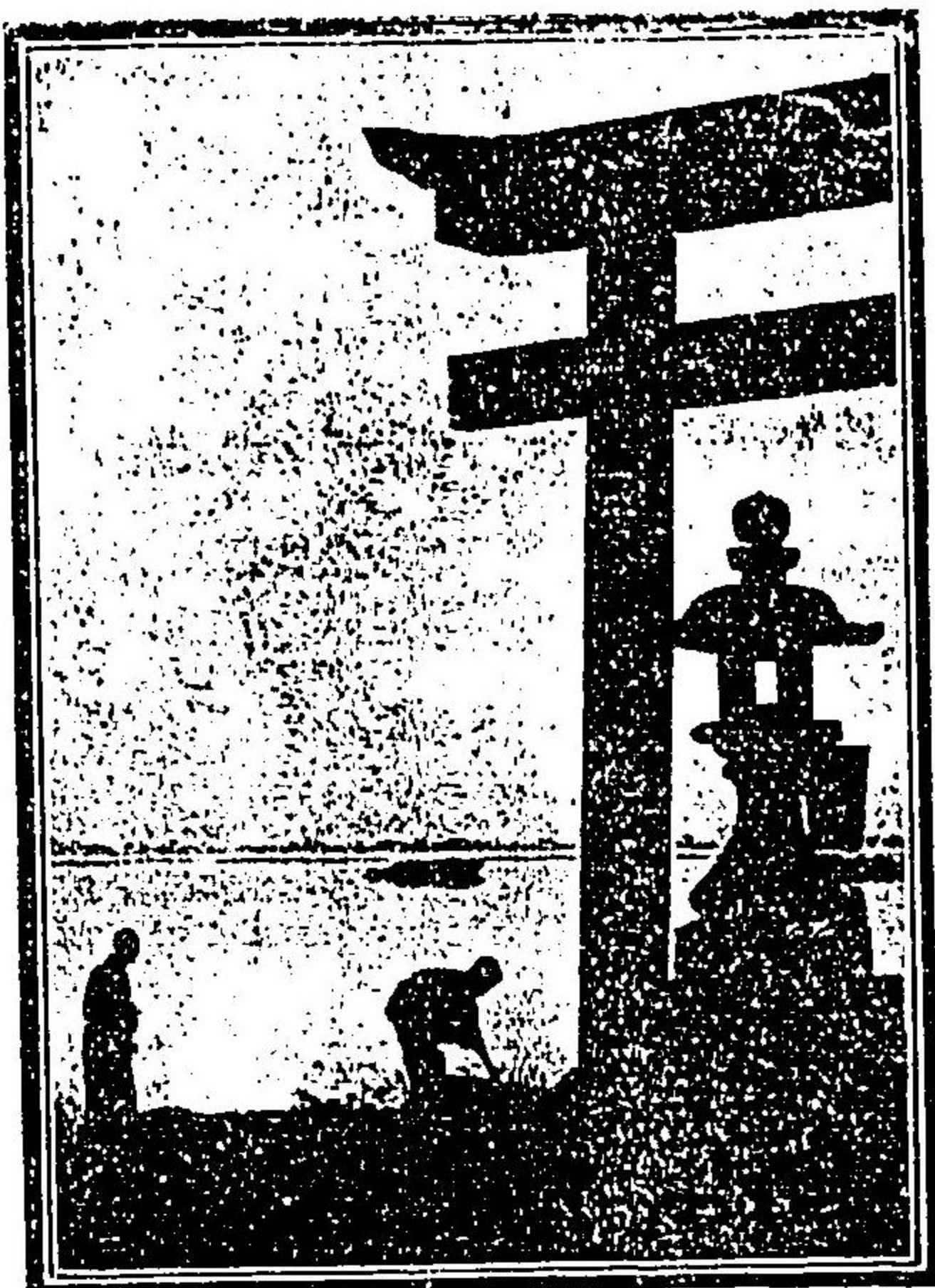
愛知縣境 彌富長島兩驛間を流る、木曾川を以て縣境とす鐵橋長二千八百より凡二里の注口に總長二千五百間の導水堤あり三川分流工事の一にして工費貳拾萬圓を要せり
長島驛 木曾揖斐二川の間在る小都邑にして増山氏の舊城下なり

木曾揖斐の下流に雅鴨湖等多く狩獵家の遊樂地たり又清水堤附近に産する海苔は伊曾島海苔とて風味甚佳也

薬名町

戸數 二、五八四
人口 三、五九四
揖斐川に臨み其の上流美濃地方と交通の便に富み尾濃勢三國に

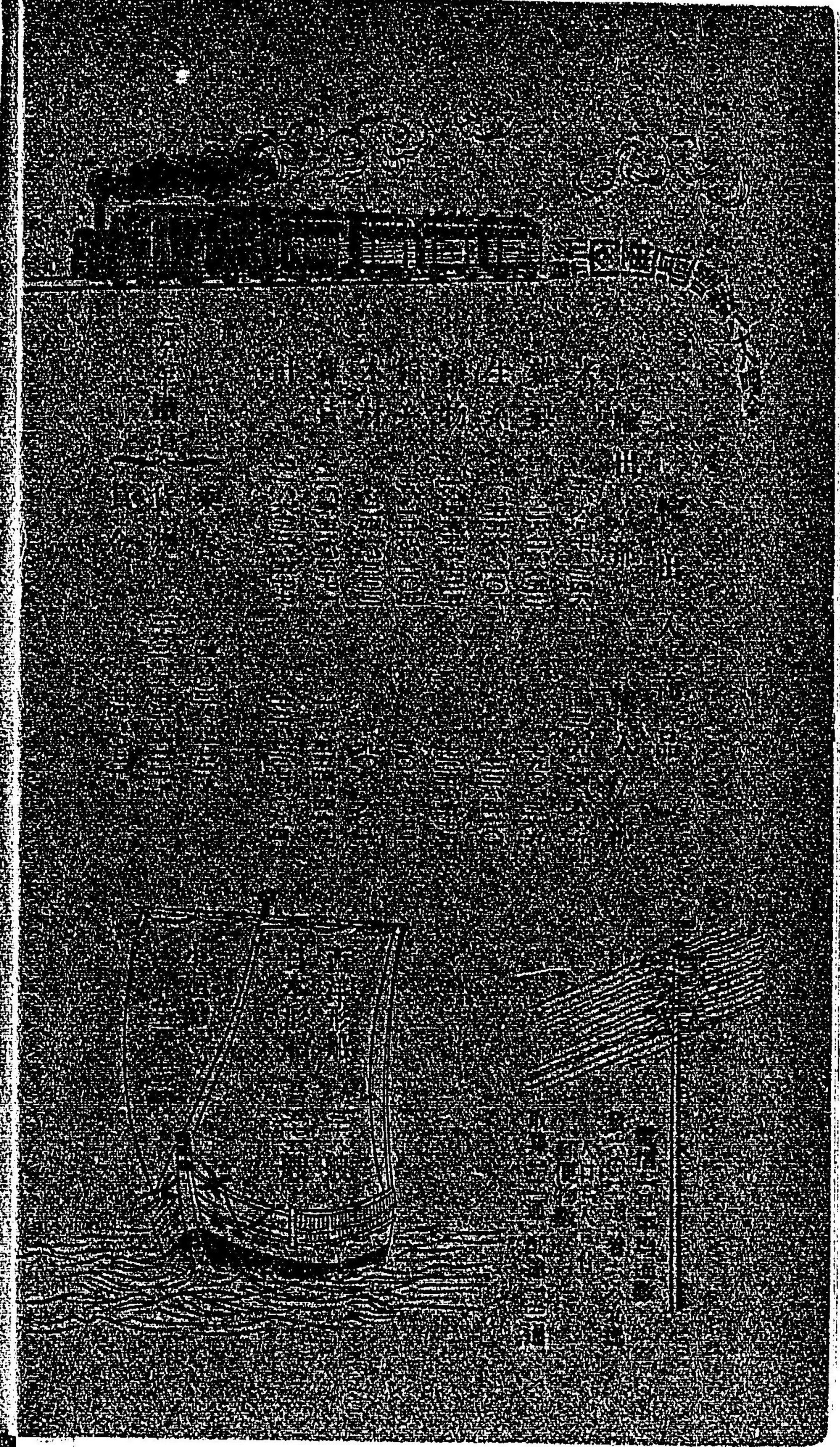
に販賣す尤一般販賣は本町三崎通宮通等にして川口は其の港なり茲より熱田へ水路七里昔は間遠の渡とて東海道の要津なりき



川 川口 船賃(乗合)
大垣 拾八錢 根古地(養老流行) 拾三錢
油島 八錢

停車場車賃

川口、船馬、本町、京町、寺町等へ 六錢以内
傳馬町、外堀、萱町、本丸等へ 八錢以内
愛宕へ 拾錢以内 大山田村渡船場迄 九錢以内
多度へ 貳拾五錢五厘以内 楚原村へ 三拾四錢以内



愛知縣境 彌富長島兩驛間を流る、木曾川を以て縣境とす鐵橋長二千八百より凡二里の注口に總長二千五百間の導水堤あり三川分流工事の一にして工費貳拾萬圓を要せり

長島驛

木曾揖斐二川の間に在る小都邑にして増山氏の舊城下なり

桑名町

戸數 三、五、八、四
人口 三、〇、七、〇

木曾揖斐の下游に雁鴨鵜等多く狩獵家の遊樂地たり又導水堤附近に産する海苔は伊曾島海苔とて風味甚佳也揖斐川に臨み其の上流美濃地方と交通の便に富み尾濃勢三國に販賣す尤も般賑なるは本町三崎通宮通等に於て川口は其の港なり茲より熱田へ水路七里昔は間遠の渡とて東海道の要津なりき

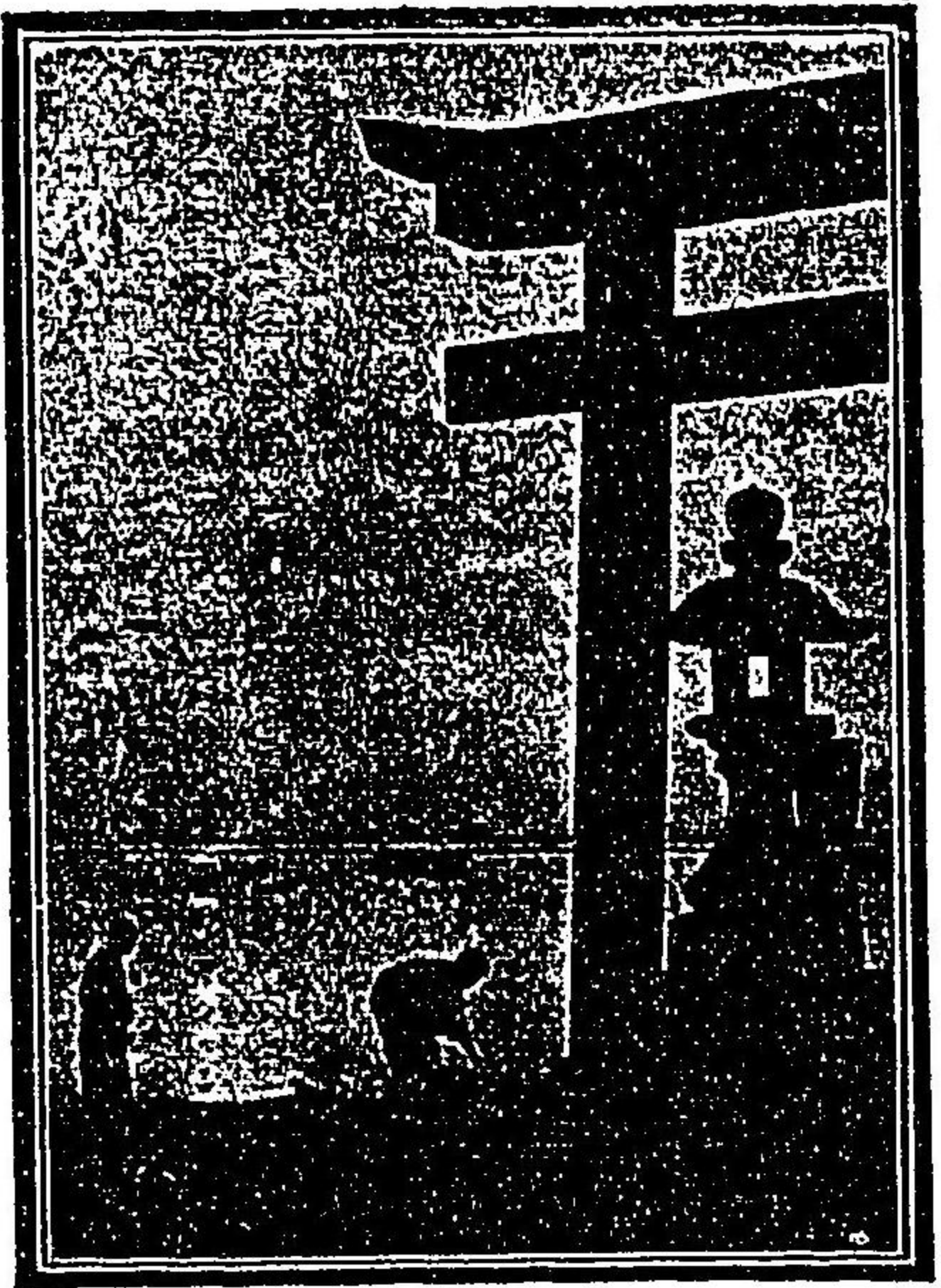
川口 船賃(乗合)

大垣 拾八錢 根古地(養老流行) 拾三錢

油島 八錢

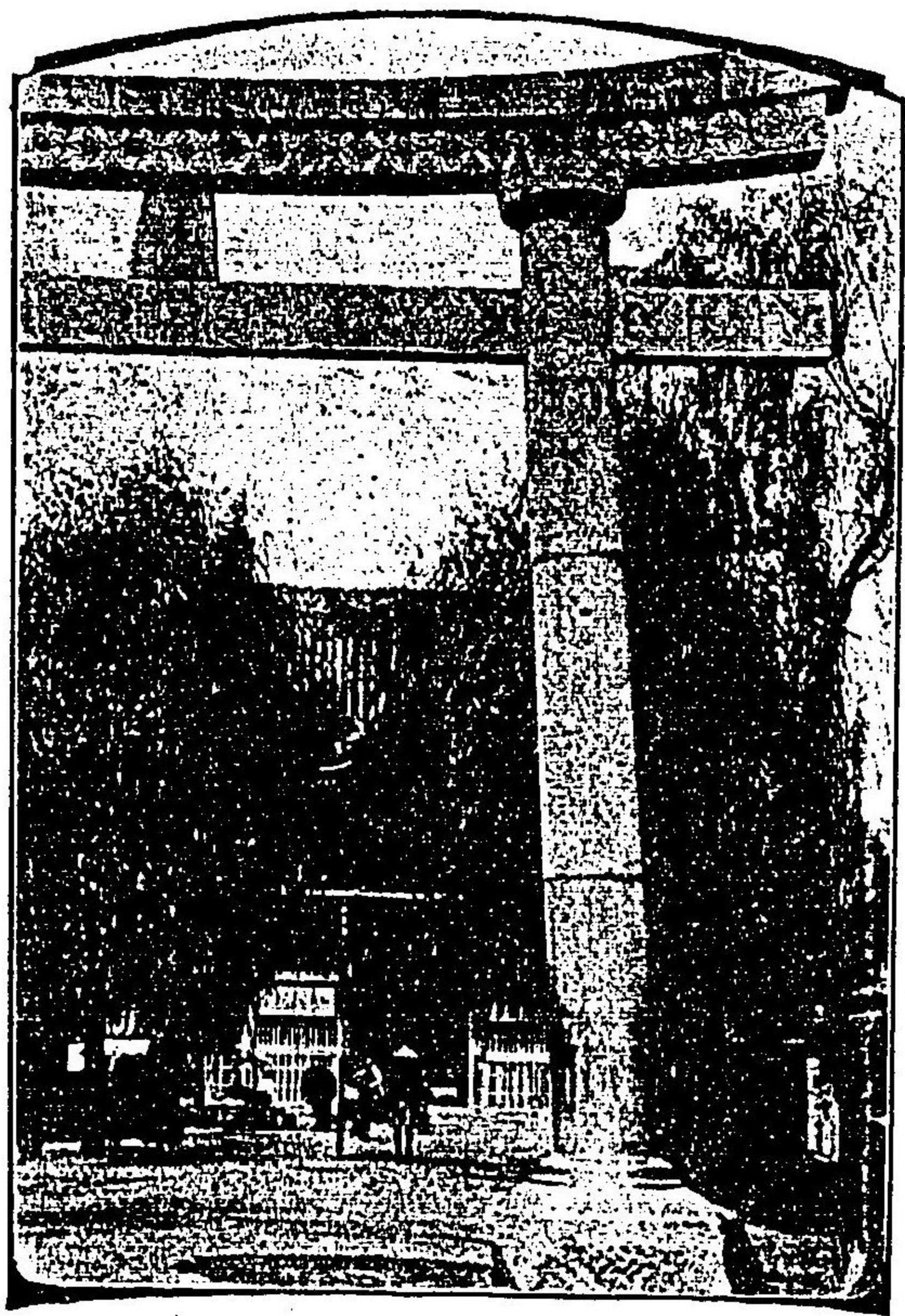
停車場 直賃

川口、船馬、本町、京町、寺町等へ 六錢以内
傳馬町、外畑、萱町、本丸等へ 八錢以内
愛宕へ 拾錢以内 大山田村渡船場迄 九錢以内
多度へ 貳拾五錢五厘以内 楚原村へ 三拾四錢以内



●桑名中臣神社

場より 三崎通に鎮座す
俗に春日社と稱ふ桑名
神社の祭神は天津彦根
命久々斯比乃命中臣神
社は天日別の命を本座
とし春日四社の神を合
祀す兩社相並びて前に
百疊敷の大拜殿あり
聖上御泊禊の時此の拜
殿を以て内侍所と定め
られき此の神社に有名
なるは銅の鳥居と毎年七月七日に行ふ石探祭なり石探とは町屋川原の石を採りて馬場
の修繕に供へしに始まり桑名町内四十余ヶ町各壯麗なる祭車を曳き列ね鉦太鼓を喧し
く打ち囃し全市恰も狂するが如く極めて勇壯華麗なる祭禮なり



桑名中臣神社の前面

●鎮國守國神社

舊桑名藩祖松平定綱公及第八代の城主定信公を祀る從來
吉ノ丸に在りしを近頃舊城御本丸内に移せり定信公は幕府の老中に任じ寛政の治績を
擧げたる白川樂翁公にして遺教尙舊藩士人の間に維持せられ樸茂摯實の風今に存せり
す終にあたらか原の露の身も國を守りの鬼とならむ

樂翁

●立坂神社

桑名町の南端益生村大字矢田にあり大日靈貴尊を本座とし相殿に
は八幡宮を祀る矢田八幡と稱し由緒深き神社なり

●天武天皇社

鍋屋町にあり壬申の亂に大海人皇子の其の妃と共に行宮を駐め
玉ひし舊蹟を紀念し奉る社なり行宮遺址は其の近傍新屋敷と稱する地に在りと云ふ

●本統寺、法盛寺

本統寺は寺町に在り東本願寺の別院、法盛寺は萱町に在り西本願寺の別院なり

●照源寺の櫻

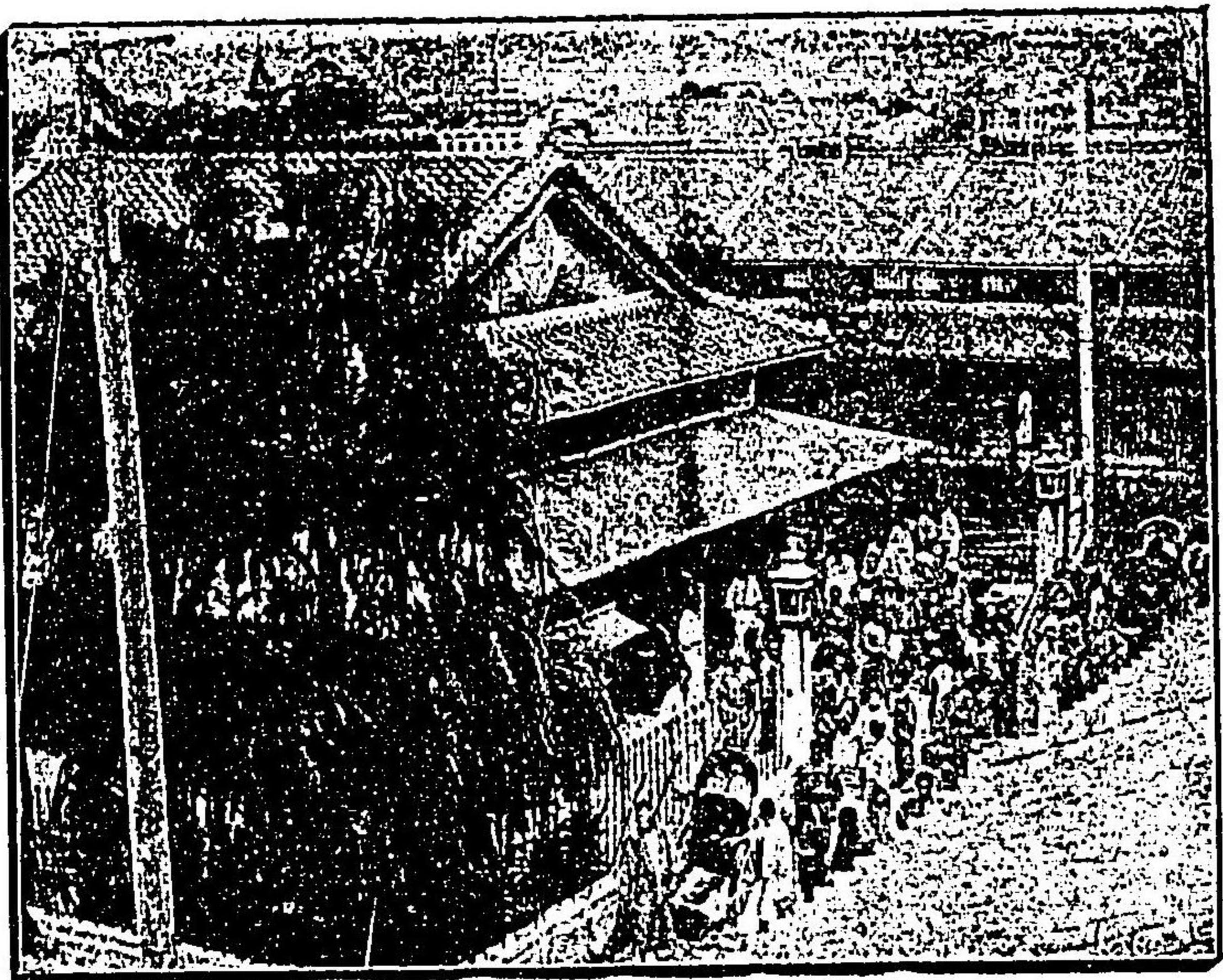
大山田村大字東方にあり舊桑名藩主累代の墳塋なり其の境内金
龍櫻と稱する老樹は藩祖定綱公が攝津の金龍寺より分植せられしものなりと傳ふ鉦幹
根際より八分し枝條繁茂す近地稀有の名花なれば春時來觀者多し

●大福田寺

照源寺の近傍にあり眞言宗仁和寺末聖德太子の開基にして本尊は
安阿彌生涯の名作本朝三軀の一と稱する阿彌陀佛なり毎月十五日開帳あり

●愛宕

市街に接する丘陵にして櫻樹多く眺望に富める勝地なり



桑名取引所

●桑名取引所 桑名町大字桑名に在り其の始源詳ならざるも舊藩廳の時許可を得て米市場を公開せしは今より百二十年前天明年間あり爾來會員組織を以て米市場又は米會所と稱し其の後株式組織に改め米商會所と稱へ又米穀取引所と改め變遷一ならずと雖も連綿として今日に至る迄取引を行ひ來り經歷已久しく賣買受渡の正確なる深く世の信用を博し東京大阪間に介立して一頭角を顯はし其昂一低は他の準的として重視する所なり

表高買賣所引取	縣下		有價證券	
	取引所名	米穀	株券種類	金額
津	桑名	石數	金額	金額
四	日市	八三三六〇	一三三三三三三	九二〇〇〇
買		五九七五〇	一〇〇〇〇〇〇	二一〇〇〇〇
賣		六六三二八五四		一〇〇〇〇〇

●桑名物産

○時雨蛤 木曾揖斐の河口より富田浦附近に産する蛤は形大に味美なり之を佃煮にしたりを時雨と稱するは製造の季節によりて名つけしならん古よりの名産にして從來曲物に入れたるを近來は製法を改良し罐詰となして販賣す(煮汁を豆腐にかけて食ふ風味妙也)

○白魚 蛤と同じく淡鹹兩水の交る所に生ずる特産なり寒中に漁獲す形優しく色純白透明にして風味美なり芭蕉の句に「雪押し白魚しろきこと一寸」とあるは人の知る處佃煮とし紅梅煮と稱へて販賣す(販賣店同前)

○桑名盆 古雅と堅牢とを其の特徴とす文政年間樂翁公が汪信民の語意を寓し蕪菁の圖を畫かしめしより以來専ら此の圖を用ゆるに至りしが今は大に改良を施し菓子器會席膳等優美の品を製し世の需用に應ず又肥松を以て製せる茶盆あり共に雅品なり

製造販賣 伊藤久吉 宮通 久村源助 宮通 小椋善次郎 矢田町 小澤傳兵衛 宮通

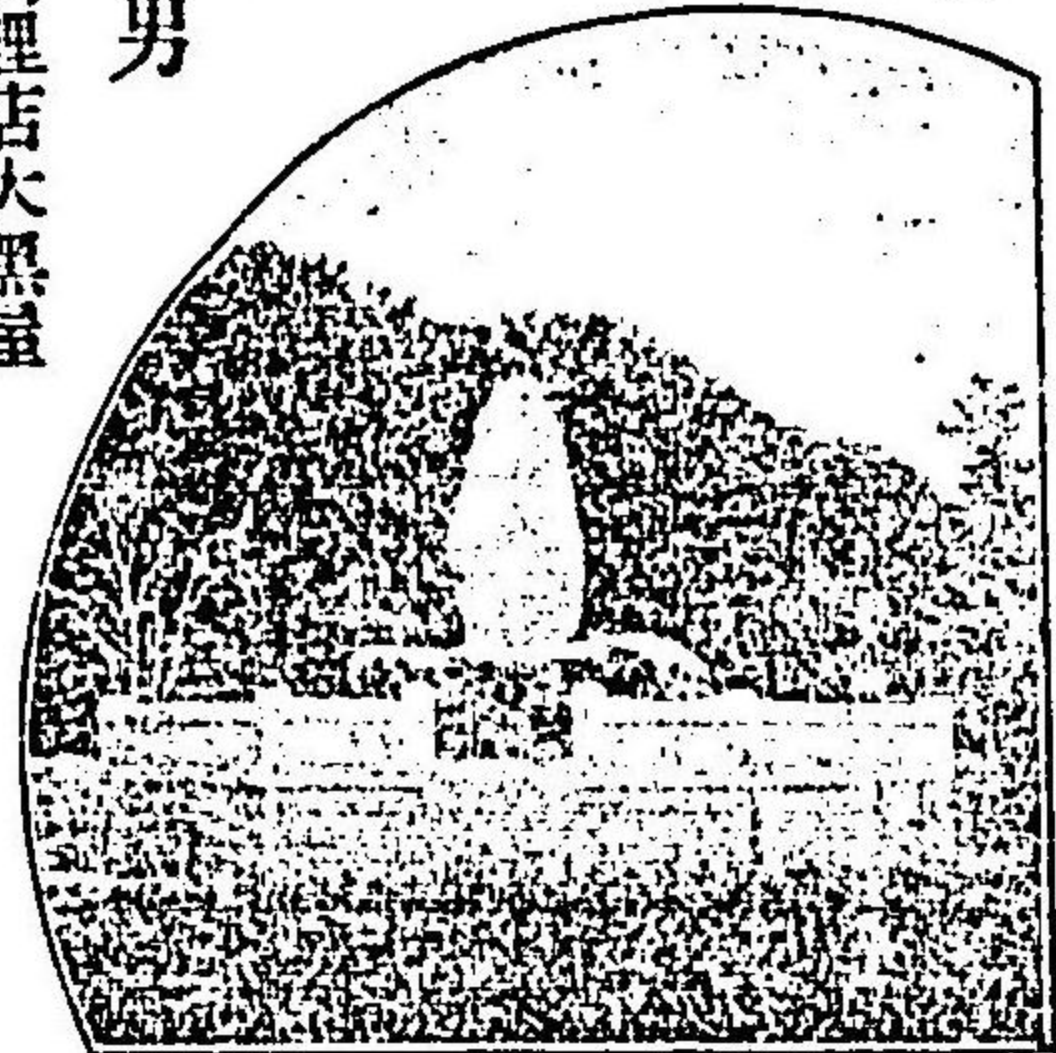
○鐵器類 鍋釜 製造販賣 廣瀬興左衛門 鍋屋町 加藤喜八 南魚町

●料理屋 船津屋(眺景樓) 柿八田町 呑景樓 愛宕

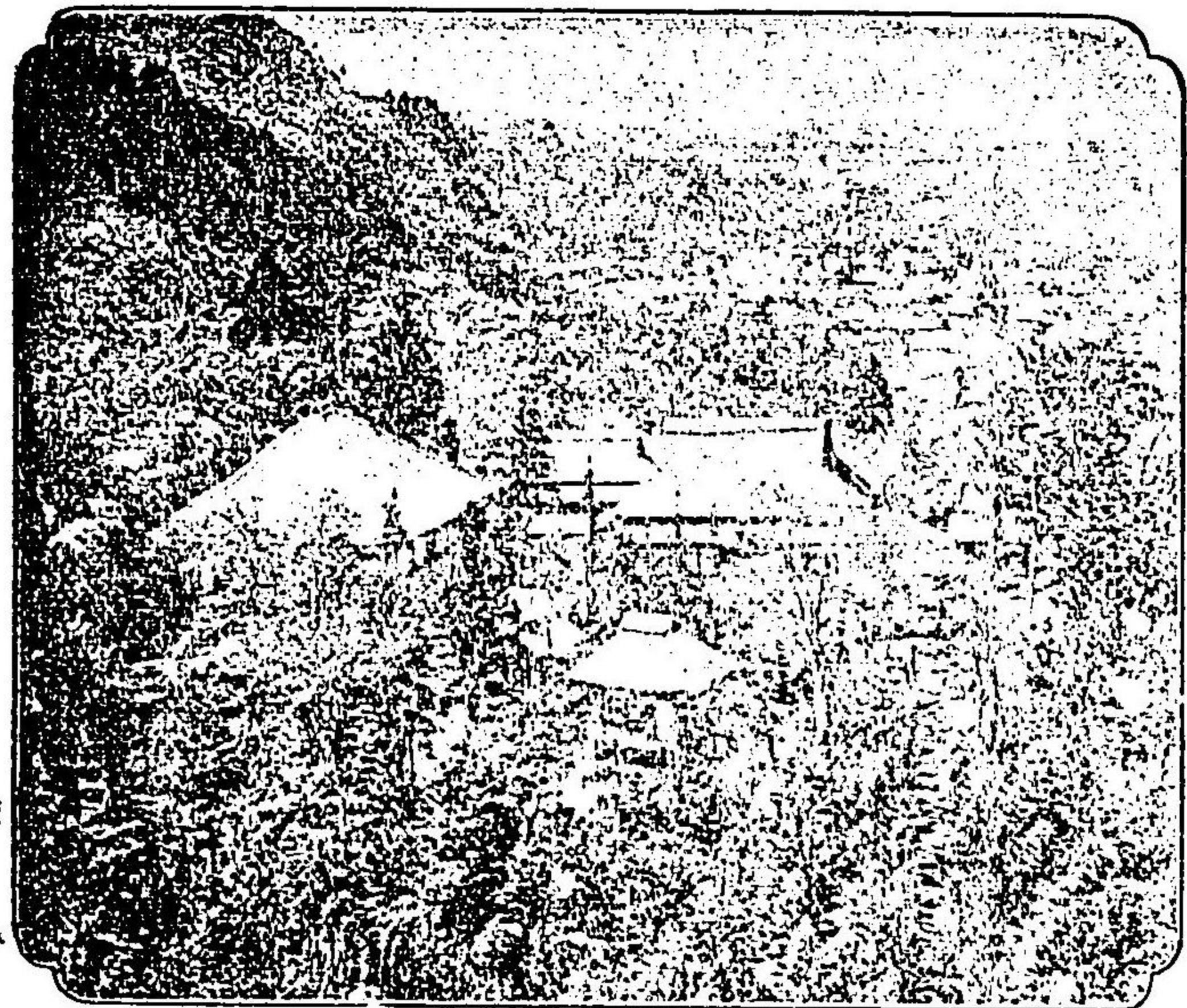
●多度神社 桑名より西北三里多度山の麓車賃に在り天津日子根命を祀る俗に北伊勢大神宮と稱し境域森嚴なり別宮に一目連社とて天目一箇命を祀れるあり祈雨の靈德顯著なりとて早魃の時は遠近より參詣して祈禱をなし御幣を受け幣の地に付く所に雨降るとて途中宿泊休憩せずして居村に持ち歸るなり毎年五月五日多度大祭には流鏑馬の古式あり遠近の男女群集す 多度村名物川魚 旅店兼料理店大黒屋



●寶歷治水碑 桑名町の西北二里半油島の地先千本多松桑名度に在り三重岐阜二縣交界の所にして木曾揖斐神二川合注の難所なり寶歷中薩摩藩幕府より治水の命を蒙り其重臣平田鞆負伊集院十藏等君命により來りて工事を董せしがさしもの難所なれば成るに垂んとして數々崩壊し工費支へざりしも民厄を拯ひ且は君命を全くせんとて資金の豫定に超過して卅萬兩に達するをも顧みず之を斷



寶歷治水碑

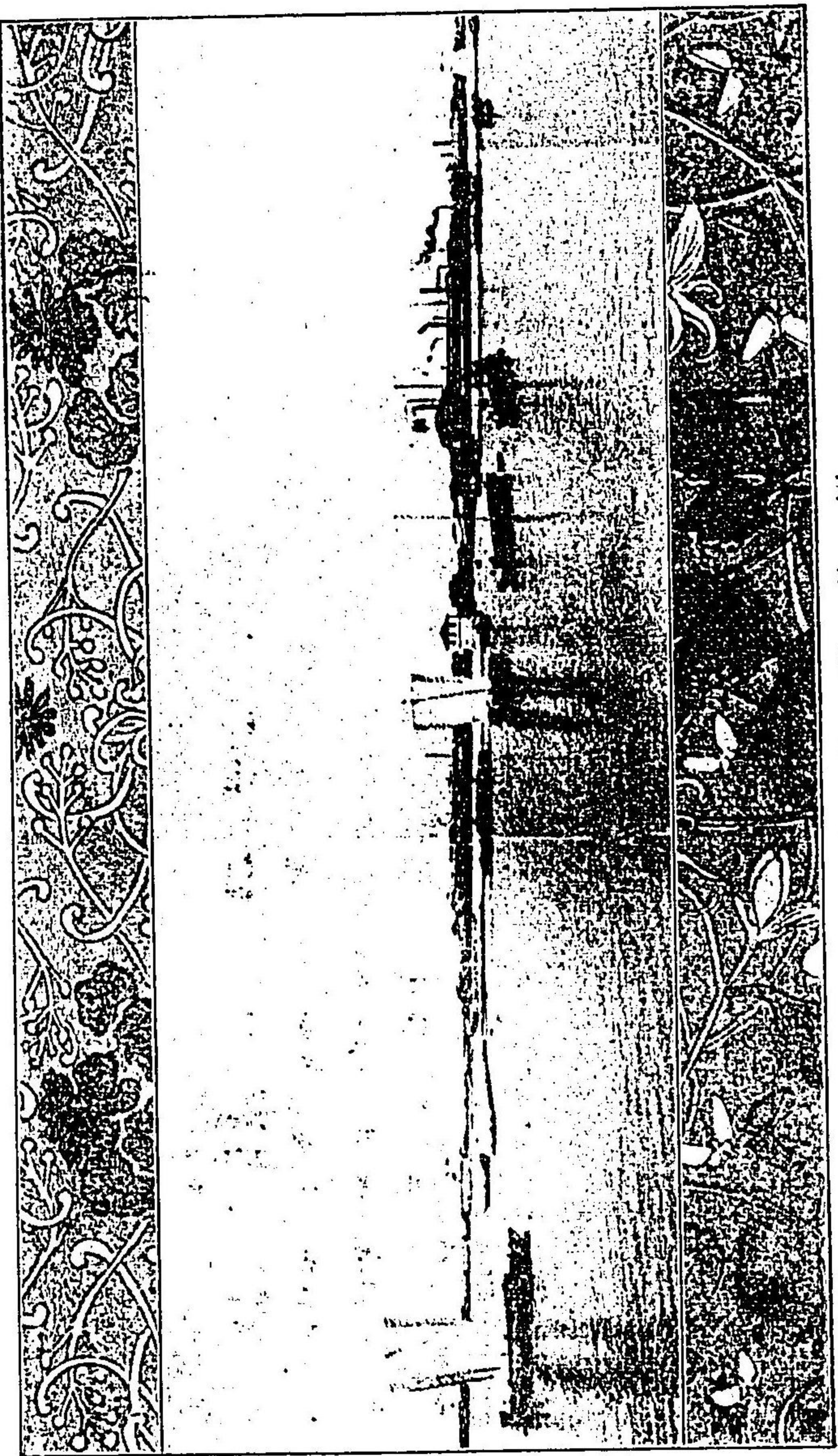


行し竣工の後平田以下五十二士皆屠腹して罪を謝せし義烈を不朽に傳へんとて有志者相謀りて一大碑石を茲に建設せり近來三川分流の工事亦當時治水の遺跡に因ると云ふ

●鳴谷聖山寶寺 員辨郡楚原より一里西藤原村坂本に在り車賃拾錢原ヶ岳の麓にあり臨濟宗妙心寺派本尊千手觀音傳教大師彫作と云ふ釋迦如來堂あり境内廣く櫻梅紅葉躑躅を植む池に臨み湧泉閣を構へ四季の風光甚佳なり地區高豊員辨郡の東部數里を一時に集む寺の南一町許懸崖千丈の處瀑布あり甚だ清冽避暑の適地たり

●篠立の風穴 聖寶寺より一里山麓に在る洞穴にして深奥究め難しと云ふ洞内石鐘乳多し

●富田驛 名産焼蛤(松越にて焼く)はまぐりの焼かれてなくやほととぎす 其 角



四日市港

戸数 五、二一一
人口 三〇、九五〇

伊勢灣内の形勝を占め横濱港へは日本郵船會社の定期航海ありて關西鐵道と連絡し熱田津神社鳥羽及紀伊大阪へは大阪商船會社の定期船往復し東西兩京間水運の由る所横濱神戸間第一の商港たりされば明治廿二年特別輸出港に指定せられ次て特別輸出入港に編入せられ同卅二年開港場となり郵船會社支店三重紡績會社及製油製糸製陶等の工場ありて商工業の發達縣下第一に位せり最近一々年の調査米茶清酒肥料石油雜穀陶器雜品の輸出價額壹千六百萬圓輸入價額壹千參百萬圓船の入港三千五百隻に及び昨三十五年一月より八月迄の海外輸出入累計額貳千貳百五拾萬圓に達せり東京大阪間の旅客は此の港を経て舟行東海の風景を賞するも亦妙なり

汽船便

横濱港へ二百海里隔日午後四時出帆 上等六圓 中等四圓 並等貳圓
内海岸紀州大阪へ毎日出帆 熱田へ中等貳拾五錢 津へ貳拾錢 神社へ參拾五錢 鳥羽へ四拾五錢
尾鷲へ壹圓六拾五錢 木ノ本へ貳圓〇五錢

停車場 車賃

四日市内各所へ拾貳錢以内 とまりへ貳拾五錢 菰野へ四拾貳錢 室山へ貳拾五錢

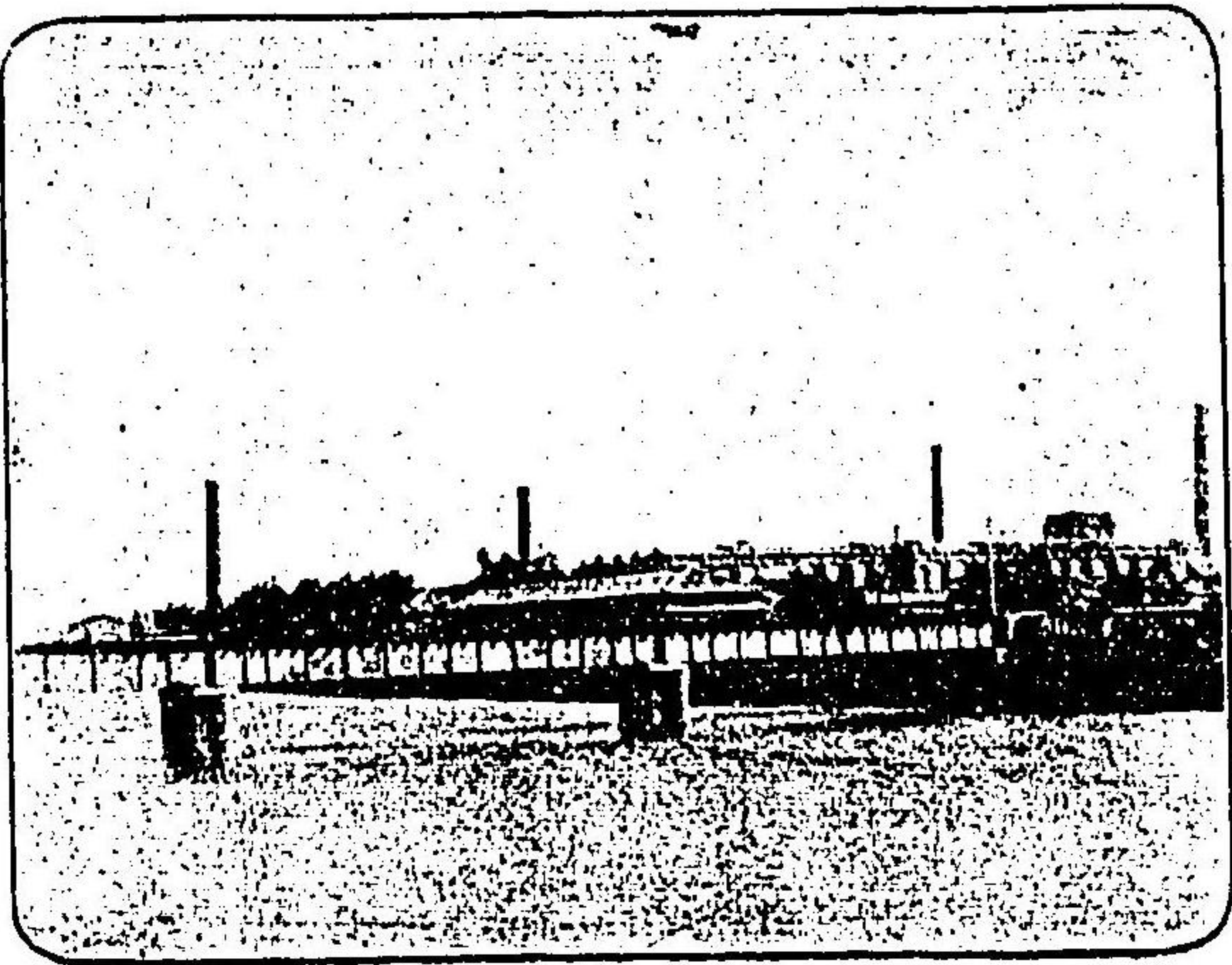
重要商品

最多額なるは米、肥料の二種なり米は伊勢米とて聲價ある縣産物にして多く此の港を経て販賣し肥料は北海道より輸入して近國の需用に應ず

- 米問屋 九鬼紋十郎 桶ノ町 吉田常吉 藏町 石濱太兵衛 藏町 武藤茂七 藏町 小泉清左衛門 藏町
- 肥料問屋 九鬼 紋七 中納屋町 吉田 常吉 藏町 田中武兵衛 濱町 森寺喜兵衛 下新町
- 中上庄次郎 濱町 九鬼總太郎 中納屋町

●重要物産 油は古來伊勢の水と稱へ有名なる物産なり(二ヶ年産額八、七八六石)

○油 製造 四日市製油所 濱町 熊澤九右衛門 中町



○四日市縞(木綿織) 製造販賣 岡田惣右衛門 西町

○水産物製造 行方庄助 濱町

三 ○黄楊櫛 製造販賣 光本清左衛門 西町

重 ○綿糸、萬古焼(下に出す)

紡 織 ●三重紡績株式會社 濱町にあり停 明治十九年

式 綿糸織布、綿糸漁網とす資本金貳百萬圓本社内第一、

社 第二の両工場稲葉町附屬工場の外名古屋廣井、津市

船頭町三重郡川島村に分工場を有し八萬二千七百八

錘の紡績機と千七百七十臺の織機とを運轉し最近一日

の作業は製糸約六百封度價格壹萬五千圓製布約壹萬

五千封度價格五千圓に及び職工數通計五千人あり

●萬古燒 元祖沼波弄山幕府の御用陶器師

となり小向村に歸り陶業を營み屋號によりて

萬古燒と稱し瑠璃の一角殊に世に賞賛せられ

たり爾後一時廢絶せしを天保年間同村森有節

之を再興し彩料を發明し精緻の良品を出すに

至れり後三重郡末永村の山中忠左衛門多年苦

心の末製法を發見して之を諸人に傳へしより

製陶業者輩出し就中四日市川村又助専心從事

精良の陶器を製出し四日市萬古の盛名有節萬

古に軼くるに至れり萬古燒本來の特伎は手頭

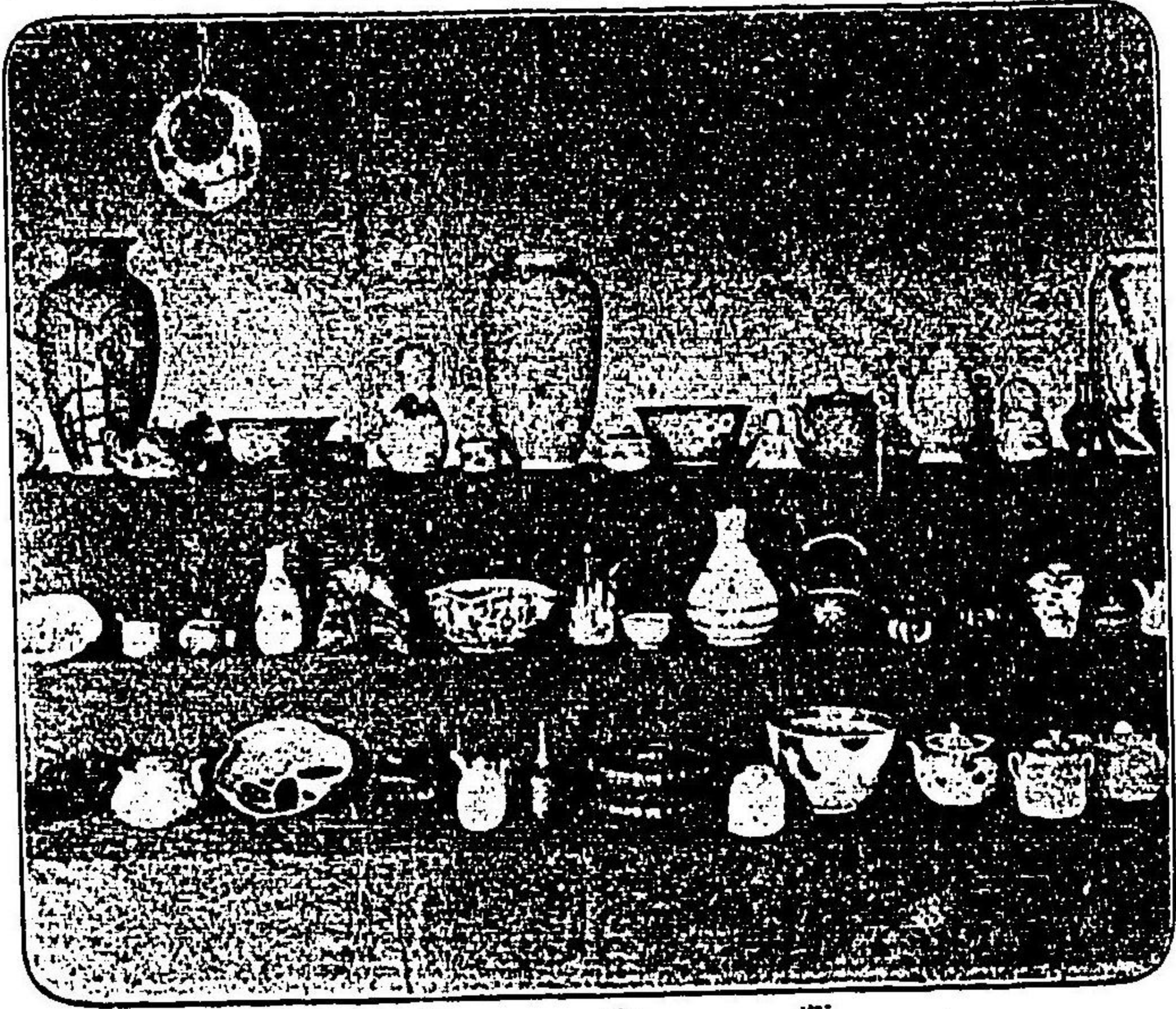
捏造の急須に優美なる花鳥の着色畫を盛り上

げ模様となすにありしを近來旋盤を用ひて種

々の美術品日用品をも造り販路漸く擴張し海

外輸出價額一年參萬圓に下らず明治卅三年中

の製造數量百二十萬個價額拾參萬圓に達せり



萬古燒

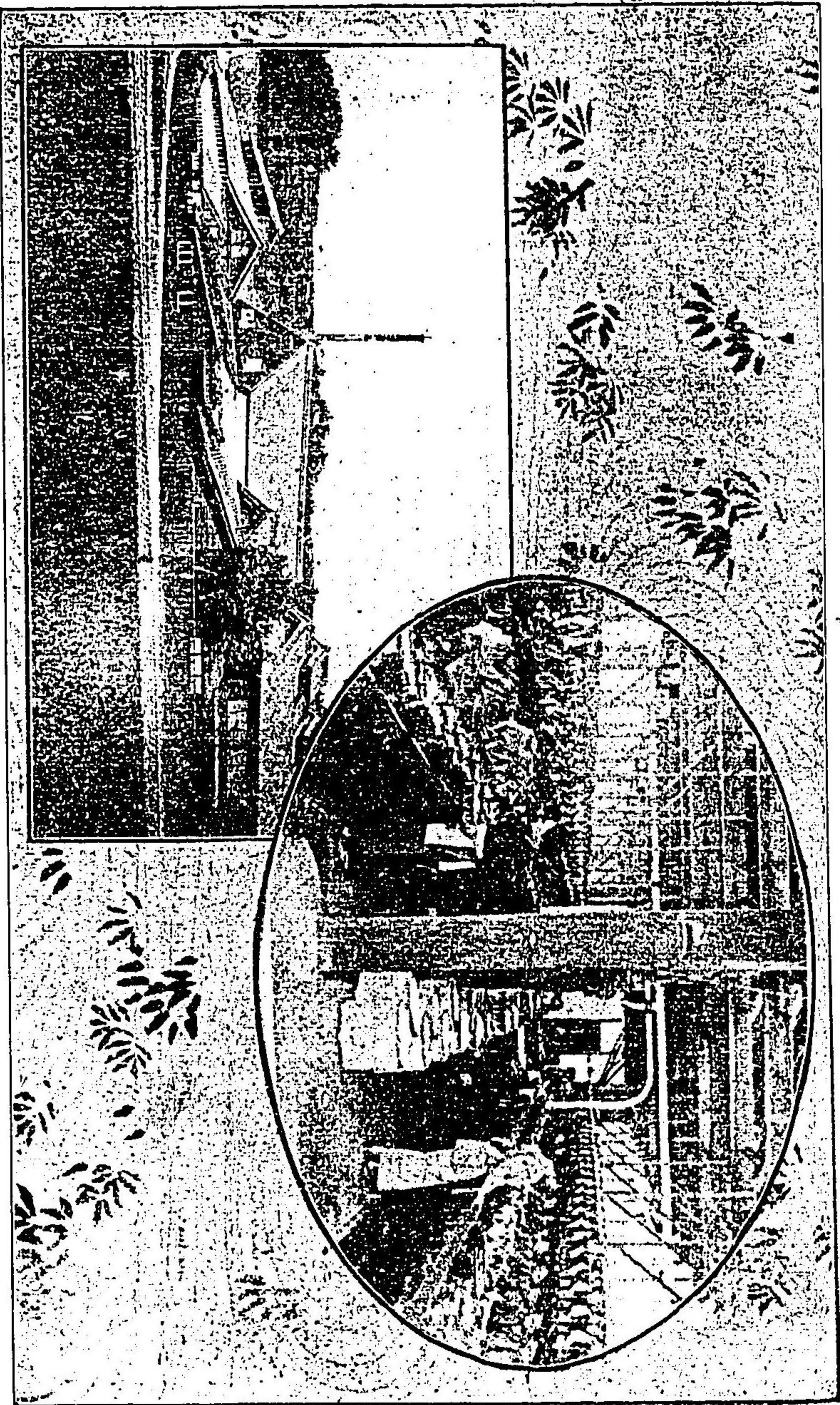
製造販賣 川村又助 中町 森欽太郎 河原町 小林政吉 河原町 生川貫太郎 濱田 森有節 三重郡小向村
 ●諏訪神社 濱田^{五丁}に在り建御名方命事代主命を共祀す大祭は九月二十六、七の
 両日にして美麗なる山車を曳き出し四日市祭とて華麗なる祭典なり境内に伊藤小左衛
 門の碑あり

●どまり山 三重郡日永村^{停車場より一里半}にある梅林にて四日市附近の遊覧地なり

●四日市旅店 松茂樓(兼料理) 新田 吉高屋藏町 十九村屋北町 山田屋南町 東京亭新町

●同料理店 松茂樓(兼旅店) 新田 八百興 中町 茂竹巷南町 佐野屋(兼旅店) 藏町

●伊藤製糸場 三重郡四郷村室山^{四日市の西に在り南一里半弱}に在り伊藤小左衛門の事業にして品質
 の精良海内に冠たり其の起原を釋ぬるに先代小左衛門文久年間始めて志を起し製糸に
 従事したるも收支相償はざるより器械設置の必要を感じ明治七年以來信州小野組及上
 州富岡製糸場に摸して器械を据付け連年失敗せしも毫も挫屈せず明治九年自ら富岡に
 赴き製法を研究し又姪女二人を送りて受習せしめ茲に始めて蒸汽機關を新調し糸質精
 良の稱を横濱市場に博し累年の苦心始めて効果を顯はせり小左衛門資性熱實にして熱
 誠を公益事業に注ぎ桑園の拓殖茶樹の培養蚕兒飼育の改良等卒先躬行して同業者を徳
 懃し勞費を厭はず誘掖輔導に努め又繰糸器械を案出して四方に頒ちし等功勞枚舉に追



伊藤製糸場

工場内の様子 二五

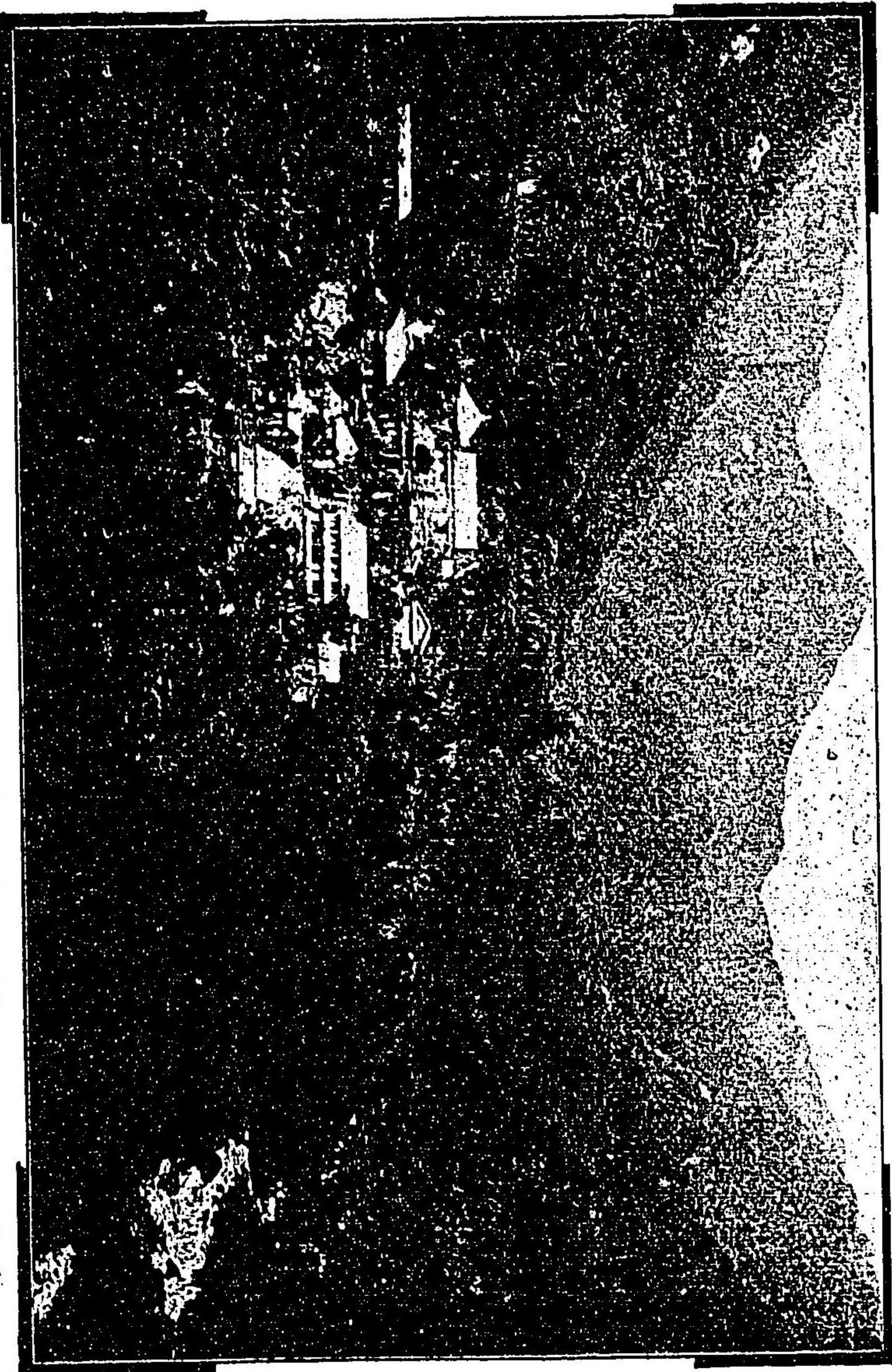
あらず隣里潤澤を被むり遠近靡然として徳風に嚮ひ諸方より來りて教を乞ふ者陸續として接踵せり明治十二年病歿するや現代小左衛門遺業を繼承して益之れを擴張し糸質愈精良を加へ又蚕卵紙の粗惡を愛ひ自ら精選種を製造して廉價應需の便を開けり明治十八年創めて生糸直輸出を試み二十六年京濱の豪富と協力して横濱生糸合資會社を設立し製造の自他を擇ばず盛んに直輸出を爲すに至れり現今所用の工場は養蚕室を合せて十二棟千五百坪(第二工場は昨年の新築なり)にしてジヤンボン氏式繰糸器械七十四人取りを備へ工女定雇百二十人(期節には百七十人)年内製産高壹萬八千英斤に及び弊價歐米市場に高位を占む特に諸人の注意を惹くは工場管理の周到と設備の完全に在りて遠近製糸家の來觀するもの常に絶へず大臣以下巡視毎に必ず就覽するを例とし特に明治十三年 風駕巡幸の際には山田參議を遣はし褒狀及び金員を下賜し先代小左衛門を追賞せられたることあり博覽會其他に於ける製品の授賞は數ふるに暇あらず

伊藤小左衛門の營業は製糸の外醬油、酒類醸造、製茶、機業の數部あり製茶は蒸汽力を用ひ醬油醸造場には其の發明に係る豆碎器械を設備す又室山村内に伊藤傳七の酒類醸造(銘酒八島)笹野長吉、伊藤傳八の酒類醸造場并に製糸場あり

室山村内重要生産年額

六十三万五千八百七拾圓

戸數 六十九戸



室山村の風景

●湯の山温泉 四日市の西方五里拾丁三重郡菰野村に在り 四日市より菰野市街へ三里六丁腕車一時二十分にて達す 菰野市街より湯の山温泉へ二里二丁其の中間枋谷迄は人車を通ず枋谷より三瀧川の土流岩角白玉を砕ける絶景を眺めつゝ約一時間にて温泉に達すべし 病者は菰野より 旅宿二戸あり鍾嶽雲表に聳へて三方を擁し東北の一面開放して碧海を俯瞰す山中八景の奇勝あり櫻花鶯聲紅葉觀雪等四時の觀望に富み海拔三百十八米突盛夏日中八十五度朝夕五十度最も避暑に宜しく又脚氣肺胃病の攝護に適す

○礦泉 單純温泉 無色透明、無臭無味、反應は弱、亞兒加里性、一リツトル中形固分〇、一七五、溫度八十五度、成分如下 亞兒加里 僅微 加爾基 痕跡 マグネシヤ 痕跡 礬土 同 硫酸 同 硼酸 少量 硫酸 少量 炭酸 僅微

○効用 各種慢性レウマチス 假性關節強直 筋肉變縮症 慢性痛風 創傷後の滲出物或は組織肥大 神經機亢盛諸症 各種神經麻痺 經久腦脊髓中風 知覺過敏 歇私的里 神經衰弱 婦人生殖器慢性諸病 貧血諸病 萎黃病 腺病 慢性皮膚諸病 頑固の潰瘍 癩疥 骨瘍 膀胱加答兒 累久梅毒等によし

○用法 浴度一日一回乃至二回、入浴時間は三十分以内朝晩兩食の間を擇ふへし 飲用は一日の量千五を越す可らず

○車賃 四日市菰野市街間 乗合馬車 拾八錢 人力車 四拾錢

菰野市街より枋谷へ 人力車 貳拾五錢 菰野市街より湯の山へ 籠賃 七拾錢

●旅店 菰野市街 饒善樓 大黒樓 〔日用需用品不便なし〕

湯の山 壽亭 三杉亭 〔宿料〕上等七拾五錢 中等五拾錢 下等四拾錢



音 觀 安 子



浦 ケ 鼓

河原田驛 神戸白子等に赴くには此にて下車するを便とす 車賃 神戸へ拾貳錢 白子へ參拾五錢

●神戸町 本田氏の舊城下なり人口凡四千織田三七信孝所築五重天主今尙存せり

旅店 魚市(兼料理) 壹町 遊具屋 十日市

●子安觀音 (不斷櫻) 白子町大字寺家に在り河原田より二里半 本尊白衣觀音聖武天皇勅願寺にして方俗子安觀音と稱し安産を祈る者多し本堂の右に一株の老櫻あり四時覆郁として花を絶たず嚴冬の候尙翠色を帯ぶるにより不斷櫻と稱して雅客の賞觀する所なり本寺所藏寶物多く稱徳、正親町、櫻町、後花園、諸帝の震筆其他書畫等數百点に至る

宗長

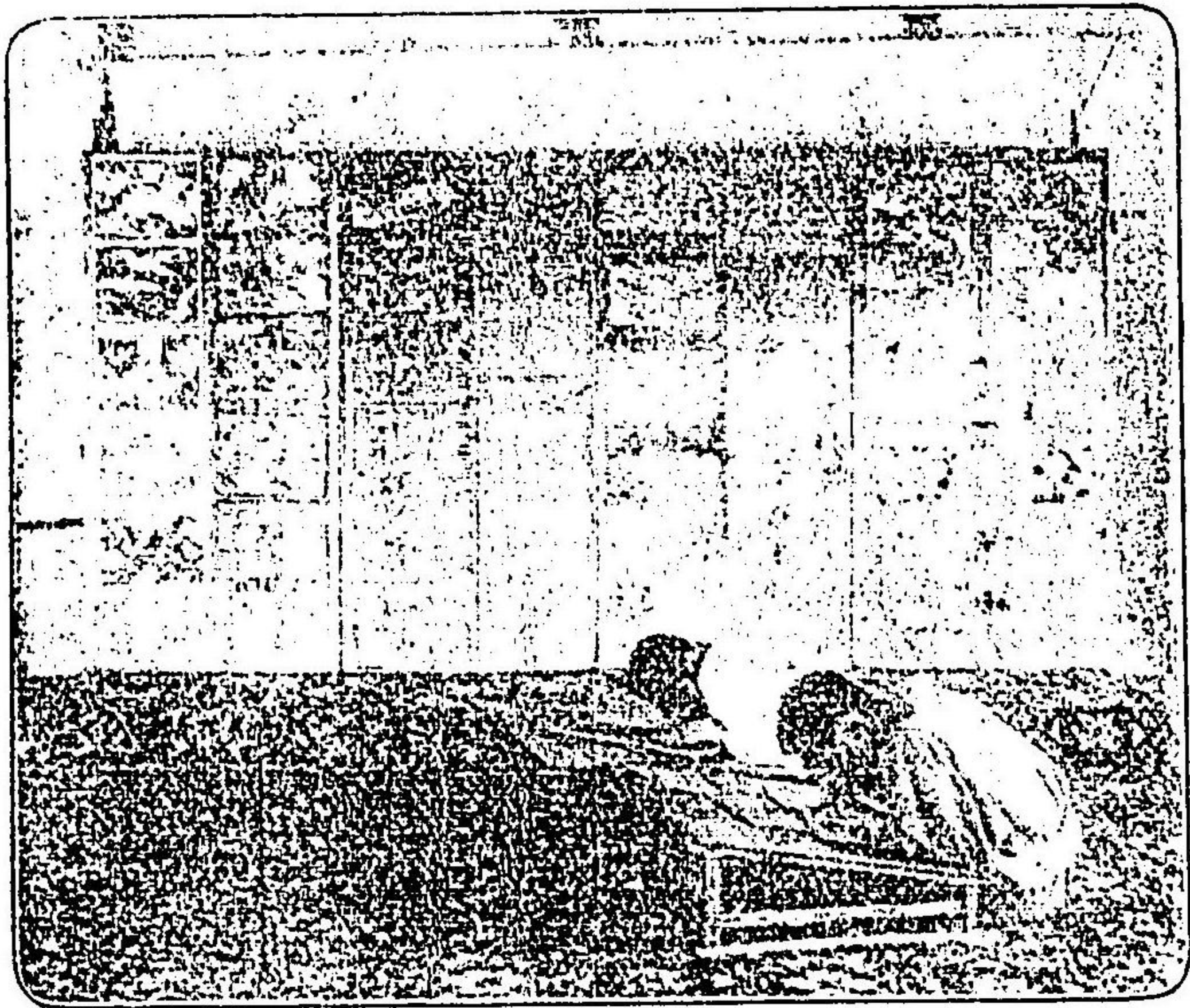
花いつは葉さへ冬なき櫻かな

●鼓ヶ浦 白子町の東方一帯の海濱を鼓ヶ浦と稱す最も勝景の處は子安觀音の東方數丁を距つる處にあり白砂青松相映じて遠く相連なり對岸尾張・三河の山を漂渺の間に望む此の海濱は潮風相拍て鼓響を發するとして此の名ありと傳ふ古來有名の勝地なり

●稻奈宮神社 白子町より半里稻生村にあり祭神は保食神大國道命なり境内高燥老樹森々として鬱茂し社殿の周圍一丁餘歩は滿地皆紫陽園にして花時の好景遠近に喧傳し北勢屈折の勝地なり

●一ノ宮 一宮村中戸に鎮座する都波伎神社は坂田彦及中筒之男命を祀る當國の一ノ宮と稱する由緒ある社也 白子町 人口三千閑靜なる小都邑にして海岸に臨み海水游泳の好適地なり

車賃 白子より津市へ四里 參拾貳錢 一身山へ四里半 參拾五錢



●染形紙(白子町特産) 繪摸様を彫刻したる型紙にして友染形、更紗形、小紋形、中形、繪甲斐絹形、手拭襟形、縫下形等織物の

染出に用ゆるを主とし其他陶漆器擬草紙硝子類及菓子繪摸様を摺付くるに用ひ又精巧なる彫刻紙を以て紙燈籠其他裝飾品を製す千余年前子安觀音寺僧が彫刻紙を靈札と共に諸方に配布したるを濫觴とし今は全國無比の特産として白子町より西京其他各地方に供給す其の價格前三ヶ年平均に據るに年額五拾萬圓に降らず製造戸數二百余戸あり近來織物需用の増加に伴ひ販賣高漸く多きを加へ且染織技術の進歩に従ひ形紙彫刻の意匠及巧伎も亦頓に進境に上れり

製造 長谷川六右衛門 寺村重右衛門 南部米吉 寺尾齋兵衛

高宮驛 車賃 日本武尊御陵墓へ一里拾五錢 加佐登へ七丁五錢 庄野へ八丁六錢 石薬師へ二十丁拾錢
 庄野石薬師は四日市龜山間東海道の宿驛なり◎石薬師村に薬師寺あり本尊は弘法大師彫刻醫王尊嵯峨天皇の
 勅願所なり◎桑名より四日市を經庄野石薬師を越へ龜山より關坂下を過ぎて鈴鹿峠を輪へ江州に入るは所謂
 東海道街にして何れも五十三次中の驛邑なり◎又四日市より分岐し神戸白子を経て津に至る道路は伊勢街道
 と稱し大廟參詣の要路なり

●日本武尊御陵墓(鈴鹿郡川崎村大字田村字名越) 龜山高宮兩驛の何れよりす
 るも道程一里參詣便利なり白鳥の陵と稱へ周圍百八十五間前方後圓所謂御車塚なり明
 治十三年 鳳聲御巡幸の際特に勅使を差遣し幣帛を奉せられき平時に守部二員を置き
 修理灑掃を怠らず尤も鄭重に奉仕せらる尊は第十二代景行天皇の皇子に座し御年十六
 歳熊襲を誅し東國を戡定して王化を光被せしめ給ひしも歸途病を得て能褒野に薨じ給
 ひし事蹟は正史に赫々たる所今に武勇の守神として遠近より來り詣づる者多し

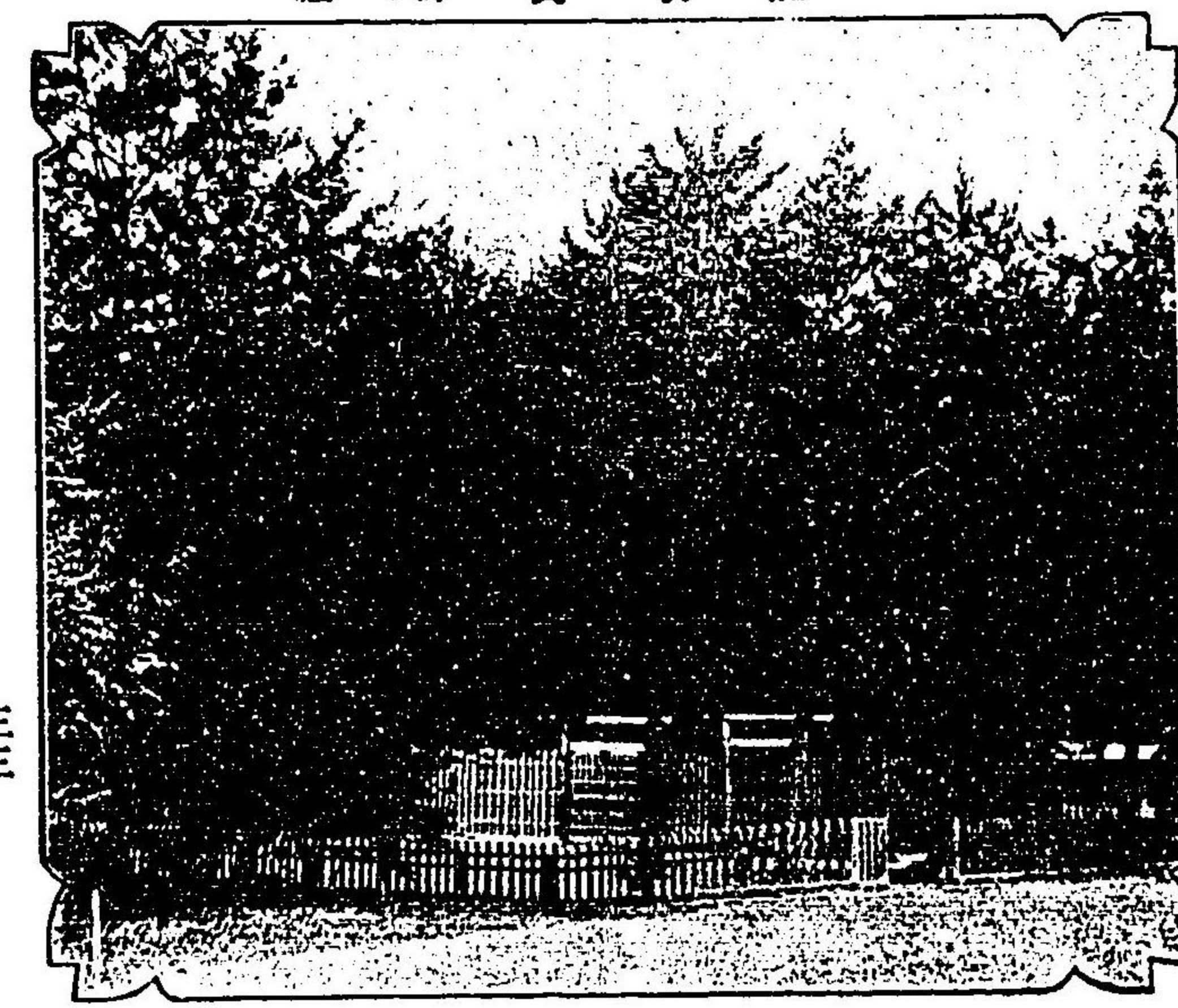
東征涉冥勃 香妻先我汲 西伐入崎嶇 吾兒先妻汲 何知娘子攝軍梅葉窟 兩死社稷昌其後 忠難持家有健
 婦 胎中天皇腕肉凸 肯乃父祖非肯母 龍顏垂淚侍臣哀 先皇不日三韓來 (賴三陽日本樂府)

●能褒野神社 御陵墓の傍神苑内に在り故神宮祭主久邇宮朝彦親王御撰定の社號
 にして日本武尊の神靈を奉祀す

●加佐登神社 日本武尊の持ち給ひし御笠を埋めたる所に社を建て之を祀るとい
 ふ祈願すれば男女微毒に靈驗ありとの傳説ありて信仰者甚だ多し



能 褒 野 神 社



日 本 武 尊 御 陵 墓



縣內重要農產物價額表

米 麥 菜 豆 甘 蘿 葉 里 其 農
種 類 蔬 荷 藍 芋 他 物 計 茶 繭

三、六五、四四五
一、六一五、一七四
七三六、六〇二
四四六、三〇三
三〇一、八六八
二六四、六八八
二二八、五五五
一八三、九〇五
六九一、七五六
一八、〇八四、二九六
一、五五〇、〇〇一
四九四、七五三

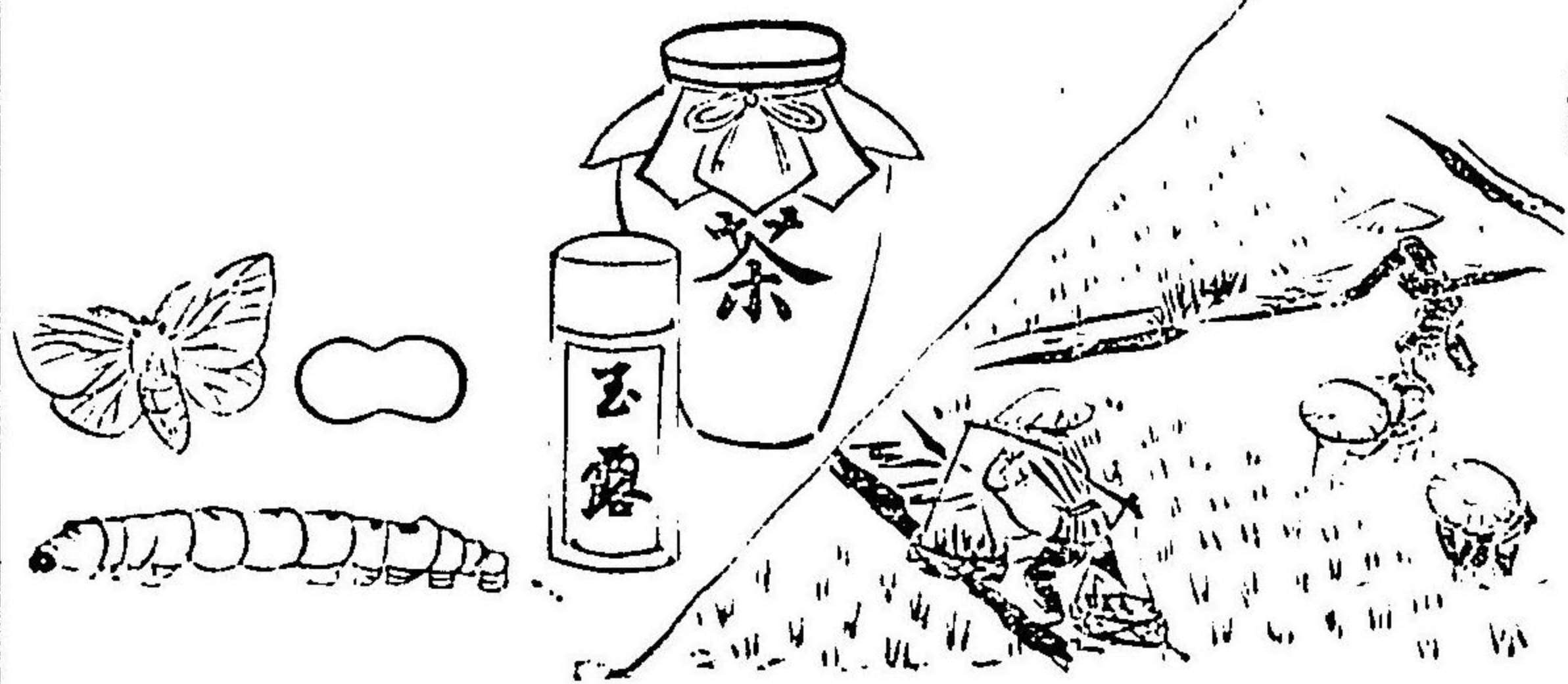


大阪
より
關西
參宮
線
(伊賀伊勢)



縣内重要農産物價額表

米	麥	菜	豆	甘藷	蘿蔔	葉藍	里芋	其他	農作物計	茶	繭
一、三、六、五、四、四五	一、六、一、五、一、七、四	七、六、六、六、〇、三	四、四、六、三、三、三	三、〇、一、八、六、八	二、六、四、六、八、八	二、八、五、五、五	一、八、三、九、〇、五	六、九、一、七、五、六	一、八、〇、八、四、三、九、六	一、五、〇、〇、一	四、九、四、七、五、三



表額價出產品作工要重内縣

紡績綿糸	三、八〇八、四四〇	生糸	二、七〇九、三九七
清酒	二、三三三、九〇六	綿織物	一、二二七、二〇六
油	五八〇、〇八七	菓子	五六五、一九六
漁網	四〇〇、三六四	溜子	三七七、五二八
刻草	二五五、八六六	醬油	二四九、四八四
油煙	二五三、三六六	絹織物	二〇六、九六〇
味淋	二〇一、七七〇	漆器	一六三、四四四
瓦器	一三三、一四四	傘物	一六二、八三三
陶磁類	一五〇、四四〇	土器	一三三、二三四
素麵類	二六、三三三	耐器	一〇七、一六三
足袋及裝束	一〇六、〇三二	計	一〇四、三三九
其他雜工作品	一、三六六、五三三	合	一五、二八二、二〇一



縣境 島ヶ原驛の西敷町を縣境とす伊賀山城の國境なり
島ヶ原驛 車賃 正月堂へ 八錢

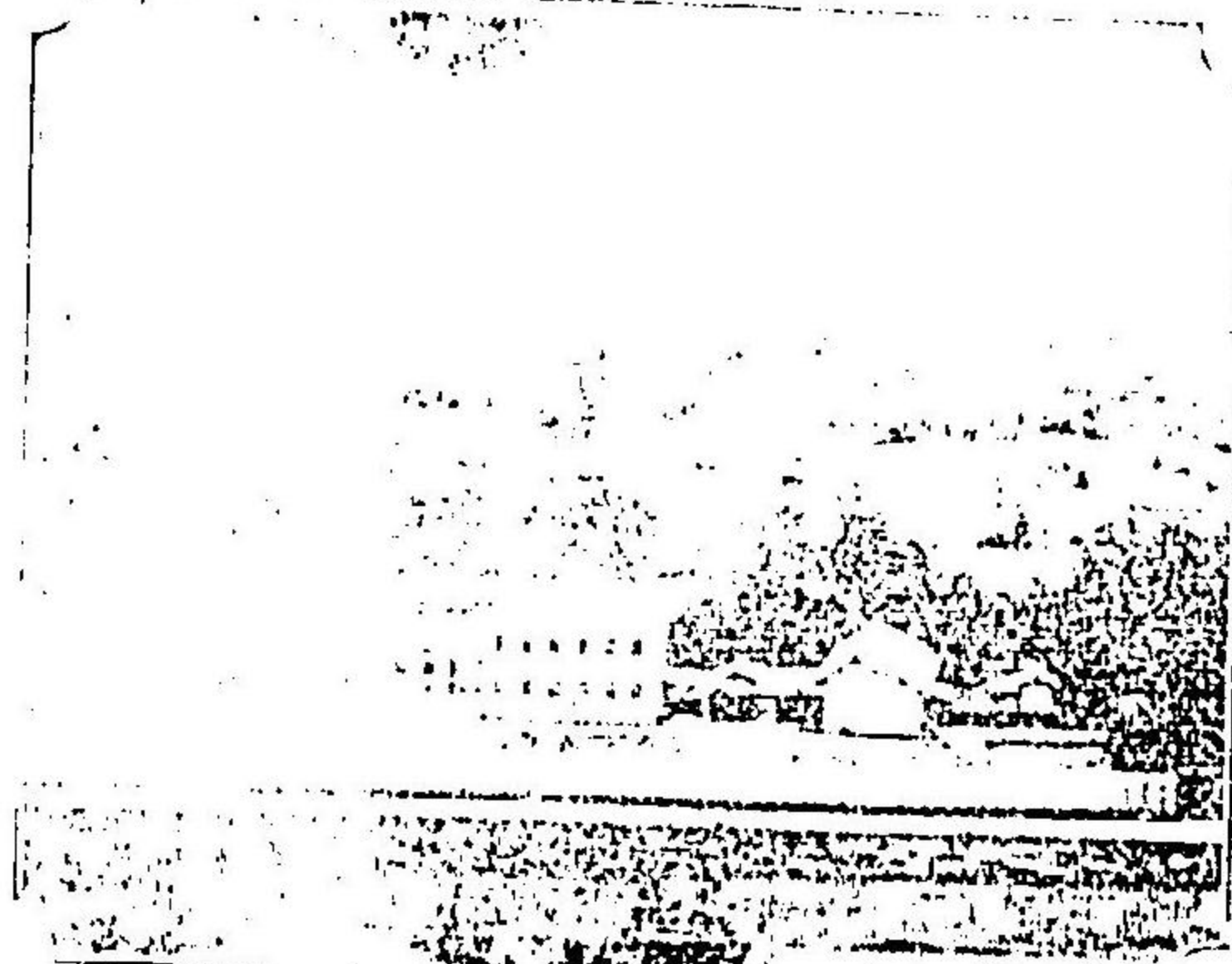
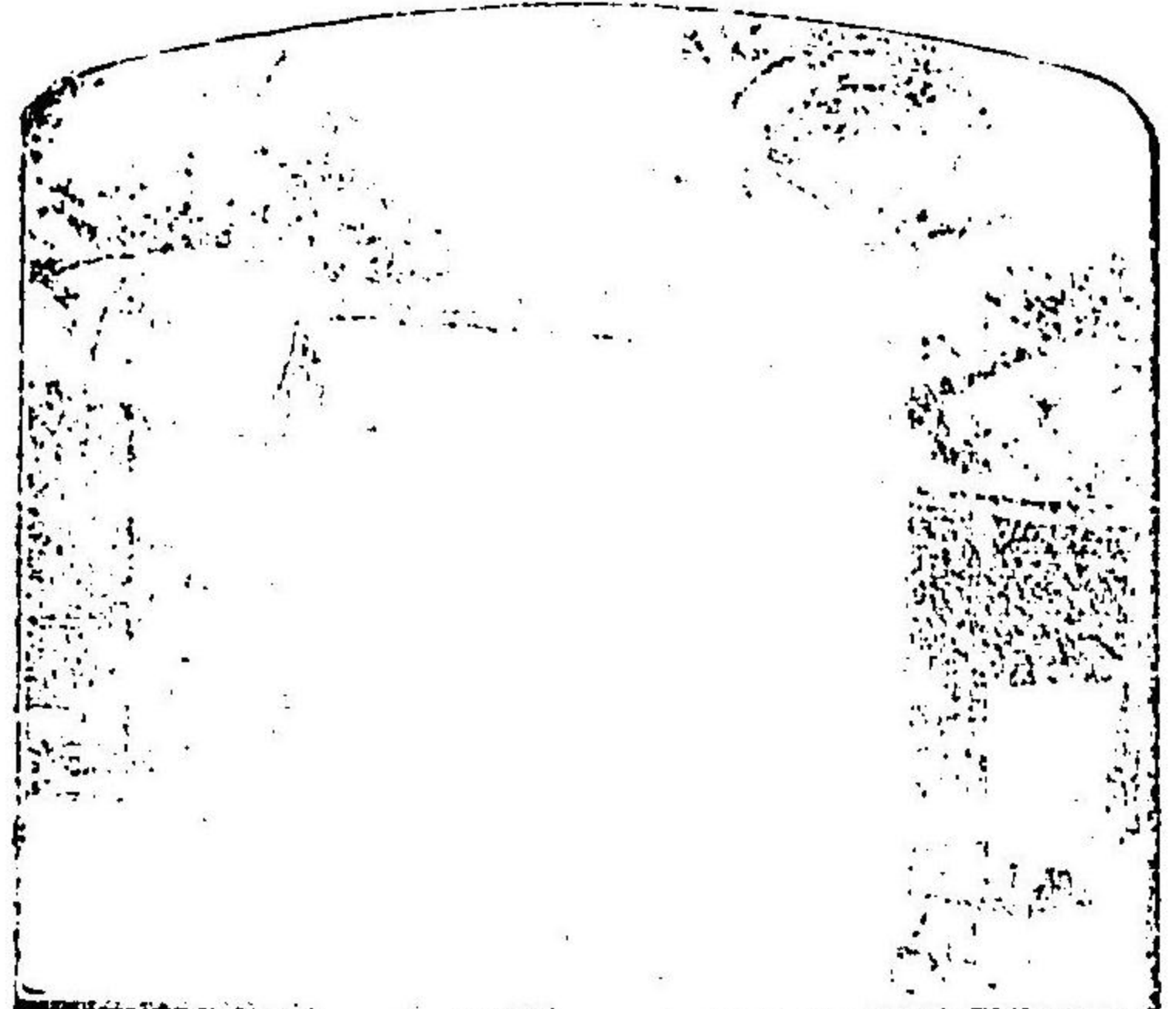
●正月堂 島ヶ原驛より 觀音提寺と稱し奈良二月堂の別院にして聖武天皇勅願實忠和尚の創設なり正堂及山門は創立以來一千余年の古物にして櫻門の二王は春日佛師の作と云ふ考古の好資料なり

上野町 戸數 三、三三五
人口 一四、三三九

伊賀國第一の都邑にして本縣六市街の一に居り藤堂氏三十五方石の本府たりし所なり伊賀の中樞を占め全國貨物の大半は此に集散す名産には傘等あり

●停車場 車賃 上野市内へ 金拾錢以内

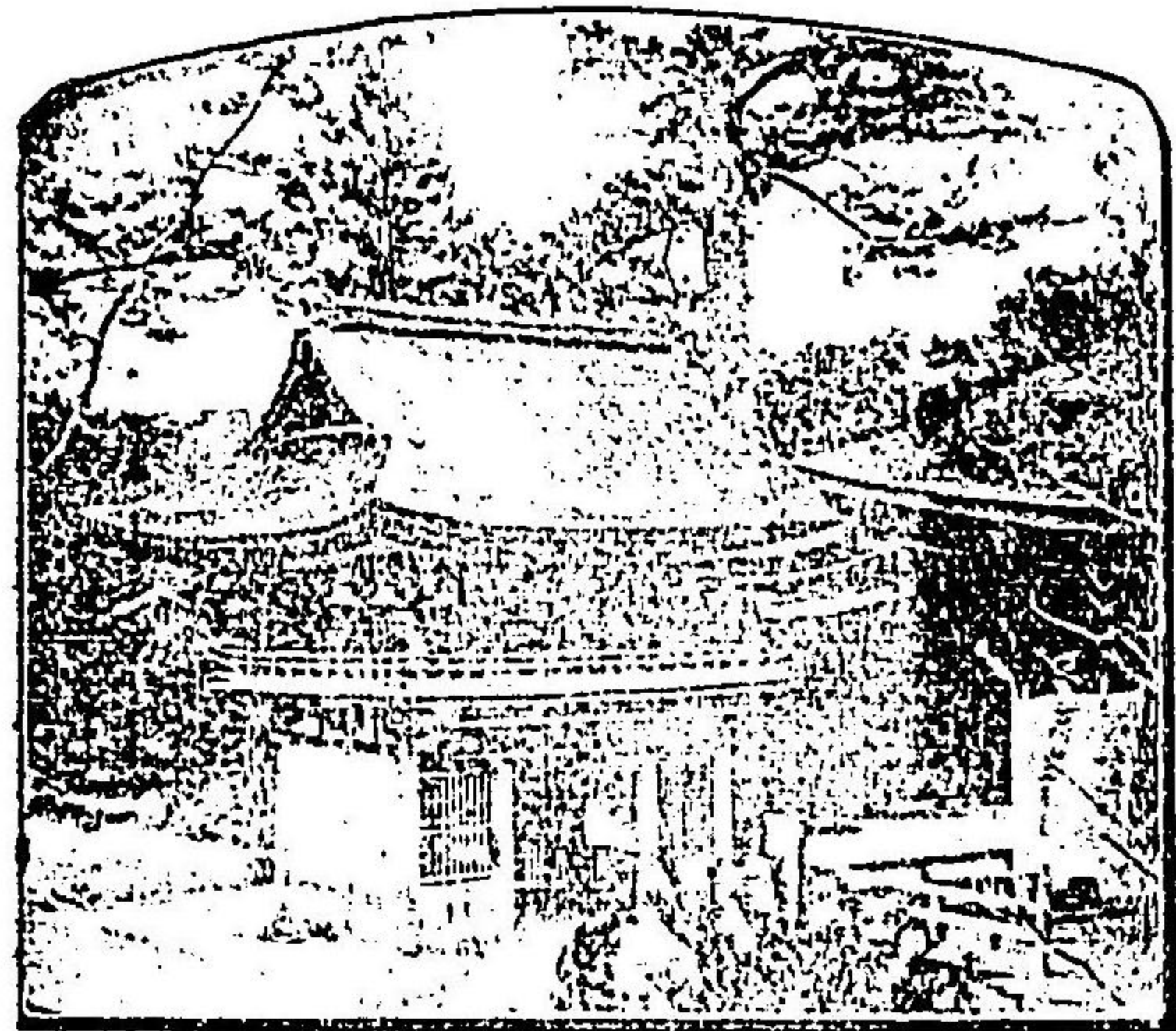
●旅店 友 忠 本町 八百新 本町 三田清 赤坂



上野市街

縣境 島ヶ原驛の西數町を縣境とす伊賀山城の國境なり
 島ヶ原驛 車賃 正月堂へ 八錢

●正月堂 島ヶ原驛より十八丁 觀音提寺と稱し奈良二月堂の別院
 にして聖武天皇勅願實忠和尚の創設なり正堂及山門は創
 立以來一千余年の古物にして櫻門の二王は春日佛師の作
 と云ふ考古の好資料なり



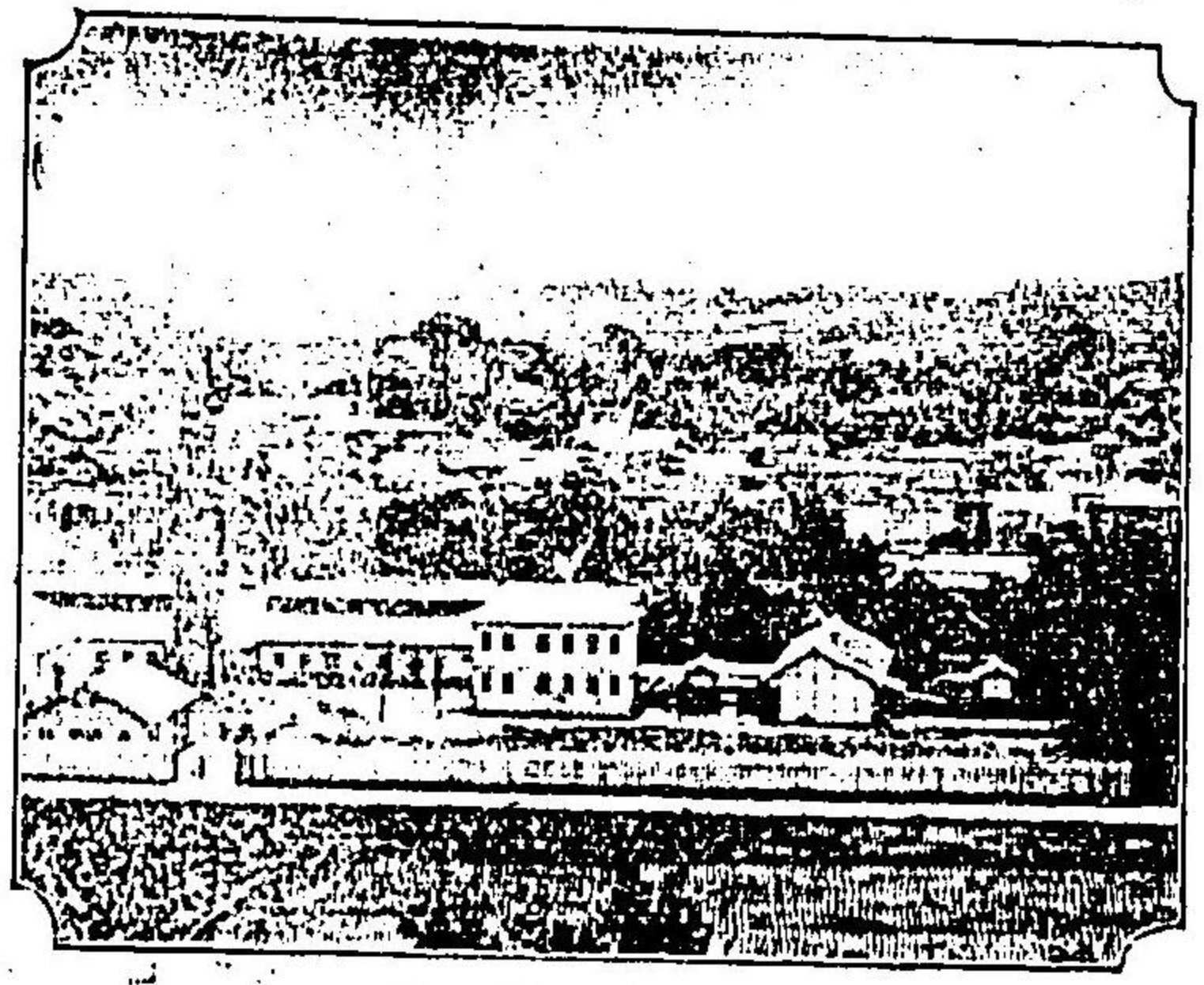
上野町

戸數 三、三三五
 人口 一四、三二九

正 伊賀國第一の都邑にして
 本縣六市街の一に居り藤
 堂氏三十五万石の本府た
 月 りし所なり伊賀の中樞を
 占め全國貨物の大半は此に集散す名産には傘等あり

●旅店

友忠 本町 八百新 本町 三田清 赤坂



上野市街



上野城址

●料理店 榮樂亭 東町 東雲亭 東町
●名産 只崎菓子 紅梅屋 東町 傘 稻森實藏 馬喰町

●上野公園 上野舊城址なり園内古松老杉の間櫻

楓を点綴し陣裡開麟伊州の大半を瞰む文祿年間筒井
定次之を築き慶長以後藤堂氏の本城たり遺址なり

●芭蕉翁故郷塚 農人町眞言宗愛染院にあり俳聖芭

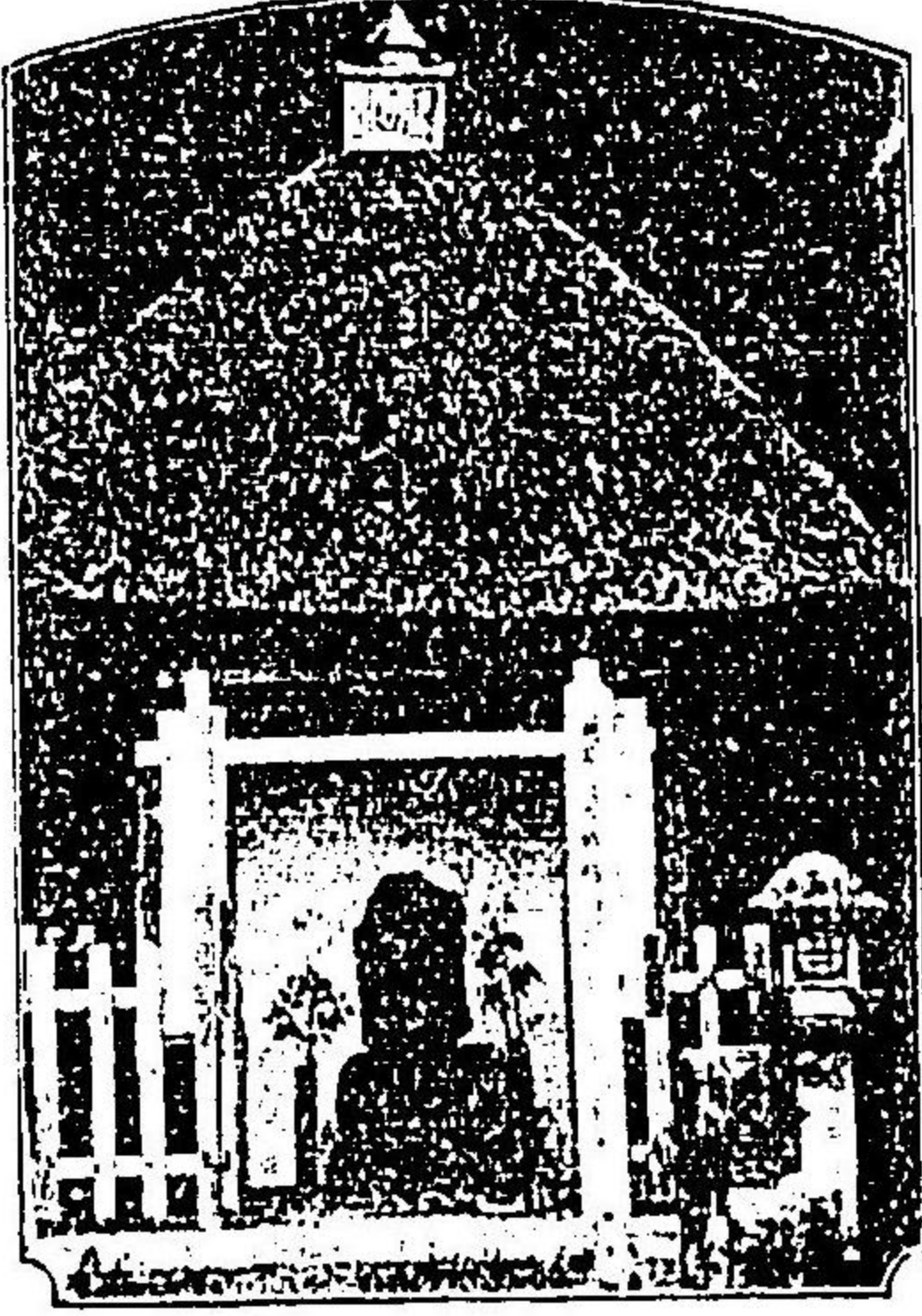
蕉庵桃青名は宗房通稱忠左衛門伊賀國柘植村に生れ

上野城代藤堂良忠に仕へしが并三才退身して連歌を學び正風派を起し五十一歳大阪に
没せり門人遺髪を送り此に埋めたりと云ふ碑面『芭蕉桃青法師墓』の文字は其の門人嵐雪の筆なり

●上野天神 市街の中央東町にあり菅相丞を祀

れる縣社なり十月二十五日大祭には京都祇園の祭禮
に摸せる美麗なる山車を曳き數万の男女來觀群集す

●鍵屋辻 上野市街の西端なる辻を云ふ寛永十一年
荒木又右衛門が妻の弟渡邊數馬を助けて仇敵河合又



故郷塚

五郎が其の黨類を率ひて西國に落ち延びんとするを待ち受け勇戦して讐を報じたる所
にして世に所謂伊賀越仇討の遺跡なり

●淡水養殖場 上野町大字上野村にあり三重縣水産試験場の分場にして明治三十

三年の創立に係り鯉鰻の養殖を爲せり

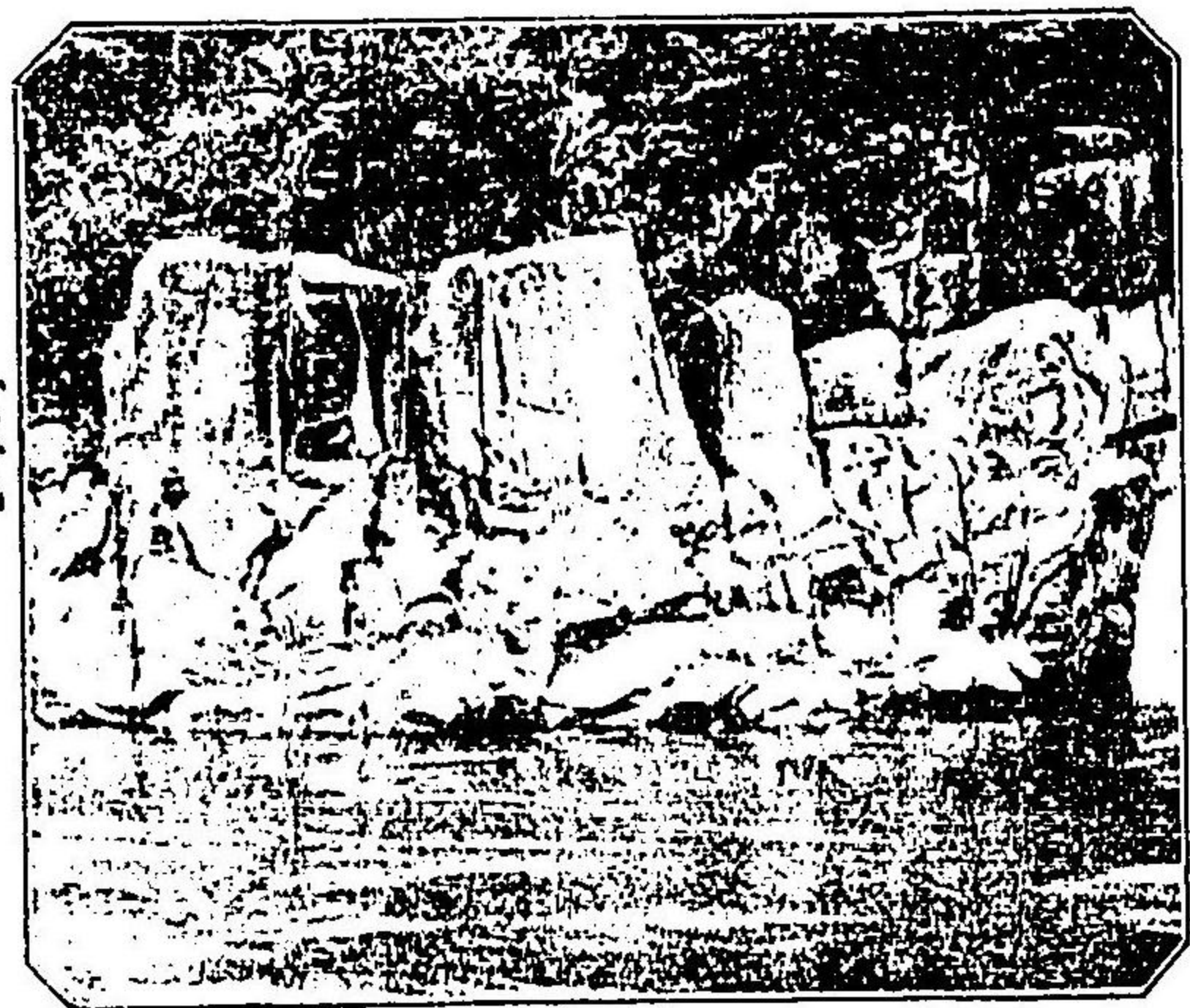
●岩倉峽 上野驛の西 長田服部柘植の三川合流の

所を峽の入口となし流域約二哩の間風景絶佳なり南
嶮櫻樹多く奇岩突兀として連峙し豹石獅子岩太鼓石

千疊敷屏風岩等の名あり關西線路中屈指の奇勝なり
●政國神社 府中村一ノ宮(上野より二里餘)に在り祭神は大彦命少
名彦命金山比咩神の三柱にして國幣神社なり

●西蓮寺 長田村に在り傳教大師創造にて中興眞盛上人の墓あり

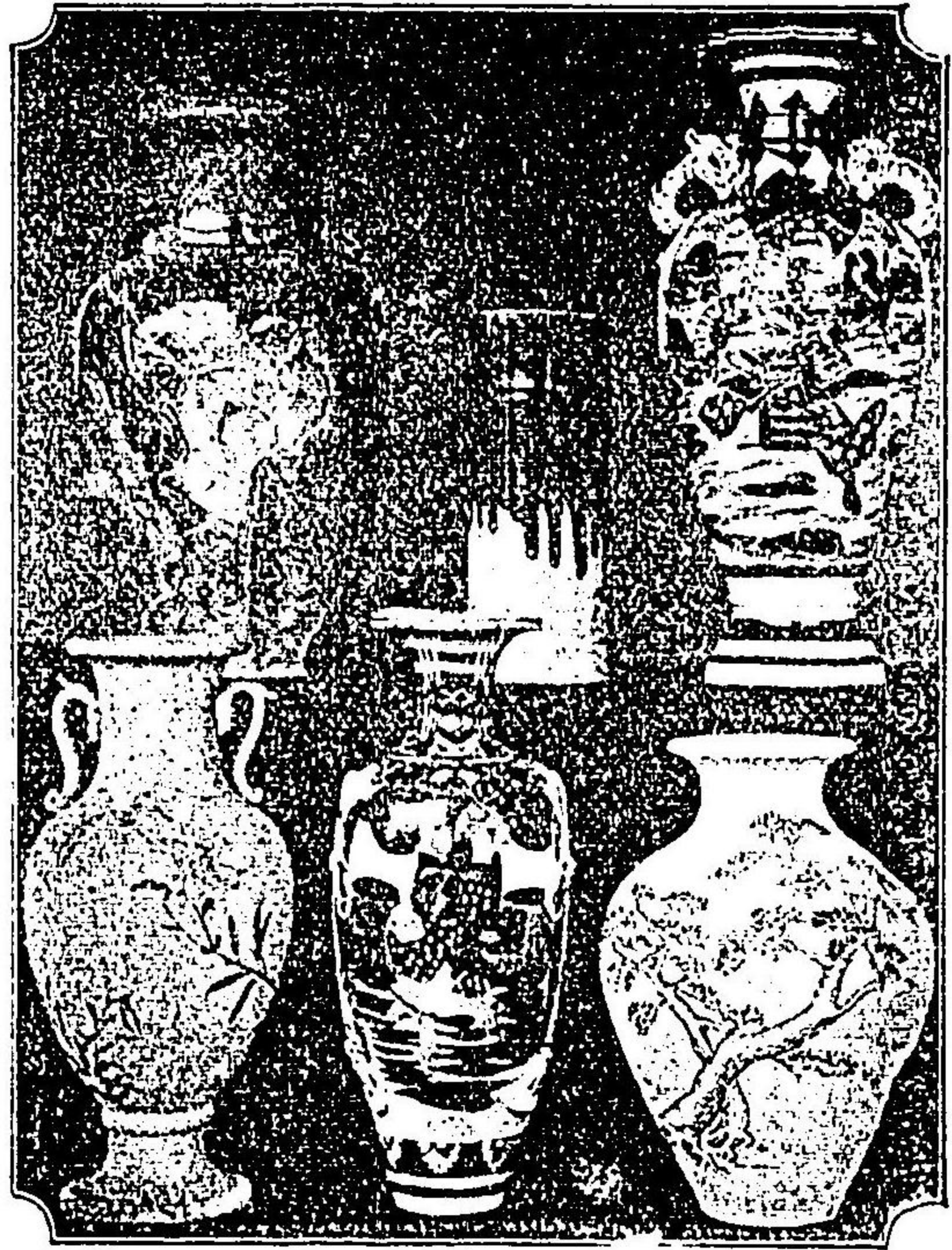
●月の瀬 全國第一の梅林たるは世既に定評あり
差月川の兩岸二里に亘り清流を挾みて満山の香雲眞
に仙界の奇勝と稱すべく拙堂の月瀬記勝能く之を描
き盡せり敢て凡筆の一辭を贅する所にあらず地域今
は大和に屬するも伊賀國境に沿ひ探勝の順路は上野



岩倉峽



町に由るを可とす別に島ヶ原驛より一線路を通ずるも行路難險を免れず平夷の道を取り車行の便によりて途次二三の名勝を探らんには上野よりするに如くはなし花季は時候によりて遅速あるも大抵四月初旬を以て満開の好期となす梅林に旅店あるも上野に還りて宿すること尤も便なり 上野町より車賃 往復 壹圓 片道 五拾錢



伊賀焼

●伊賀焼 上野町の附近阿山郡丸柱河合玉瀧の三村より出す陶器にて又丸柱焼とも稱し古代の伊賀焼を繼襲せるものにして多く産するは日用食器炊器の類なるも近來改良品と稱して茶器花瓶其の他精巧の美術品を出し一種の風趣高樓の佳什に適せるものあり一年産額拾余萬圓に達し漸次増進の勢あり
製造 長谷源次 丸柱村 福島文彌 同上
秋野忠平 同上 松本重次郎 河合村
秋野忠兵衛 丸柱村

名張町

戸數一、一九四
人口五、三四七

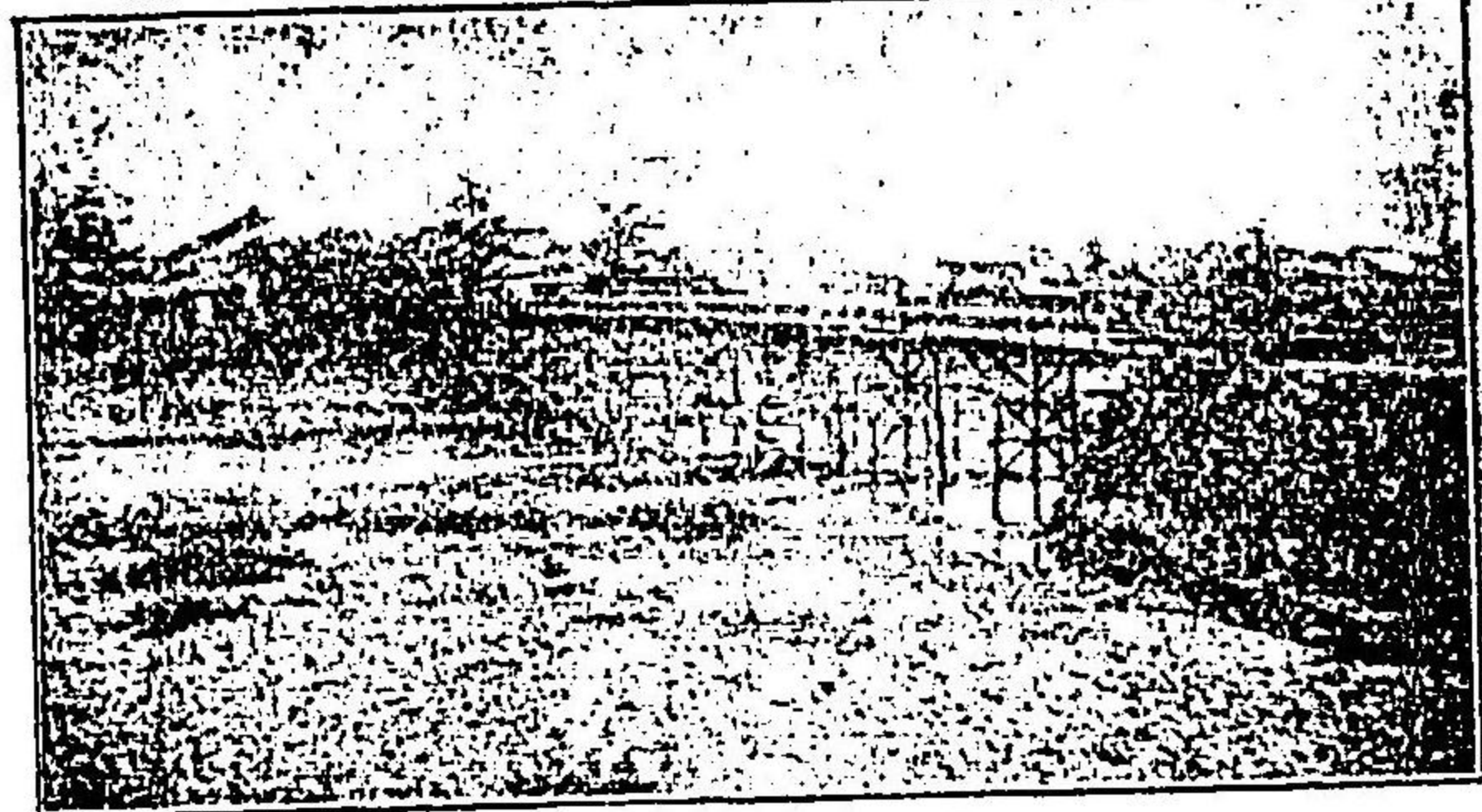
當り名張川に臨める都邑にして藤堂氏の舊支府なり

上野より南五里

(車賃四拾五錢) 大和地より伊勢參詣の要路に

●新町橋 名

張町の南端名張川に架す山美に水清く涼風浙々夏夕の納涼に宜しく又名張川の鮎風味賞すべし



●赤目の瀧

瀧川村大字長坂名張より二里の山中にあり山麓延壽院迄新道腕車を通ず院より

溪淵に沿ひ盤廻して登ること二町にして行者瀧に達す是より進めば飛瀑の名あるもの十二不動、布引、荷擔、琵琶を四近來峭厲を夷らげ安大瀑とす布引瀧は高百二十尺易に登探するの徑路を開けり傳へ云ふ役行者が此山を開きし時不動明王赤目の牛に騎して出てたるより名づくも固より脱塵の仙境にして最て音に銷夏の勝地たるに止まらず満山蒼翠の間櫻楓を点綴し春秋の探勝亦甚だ佳なり

或は百仞絶壁に飛瀉奔放し或は千尺懸崖に銀糸を垂る絶妙景色久しく世に知られざりしが嚮に名張町民寫眞を東宮に上り茲に始めて幽谷の勝區雲上に達するを得たり



赤目不動の瀑



赤目蛇ヶ瀧



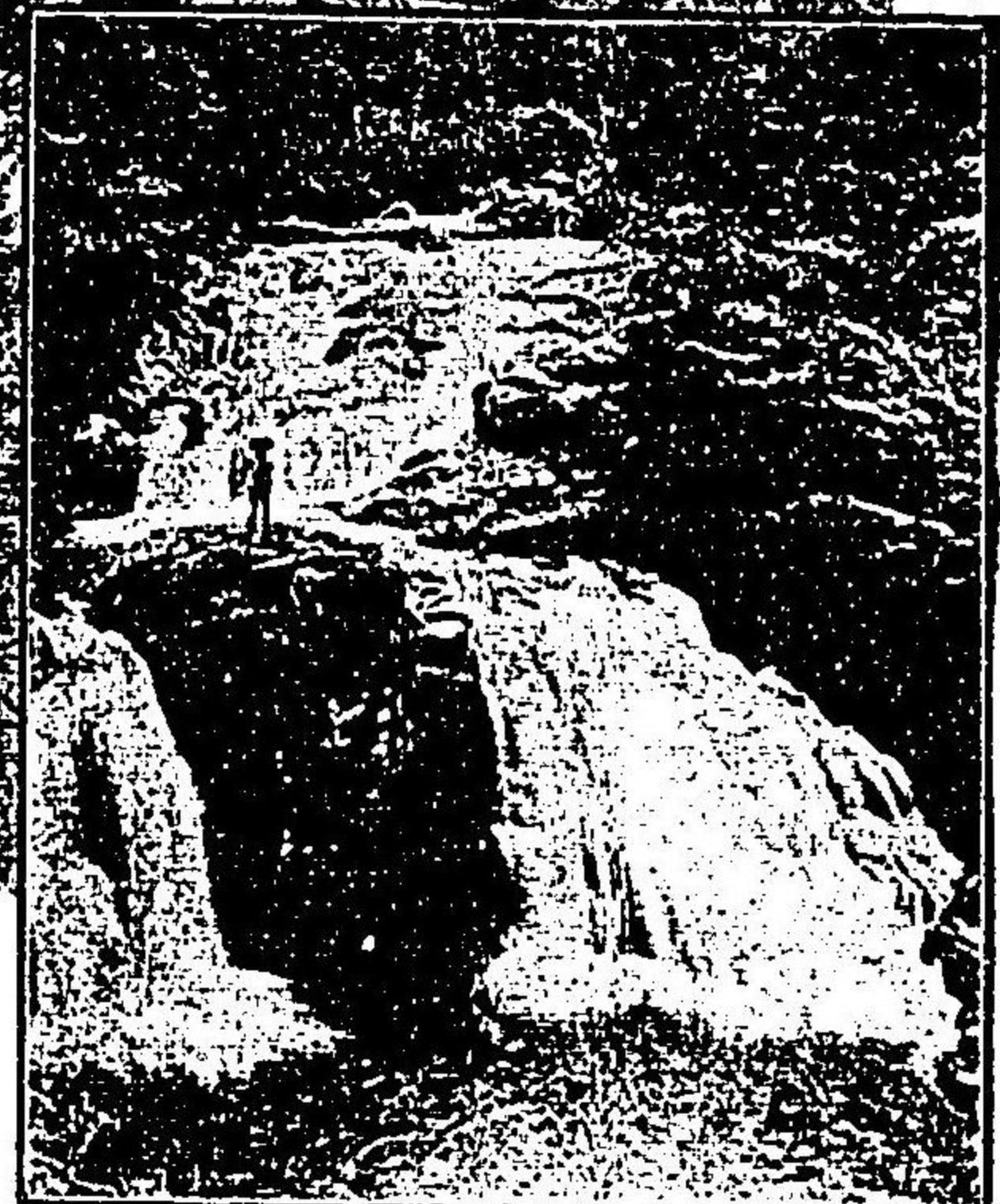
四三

赤目大日瀧

赤目右引瀧



赤目龍ヶ壺

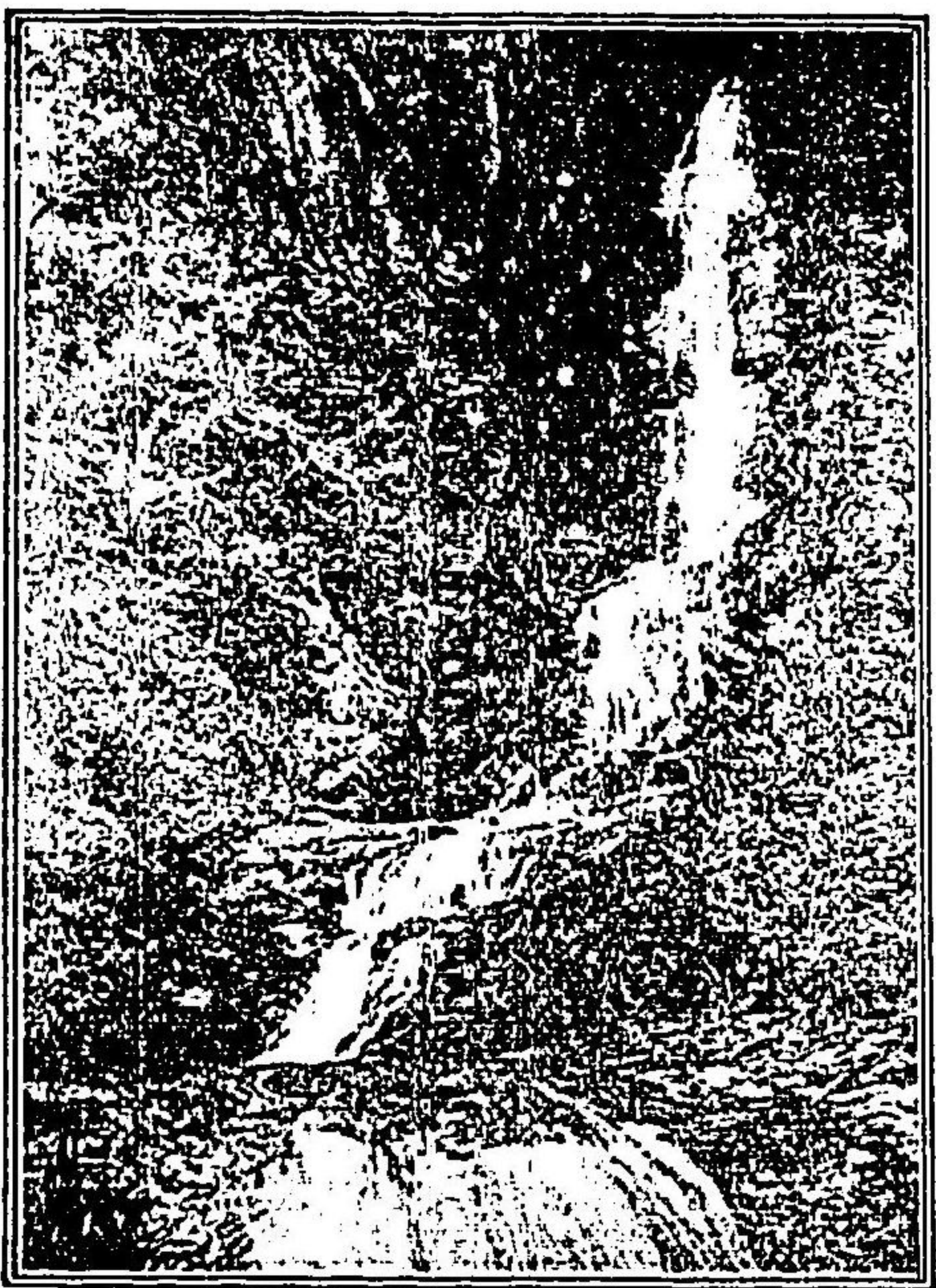


四四

赤目擔ヶ瀧

●香落澗

名賀郡箕田村青蓮寺 名張より一里二十丁にある勝地なり青蓮寺川に沿ふて上ること五十餘町其間兩岸千仞の懸崖處々瀑布あり老松枝を垂れて翠色清流に映じ水中の奇巖怪石千体万狀或は瀦して紺碧の深潭をなし或は奔湍岩角に激して白玉を噴き春候には山吹杜鵑花妍を競ひ秋霜一たび至れば滿山の紅葉錦繡を被る如く其の境を踏む者をして四顧應接に暇あらざらしむ

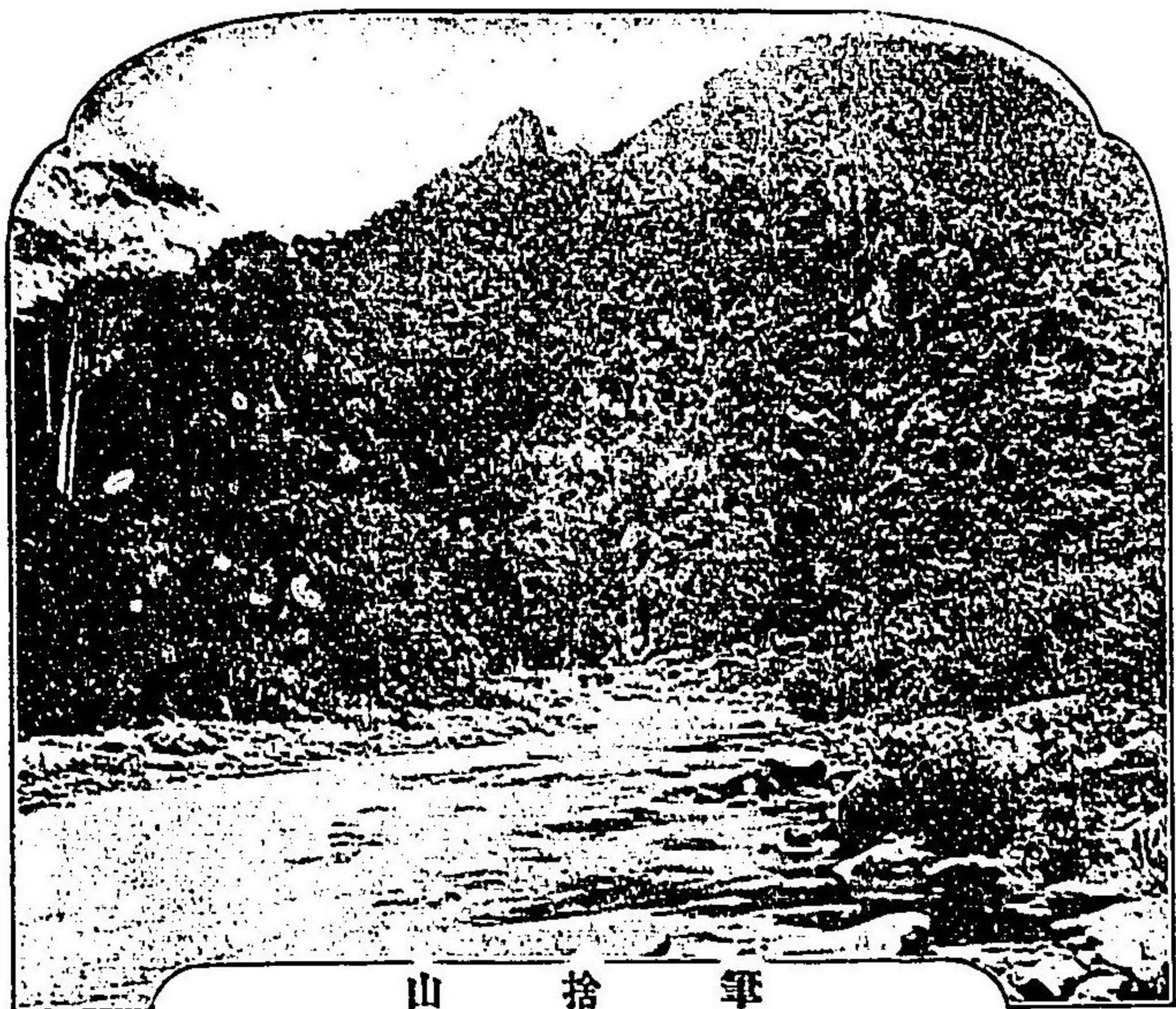


香落澗の上

兼好塚 名張の東三里阿保村を距る五十丁種生村なる國見山に在り此の地は徒然草の著者を以て有名なるト部兼好が橋成忠に頼りて隠棲せし田井庄の遺跡にして林藪の中に墳墓あり近來其の側に碑表を建つ碑は土方子爵の篆額にして川田博士の撰文なり

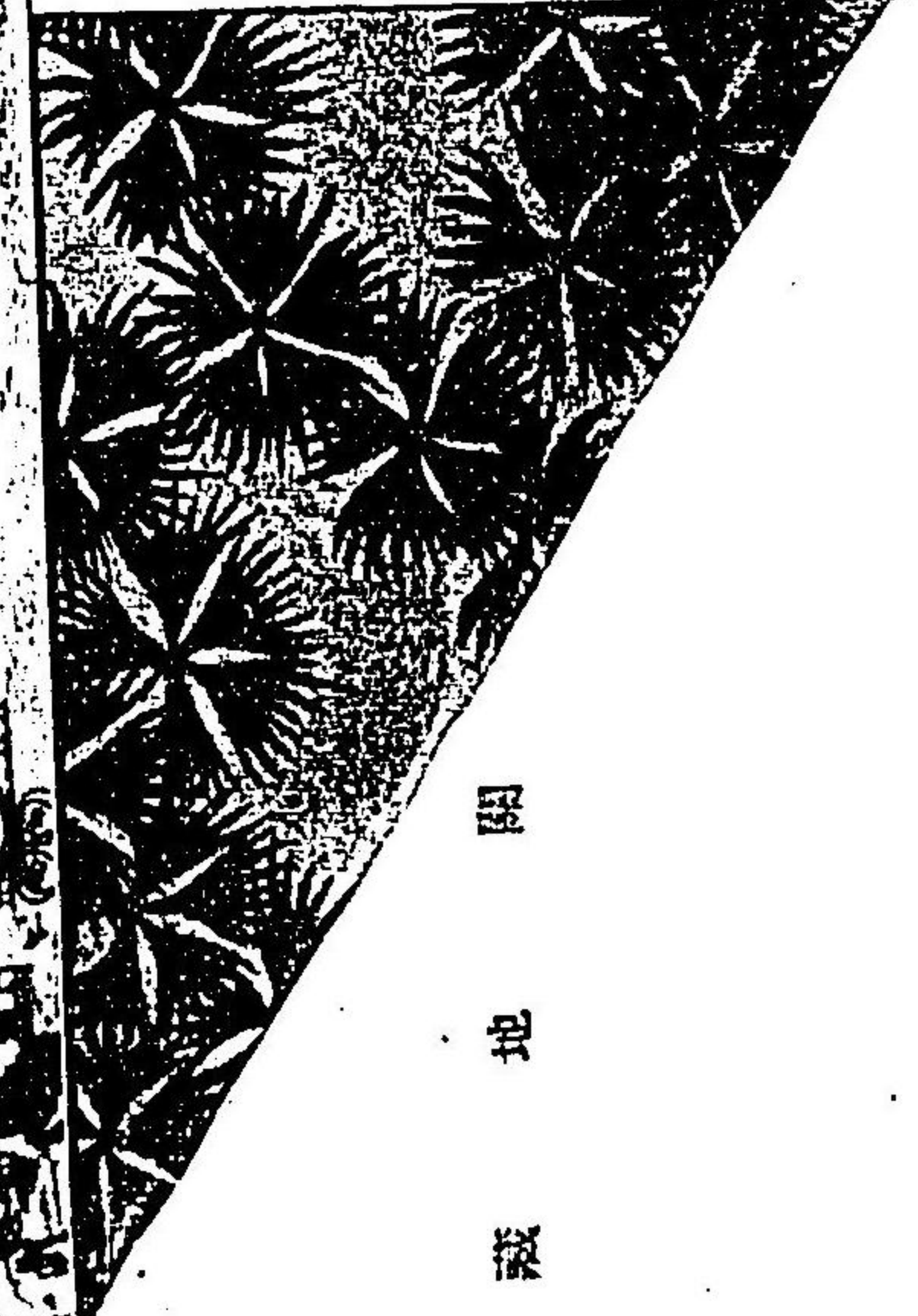


兼好塚

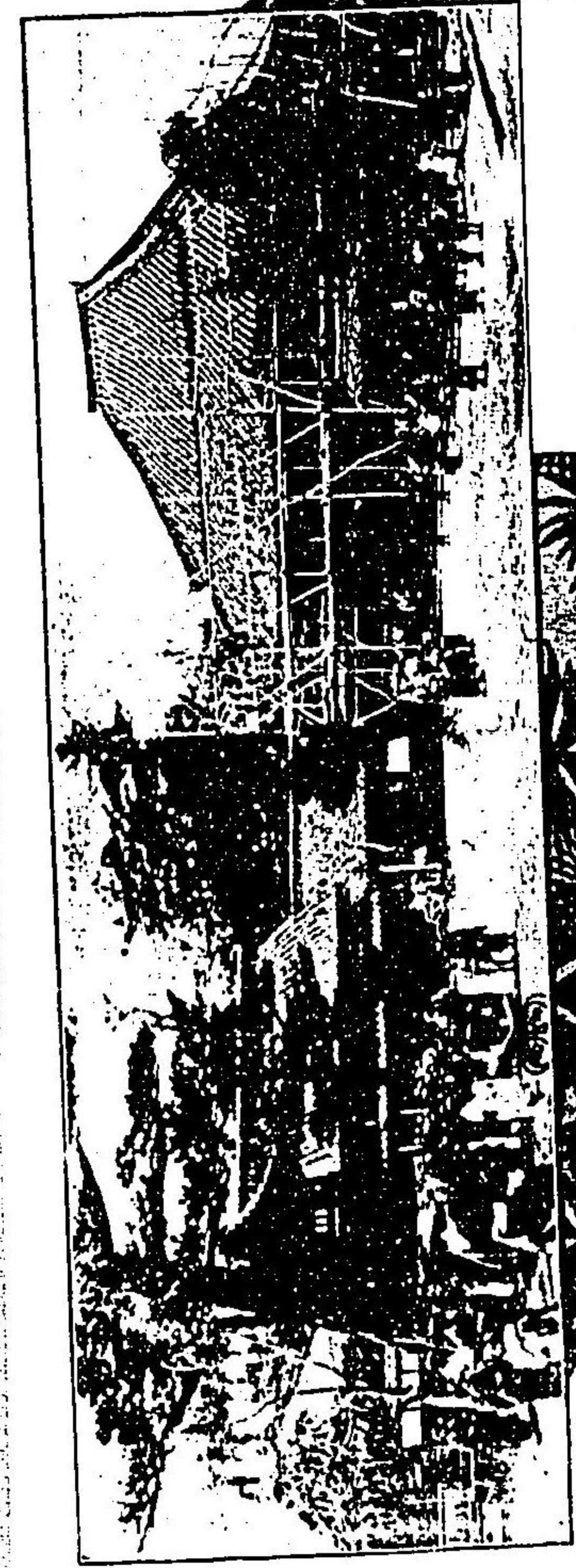


筆捨山

佐那具驛 前掲丸柱村 伊賀焼は多くこより輸送す柘植驛 關西草津線の會交する所なり芭蕉翁の生誕地にして停車場の近傍其の碑あり伊賀伊勢國境 柘植加太關加太關道の中央を國境とす關關人口三、〇〇〇 古昔三關の一と聞えし鈴鹿の關の舊跡なり茲より津に通ずる道路を伊勢別街道と云ふ停車場 車賃 地蔵 五錢 筆捨山 拾貳錢 ●土産物 關の月(風味よき餅菓子) ふか川屋 ●旅店 會津屋 玉屋 ●筆捨山 鈴鹿郡坂下村大字一ノ瀬國道の傍にあり三十二丁 停車場より 滿山奇巖並び峙ち矮松鬱遏として茂生し鈴鹿川の清流山脚を洗ふ傳へ云ふ狩野法眼元信此の景を寫さんとせしに雲烟去來姿態百變して畫く能はず筆を捨て去りしより此名ありと古來名區として喧傳する所雅客一遊の値ある勝境なり



關 地 藏



● 關の地藏停車場より四丁 關町大字新所に在り眞言宗仁和寺末本尊は地藏尊にして中世再造の時一休和尚開眼せりとの傳説ある有名の佛像なり

● 羽黒山停車場より拾五丁 鈴鹿郡白川村鷲山に在り岩石峻嶒として怪奇人を駭かすの絶景にして雅客をして一見去るに忍びざらしむるの景致あり

龜山町 戸數一、三四一 人口七、九九一 關西鐵道支線の分岐点なり市街は石川氏の舊城下にして突兀たる丘上に民居し鈴鹿川の清流其の下を奔り

鈴鹿郡内の物産繭、茶、生糸、煙草等の集散点なり市街は土地高爽にして空氣清く殊に水質清冽なれば脚氣患者等の轉療地に適せり

停車場車賃 東町へ 六錢 西町へ 五錢 能褒野へ 貳拾五錢

● 旅店 柏屋(一名共樂館) 築料理 西町 魚庄 東町

● 龜山公園 舊城本丸の地にして眺望に富み傍に舊藩主石川氏の祖靈を祀れる眞澄神社及樓櫓の舊容を存せる舊武庫あり

● 赤堀水右衛門墓 龜山町宇野村照光寺に在り



(む望を深 園よりよ登半) 園公山龜

●物産陳列場

龜山停車場構内に在り三重縣内の物産を蒐集陳列して縦覧に供し又正價を以て販賣す其價格は尤正確なれば旅客は安全に且便利に購買するを得るなり
本場は博覽會開設に際し新設せる所にして場内に接待所を設け一般旅客の休憩所として貴紳を款待するの場所に充つ發車待合の時間旅客は隨意に本場に入りて休憩及縦覧するを得べし

一身田驛

專修寺の所在地にして津市の北一里にある繁華なる小市街なり

名産

櫻ねこし

清水屋 西ノ町

旅店

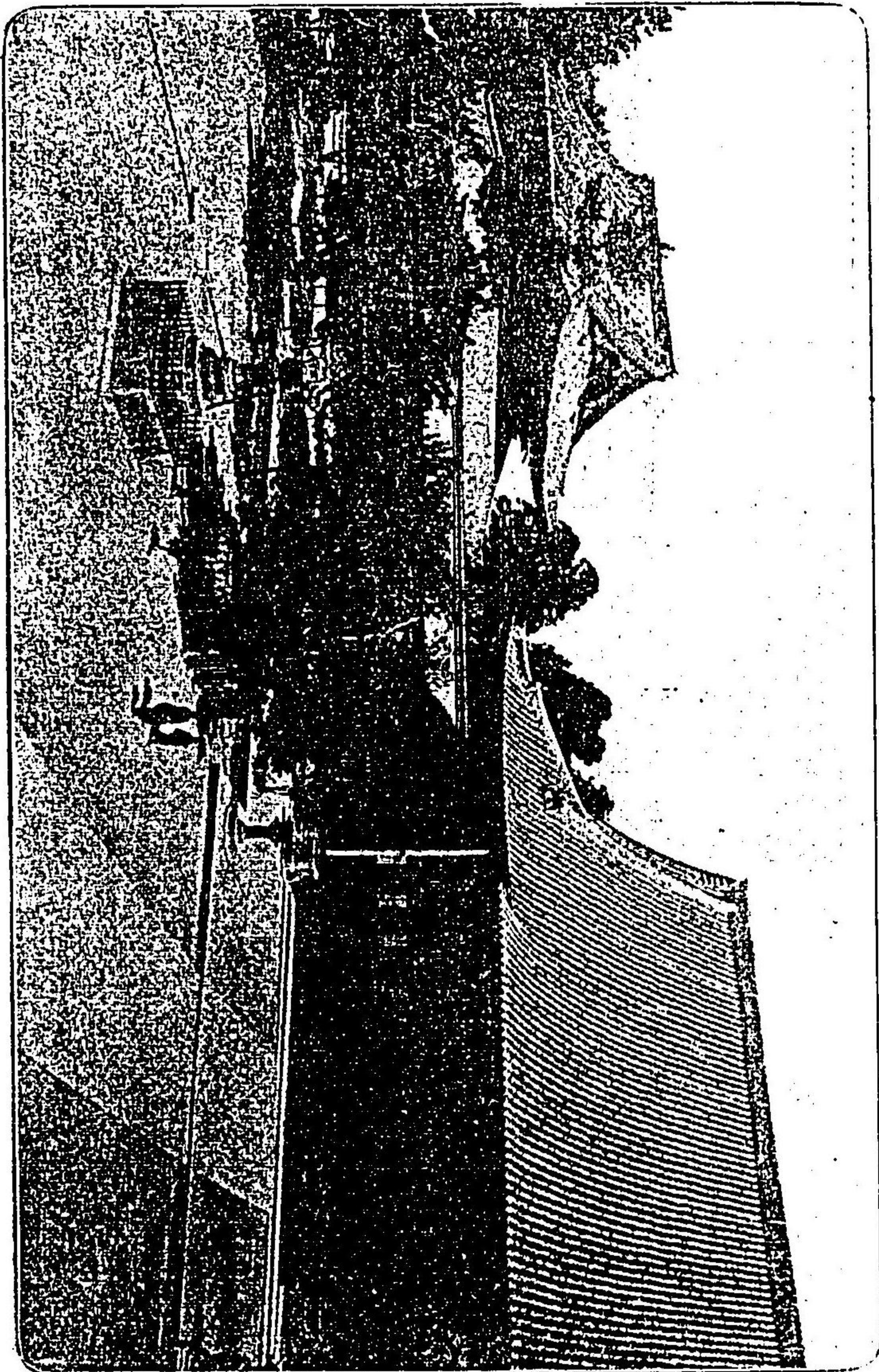
辰己屋 中ノ町

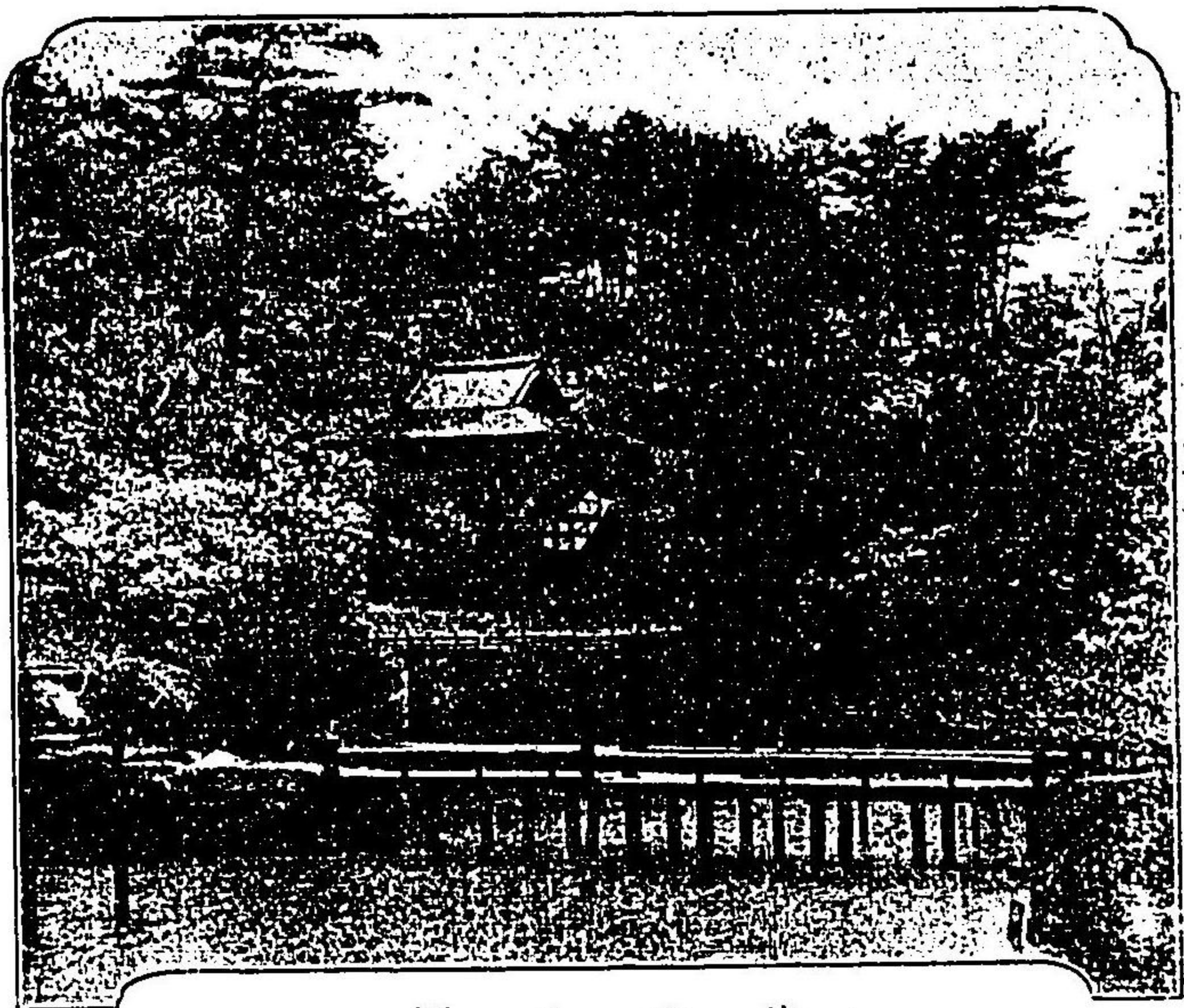
●高田山專修寺

停車場より一丁

眞宗高田派の本山なり末寺の數六百廿五ヶ寺境内一萬八

百六十四坪宗祖見眞大師の開基本尊は慈覺大師自作一刀三尊阿彌陀佛にして影堂には見眞大師自刻の像を安置す元下野國芳賀郡大内庄柳島高田にありしを寛正六年第十世眞惠上人此地に移し文明年中後土御門天皇より住職の綸旨を賜はり次て御祈願所と定めらる是れ歷代天皇當寺へ綸旨を賜ふの始なり第十二代堯慧上人の代正親町天皇より門跡號の勅許あり第十四代堯秀上人堂宇を再建す即現在の堂宇なり爾後歷世の法主概高貴の出身に係り就中第十七代圓猷上人は貞致親王の王子にして第十八代圓遵上人より以後數世は有栖川宮より出で、法燈を承け玉へり現今の新法主堯猷親下は近衛家の出身にして篤麿公の令弟なり宗祖見眞大師以下歷代の墳墓は境内にあり又影堂の前面左右なる菩提樹及枝垂柳は大師手植のものを下野より根分けしたるなりと傳ふ尤も盛なる法會 報恩講 一月九日より十六日迄 千部會 四月、九月 讚佛會 春秋彼岸





津市公園



津市公園内廣明館

津市

戸数六、二九一
人口三、八五九

伊勢の中央に位し岩田塔世の両川に跨り伊勢海に臨み三重縣廳の在る所にして藤堂侯の舊本府なれば古來殷賑を以て聞へ現に本縣第一繁盛の市街也

停車場ヨリ距離、車賃

津驛	公 園八丁 金五錢	縣 廳八丁 金五錢	塔世橋十丁 金五錢	京 口十五丁 金七錢
觀音	十八丁 金七錢	東 町十四丁 金六錢	丸之内十七丁 金七錢	岩田橋廿三丁 金八錢
入江町	廿二丁 金七錢	阿漕浦卅三丁 金拾五錢	大門町十八丁 金七錢	贊 崎卅二丁 金拾五錢
阿漕	觀音 二十丁 金七錢	結城神社 廿五丁 金八錢	丸之内 十二丁 金六錢	岩田橋 八丁 金五錢
極樂町	廿四丁 金八錢	久 居 一里餘 金十五錢	阿漕浦 廿五丁 金拾錢	入江町 廿八丁 金拾錢

公園

津停車場の傍にあり元藤堂侯の山莊にして天然の丘陵に園藝の妙工を加へ

泉水を瀦し櫻槭及紫躑躅を雜植し花時の好景名狀す可らず頂上傘の臺に上れば伊勢海の眺望殊に佳なり園内に休憩所の設あり又俱樂部ありて會員の紹介により洋食を供す

●四天王寺 榮町に在り聖德太子の創建藤堂高虎公の修營と云ふ東坡王義之雲舟等の古書畫を藏す

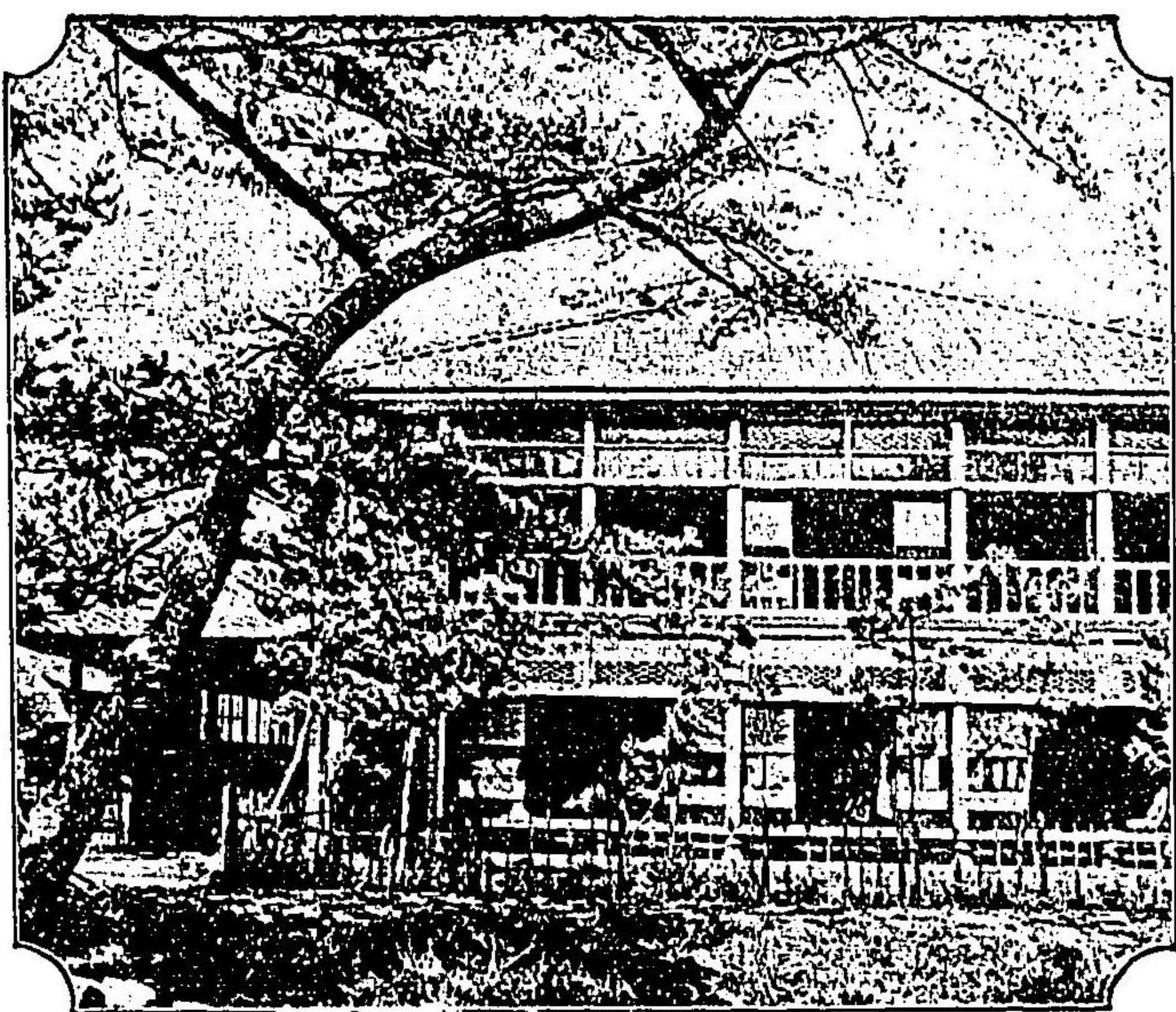
安濃浦

塔世川口より南の海岸安濃郡建部村は有名なる安濃松原の地にして西に安濃の

遠山を臨み砂白く水清く遠淺にして水浴に適す翠松枝を交ゆるの裡朝日館ありて海水温浴を設け避暑養痾に宜しく撈貝觀月の清樂あり夏秋に罽網を引く亦一奇觀なり

みわたせばわの、浦風ふくなへにいせの濱荻なひきぬるかな

藤原 爲業



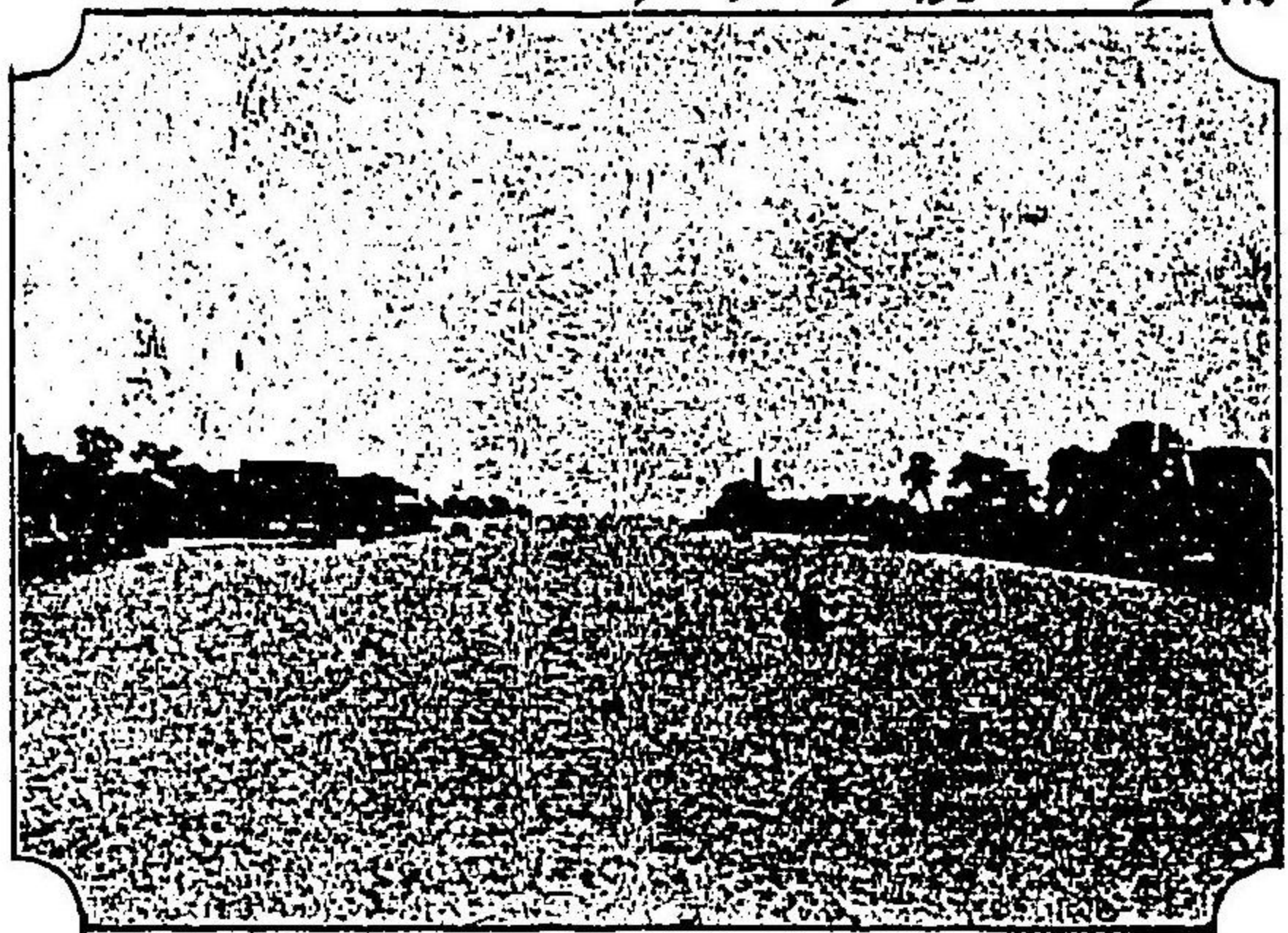
(安濃浦 waterfall) 朝日館



安濃浦の引網

● 観音寺

津市の中央尤も繁華なる大門町の北端にあり本尊如意観音阿漕浦にて漁網にかゝりたるものと傳ふ本堂及仁王門共に宏大にして境内廣く劇場寄席興行物露店等多く市内第一の熱鬧場なり仁王門より入り左に國府阿彌陀あり●市立商品陳列館 観音境内本堂の後に在り諸種の製品を陳列せり商工業者一覽の値あり●高山神社 丸の内に在り藤堂高虎公を祀る高虎公は江州の郷士より身を起し伊賀伊勢卅五万石の國守となりし徳津藩祖なり神社は公園内に在りしを近來舊城本丸内に移轉せり祭典は四月四五兩日及十月四、五兩日なり



● 贊崎港 岩田川口に在り漁船日々寄港し交通運輸便利にして津市吐納の要港なり

津

瀛船賃 四日市港へ拾五錢

市 神社港へ拾錢 尾鷲港へ壹圓

内 烏羽港へ廿錢 木ノ本港へ壹圓廿五錢

● 贊崎浦

安濃浦に續き岩田川口の北なる砂濱なり海水

浴の最盛なる所にして夏期に川至れば日出前より浴客來集す濱上休憩所の設けありて游泳者の爲めに日覆等浴衣等を貸貸し便利を供す近來京坂地方より來る者漸く多きに至れり



●阿漕浦

岩田川口より南の海岸一帯を云ふ遠く参尾の翠巒を望み清渚綠松遙に辛州崎に連なり千鳥館魚庄の両亭磯馴松の間に点在し海水温浴の設あり氣清く水暖く風光明媚の勝區なれば避暑療養は言ふも更なり四時の遊息に適し遠來の客常に多し

●阿漕塚

阿漕浦の上りにある樹叢にして阿漕平次の塚なりとの傳説ある名所なり碑面芭蕉の句『月の夜の何を阿古木に啼く千鳥』は夙に人口に膾炙する所なり

●結城神社

(津市八幡町の東) 縣社八幡神社の隣域に鎮座せる別格官幣社にして南朝の忠臣結城宗廣公を祀る、境内に其の墓あり公勅命を蒙り義良親王を奉じて水路東國に赴くの途中颶風に遭ひ海上に漂ふこと七晝夜にして此處に着せしがやがて病にかゝり劍を按じて薨じたるは史冊に明なる事實なり

八幡祭典(津祭)は十一月十五日 結城祭典は五月五日共に盛大なる祭禮なり

●縣立農事試験場 阿漕停車場の傍にあり總面積七千五百餘坪普通農作物に關する各種試験及害虫飼育試験等をなす

●津市物産

津市名産及製造販賣店等の二三を左に掲ぐ



結 城 神 社

○伊勢綿 津市及安濃河藝鈴鹿の諸郡より製出する木綿なり地質の堅牢と染色の不變を主とし配色の意匠も亦近來大に進歩せり一ヶ年産額百萬反に達す

問屋 宮田隆三 安濃郡新町

○阿漕焼 舊幕の頃に中絶したる安東焼の後身とも稱すべき特産にして再興年尙淺きも意匠を凝らして製造に熱心せるが故に近來頗る進歩せり多く出すは菓子器茶器其他日用品にして釉米土質とも一種の雅味あり産出價額年々増進の勢ありて販路漸く擴張せり

製造 阿漕焼陶器株式会社 枕町
○茄子團扇 茄子形に造れる優美堅牢の品なり

製造販賣 別所 榮 久留島
○津編子 河邊清右衛門 中ノ番

○竹細工 加藤藤次郎 下部田
○阿漕焼(菓子)金 玉 堂 立町

●旅店



津市物産

大觀亭(兼料理) 入江町 聽潮館(兼料理) 極樂町 若六 東町及津停車場前 松坂屋 津停車場前
林屋 中ノ番 國分屋 中ノ番 魚 爲(兼料理) 北町 鍋屋 榮町 櫻水樓 萬町

●料理店 大觀亭 入江町 聽潮館 極樂町 内喜亭 西町 千鳥館(兼旅店)海水浴 阿漕浦
魚庄(兼旅店)海水浴 阿漕浦 朝日館(兼旅店)海水浴 安濃浦 ことぶき(兼旅店)海水浴 賢崎

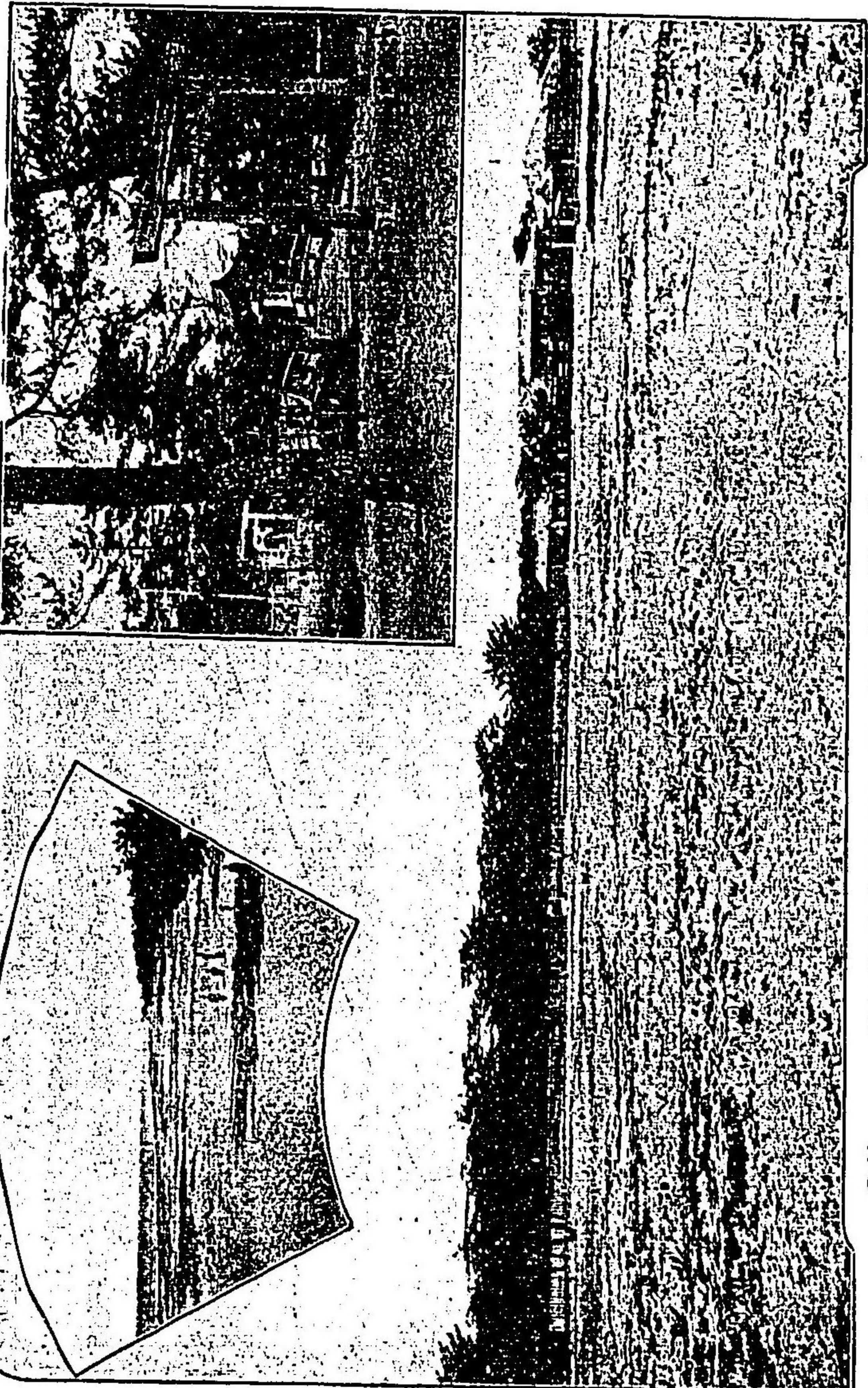
●久居町(阿漕停車場より一里餘) 一志郡の都邑なり近郊に桃林あり花時は觀客多し
●柳原温泉(阿漕停車場より五里十九丁高茶屋驛より四里二十丁) 一志郡柳原村に在り皮膚病、腸胃病、肺病等に効驗あり近傍貝石山とて岩石を碎けば貝類の化石出る山あり麓に湯の瀧川の碧流を濠へ風景甚妙なり

●高茶屋驛 (香良州行はこゝより下車) 香良州へ三十二丁 車賃金拾貳錢 久居桃林へ一里餘 金拾五錢

●香良州浦 一志郡矢野村の海岸雲出川の河口三角洲を云ふ伊勢灣風景第一の地にして砂清く松古りて枝振り面白く風光絶佳須磨明石に譲らず休泊店二戸海水浴設備完全にして客室清潔能く二百人を容るべく生魚の潑刺たるを食膳に供す氣候快適避暑休養及遊樂の勝地として其名著しく殊に近來道路改修成りて一層の便利を得たり

●香良州ホテル(松坂屋) 宿 料 内國人 六拾錢以上壹圓迄 日の出館 宿 料 同上

●香良州神社 香良州浦に鎮座せる縣社にして境内廣く松樹鬱蒼たり天照大神の御妹神たる稚日女大神と祭る
●鵜橋 香良州の南十八丁鵜村の大江川に架す中納言家持の名歌「かささぎの渡せる橋」を詠せし古跡なり



香 良 州 海 岸

辛 五 浦

●雲出川

高茶屋驛の南十四丁許にて雲出川を渡る此川伊勢の中央を貫流するにより之を分界として伊勢を南北に別ち南勢北勢の稱あり一志郡の耕地は概此川の沖積土にして地味肥美農産富饒なるが中にも米穀は一志米とて品質精良を以て古來深川市場に格段の聲價を有せり郡内田反別八千五百余町收穫年額拾四萬石海外輸出高三萬余石なり

雲出川せき入れてまける前代に

秋の空ころかねて見へけれ

●六軒驛

伊勢街道三渡驛より東半里に松崎港あり

●多氣御所跡

伊勢街道四里餘五拾貳錢御嶽へ十二里餘壹圓廿壹錢

●川上八幡

十一里餘壹圓廿錢香良州へ一里十二丁拾五錢

●白米城跡

一里半 拾六錢 岩内へ二里十九丁參拾壹錢

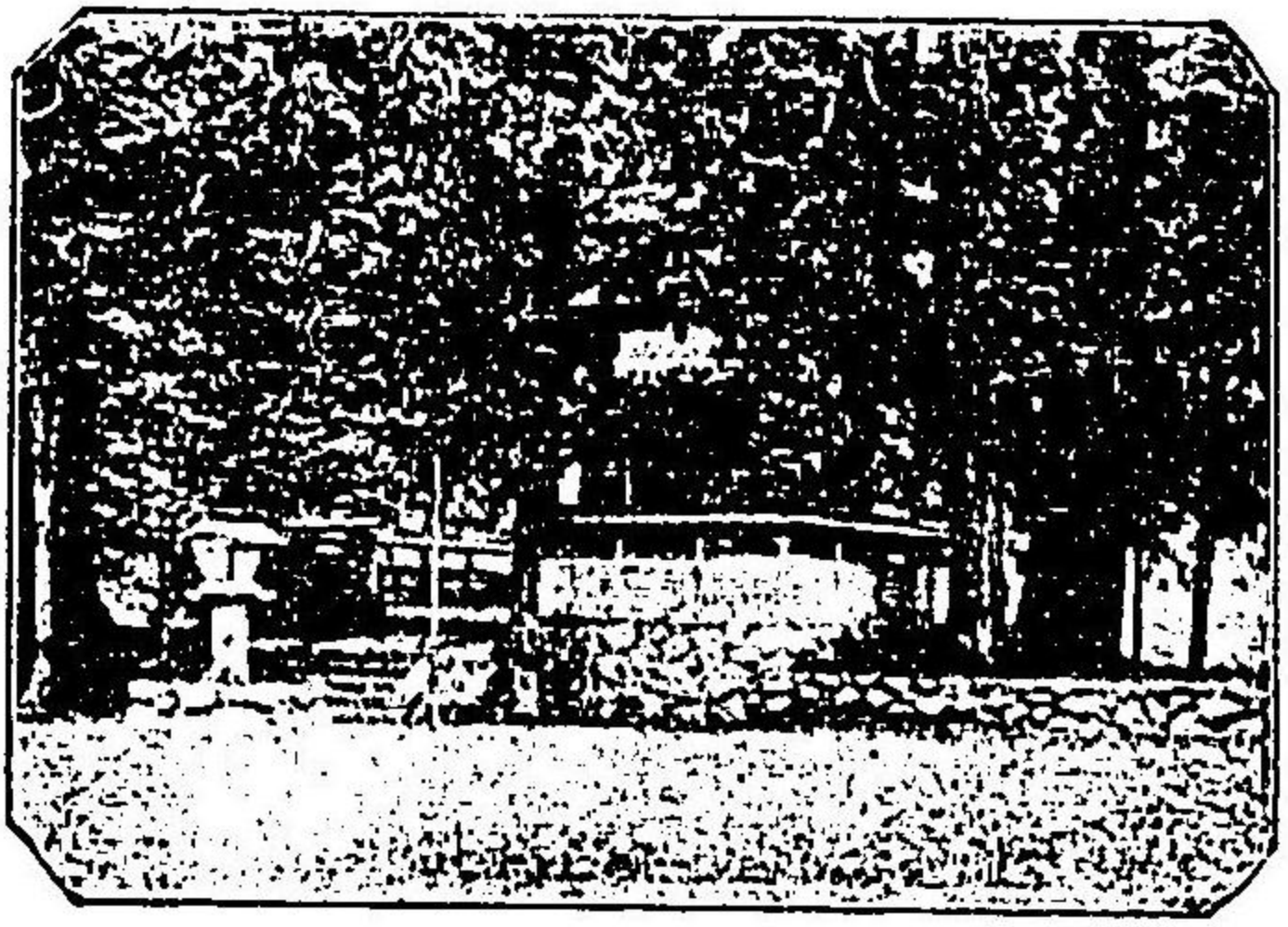
●多氣御所跡

一志郡多氣村宮の道に當る

は北島國司累代の城地として多氣御所と稱へし地なり扱も南朝の柱石北島准后親房の子顯家顯信の二卿は王事に殉じ三男顯能伊勢國司に任せられ此に本城を築き芳野の藩屏として



御 所 跡



北 畠 神 社

南勢三郡を領し支族飯南多氣の諸郡に城壘を構へ九世の
久しき家名を墜さざりしがさしも難攻不落の要害も遂に
織田信長に欺かれて破却せられしこそ無慚なれ數代繁昌
の御所跡は今尙歴々指点すべく就中其の御庭なりし築山
泉水は昔の傍を其の儘に奇石苔を被むり老櫻空しく榮へ
て米字形の池尙あせず人をしてそゝるに懷舊の情に堪へ
ざらしむるの故墟なり

●北畠神社 御所跡に鎮
座し親房顯家顯能の三卿を
祀る寛永年中北畠の末流鈴

木某遺墟の湮滅を慨き此の祠を建立せりと云ふ

●禁中社及雪姫櫻 共に御所跡の近傍にあり禁中社は後醍醐天皇貞慶天皇
を祀る國司の禮拜奉仕せし社なりとの傳説あり雪姫櫻は其の由来詳ならず
るも國司別邸の前栽にして愛敬せられしものなるべしと云ふ

●川上八幡 一志郡八幡村大字川上に在り仁徳天皇
を祀る正平元年國司顯能卿の創建にして後藤堂家の祈願



川 上 八 幡



所となりしより遠近の參詣者絡繹として日々百
余名に及び毎夜參籠するもの五十人を下らずと
云ふ此の近傍に不動瀧と稱する瀑布あり

●御嶽の櫻 伊勢地村大字三多氣にあり六軒より十一里餘
中院通方卿北畠親房四世の祖吉野の絶景を慕ひ數千の櫻樹
を移植せしなりと傳ふ透迤たる一帯の山嶺春期

には満山の花却て是れ雲かと疑はれ秋候には紅
葉点々錦綉を粧ふが如く處々飛泉銀糸を懸け鹿
の聲の吻々たるさへおちこちに聞ゆるとぞ

●藏王現權 御嶽の頂に在る堂なり眞言宗金峯寺の預る所
通方卿の創立にして國司滅亡の後兵燹に罹りしを正保中再建
せしものなりと云ふ

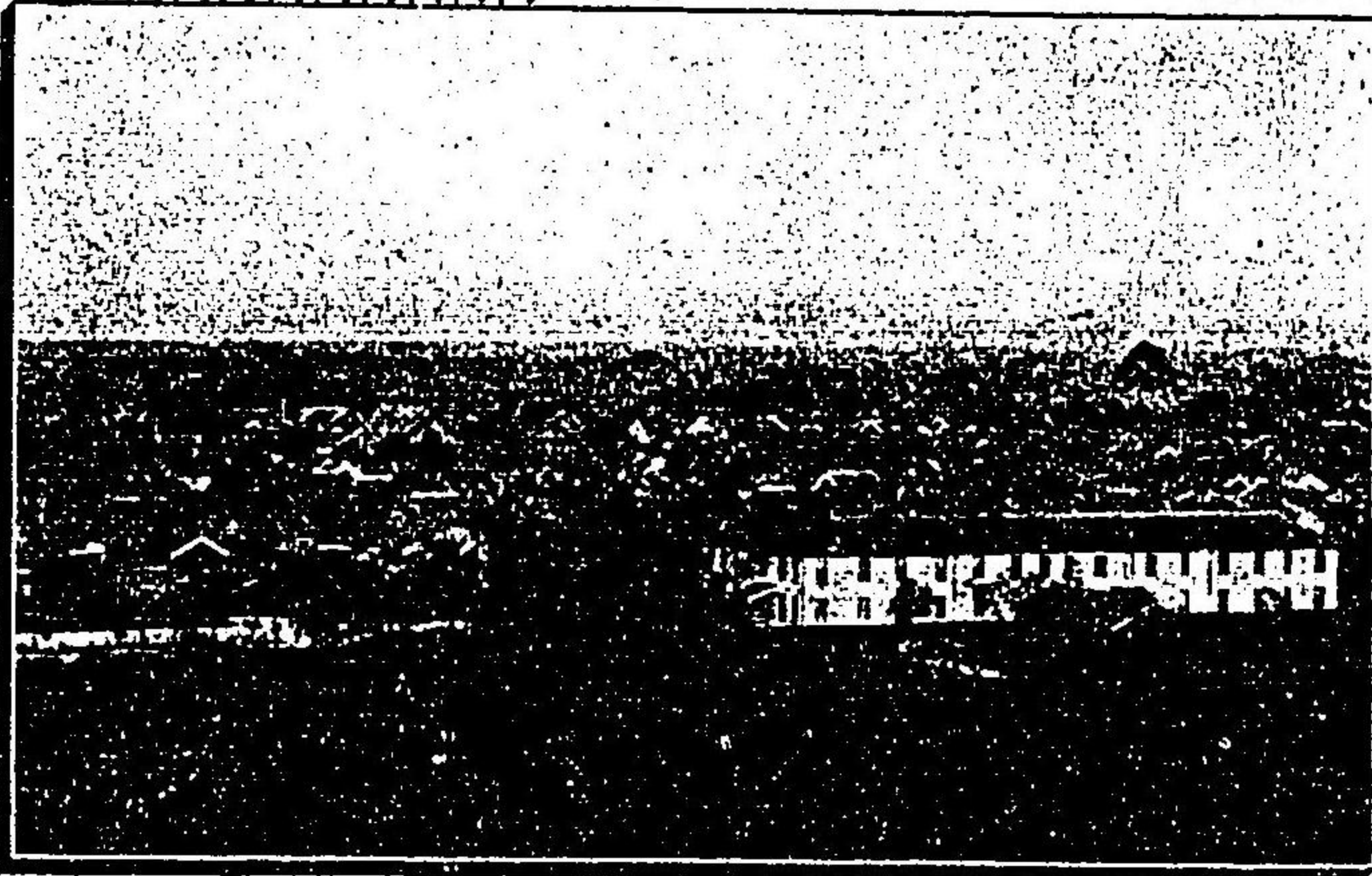
●白米城趾 六軒の西に見ゆる阿阪山の絶頂樹
形をなせる城趾なり國司北畠滿雅卿足利勢に圍
まれ水竭きたるに白米にて馬を洗ひ貯水多きが
如くにたばかりて敵を却けたる古城趾なり

松坂町 戸数 三、二二一
人口 一、三、三三二 津

と宇治山田の中間に位し東一里に大口港を控へ南勢の形勝を占め一志飯南多氣三郡の中樞として貨物集散の要地たり舊紀州藩の別府にして松坂商人の名は古來三都に迄名聲を博せし所なり

停車場 車賃
本町中町新町等へ 金八
公園へ 金六
岡寺へ 金六
本居神社へ 金六
山室山へ 一里半 金廿五
岩内瑞慶寺へ 一里半 金拾五
大石不動四里半 金拾五
大口港へ 二里半 金拾五
朝田地蔵へ 一里半 金拾五

●岡寺山繼松寺(中町)



(松坂市街) (公園より望む)

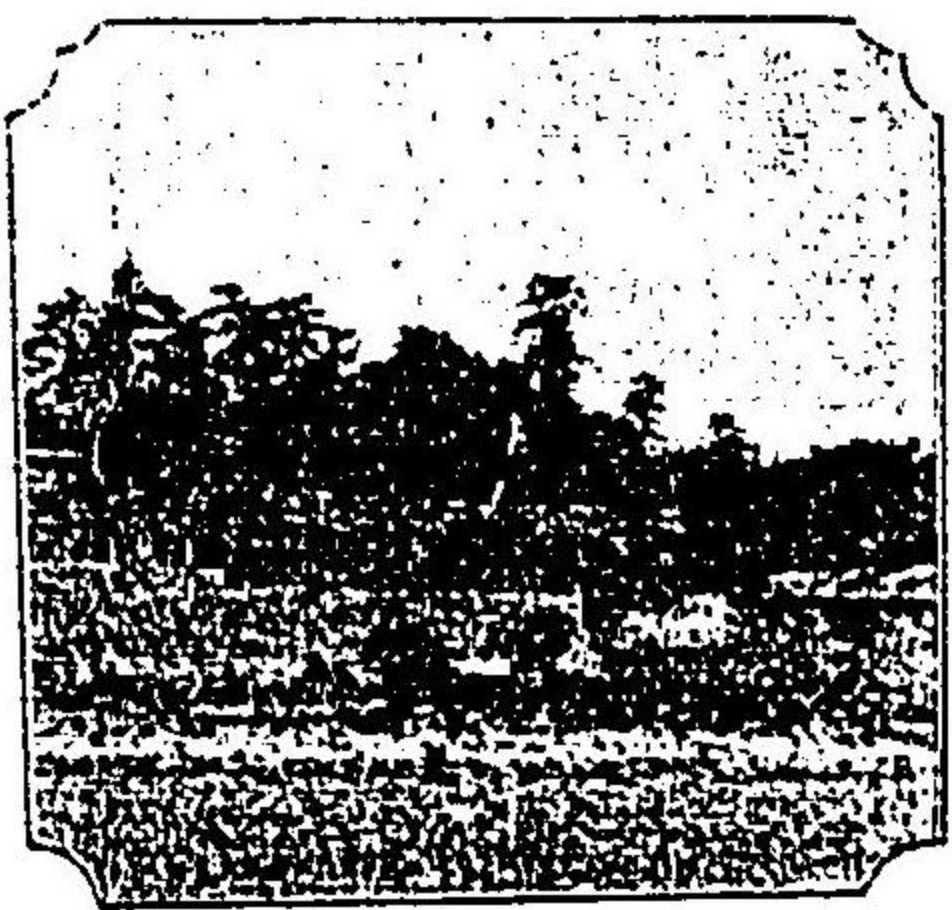
真言宗高野山蓮花三昧院末本尊は如意輪觀音眉落しの祈願佛として初午の日は遠近より參詣する者夥しく松坂第一の雜踏なり

●三井家 日本第一の富家三井家の祖先是松坂の出身にして累代の墳墓は新町樹敬寺に在り近年まで復太郎氏の別邸を存せしも今は小津氏の所有に歸せり

●愛宕市 舊曆十二月二十四日遠近の商人愛宕町附近に露店を張る即歳の市なり雜踏甚だし

●祇園會 六月七日より十四日迄戰人町午願天王社の祭典にて全市山車を出し盛なる祭禮をなす

●安念碑 西町花山寺境内にあり安念は北條義時を誅せんと圖り事露はれ殺されたる義烈の僧也



松坂公園

●公園

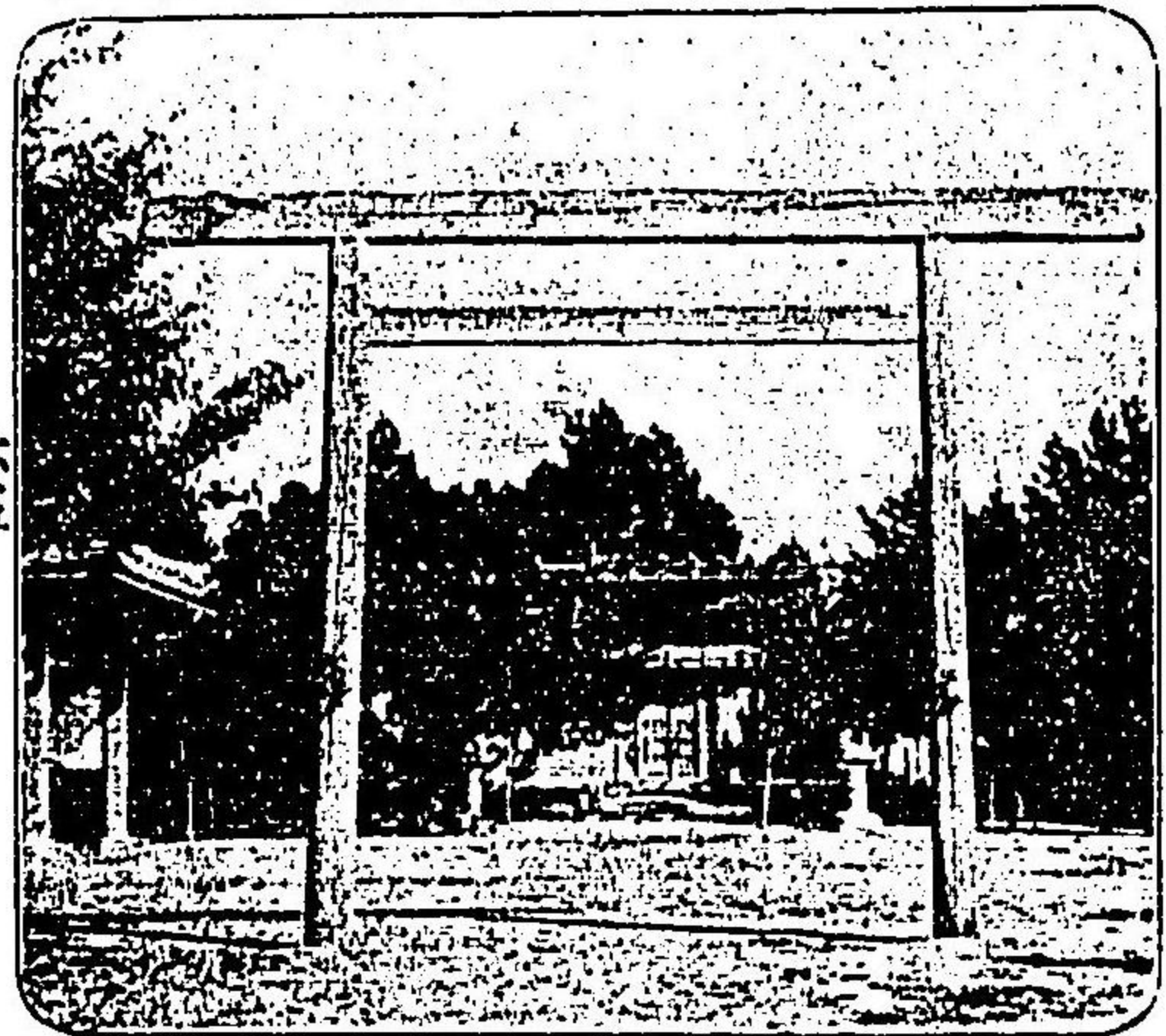
元龜年間北畠氏之を築き後蒲生氏郷の居城となりし細頸城趾なり石垣高く疊みて伊勢海を下瞰し十里の光景一眸に湊る頂上に南龍神社(紀伊滿祖賴信公を祀る)あり其下旗亭あり亭前の藤樹は花時の清觀賞するに堪へたり

●本居神社

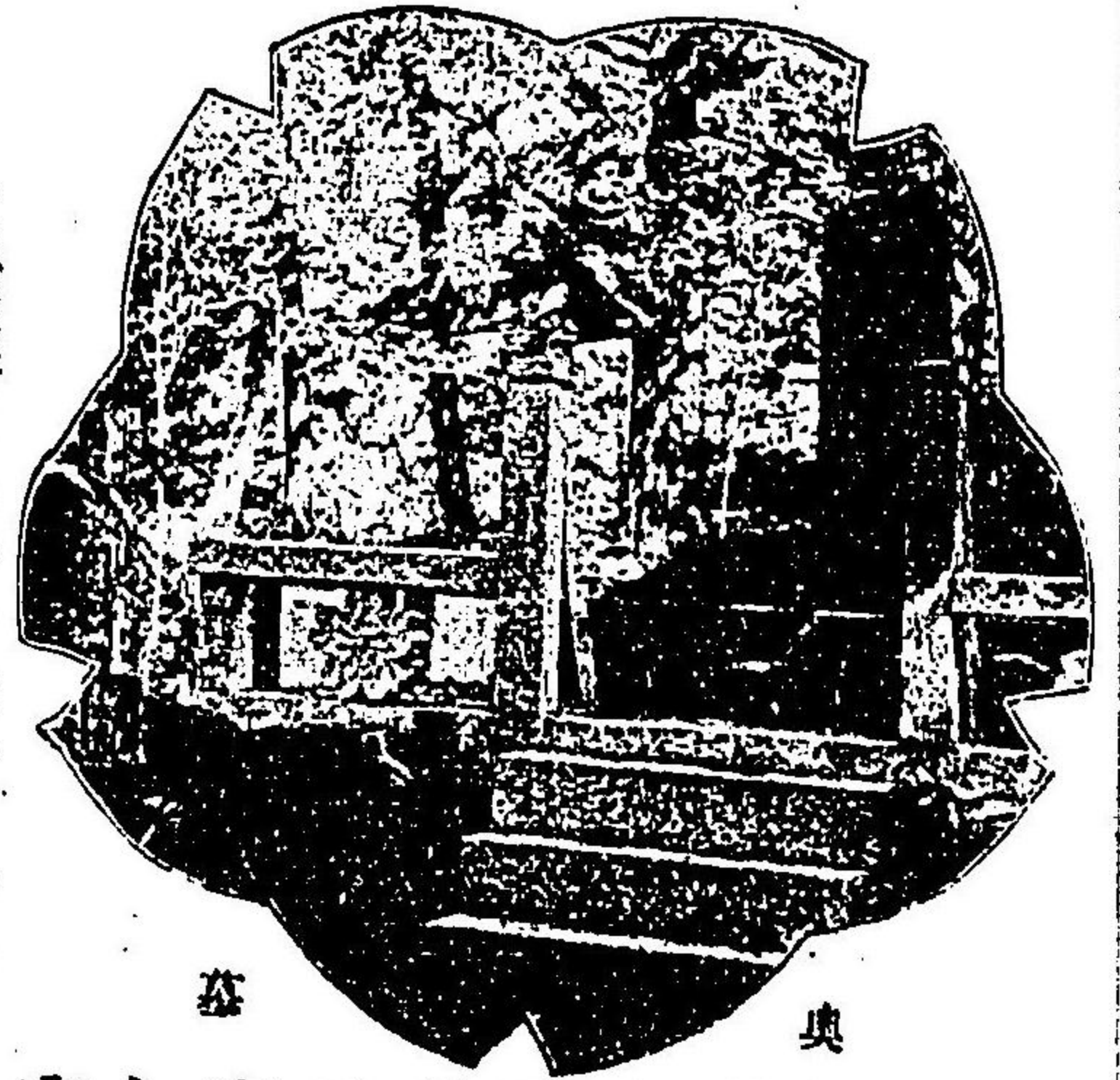
公園の下手に在り

正四位鈴の屋大人本居宣長翁を祀る宣長は松坂の人享保十

五年生れ享和元年壽七十二にて没せり翁が清く赤き真心を以つて古學の道に志を盡くし君臣の大義を講明して維新大業の機運を啓きし大功偉績は言ふを俟たず著書百八十卷盡く後學の眞寶となり從遊の士五百余人に及び後世人心に甚深の感化を與へたる功勞を思召され明治十三年 鳳駕御巡幸の際特に墓所及神社に勅使を參向せしめられて金幣を賜ひ又社殿改造の時には特に内帑より金百圓を下し賜ひき本社は元山室村に



本居神社



奥 在りしを近年此に移せしなりと云

●鈴の屋 翁の家は松坂魚町に在り音に聞ゆる鈴の屋は當時の儘を今に存して一世を風靡したる偉人が膝を容れし書齋の如何



本居大入之像

六六

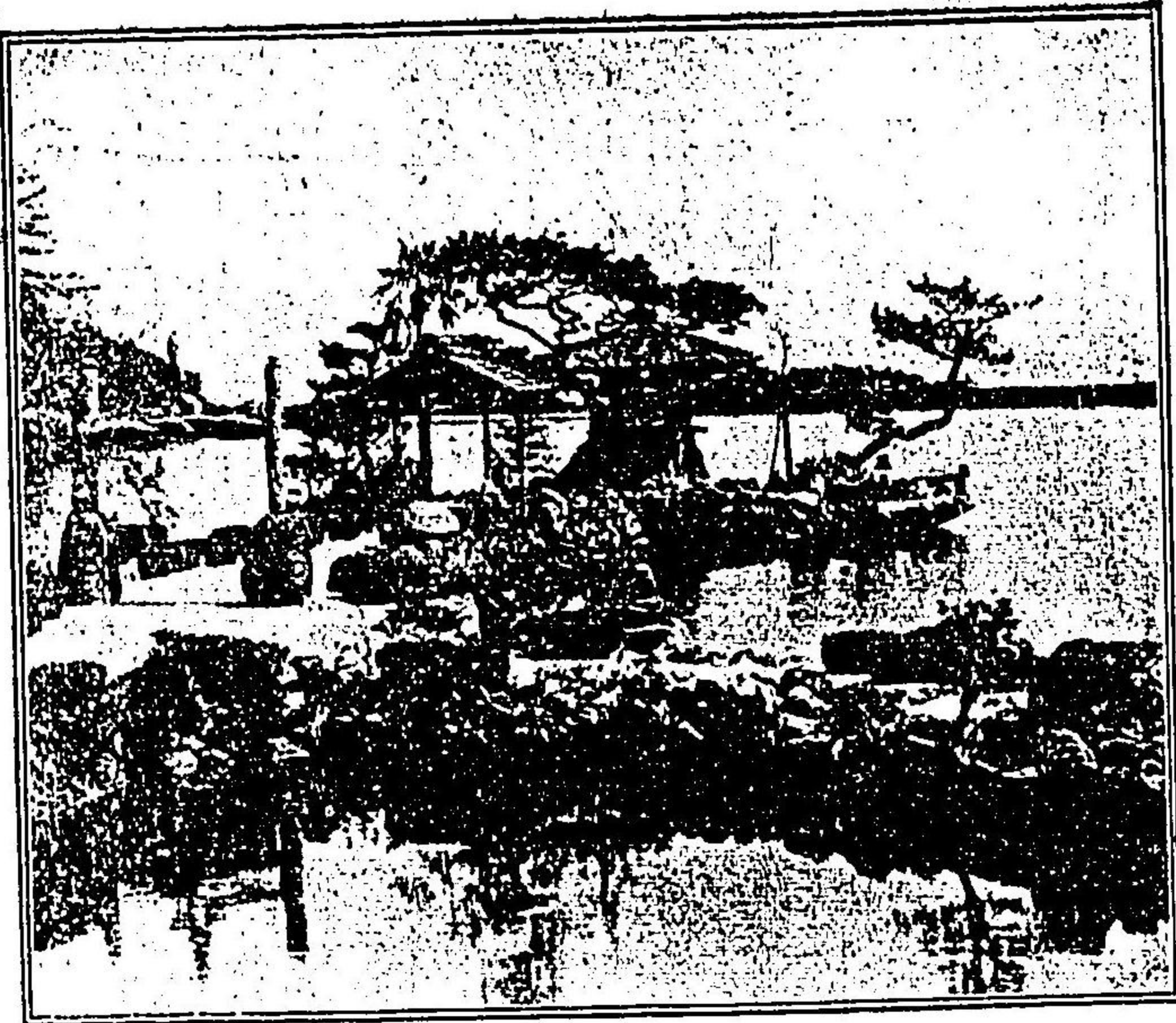
六六 本居大入の書齋は松坂魚町に在り音に聞ゆる鈴の屋は當時の儘を今に存して一世を風靡したる偉人が膝を容れし書齋の如何

六六 本居大入の書齋は松坂魚町に在り音に聞ゆる鈴の屋は當時の儘を今に存して一世を風靡したる偉人が膝を容れし書齋の如何

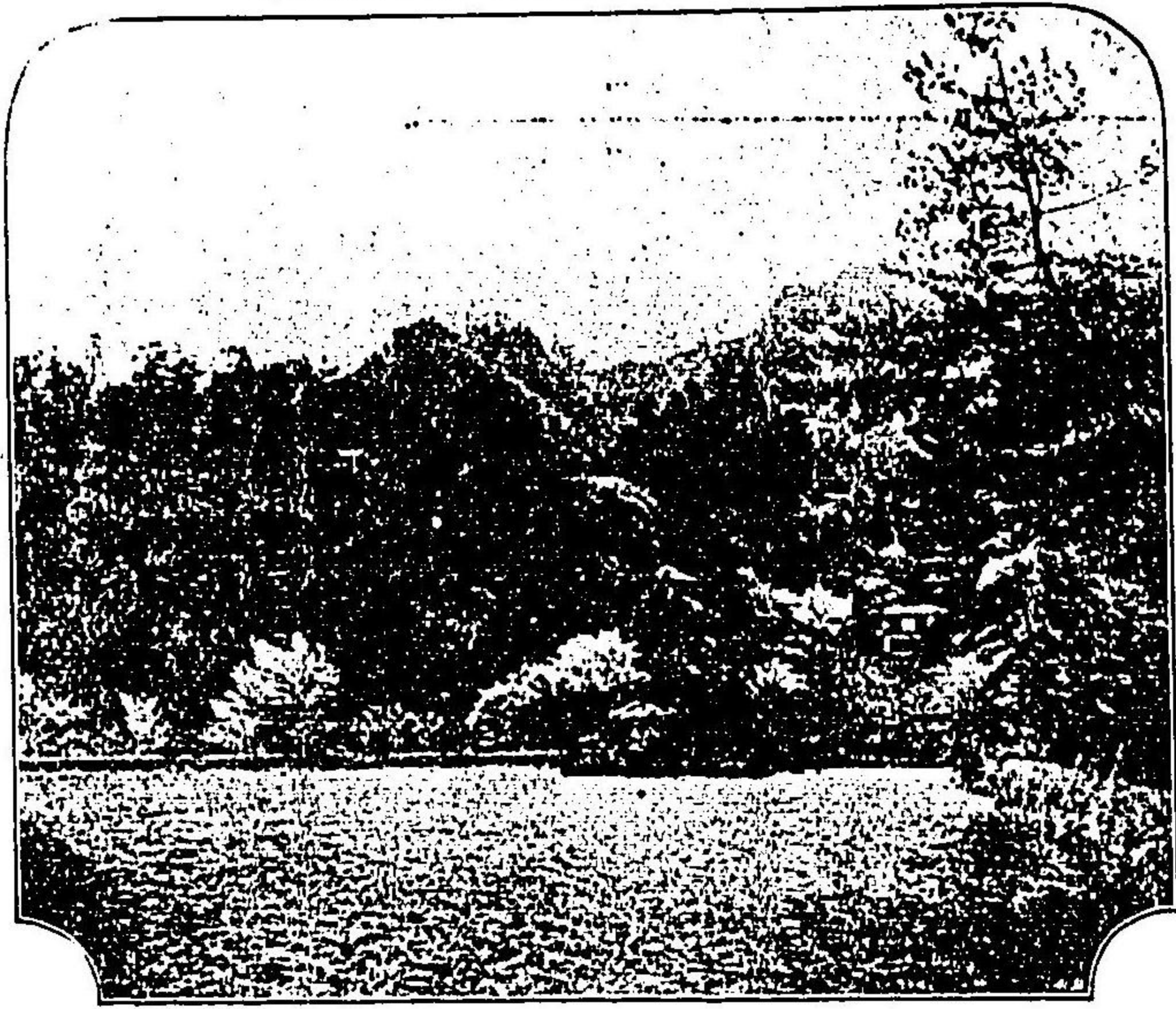
に素樸なるかを示せり翁が六十一の八月自ら寫して『師木島』の歌を書き添へし圖像の外手澤の存する稿本及居常愛翫せし古鈴多く存せり

●山室の奥墓 翁が墓は松坂の南一里余山

室山妙樂寺の上にあり『本居宣長之奥墓』の七字は翁が自書にして傍の碑面には其の高足平田篤胤が追慕の詞「なきからはいつくの土になりぬとも魂は翁が許に行かなん」の一首を刻せり



瑞巖寺 (客室よ池を望む)



瑞巖寺 (池の堤より寺を望む)

六七

●岩内瑞巖寺 伊勢寺村岩内山の麓松坂の西に在り山に倚り池を控へ伊勢海を園景に取込み櫻紅葉躑躅等を植へ奇石を排置したる勝區なり溪湖飛泉の傍石観音と稱し巖石彷彿として佛面をなせるあり春秋の二期及雪景尤も妙なり寺僧客を好み何人を擇ばず客室に延き囁に應じて酒飯を供す紫蘇飯は此寺の名物にして一種の風味あり

●松坂物産

○松坂木綿 一志飯南多氣三郡の所産にして耐久と染色堅實とを長所とし虚飾を去りて實用に適するを専らとす古來松坂木綿と稱し奥羽北陸等遠地に聲價を有せり近來新式器械を使用し織方の改良を行ひ特長の保存と意匠の進歩とに従事す一ヶ年産額凡百万反に至る

- 製造 上野孫七 一志郡久居町
松坂木綿織合資會社 飯南郡神戸村
藤村機業場 松坂西町
岡田又右衛門 新町 白塚大三郎 日野町
藤村喜兵衛 西町



松坂工場内景

○茶 飯南郡重要物産の一にして一ヶ年産額四十万圓仕向地は多く神戸なり就中朝見茶尤も聲價あり

- 問屋 山本喜兵衛 新町 竹岡平吉 新町 鈴木徳蔵 新町
○材木 小津芳藏(大口港に蒸溜力挽材工場を有す) 新町 長崎佐右衛門 新町
○麻葛草履 松坂の隣村鈴止村の産にして東京、名古屋地方へ販賣す一ヶ年産額貳拾万圓に至る
○須賀屋しら梅(婦人用煉り油) 長井宗七 日野町 櫻井七郎右衛門 湊町 森川吉郎兵衛 湊町
○老の伴 東渡古瓦に擬せる名産の菓子なり歴宮内省の御用を蒙る
製造販賣 藤村仙藏 湊町 柳屋奉善 中町

- 旅店 山川ホテル 本町 回春樓(兼料理) 日野町 椿屋 中町
●料理店 廣月樓 愛宕町 回春樓 同前 菜花樓 愛宕町 満喜樓 西町

●徳和驛 伊勢街道垣鼻の近傍に在り 朝田地蔵へ拾五錢 安樂天神へ拾貳錢 御機殿へ貳拾五錢

●榊田川及御機殿 倭姫命此川に榊を落し玉ひし古事により榊田川と稱す伊勢街道榊田橋は瀛橋の下流凡一里に在りて其の下流の東岸に上下御機殿あり

上機殿は機殿村井口中にありて神麻績機殿と稱し皇大神宮神御衣祭に供進する荒妙衣を織り下機殿は東黒部村大垣内にあり神服織機殿と稱し和妙衣を織り奉る所なり

●朝田の地蔵 朝見村朝田にあり弘法大師製作枯木に牡蠣を附着する牛身地蔵佛を安置す

●安樂天神 神山村大字安樂にあり安樂寺境内の天神祠にして眼病平癒の祈願の爲め参詣者多し

相可驛 熊野行は茲にて下車し熊野街道に由るを便とす相可本村は停車場より北三十丁に在り

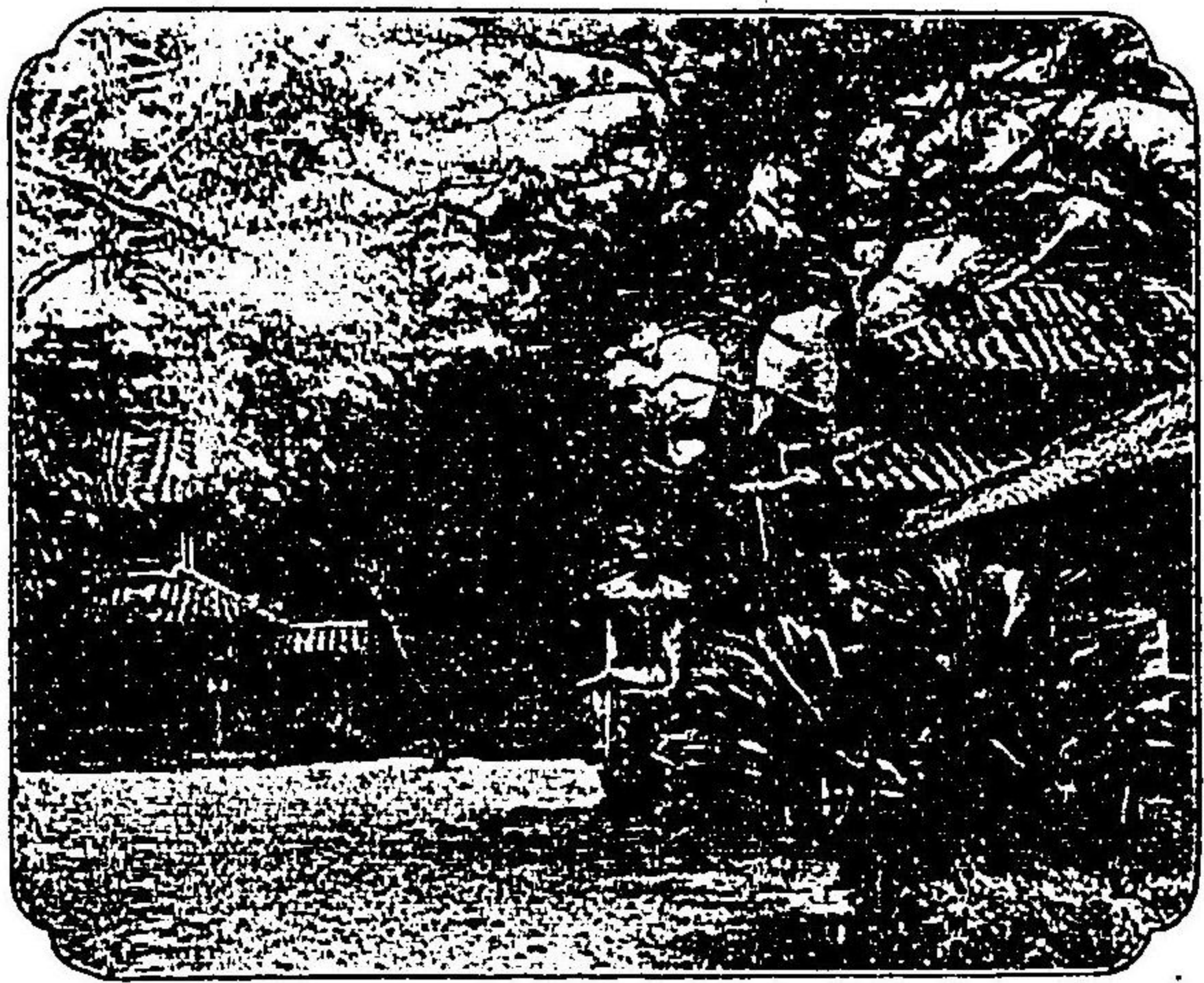
停車場 距離及車賃 相可本村へ三十丁拾錢 神山一乗寺へ卅二丁拾錢 齊宮村へ一里三十二丁貳拾錢
明星村へ二里六丁卅壹錢 大湊浦へ二里廿六丁卅壹錢 丹生へ二里卅二丁卅壹錢 三瀬谷へ五里卅丁六拾參錢

相可村 榊田川

を挟みて飯南郡射和村に對し市街を爲す鮎獵尤も妙也

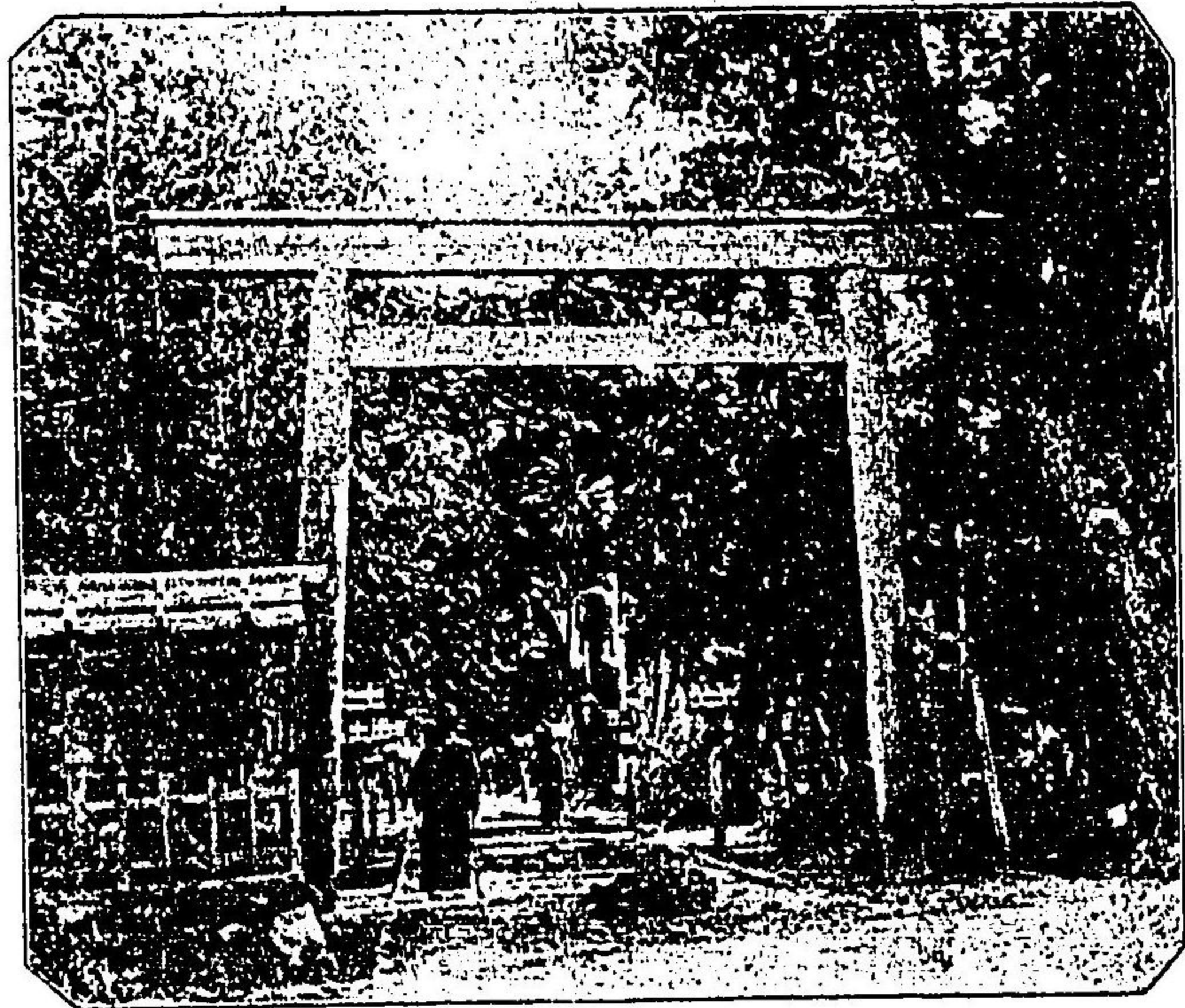
●名産 千鳥餅 ●旅店兼料理 鹿水草 ●神山一乗寺 相可停車場の近傍榊田川の西岸にある丘陵にして高三十六丈勢海を隔て、尾參の嶂を望み風光甚だ佳なり頂上に聖徳太子の創立と稱する一乗寺あり

●天照山 相可市街の西南に在り西



天照山

及南は山に連なり東は涵翠池に臨み北は田圃を距て、相可市街を望む山水の配置妙に眺望絶佳觀楓の勝地として著名の勝地なり山上に法泉寺あり里俗稱して瑛啓と云ふ開基の僧名に取る也
●飲法泉池上 伊藤東涯
●法泉寺古占清漪 層嶂影沈松外池 踏遍千山落花後 樹陰解劍此傾危
●千鳥ヶ瀬 相可村字内相鹿上神社の南なる細流をいふ西行法師行脚して此處に口占めりといふ歌に「よりの名づく 歌に「よりの名づく 越へて蓬廬に旅経ころすれ



丹生神社



同二王門

●丹生神社及神宮寺

多氣郡丹生村相可本村より一里三十二丁にあり祭神は埴山姫命境内社十

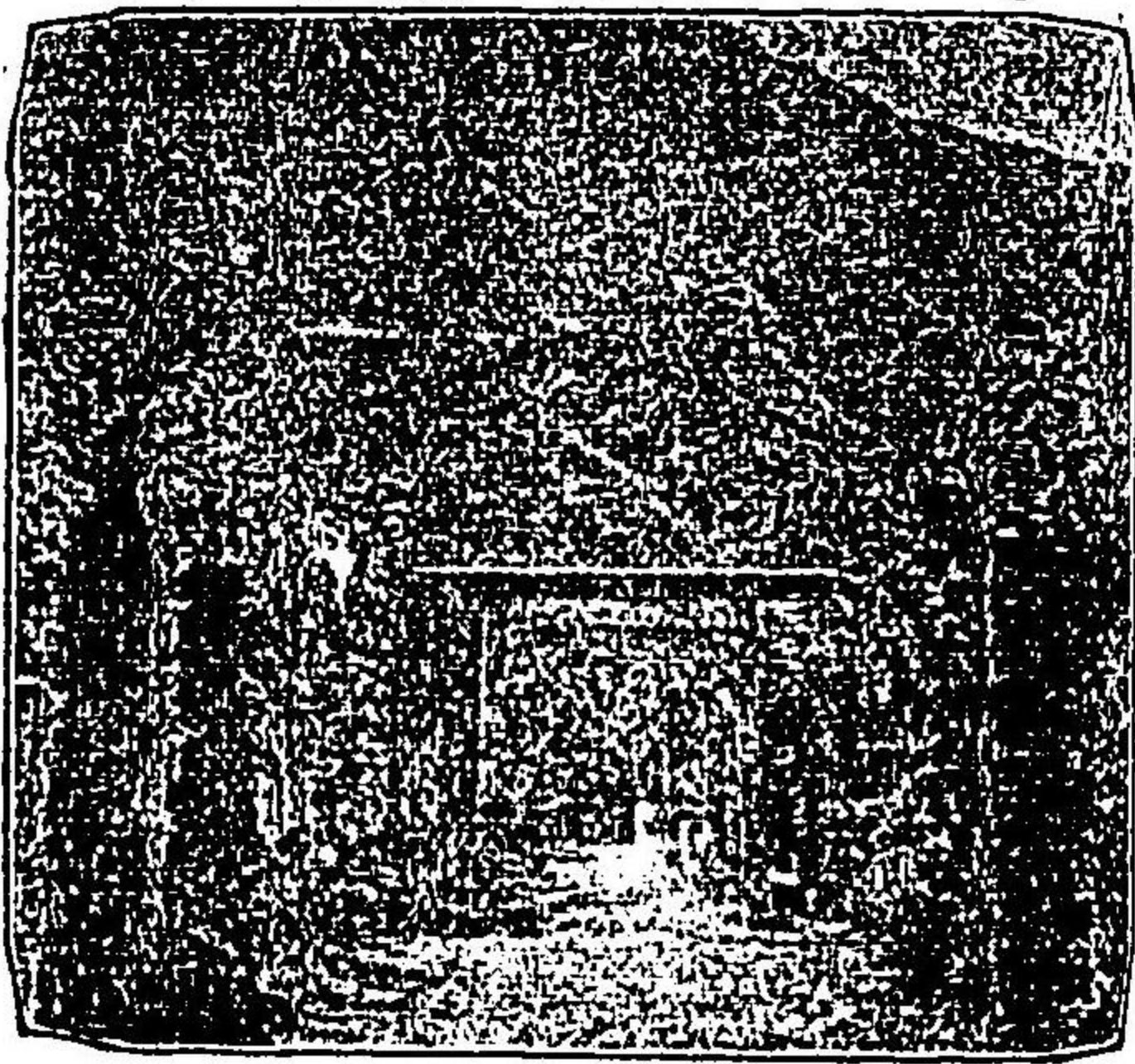
六社あり城内古樹森鬱として千年の風致を存せり社と同城に神宮寺あり眞言宗古義派本尊十一面觀世音寶龜五年僧勤操の創建にして後弘法大師錫を此地に留め高野に摸して建てたる七堂伽藍は兵燹に罹りしも大師堂藥師堂觀音堂等は尙存し又行基空海諸名僧揮毫の經卷其他珍異の什寶を藏す丹生大師とて遠近より參詣する者絡繹たる名利也

●丹生礦泉 神宮寺の西一町許の處に湧出す弘法湯と稱し浴客毎年六千人に降らず
泉質無色透明味軟甘反應は弱中性含有物は鹽化那篤留母重炭酸那篤留母重炭化加留母重炭酸加爾東母重炭酸麻爾尼東母炭酸礬酸那篤留母等にして皮膚病脚氣病等に適す(混浴室あるも旅店の湯槽に汲み取り浴する可とす)

●丹生旅店 松儀(兼料理) 西村屋(兼料理)

●北畠神社 多氣郡三瀬谷村上三瀬相可本村より五里十九丁にあり北畠第八世國司具教卿を祀る三瀬は宮川に臨み大

杉谷に續きて要害の地なりとて前國司具教卿此に移り住み其子具房の婿信雄に數代連綿の家を押領せられたるを憤り興復を圖り給ふ由織田方之を知り武士



(谷瀬三) 社 神 品 北

を遣はし襲殺せしめし御所跡の地にて國司堂とて小祠ありしを近來改造移轉したる也
●齋宮舊跡 齋宮村にあり大神宮の御杖代として齊き給ふ内親王の御座所なりしが後醍醐天皇以來斷絶したる舊跡にして其の境域伊勢街道の南北數十丁に亘れり

●隆子女王御墓 多氣郡上御絲阪本にあり醍醐天皇の皇子三品章明親王の第一女隆子女王の御陵なり

●壺屋擬革紙 稻木、新茶屋等硯川以南伊勢街道筋より出だす特産物にして巧に革に擬せる油紙なり多く製するは煙草入類にして其の起原詳ならざるも往古より壺屋紙煙草入と稱へ古き狂詠にも『夕立やいせの稻木の煙草入ふるなる光るつよいかみなり』などいへり近來製法を改め意匠を凝らし精巧美麗の品を製し賣入の外種々の應用を圖り内外博覽會等にて屢賞牌を受け海外に販路を開き需用に應ずるに至れり本品は全國唯一の製品にして内外の嗜好に適せる重要産物の一なり

新茶屋村の三忠 稻木のつはや等何れも宇治山田町に店舗を設けて販賣す

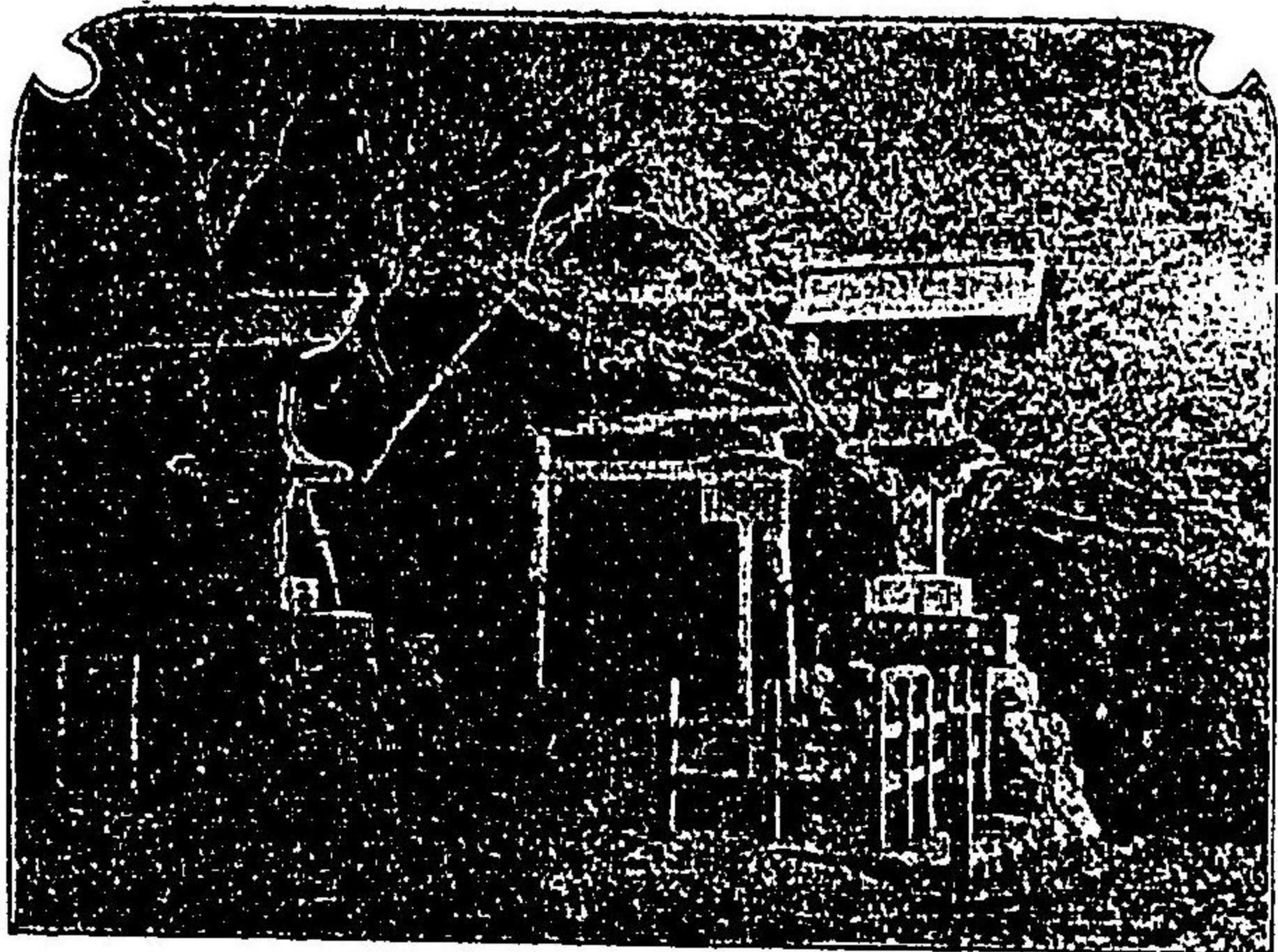
●大淀の業平松 多氣郡大淀村の海岸にあり昔在原業平尾張に赴く時此處にて送別をなしたりとて松に名づく此のあたり古より名所の間ありて大淀八景の稱あり又舊曆六月十四日八雲神社の祭禮に煙火を揚ぐるの例あり此の地は煙火の妙手を以て著るゝ所にして當夜の盛觀南勢の稀有とする所なり

大淀の浦風霞む暁に雲井を雁のねとつれて行く

後鳥羽院

田丸驛 熊野行は此驛より下車するも可なり

瀧原の宮へ九里 車賃八拾參錢 尾鷲へ二十五里 約貳圓五拾錢



瀧の原宮

度會郡瀧原村大字野後にある皇大神宮の別宮なり宮城六町余老樹日光を翳して晴天尙雨雲の來去するありと云ふ此の近傍野後川に落つる瀧四十八箇所あり瀧原の名之に基く阿曾炭酸泉 瀧原村大字阿曾に涌出する炭酸泉にして旅店に於て入浴するを得べく近來三原某なる者屢詰として各地に販賣し需用頗る多し



瀧川宮

●明野原 三重縣勸農場あり場内に農事講習所を置き養蠶法を講習す

●宮川 伊勢第一の長流にして大臺原に發源し宇治山田町の西端を流れ大湊より海

に入る河原禊とて勅使并に祭主宮參向の時は此にて修祓の儀式を行はせらる堤防に櫻樹數萬本ありて花季は爛熳として一望雲の如く東都隅田川の花に過ぐるの好景あり

●宇治山田町 戸數 六、六〇〇 人口 三、四二一 大神宮鎮座ありて皇基を冥守し給ふの靈境にして山美

に至る迄長一里餘處々に大厦高樓ありて坊衢修潔なり

●筋向橋驛 宮川 二十五丁 八錢

●山田驛 外宮四丁 金四錢 河崎町十三丁 五錢 内宮一里十七丁 金拾貳錢 蓮華寺二十三丁 金拾錢

尾上町十九丁 金五錢 二見浦二里六丁 金拾七錢五厘 古市廿五丁 金八錢 兩宮を經て二見 金卅五錢

神社港一里十二丁 金拾貳錢 大湊一里二十四丁 金拾六錢 鳥羽四里十六丁 金參拾陸錢五厘

一日雇切 金九拾錢 半日雇切 金四拾五錢

二見電氣鐵道 本年の開業にして宇治山田町岩淵町に起り二見に達す

●農業館 外宮神社の前、國道の北側にあり神苑會の所屬にして豐受大神宮の神徳に因み明治廿四年之を建設せり館内を農作種樹漁獵牧畜養蠶の五部に區畫し更に廿四類に細別し各種産物製品及器具器械標本摸形圖書統計に至る迄偏く網羅して公衆の觀覽に供す本館は神苑會幹事田中芳男氏が意匠を凝らし蒐集陳列せし所にして出品點數

一萬餘点に上り學理と實際とを參酌して選擇分類し斯業現在の進歩と意匠の程度とを
 一目の下に通曉せしむるの妙あり此種の陳列館は全國他に比類なきのみならず海外に

七六

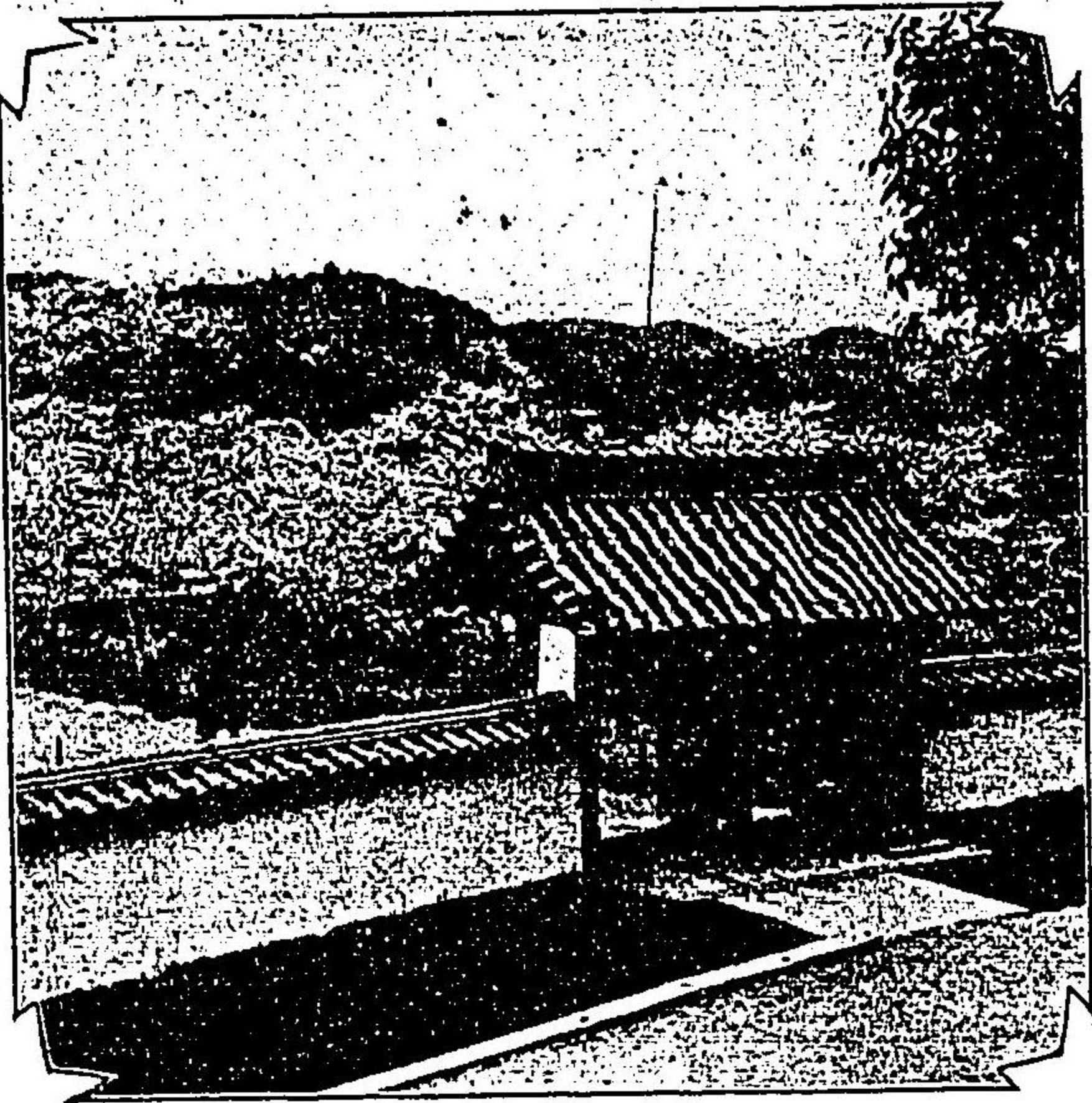


も稀なりと云ふ又此館の西隣に附屬工
 業館あり工藝品十六類千六百餘点を陳
 列す共に斯業に裨益すること甚大なり
 ●宮崎文庫 岡本町の南にあり慶安元
 年の創建にして藏書二萬冊、昔時室鳩
 巢、貝原益軒、伊藤東涯等遠く來りて閱
 業覽講演せし所といふ有名なる御屋根櫻
 は文庫の庭中にあり

●蓮臺寺瀧 岡本町の附近宮本村蓮臺寺なる瀧
 ケ岳の南麓の綠陰に瀑布あり幽邃の地にして納涼
 の勝區なり此村に多く柿を産し蓮臺寺柿をて形大
 に味美なり九月頃より宇治山田の市場に出づ
 ●伊勢音頭 古市固有の舞踏なり數十の舞妓廊
 を繞りて踊る牛車杉本二樓に就て觀るを得へし

●五二會館陳列場

尾上町にあり縣内の物産を集陳し正價を以て販賣す其の上



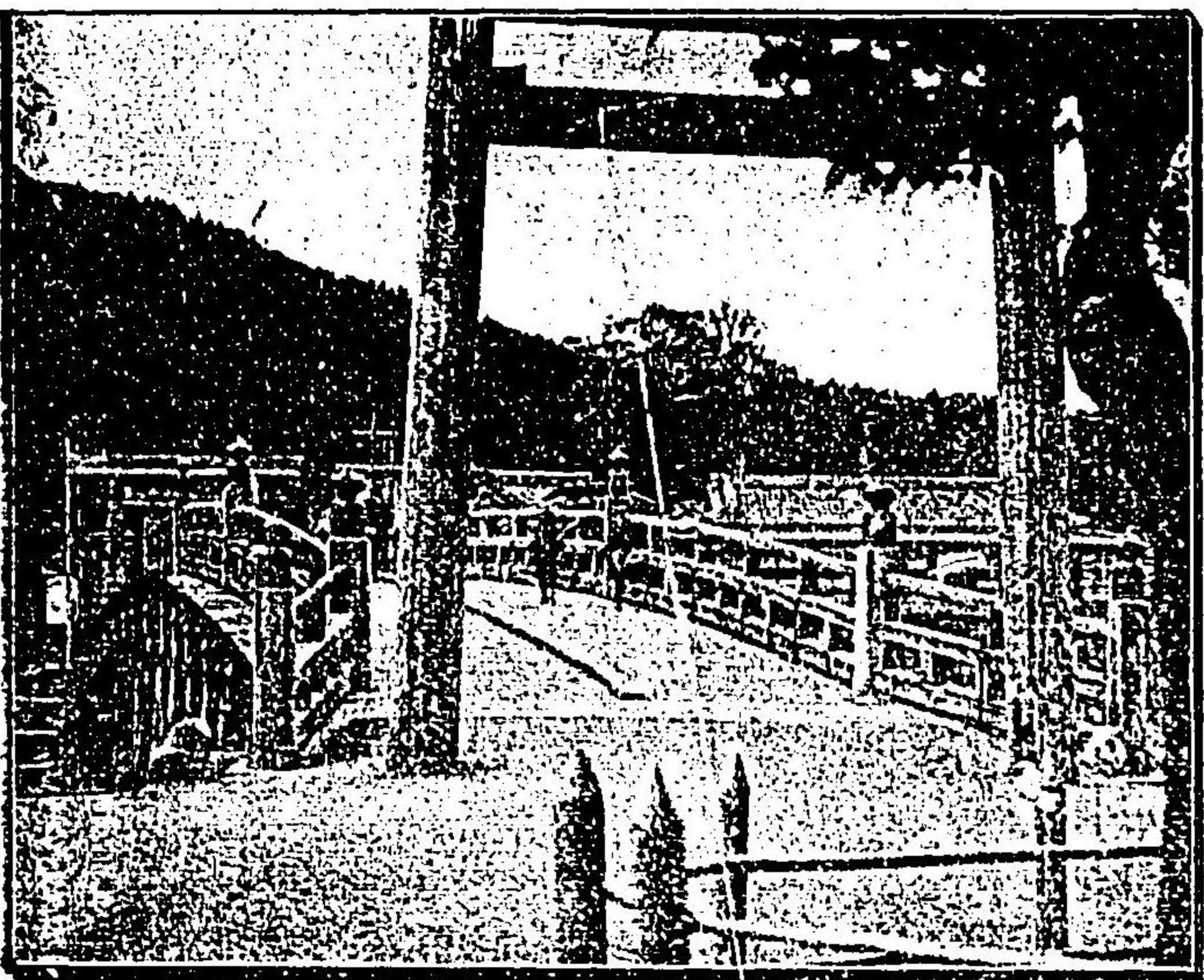
文庫



五二會館陳列場

虎尾山の頂に五二會館あり内外紳士の集齋及び宿泊の便に供す眺望に富める勝地なり

七七



宇治治備

●月隱碑 間山を開修せし有名なる能書僧月仙は中の町寂照寺八代の住職にして同寺に其の碑あり

●猿田彦神社 浦田町二見氏の境内にあり地鎮の神にして家屋を建築する者は此の神に祈禱して祓を受くるを以て参詣者多し

●林崎文庫 今在家の西裏にあり蔵書二万餘冊あり近傍に孝經碑及文庫創立碑二基あり

●五十鈴川 又御裳溜川といふ内宮宮域の前を繞りて流れ二見浦より海に入る宮域の入口に架するは即宇治橋にして長五十間巾四間總て檜作なり之より上流神路山の翠巒を貫きて流るゝ所奇巖磊塊として水崖に臨み牛石鏡石鏡石等の名勝多く尙溯れば大瀧小瀧とて山中幽邃の境飛泉の奇勝あり。

君か代はつさしと一思ハ神風や
みもすろ川のすまむ限うは

匡房

●西行谷 宇治橋より五六丁菩提山の續の麓にあり西行法師遁世の遺跡なり

●古市盂蘭盆 八月十五十六日古市鎮守の祭禮には生人形俄狂言等の屋臺を出し非常の賑を爲す盂蘭盆と稱し著名なり又十月十七日宇治山田各町大祭をなす盛なる祭禮也

●産物及商品

重なる商品は米、酒、魚類、煙草、紙等なり左に製産の二三を掲ぐ

●紙煙草入製造販賣

三忠(堀木忠太郎支店) 古市 壺屋(池部清兵衛) 宇治

●西澤庄作

尾上町 西澤藤兵衛 岡本町

●漆器 春慶塗の堅牢なる食器類(山田膳と稱す)塗箸塗匙等なり

製造販賣 西田周吉 岡本町

橋本佐兵衛 岡本町

片岡善兵衛 岡本町 村田仙右衛門 川崎町

●若井源助

岡本町 岡村長四郎 河崎町

●山田傘

製造販賣 村田新八 下中ノ郷 田邊武次郎 二俣町 田邊猶三 二俣町

●卸問屋 谷 彌助 吹上町

村田仙右衛門 河崎町

●万金丹

本舗 野間圓彦 朝熊 支店 尾上町

●赤福餅 濱田種助 中ノ切町

●旅店

油屋 古市 藤屋 尾上町 十文字屋 尾上町 與可樓(兼料理) 八日市場 神風館 外宮前

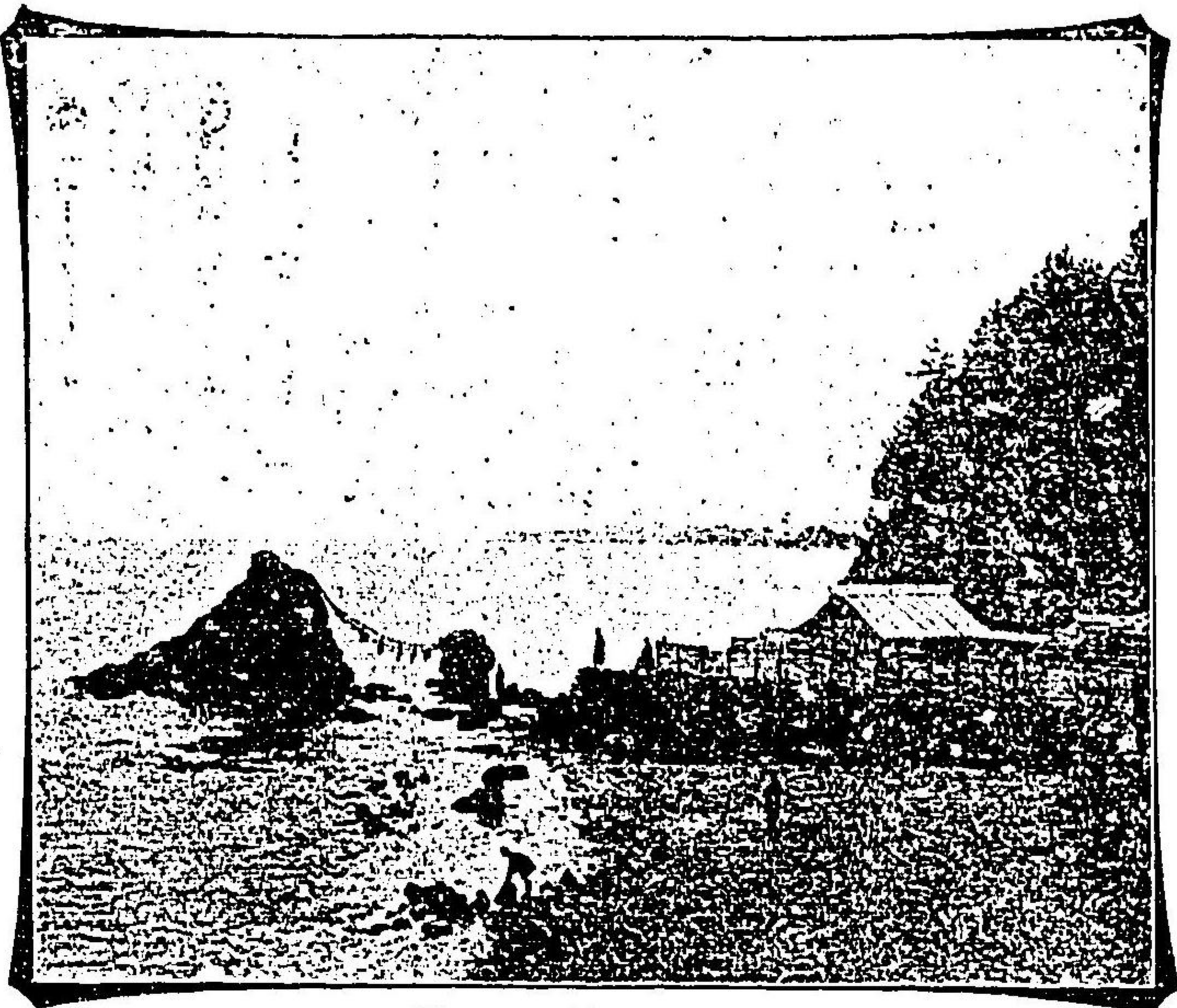
●宇仁館

外宮前 高千穂館 外宮前 吸霞園(兼料理) 一志久保 松島館 尾上町 火安 中ノ町

●麻吉(兼料理) 古市 すし久 中ノ切町

●料理店

戸田屋 新道 與可樓 吸霞園 芳村 古市 麻吉 古市



二見浦



望山館

八〇

●二見浦

東二見村大字江村の海濱を云ふ内宮より至る道と外宮前よりする道とあり二見鐵道に由るを便とす 海氣最も清く遠く駿信の山岳を望み近く尾參の對岸を眺め殊に世に聞ゆるは此の浦の立石にして初夏の候紅岩間より昇るの風景は尤偉觀なりとす濱上旅亭

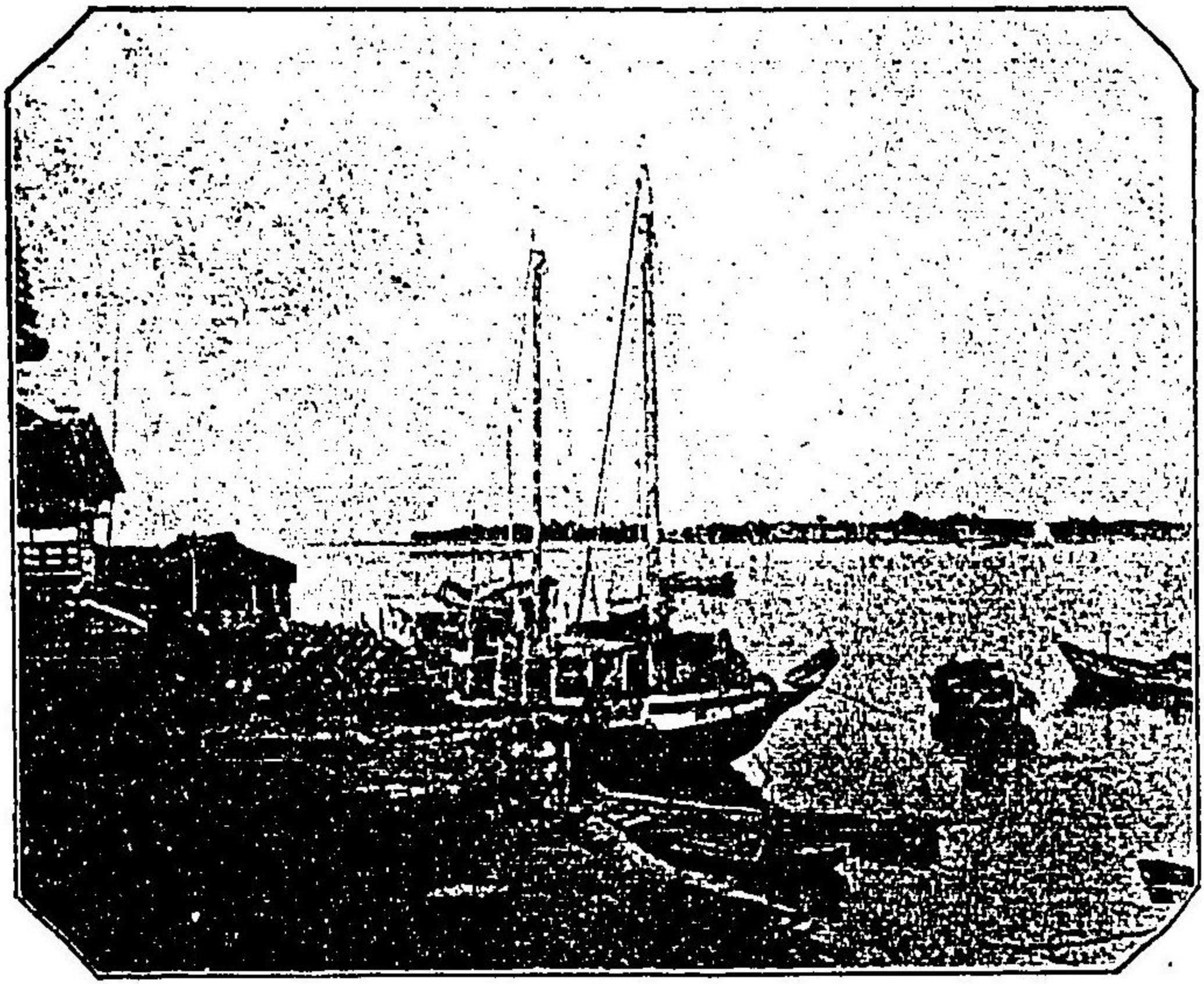
茶店貝細工店等の軒を並ぶる處を茶屋町といひ東端に清渚亭あり神苑會別區望山館は又其の東にあり徵古館の假陳列所として古器物を陳列して公衆の觀覽に供す曾て 英照皇太后泊御あり又 皇太子殿下の數句休泊せられたる所にして避暑閑遊の適地なり

●望山館

清渚亭(海水浴を設備す) 大陽館(同前) 望山館(神苑會員の休泊所に充つ)

●朝熊山

伊勢志摩の境に跨る山にして登山の道四條あるも内宮神苑地よりするものは行程七十里と雖も登り易きを以て多くは此に山りて登り四郷村朝熊に降りて四十二里に赴くなり山道處々に歇亭あり山は海拔一千五百尺頂上に古刹金剛證寺あり本尊虚空藏菩薩空海の作と云ふ屢回祿に罹りたるも本堂は尙存し結構輪奐として金朱燦然たり是を距る三丁曇見峯の東麓深邃の境に吞海庵(奥の院)あり庵前の望岳臺は伊勢海を盆地とし富士山を假山となすの好景致あるは人の知る處なり有名なる萬金丹本舖は寺門の前にあり又絶頂より降る七町朝熊峠と稱する岐路に當り旅店(とうふや)あり此の處は所謂十八ヶ國一望の勝地にして極暑尙六十度を上らず避暑に適する勝地たり



神 社 港

●神社港 宇治山田町を距る一里二丁灣
内水浅けれども神都に近き要港なれば大阪
商船會社の汽船寄港し内海及紀州大阪に交
通の便あり又三河豊橋港との直航をなす

汽船便 内海岸北行津へ 前 八時發 中等 貳拾錢
鳥羽へ 後 五時發 中等 拾八錢

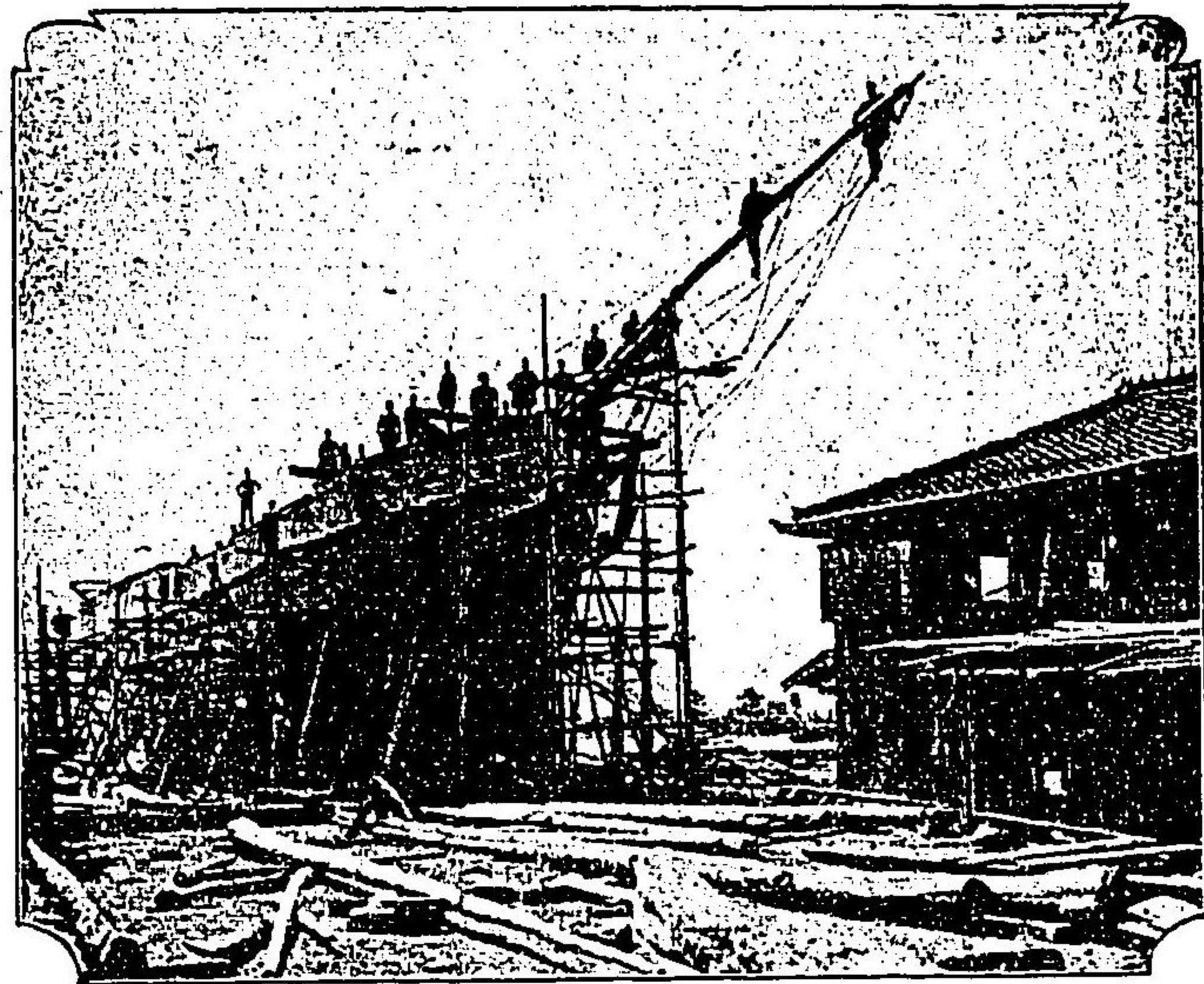
●大湊 宮川の注口にあり 宇治山田より航海
と造船業とに歴史を有する都邑にして現時

にありても尙縣内重要な工業地として造船
及船用鐵器の製造地たり祖先の遺業を繼承
せる造船所數ヶ所ありて技巧世と與に進歩

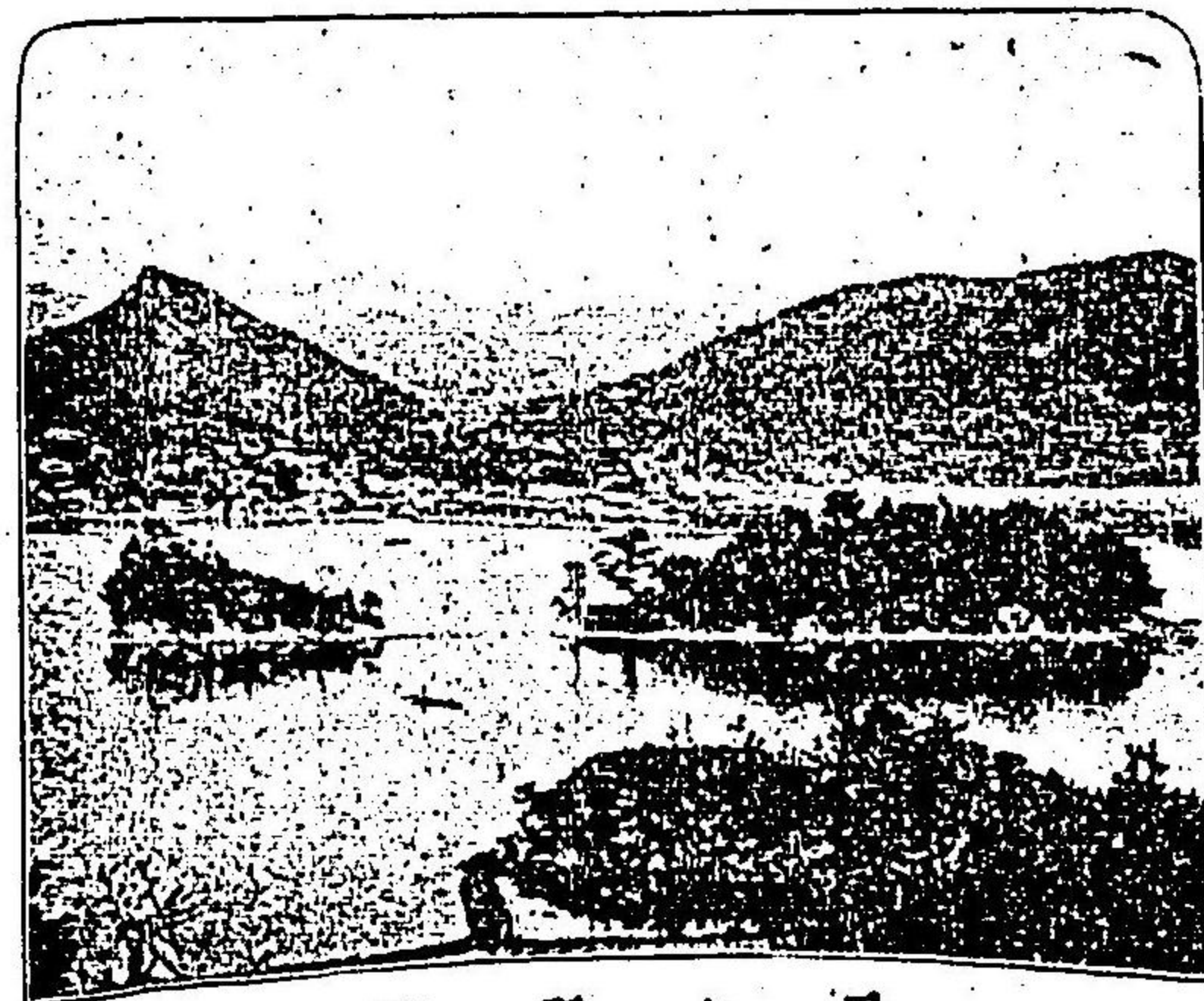
し汽船帆船を製造し近國の需用に應ず

●造船工場

- 大湊造船所 市川造船所 松崎造船所
- 吉川造船所 内田造船所 菊川鐵工所

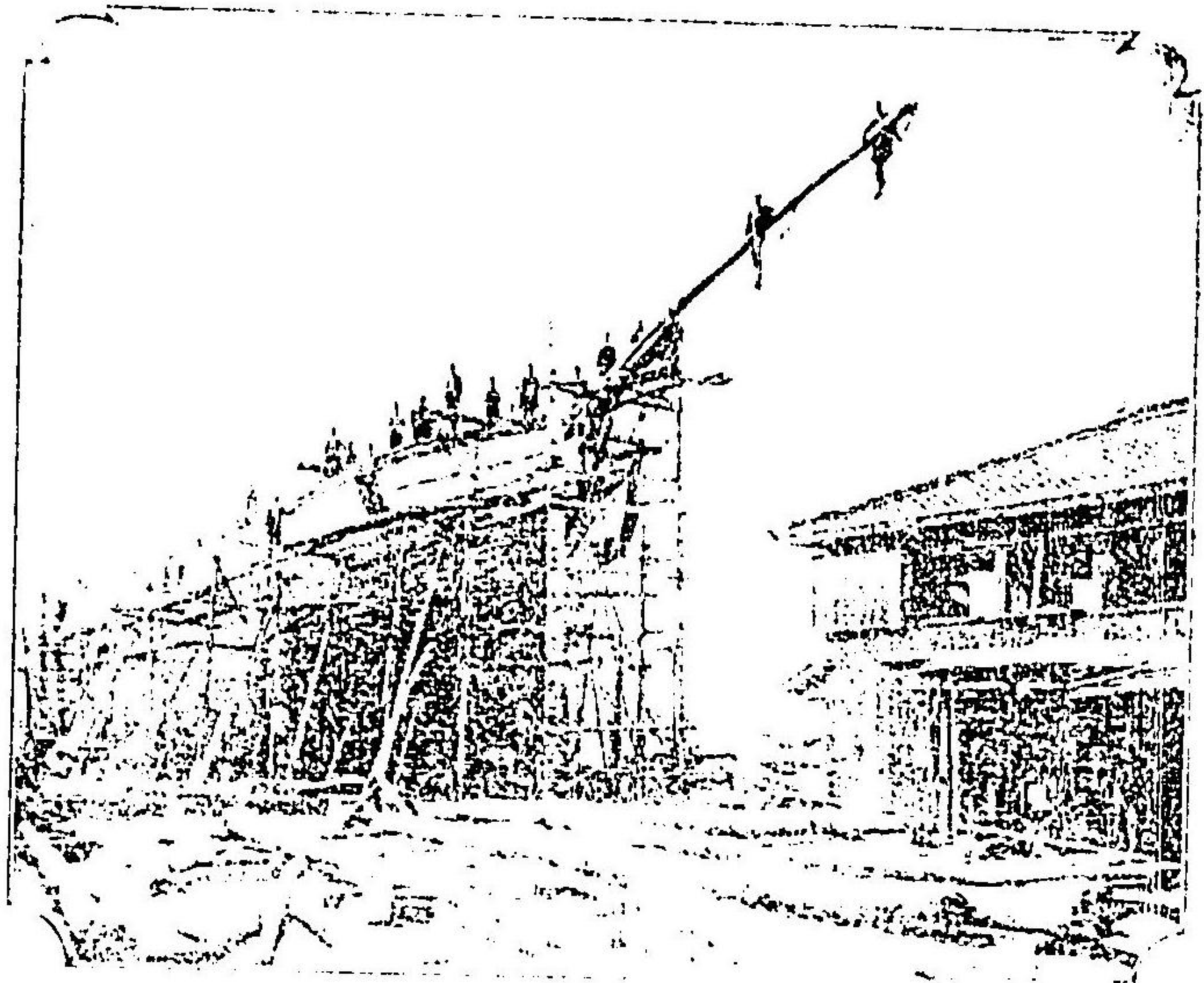


大湊港造船場
 此他槓柄
 古和方座
 等皆好風
 景の港灣
 なり
 宇治山田町
 より南島道
 とて陸道開
 通し車行自
 在なり



五ヶ所港

●五ヶ所港 度會郡の南部外洋に面せ
 る一帯の地方を南島と稱し鯉鱒其他水産物
 に富み港灣多く風景瀟灑氣候温暖尤も避寒
 に適す五



大ヶ所港は
景勝地の
一にして
此他艦柄
古和方座
等皆好風
景の港灣
なり
宇治山田町
より南島道
とて陸道開
通し車行自
在なり



五ヶ所港

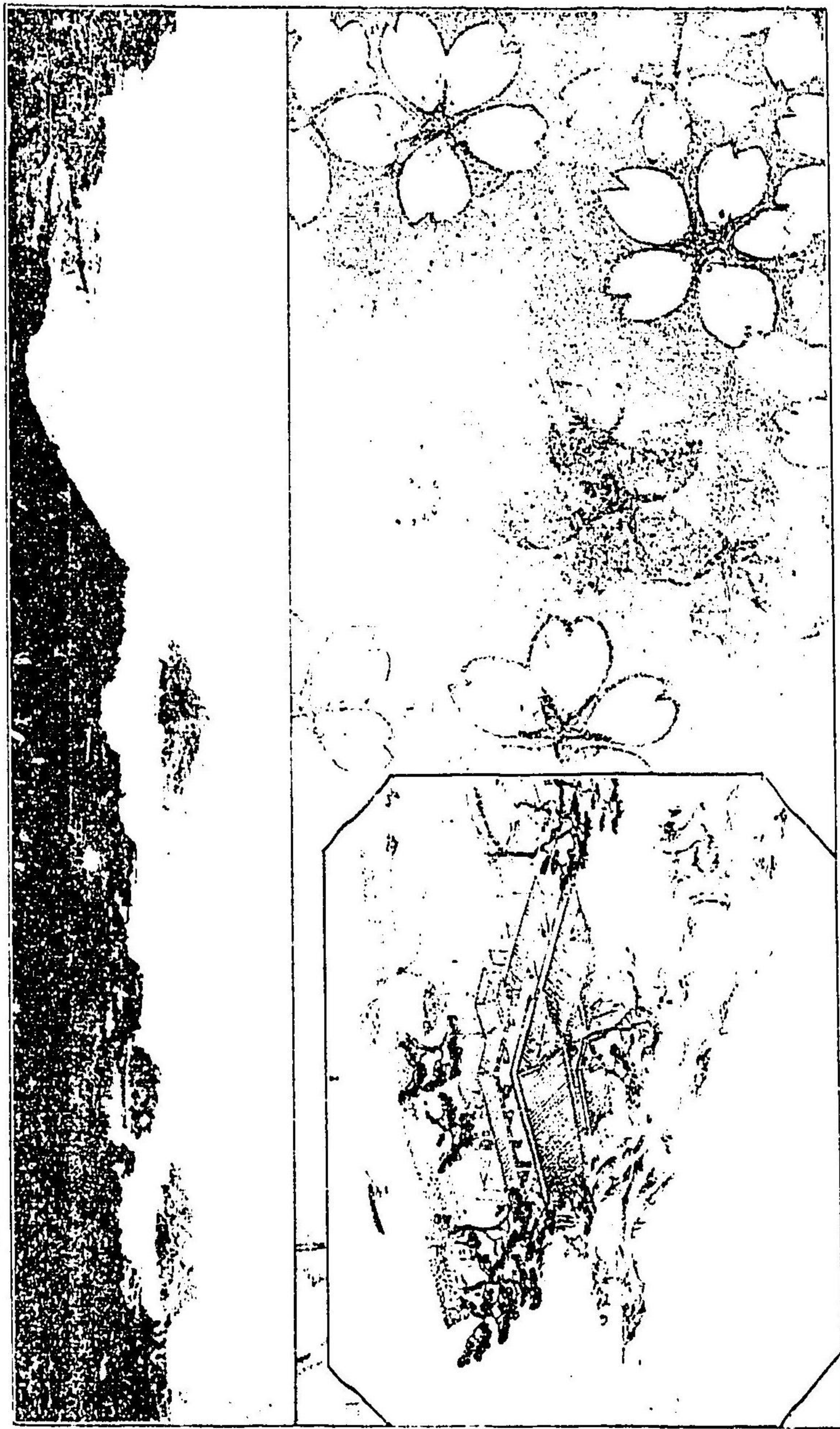
八四

●五ヶ所港

度會郡の南部外洋に面せ
る一帯の地方を南島と稱し鯉鱒其他水産物
に富み港灣多く風景清酒氣候温暖尤も遊寒
に適す

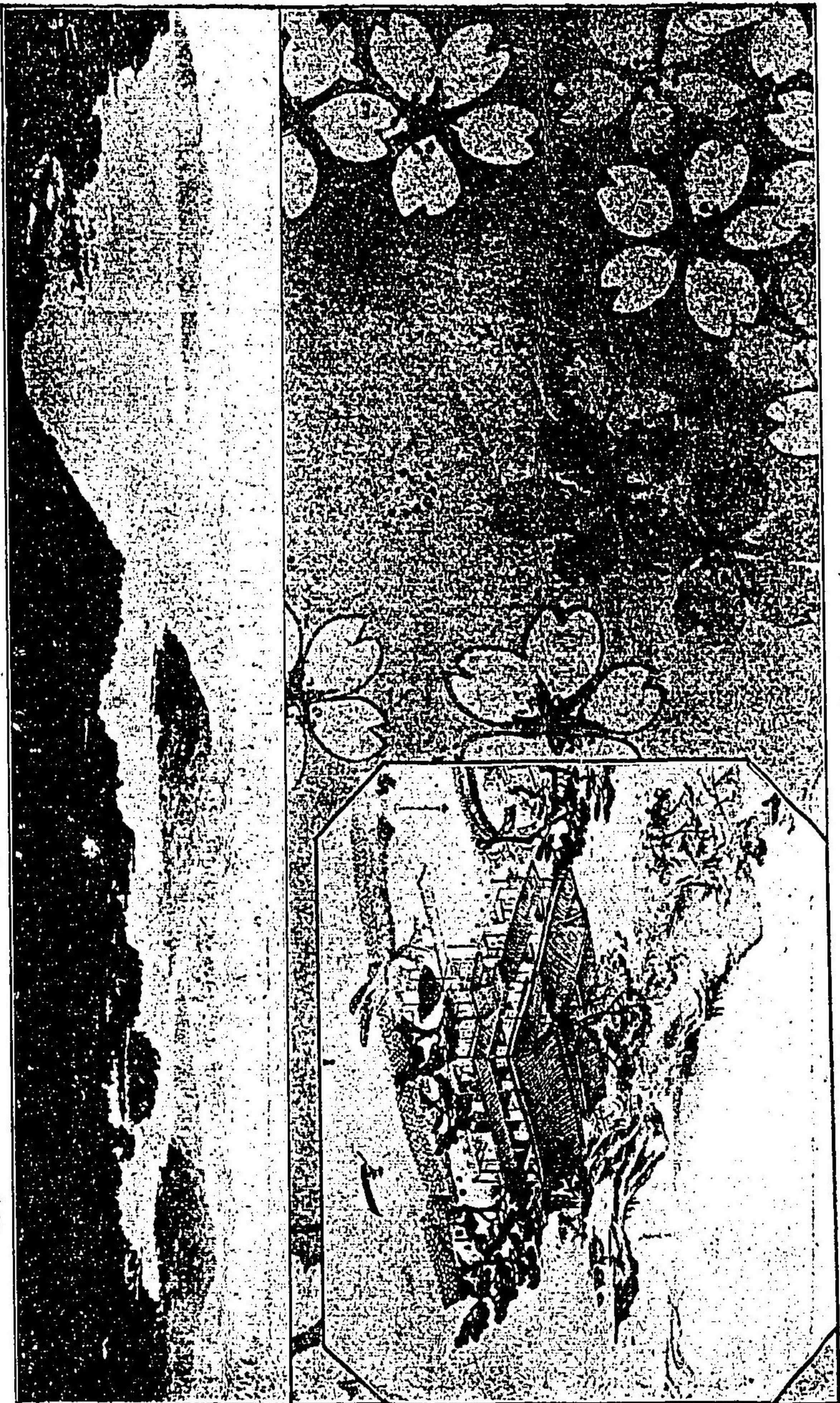
志摩國

志摩は伊勢の東南隅に斗出し三河の伊良胡と相對して伊勢海門の口
を爲せる半島國なり面積拾三方里人口六万二千を有するに過ぎざる
も岬灣の多き水陸交錯して海岸線は甚長く外洋を控へて水産富饒無
盡藏の天恵を享け到處の海灣一として風光明媚の勝景を有せざるは
無く加ふるに氣候燠燠、大氣清鮮なるを以てし避寒遊樂の地としては
優に鎌倉大磯の上に出つ其の人心は溫柔樸茂、毫も詭譎の滲俗なく喜
んで外來の人を好遇して懇款を悉くすの風あり、郷土海陬に属すと雖
神都より車を驅れば僅に二時間にして鳥羽町に達すべく更に進んで
名勝を探ぐるは海陸共に敢て難險と稱すべきなしいで左に志摩風景
の一斑を掲げて久しく幽闇に隠れたる美人の半面を描かん



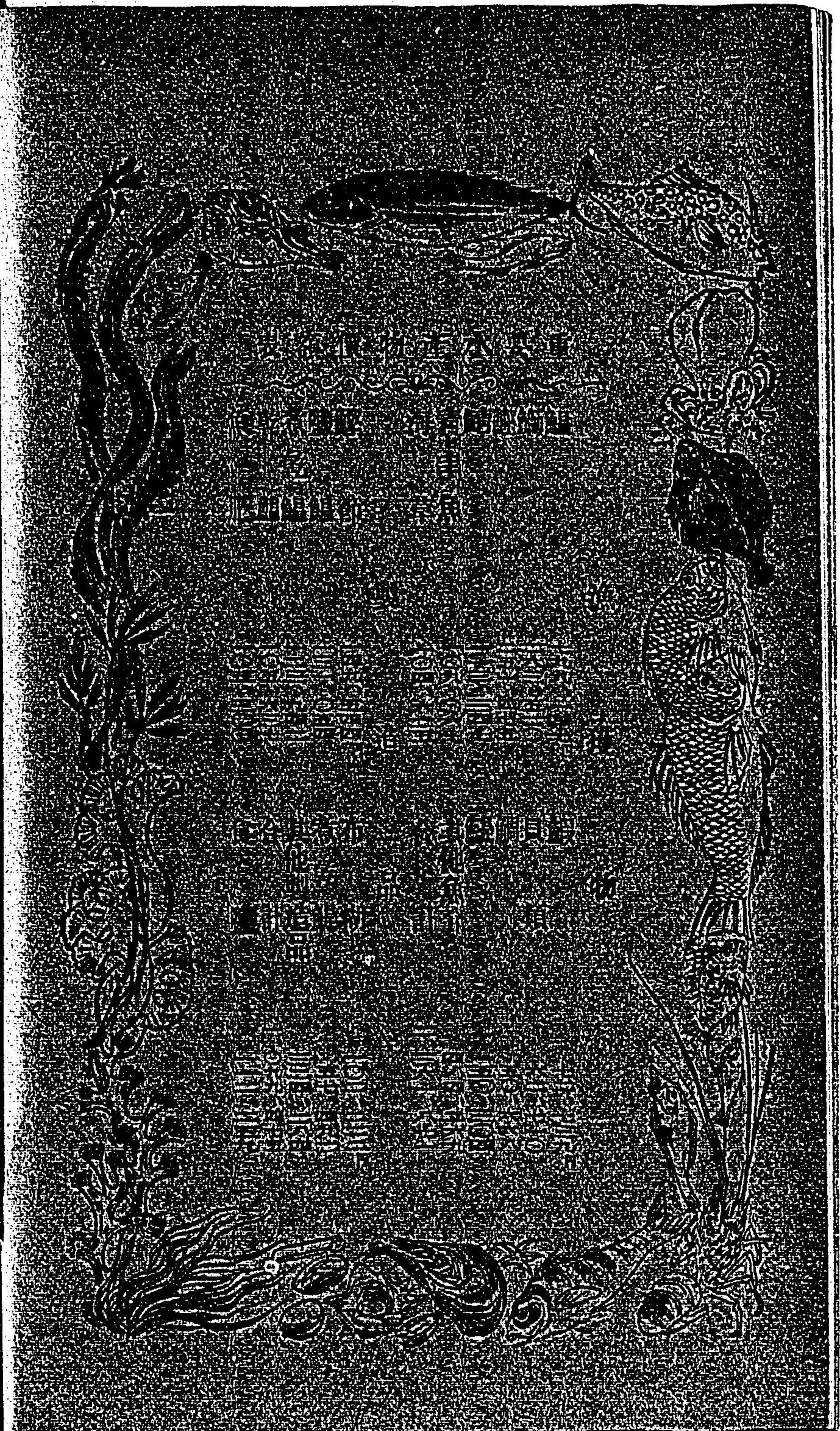
重 要 水 產 物 價 額 表

魚乾	煮鹽鯉	海青	鯖	鯉	鱒	鮭
乾		串				
肥鯉	鯉節	草魚				
			製			漁
一四九、五四四	一三三、〇五四	一三三、九四二	一〇五、六三七	一〇五、三〇〇	一〇四、六三五	七九九、一四七
			造			獲
食合	其他	煮乾	布	合	其他	鰓
鹽計	他製	製	品	他魚	介	貝
	計	品		計	類	類
一〇九、四七五	三三四、二八四	一〇三、三三		二、三六一、八七一	四八四、二六九	五〇、三〇四
一二三、二五九		五七、四九二			五〇、六六八	六二、七二〇
					七二、七三九	七三、七三九



鳥羽之景

德水浴場



鳥羽港 戸数一、一六六 宇治山田町より四里五丁車行二時半
 人口五、七〇五 二見浦より一里三十八丁同一時間程 西北に山を負ひて東南に暖潮を受
 け冬候に冷風を屏障し夏時に涼風吹き來り避寒避暑共に宜しく大小島嶼港頭に羅列し
 灣内水深く浪靜に遠州洋と能野灘との中間に於ける避難所として世に知らるゝのみな
 らず山峙ち海清く風景に富める良港たりされば明治十年御乘艦碇泊中一月二十六日天
 氣晴朗晨景尤も清かりければ

浦風も荒磯浦もけきたまてかめたりたつ鳥羽の海面
 と御詠あらせられき

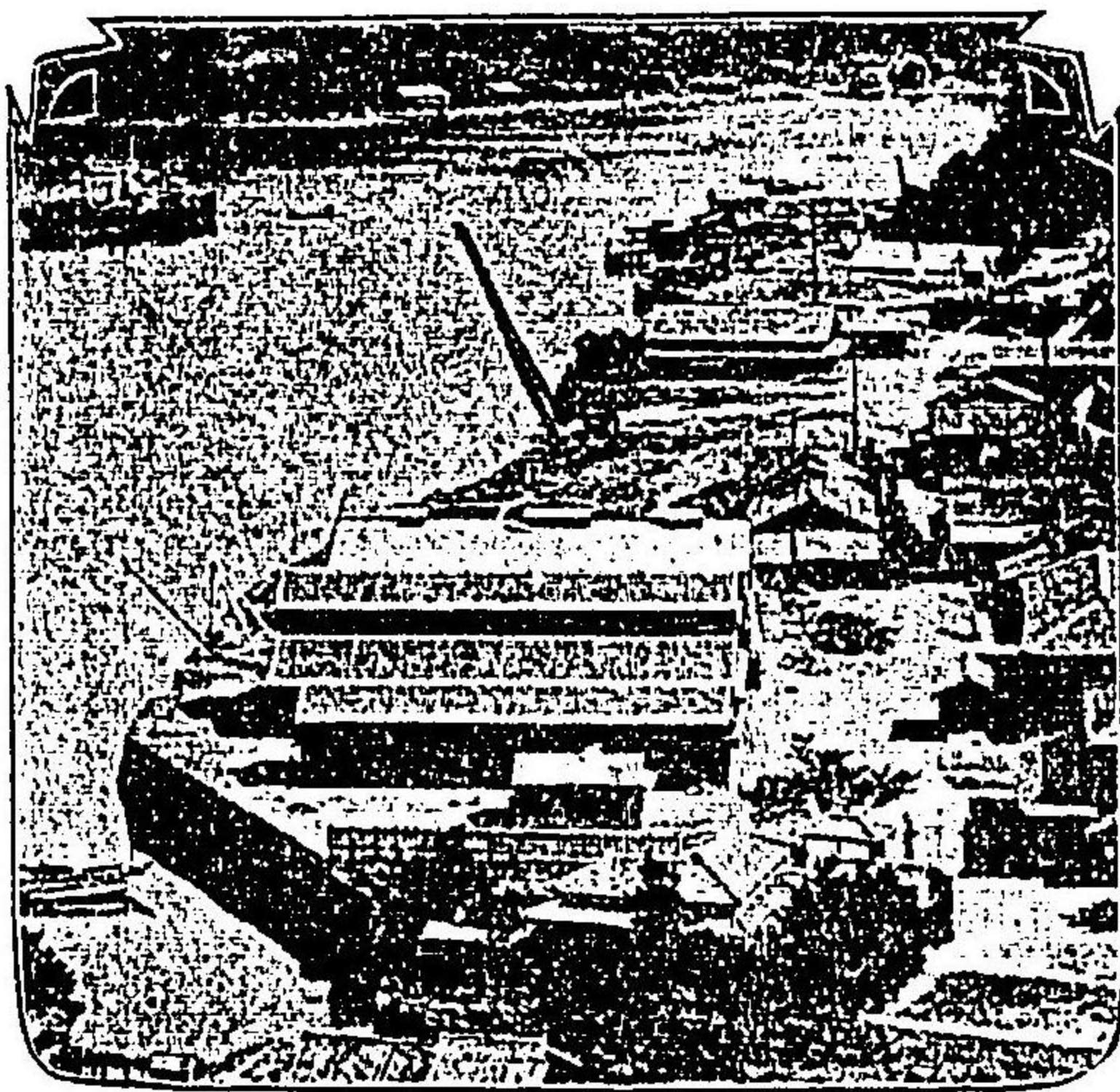
漁船便 紀州を経て大阪行 貳圓拾錢 毎日一回
 熱田行 五拾貳錢 毎日一回
 東京行一ヶ月五回 中等 壹圓五拾錢 毎日一回
 伊勢灣各港へ

旅店 大阪屋 谷岡屋

海水浴場 鳥羽町岩崎の海岸は港内尤も好風景
 の勝地にして近來一亭を新設し冷浴温浴の設備を
 完全にし内外人を款待す好箇の休養所なり

浴場 錦浦館 宿料上等壹圓五拾錢 中等壹圓 下等七拾錢
 四時の行樂 春 沙千狩 夏 水泳及釣魚 秋 黒鯛小鯛
 沙魚等錦浦館庭前に輪を垂るゝも之を獲ること容易なり

鳥羽鐵工會社 鳥羽大字 鳥羽町 營業狀況左の如し



鳥羽鐵工會社

營業 船舶の新造修繕諸器械製造船渠貸與航運業 資本金 參拾萬圓

職工勞役者 三百四十六名 開業年月 明治三十年三月 漁船製造 七艘
 入渠船數 百七十四艘總噸數十一萬五千六百五十八 工場數 七

日和山 鳥羽港の西北隅なる丘陵にして三河の伊良子
 と相對し伊勢灣口に羅布せる大小の島嶼を俯瞰し晴天には
 富士山を望む舟子此山に上り天候を相するを以て此名あり

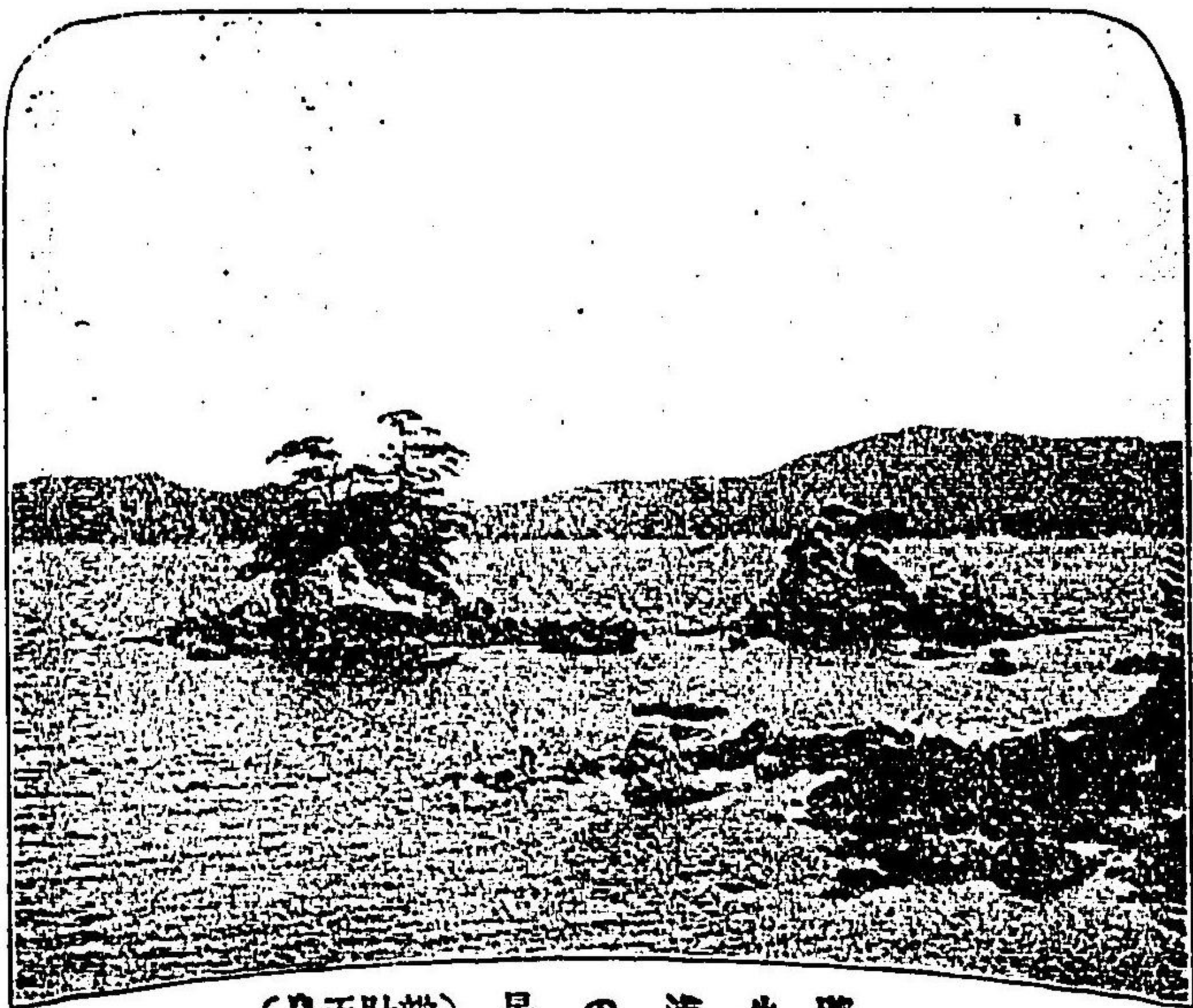


曾て 皇太子殿
 下御登臨の榮を
 辱おせる勝地に
 して**横山博士**は
 評して松島に過
 ぐる景致となす風光の明媚以て想像すべし

菅島燈臺 鳥羽港より海上凡三里菅島の東北端な
 る岬角に在りて燈光は四等不動白色なり遠く尾參の二州
 を望み無數の島嶼碧海に碁布し漁舟点を款乃相應して捕
 魚を爲すを眼前に看るの風景地なり



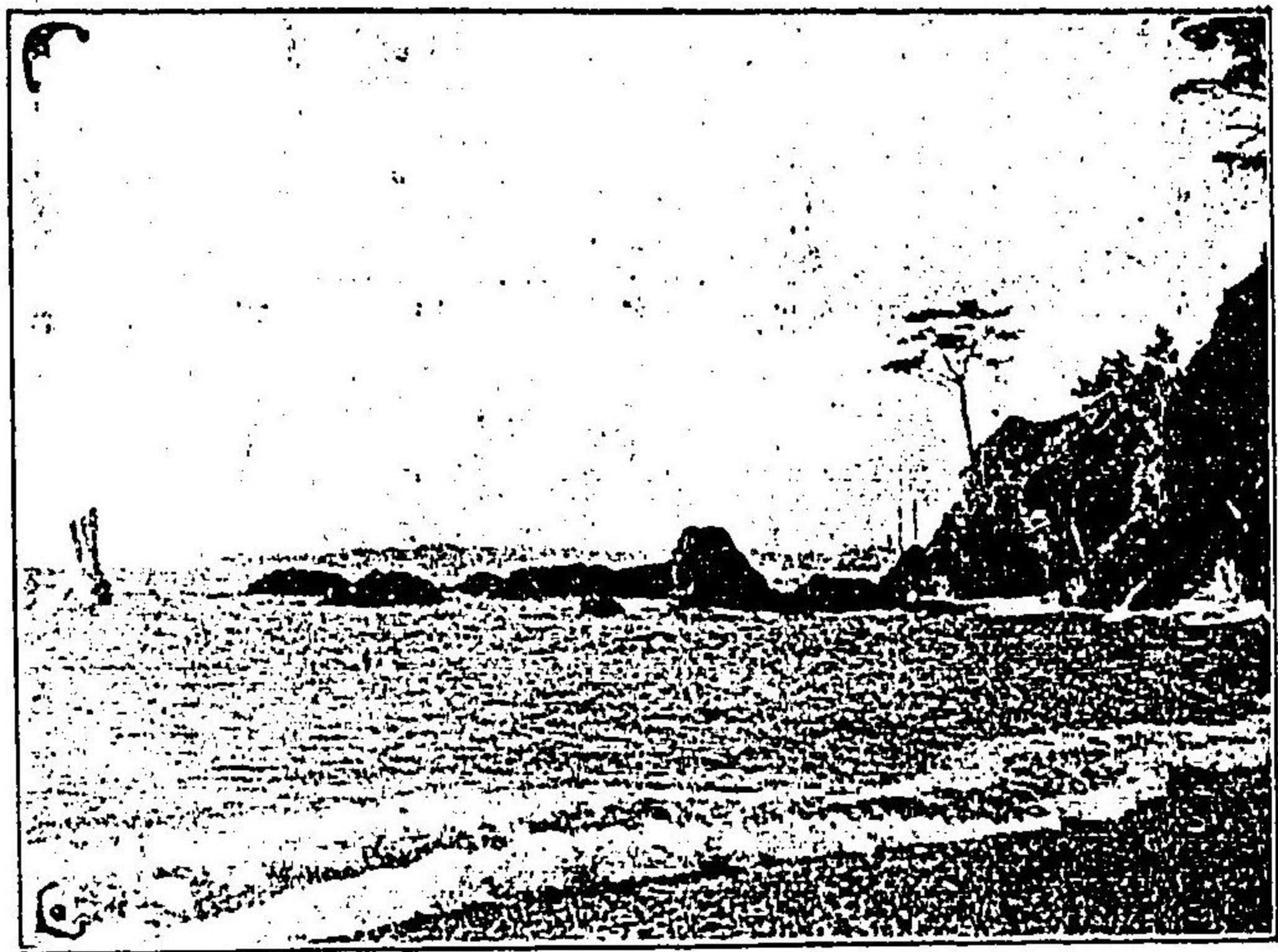
菅島燈臺



●**苧生浦** 鏡浦村の海岸を云ふ（鳥羽より海上三里舟賃四拾錢）水濱に沿ふて部落を爲し處々絶景天然の妙畫と稱すべきありて避寒避暑共に適當の地なり此のあたり古來著名の勝地にして苧生浦七不思議（石鏡、片枝梨生、不鳴蛙、玉藻、不荊菰、不蒔麻、女漕船）な浦と古書にも見へたり又た此の浦につゝき大の瀉浦とて海水深く灣入せるありて有名の鰯楯漁場たり楯鰯とは冬期に鰯の海岸に沿ふて群れ來り灣内に入るを窺ひ灣口に網を鎖さし一舉數萬尾を捕ふる漁法にして志摩及南島の海岸に於て之を行ひ時々鉅利を博することありて一種の壯觀なり

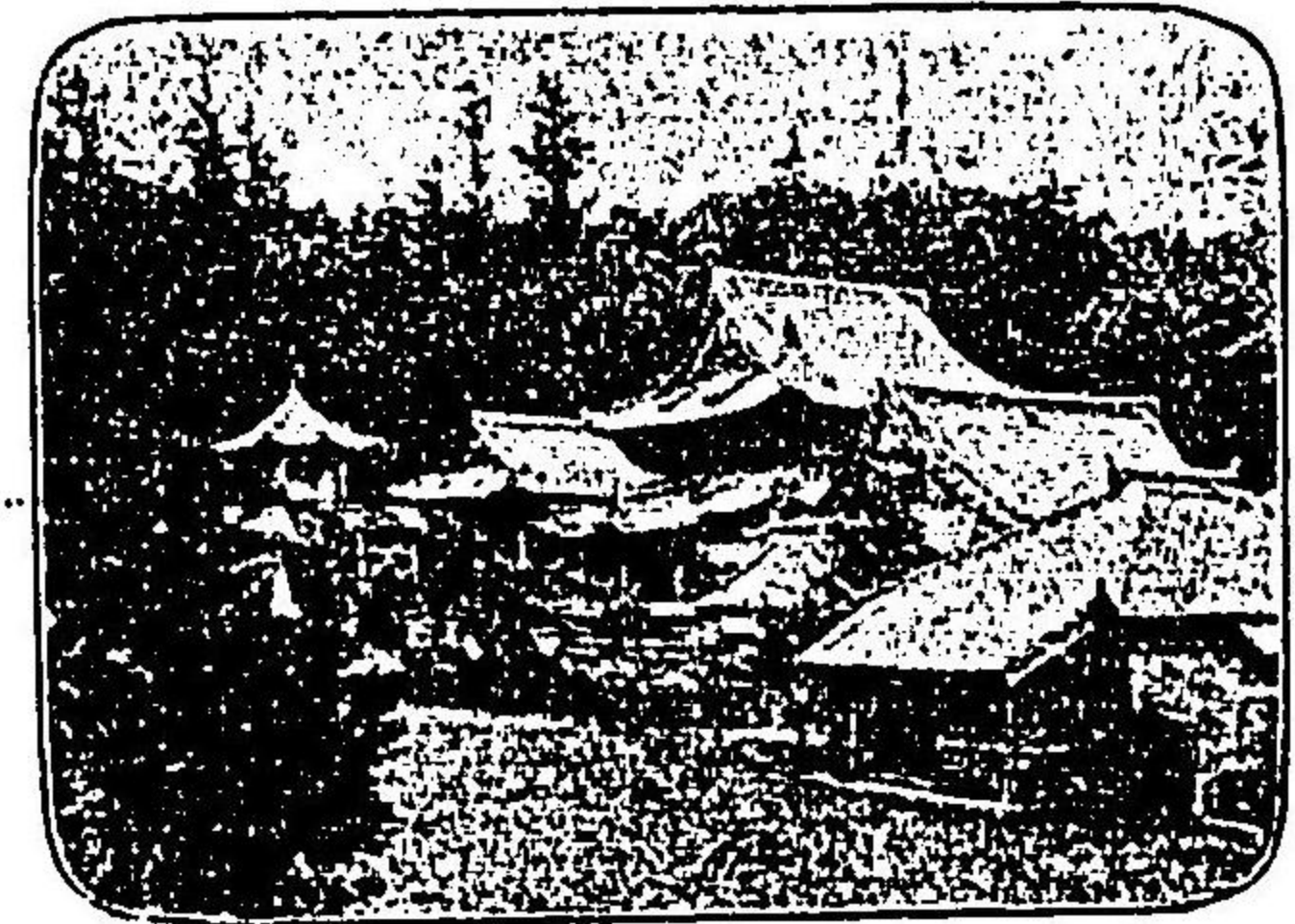
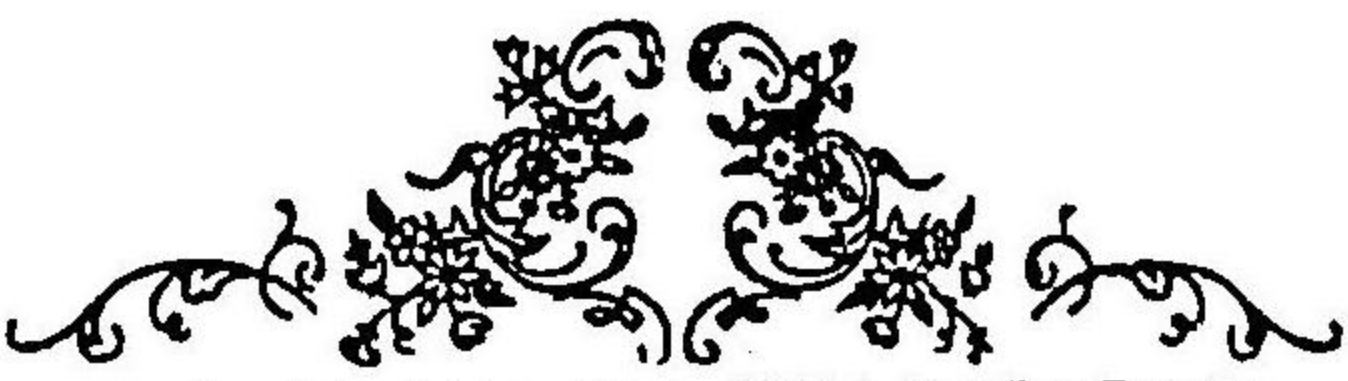
●**加毛の燐礦** 加毛村大字河内鳥羽より二里を中心とし燐脈の中十米突以上長さ二キロ米突

以上に亘り脈中滿侖礦を包む明治三十四年の發見に係り現に採掘をなせり其の成分は全國に於て産出する燐礦中第一の良質にして他に比類なしと云ふ且幸にも近傍に硫酸の原料たる硫化鐵の産出ありて硫酸を製造して過燐酸石灰を分解するの用に供する便宜あり將來重要な國産たるの見込十分なりと云ふ



國崎の景

●**國崎**鳥羽より海上三里舟賃七拾錢長岡村にあり志摩國の最東端なる岬角を鐘崎と稱し渺漫たる大洋の激浪崖角を嚼み南は安乘大王の崎端畫の如く東は三州の岬巒雲烟の間に浮ぶ國崎村は小灣を隔て、其對岸にあり内宮御鎮座の時より神部の地と定められ鮑を取りてさしけし古例今尙存し毎年鮑熨斗を調進す往昔の蜃婦の後裔連綿今に存せりと云ふ



●青峯山正福寺 志摩國の中央青ヶ峯の中腹に在り 鳥羽より一里二十四丁車賃貳拾四錢二見よ何れも山下迄車を通ず 天平年中行基菩薩勅命に頂上へ登り二十五丁より開基す本尊は十一面觀世音にして堂宇の結構莊麗なり山上眺望に富み東に富士山西に紀州四國の山を望む志摩國伽藍の隨一なり

●的矢港 鳥羽より五里三丁 志摩國三大灣の一にして海水深く灣入し安乘崎明神崎灣口を扼し渡鹿野島は港の前面に當り灣内風浪穏靜なり

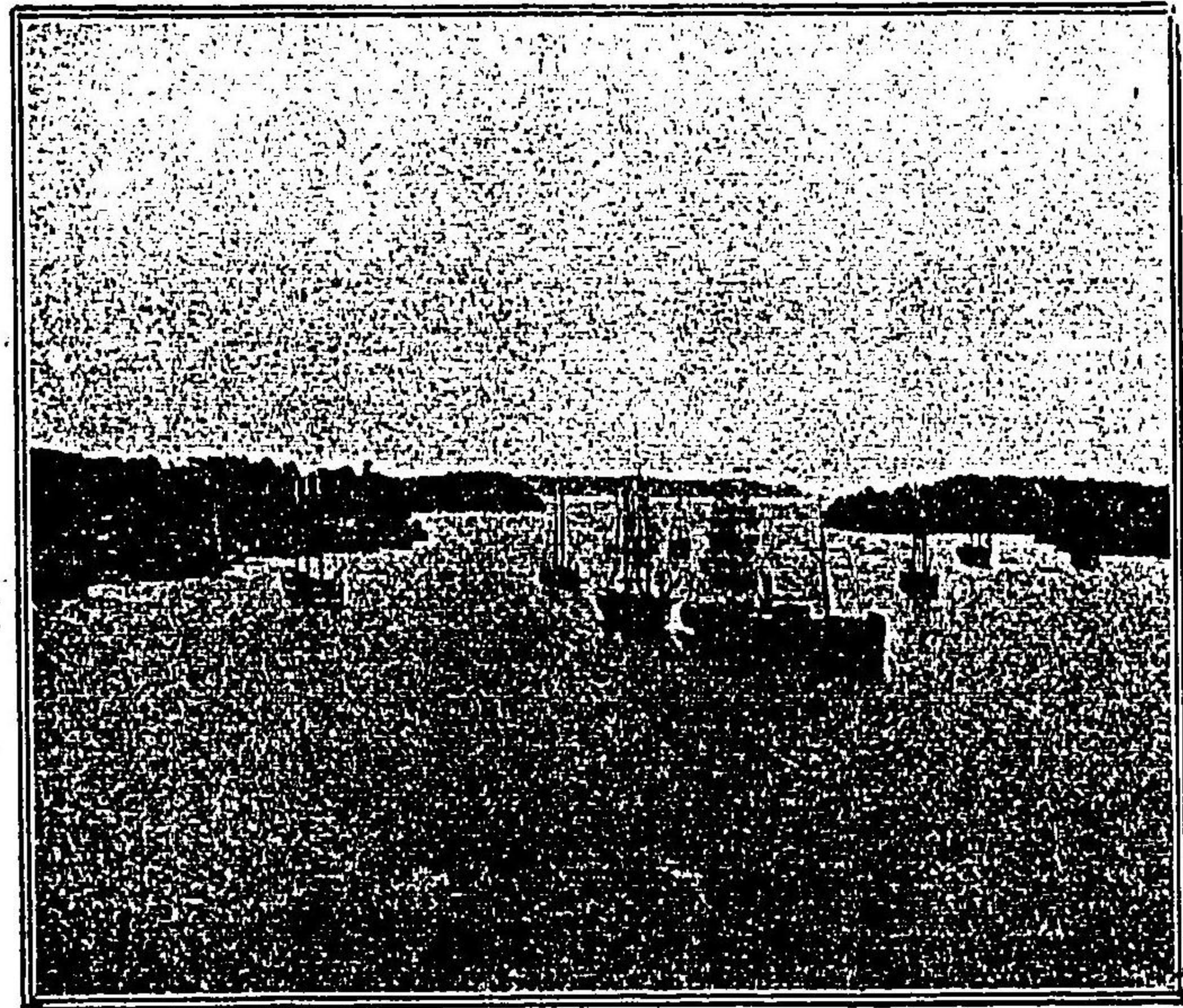
れば外洋航行の船舶風波に遭ふや必ず難を此に避くるのみならず時々來泊するものありて港頭帆檣林立す造船所の設けあり戸口繁庶の良港にして風景に富めり

●的矢旅店 藤志加村田實吉

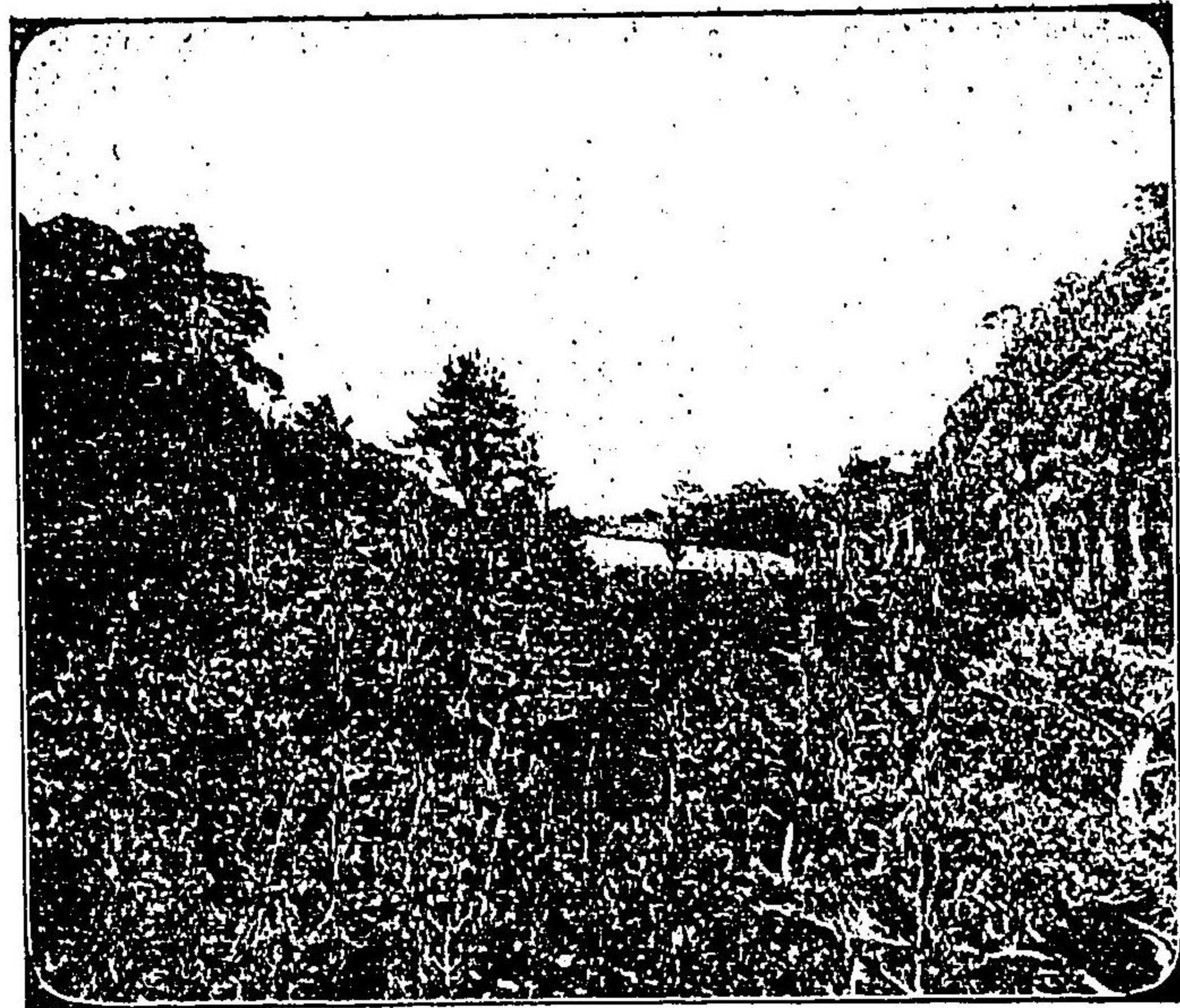
●安乘崎 的矢港より一里五丁 的矢港口の山嘴にして近くの矢灣内を脚下に瞰み志摩三河の光景亦視界内に屬し岸頭危巖並立して波濤を激せしむるの壯觀あり(燈臺は白色回旋燈なり)



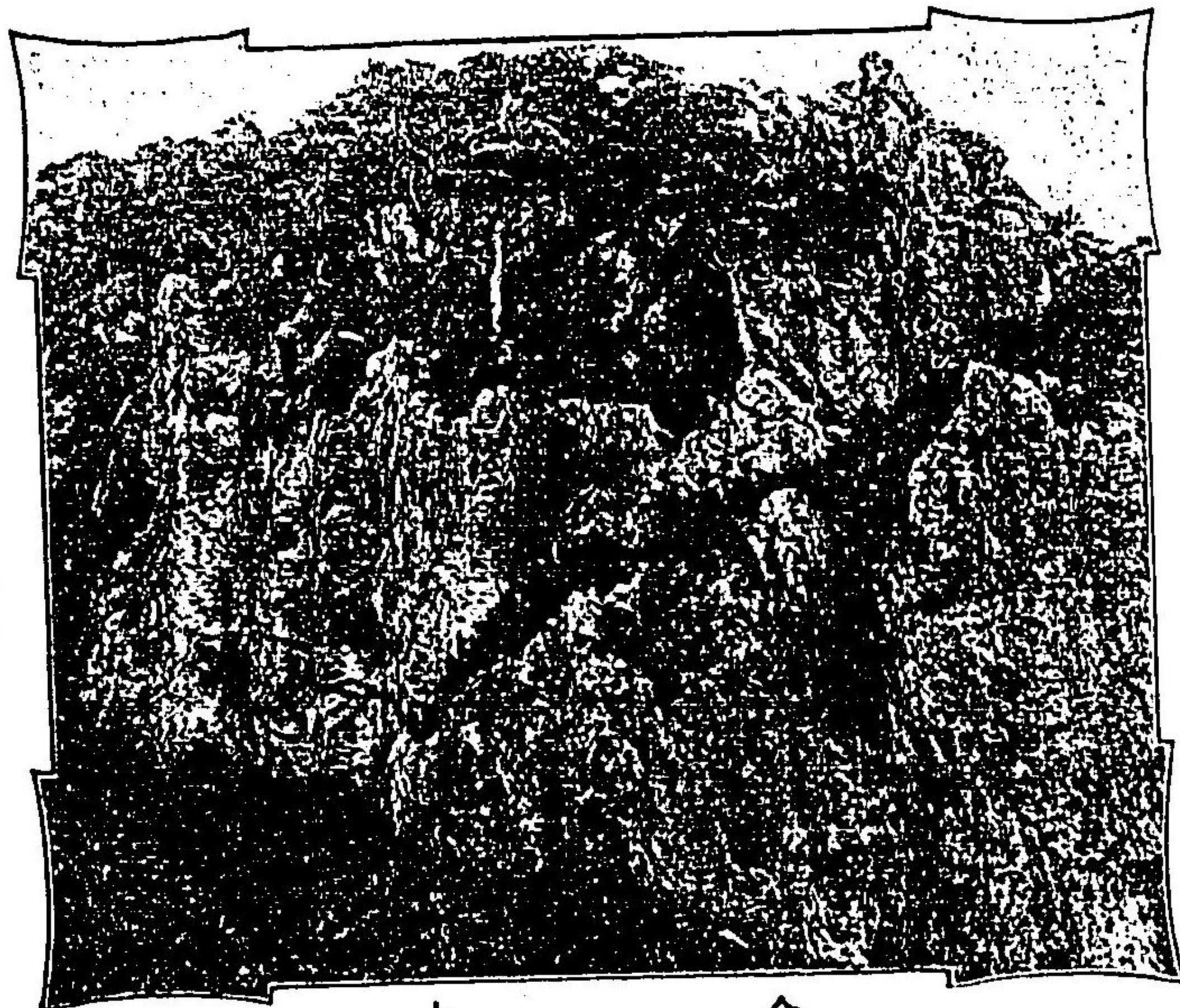
安乘崎燈臺



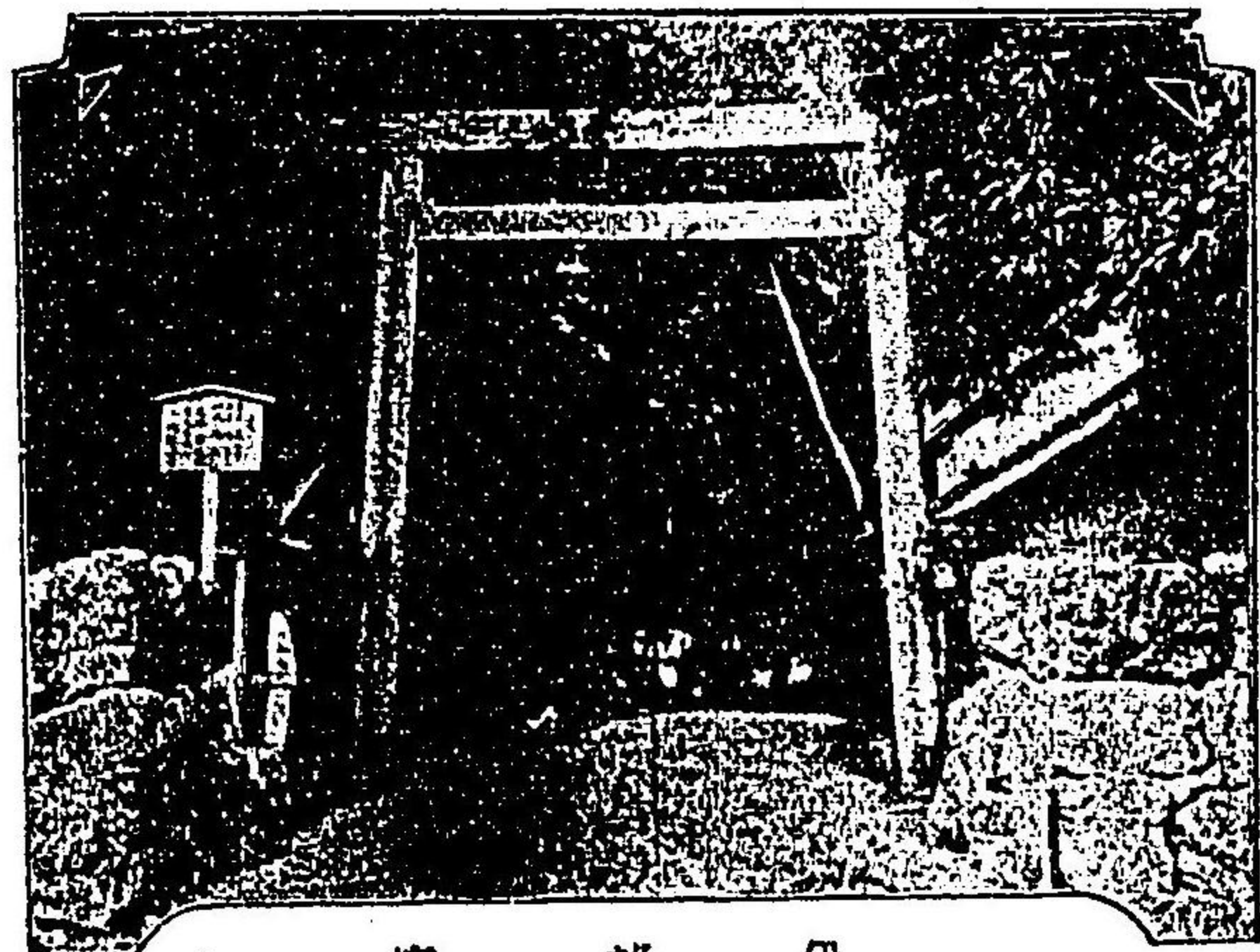
的矢港(西より市街の一部及海を望む)



石 劫 廻

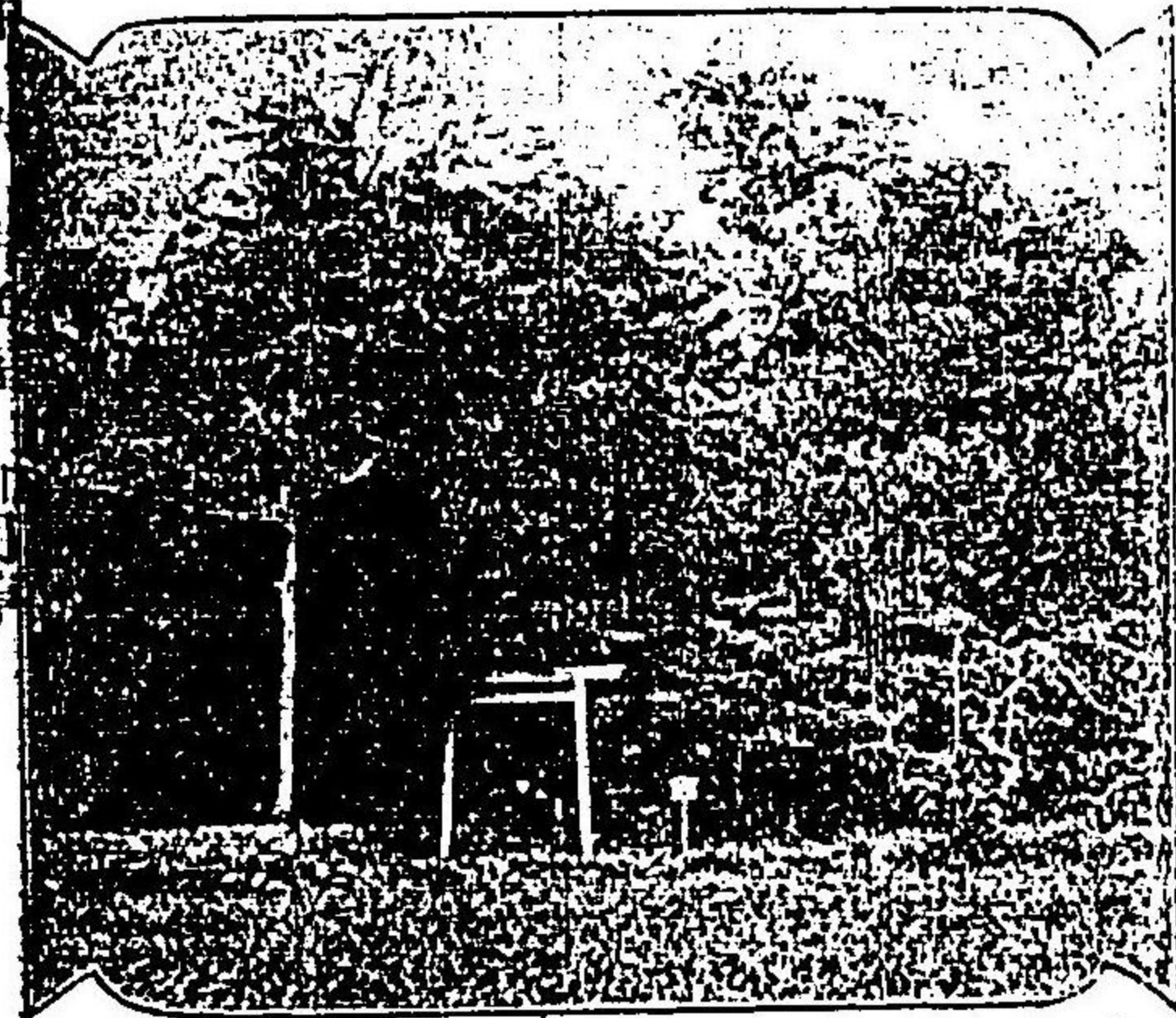


上 全



宮 雜 伊

●伊雜宮 鳥羽より四里 車賃四拾八錢 磯部村大字上之郷に鎮座せる皇大神宮の別宮なり倭姫命志摩國に行啓の時伊佐波登美命に命じて神宮を此に經營せしめて離宮となし給ひしに起因し後玉柱屋姫命を配祀す別宮にして式社を兼ね宮域一町九反歩附屬神苑あり樹木鬱蒼たる千古の舊地なり 磯部村旅店 中 六 吉角屋 如月亭



社 神 長 美 佐

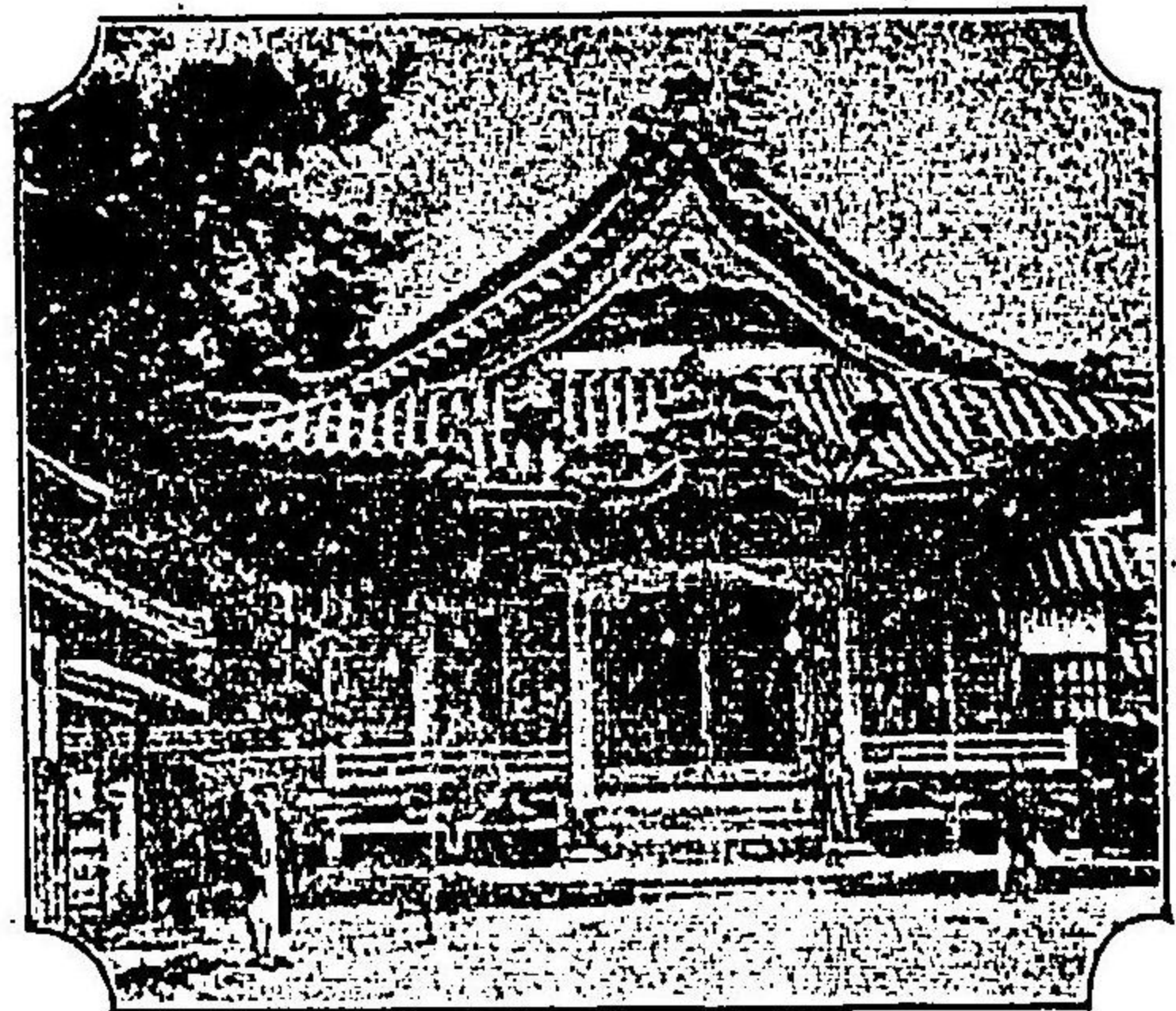
● 鷗嶋石

磯部村惠利原にあり高二十餘間横七十餘間の鉦岩にして傍近に大小數千の奇石突兀として峙ち松樹之に生ずること恰も松島を海中より掬ひ上げたるが如く東面して岩に向ひ語れば直に反響して之に應ず岩の頂上は平にして廣袤五畝餘登覽すれば志摩南岸の奇勝盡く視界に入り眺望絶佳にして明治三十三年小松大將宮さへ登臨せられたる勝地なり

● 國分寺(國府村にあり鳥羽より六里廿四丁) 聖武、孝謙兩帝の勅願により天平勝寶元年草創一國一寺の靈場たる古刹にして本尊は行基の作藥師如來丈ヶ六尺の坐像今に存せり

● 大王崎、老崎 波切村鳥羽より八里十二丁車賃壹圓參錢にあり兩岬突出して波切灣を抱けり大王崎に海軍望樓あり兩岬共に山角にして岩嶼前面に碁布して大濤に激し遠く熊野那智の峯巒を水天一髮の間に望む就中大王崎の前面二大岩嶼の間より旭光浮動するの光景は大平洋の偉大なる二見浦とも稱すべき勝地なり

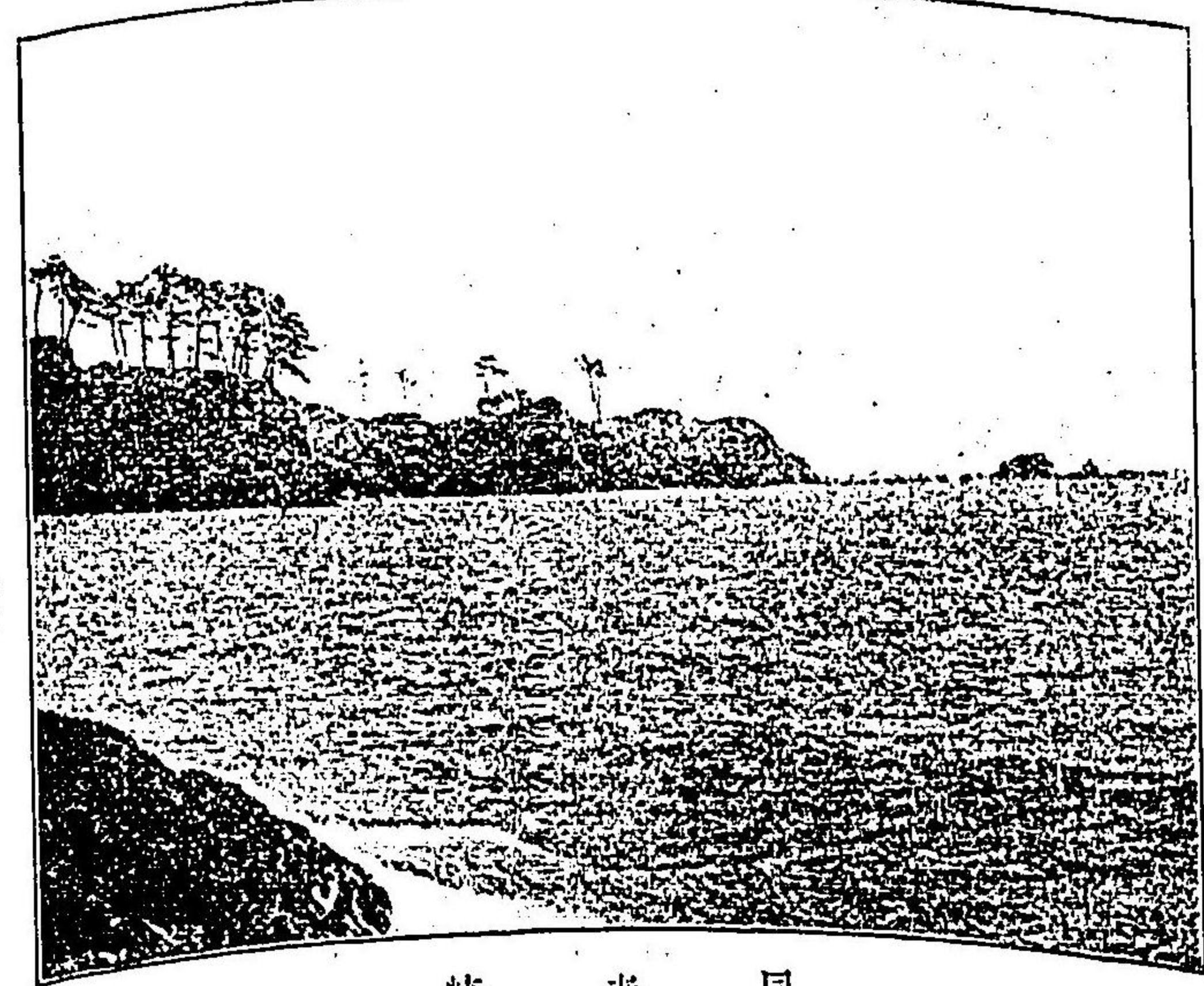
波切村旅店 富士屋



國分寺



波切の大王崎



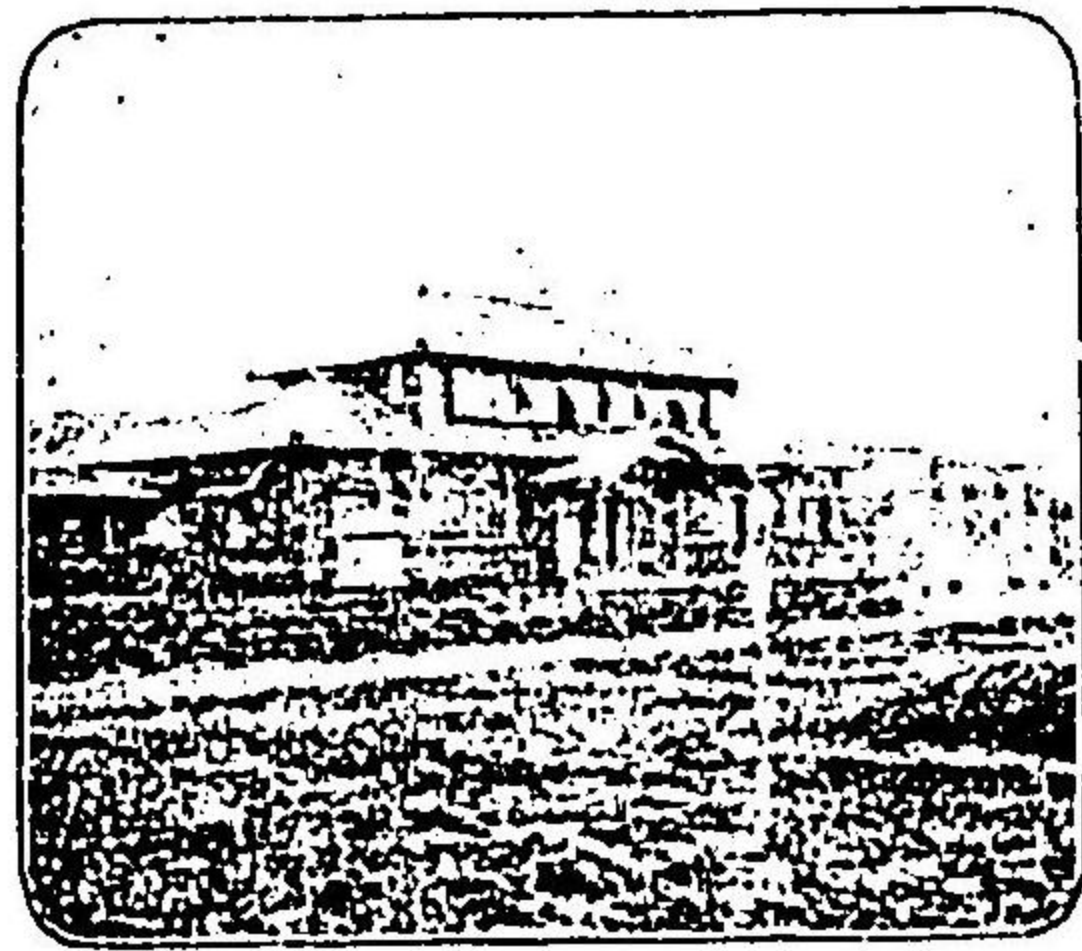
同老崎



御木本養殖場

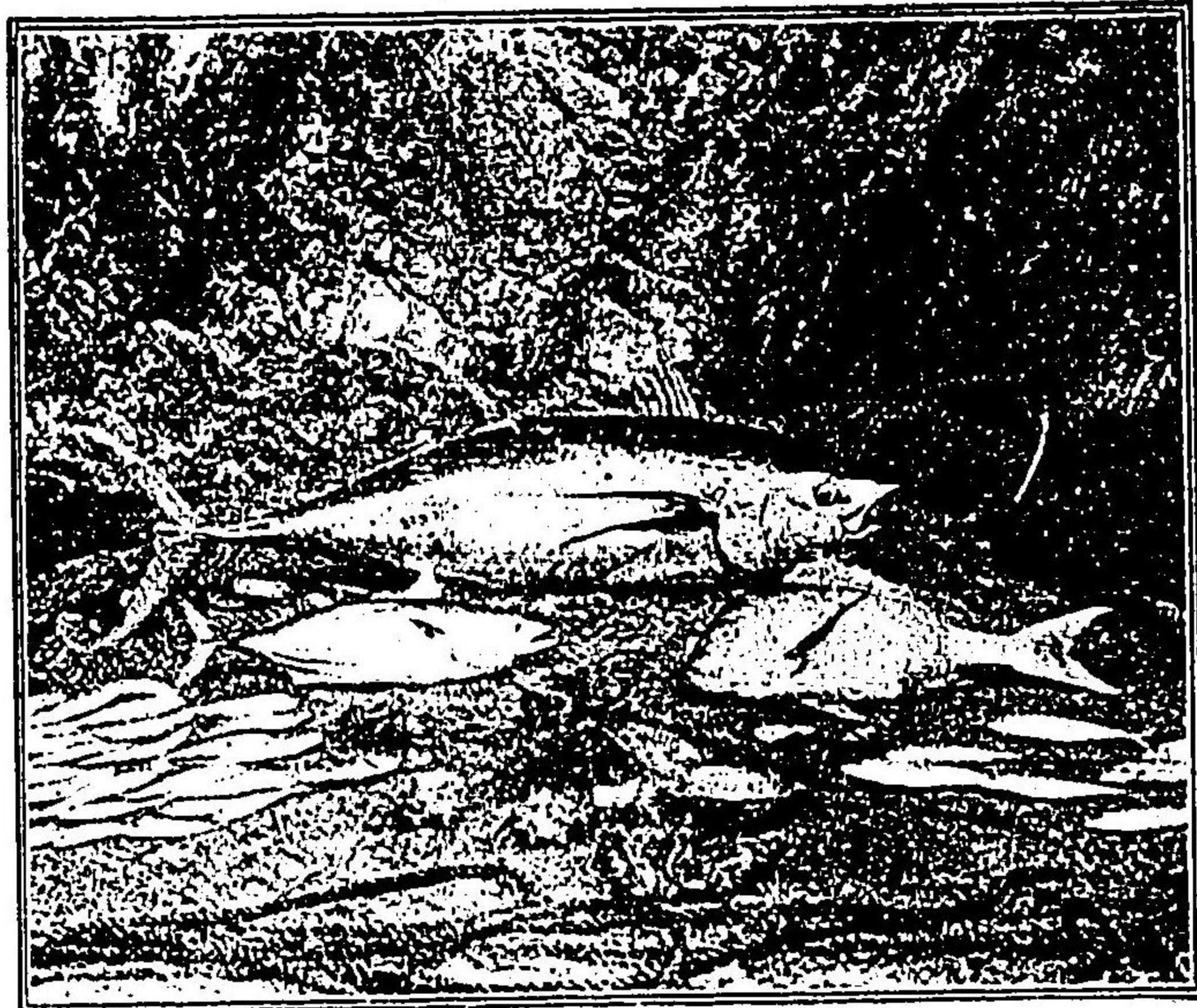
●**眞珠貝養殖場** 英虞灣神明浦にあり
鳥羽より六里十五丁 御木本幸吉の事業なり眞珠貝の天然産は珠粒稀有にして千個の介に一個の眞珠なき程なるより如何にもして人為の方法を以て天工を助けんと家産の傾くをも顧みず苦心研究する多年始めて養殖法眞珠介に或る方法を施し數年間之を海に放養して珠粒を形成せしむるなりを發明して特許を受け二十六年八月創めて養殖場を開き凡六萬坪の海底に特許法を施せる二年生眞珠貝を放ち四年を経て採取するの計畫を以て現に百萬個の介を飼育せり其の成績は極めて良好にして佛伊米英等より注文を受け輸出の途既に開けたり天然眞珠の漸く世界に盡滅せんとするの今日、前途最も多望且有益の事業なり

●**縣立水産試験場**



水産試験場

り卅二年の創立にして漁撈製造養殖の三種の試験を爲し縣内各所に養殖場を置けり就中海參紫菜の製造及諸種罐詰製法試験は成績良好にして重要な物産たるの望あり
 ●志摩の漁業 年額百萬圓以上の漁獲物は鱒、鯉、鰻、青魚、鯛、鰯、荒布、和布、其他十數種に及び鮑、海鼠は乾製して外邦に輸出す
 蟹類の海に入りて鮑を採るさま勇ましく面白く且は裏れのかめにて此國の何れの浦にても見るを得べし其様前に出せる眞珠探りと異ならずれば挿畫は之を省く



水産物の一

牟婁は本縣の西南端大窪原山脈の東の斜面太平洋に瀕せる狭長の地にして北南兩郡に別ち四町三十村面積四十三方里人口八万六千を有せる郷土たり古は熊野と稱し神武東征の時舟數戸畔を此に誅して大和に入り給ひしは國史に明なる所地域僻在すと雖海に漁船の定期航海ありて北牟婁の長島島勝尾鷲九木及南牟婁の二木島木木諸港に日々寄港し陸には熊野街道ありて南勢より牟婁を貫通して主要の都邑を聯絡し其の他の港浦皆解舟の便ありて交通機關唯鐵路の敷設なきを恨むのみ其の山は森林蒼鬱營林の合理的にして材質の完備殆ど全國に匹儔なく其の海は暖流岸を洗ふて魚族群至し漁獵の利勝けて賞るべからず山水の風光は雄偉にして瀟灑之に對すれば心曠く神王し塵襟忽開豁を覺へ稱して以て天下の絶勝と爲すべきあり殊に冬季の温暖なる草木の開花伊勢に比して早きこと一ヶ月餘なるを以て避寒地として最も適宜なるを知るに足る蓋牟婁の地は名玉温光久しく世の知る所とならざりしもやがて光華發揚噴々世に稱せらるの時到るを期すべきなり

●長島港

北牟婁に遊ぶには漁船にて長島に上陸するか又は熊野街道を野後より定期馬車にて來り長島町に着



長島港

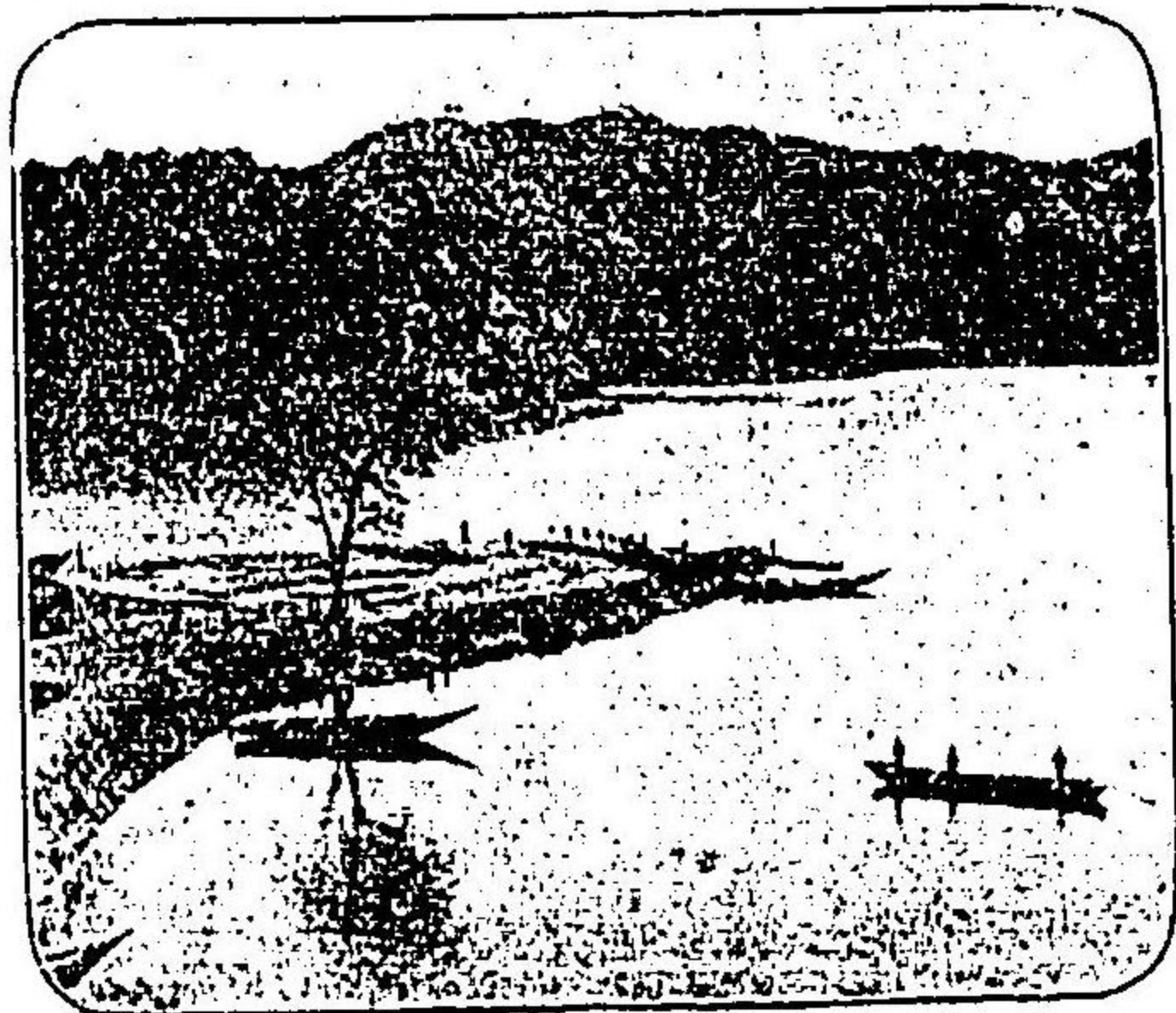
くなり長島は牟婁郡屈指の都邑にしてこゝより漁船又は和船にて諸所に遊ぶを得るなり

●旅店 嵐屋

●江の浦 長島

港内の入口にして漁船の繫泊場なり前面大向井の山脈東に延ひて海に入る月夜山影模糊として江上に浮び涅槃像に似たりとて稱して寢釋迦山といふ勝景の地なり

●名倉灣 長島町の東八丁二郷村に在り水を



江の浦



名介灣口ヒガキノ鼻の風景

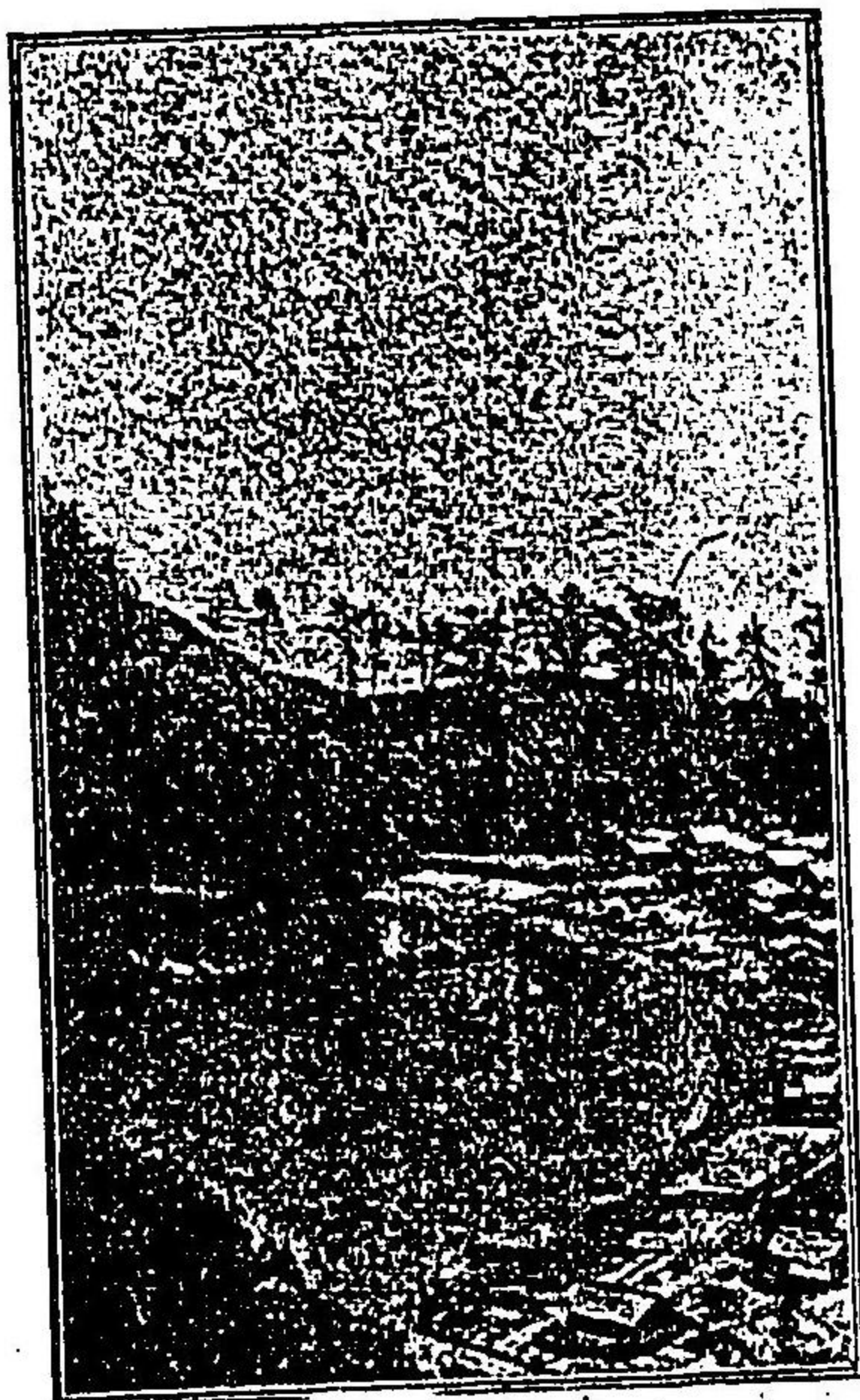
隔てゝ村
内朝間の
山腹を望
み風趣に
富める勝
地なり
●丹敷戸
畔の塚
長島の東
錦村の灣
頭人家の



丹敷戸畔の塚

狀に擬する祭禮を爲す又村内不行谷と稱する所に神代の古墳あり此邊一帶の地は上世丹敷と稱し丹敷戸畔の傾せし所にして神武天皇東征の時過ぎ玉ひし地なり

毎年正月七日神武祭として丹敷戸畔が降伏の

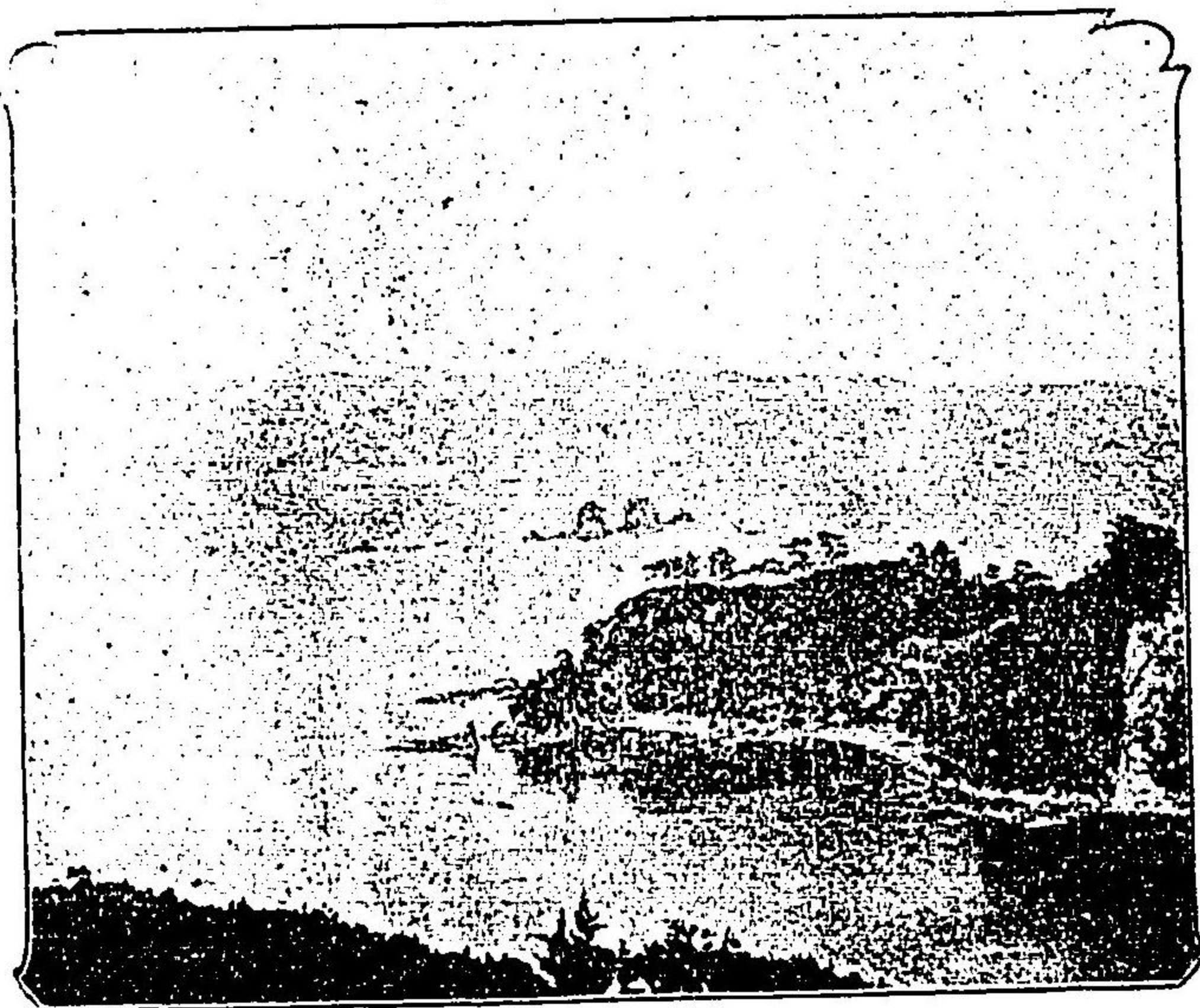


白浦港居民

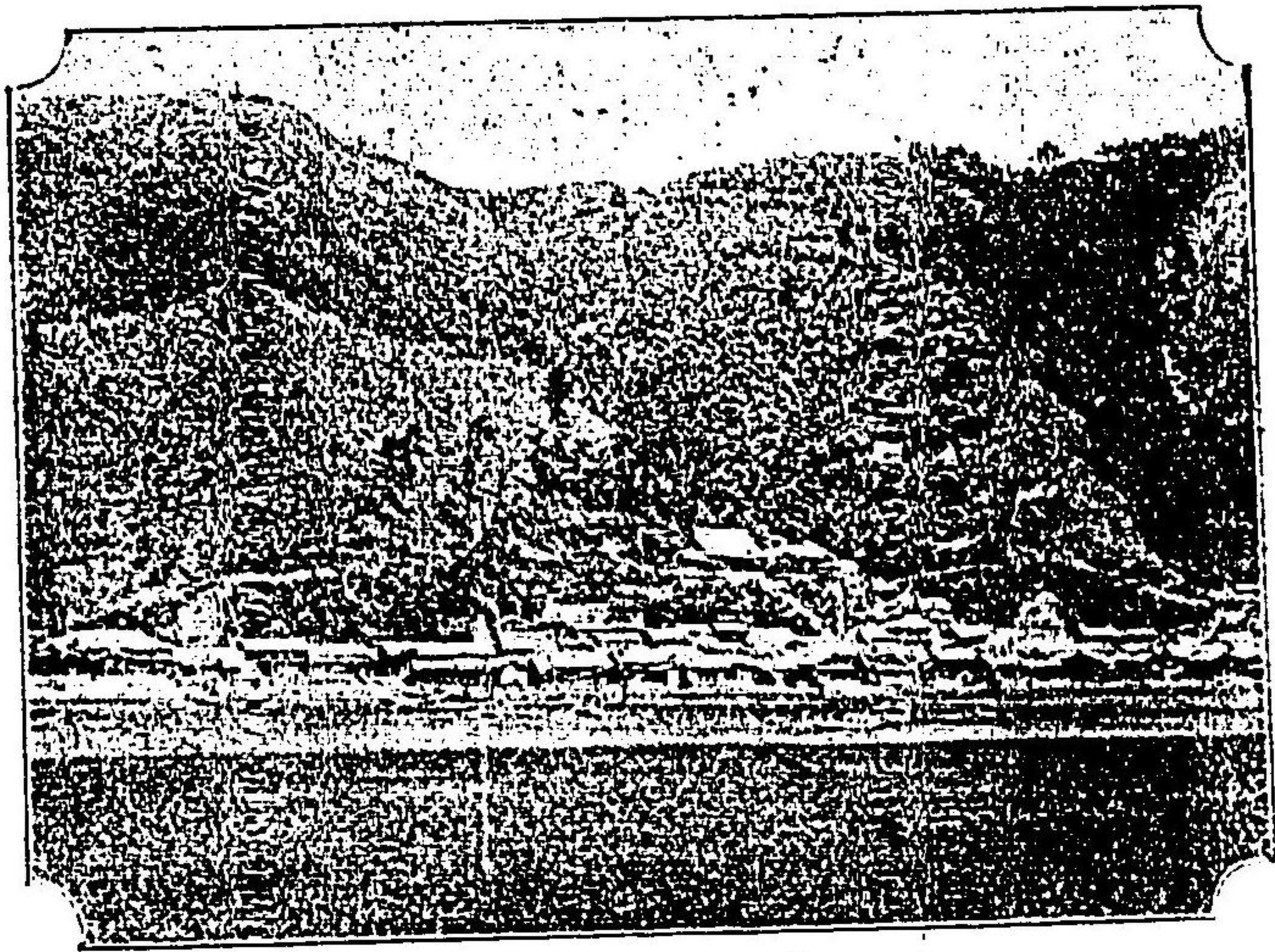
●白浦 桂城村大字白浦なる勝景の港灣にして長島、錦より渡船の便あり

●島勝浦 桂城村にある漁船の寄港所なり

此の浦に天満洞門とて自然の洞穴長十五間高八間に海水の通ずる奇觀あり側の岩嶼、巉崖百仞松樹之に生じて姿態萬狀、其傍、奇巖怪石点々羅布するの間鮑採るべく魚釣べく南紀の仙郷たり



白浦港の景



須賀利の景

●須賀利港

島勝浦より南に外海を一周する所小灣深く入るものを須賀利港とす東北西の三面に山を繞らし南に海水を受けて冬暖燠に夏は清涼なり村内勝地多く就中普濟寺は山腹にありて眺望最も宜し

引本町

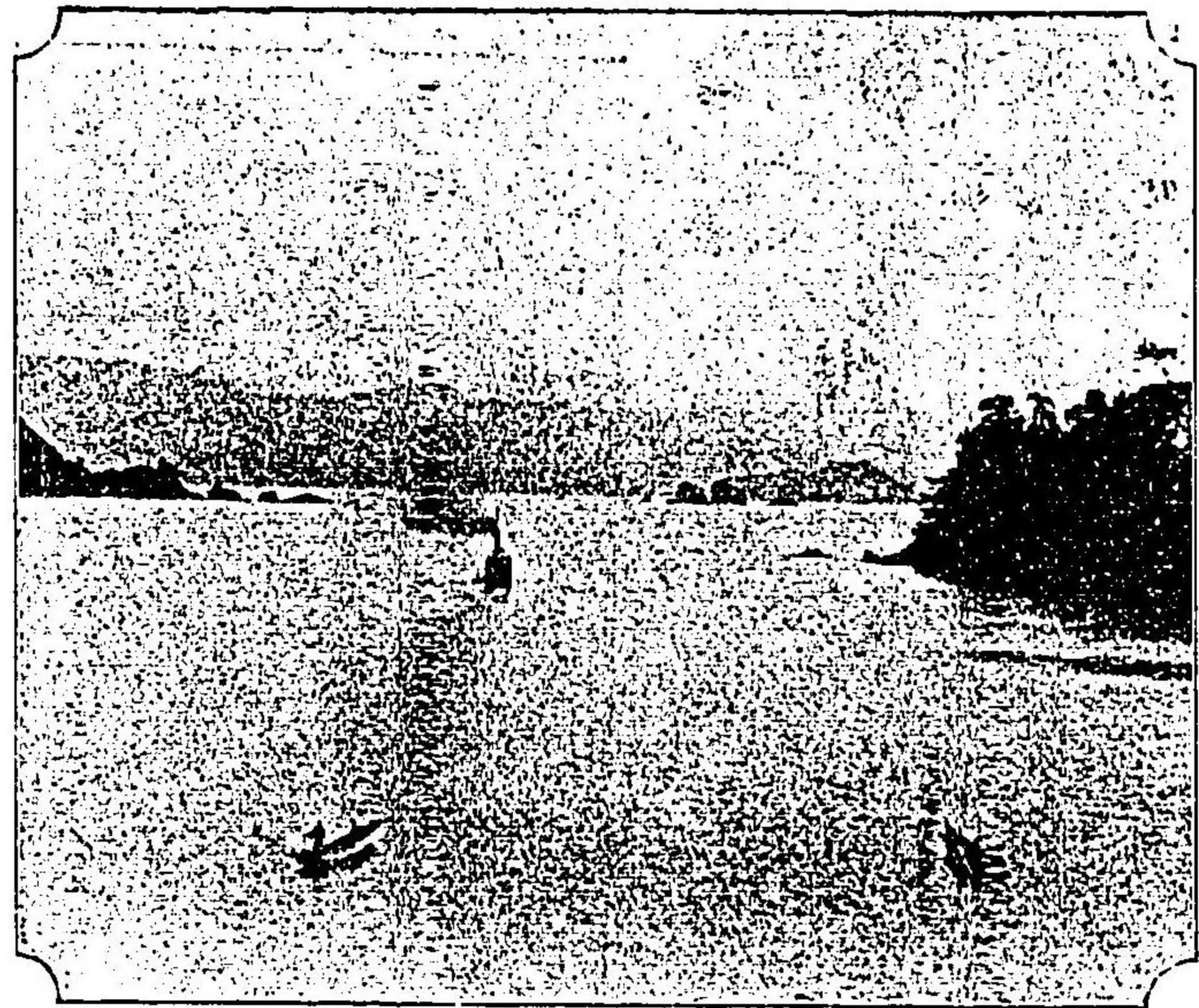
戸數 五三六
人口 三九三

海灣南より北に向ふて

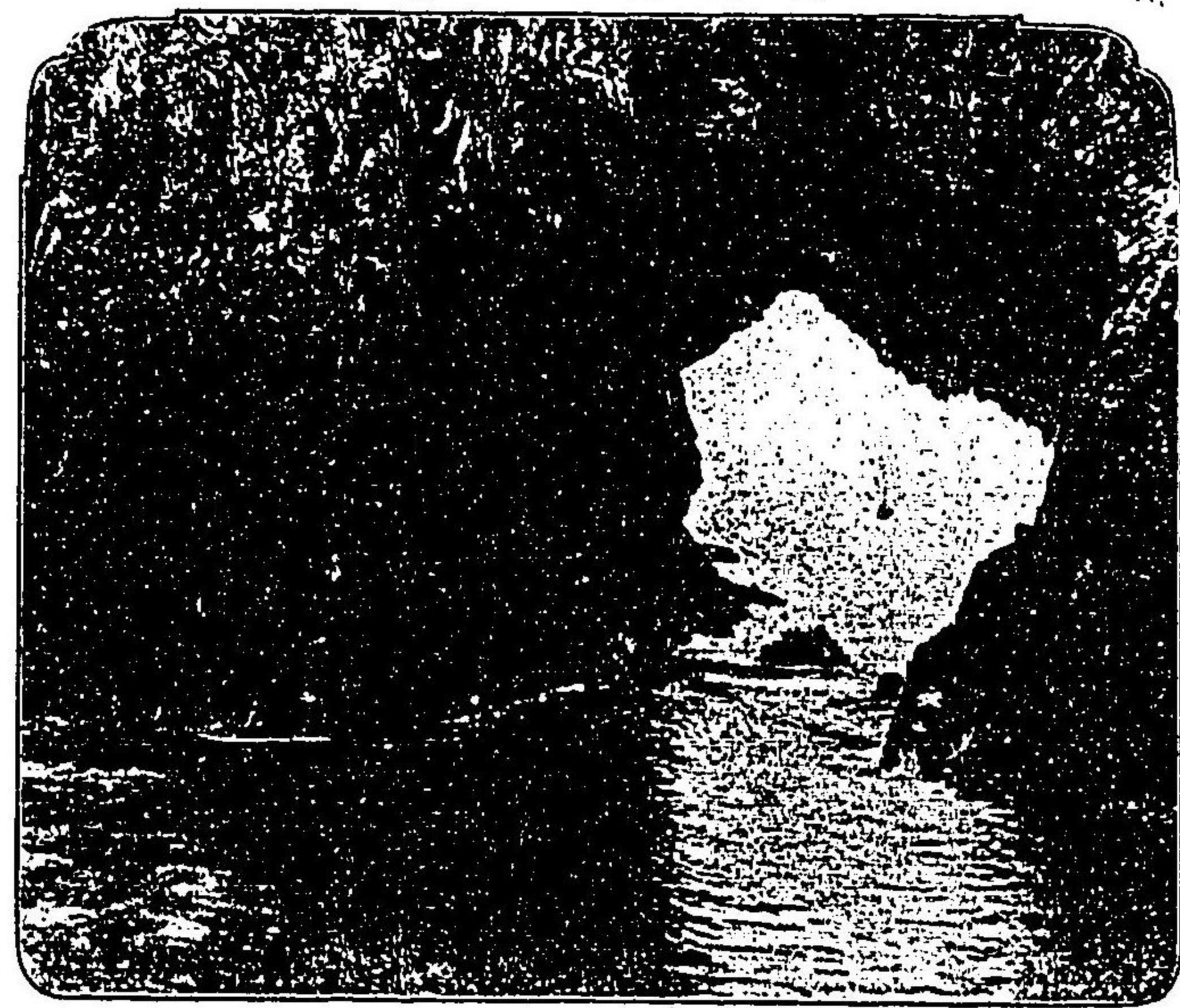
深く入ること二里余靜穩湖面の如く風浪を避けて來泊する船舶多く帆檣常に林立す市街は水岸に沿ふて民居し夏時涼爽にして嚴冬火爐を要せず加ふるに風光明媚入景の妙趣と釣魚の遊樂とあり時に漁夫が萬金の利を得て同音に絶叫するを觀る亦壯快也海水は鹽分強く水浴に卓効あり避寒避暑共に適するの勝地たり

- 旅店 尾鷲へ 凡二里 解舟賃 參錢
- 内海屋 麴屋 角屋

一〇五



島勝港の景



全天下洞門

一〇四

辨天夜雨向山嵯嵐

松島秋月吉野晚鐘天狗某雪一六〇六

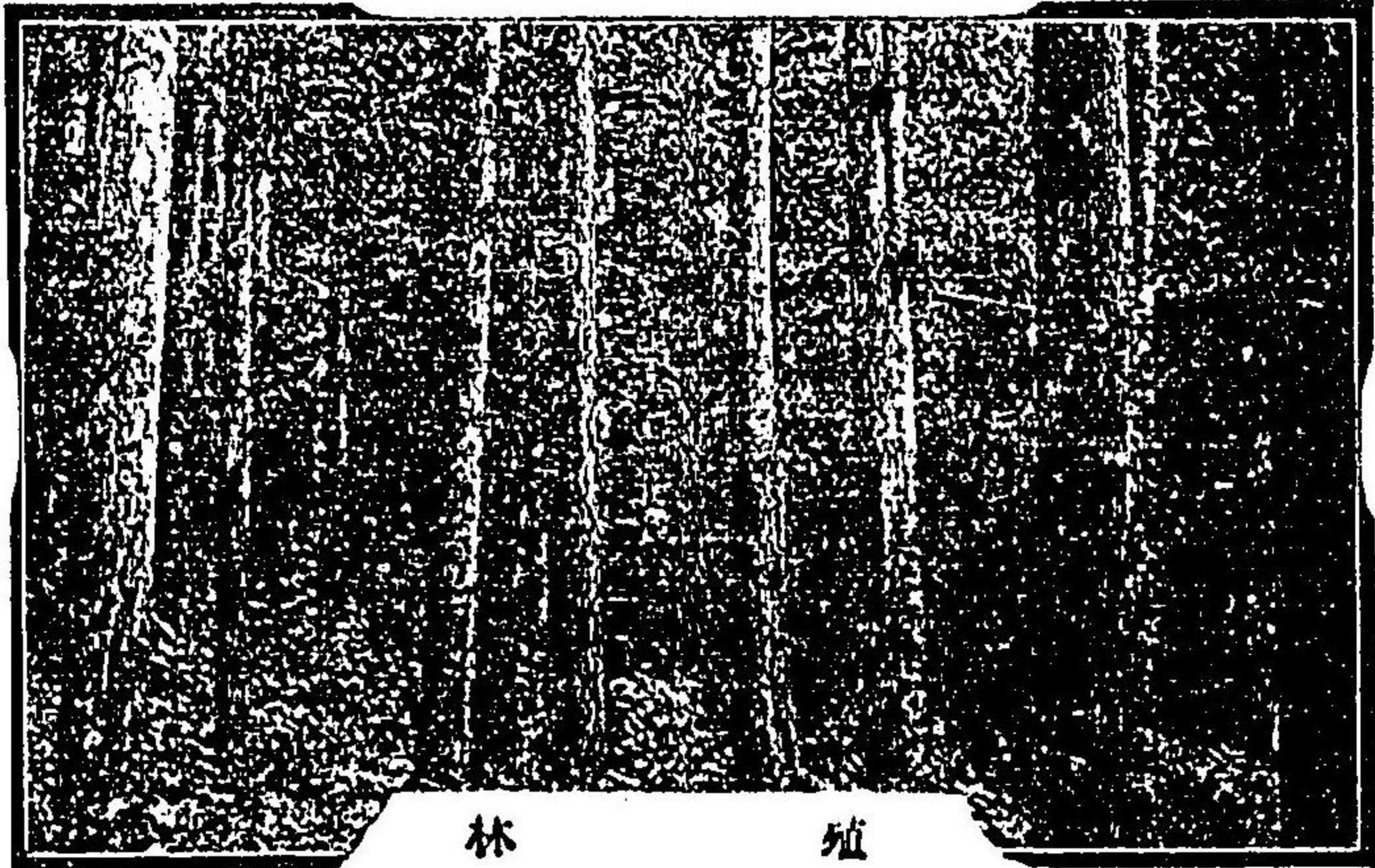


帆歸浦北照夕浪長雁落代網

熊野山林

牟婁郡

の山林は氣候温暖濕氣充
分なるを以て杉檜の類山
岳の南面にも成育し且作
業法尤も合理的なるによ
り梢冠の閉鎖常に適當に
して遺憾なく地方を利用
し得て材質完全に雪害の
憂なく搬出容易なるの特
色あり熊野山林を觀るに
は引本又は尾鷲より船津
村大字船津三里十八丁に至る
を便とす更に進む五里余
御料殖林地を經過して遂
に大臺原山の幽谷に達す



殖林

大臺原山

勢和紀三

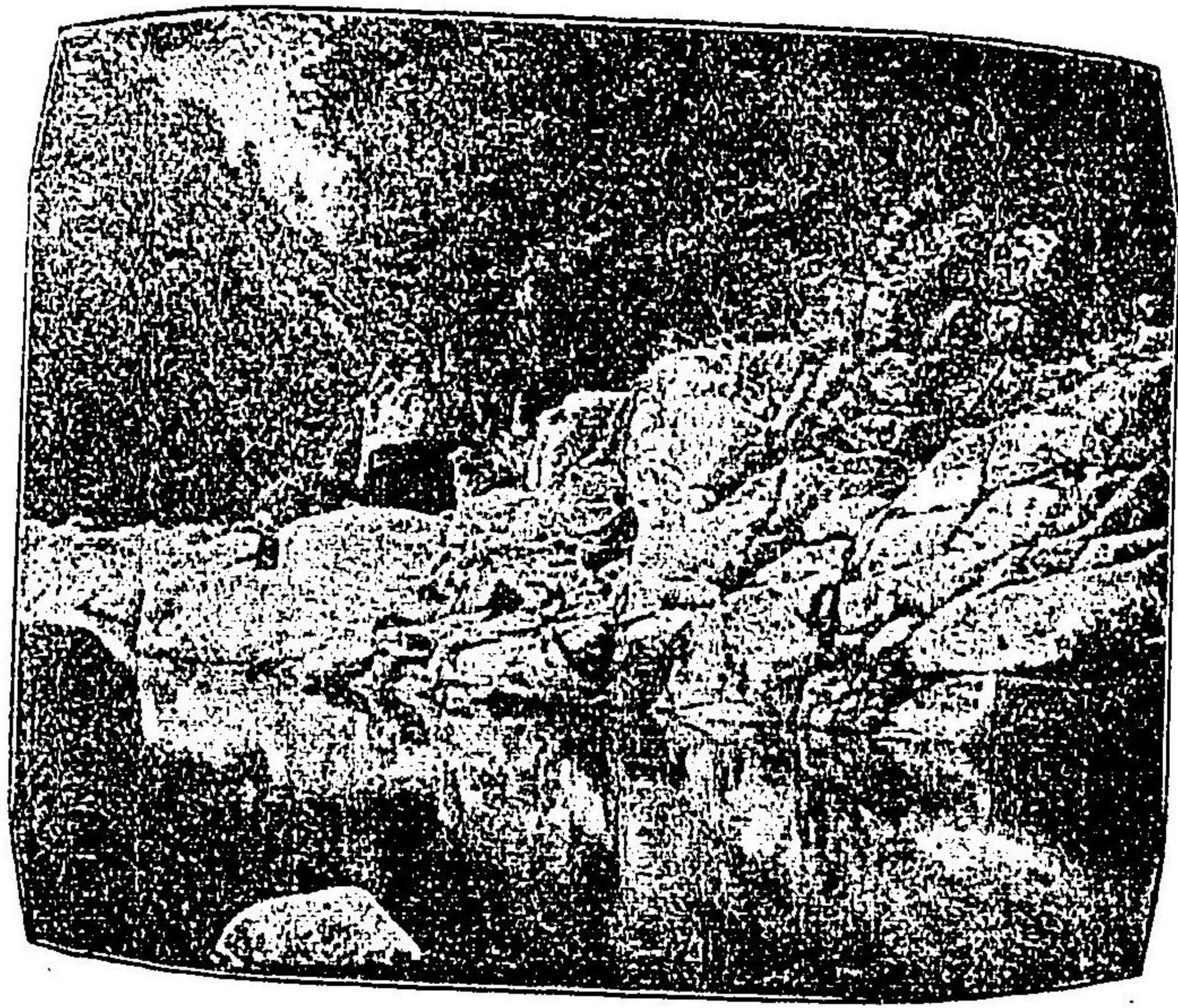
國の境に跨る深奥幽險千古
斧斤入らざるの山麓にして
舊藩政の頃和歌山藩士の探
險せし後明治の初年松浦多
氣四郎之を開拓せんとして
果さざりしが近來御料林の
經營に依り船津より大臺原
を穿ち大和吉野郡河上に出
る道路を開通するに至れり
大學生の修學旅行は多く此
の道に由りて熊野の林相を
視察するにあり山中奇勝多
く就中大蛇ヶ倉の勝景に至
りては妙絶駭くの外なく且

氣候尤も清涼にして盛夏と雖七十五度を上らず避暑地として尤も適當の山と云ふべし松浦多氣四郎は伊勢一志郡小野江村の人弱冠蝦夷を探險して得る處あり維新の後開拓判官に任じ從五位に叙す大臺原山中字古屋谷に其碑あり南摩網紀氏の遷文なり

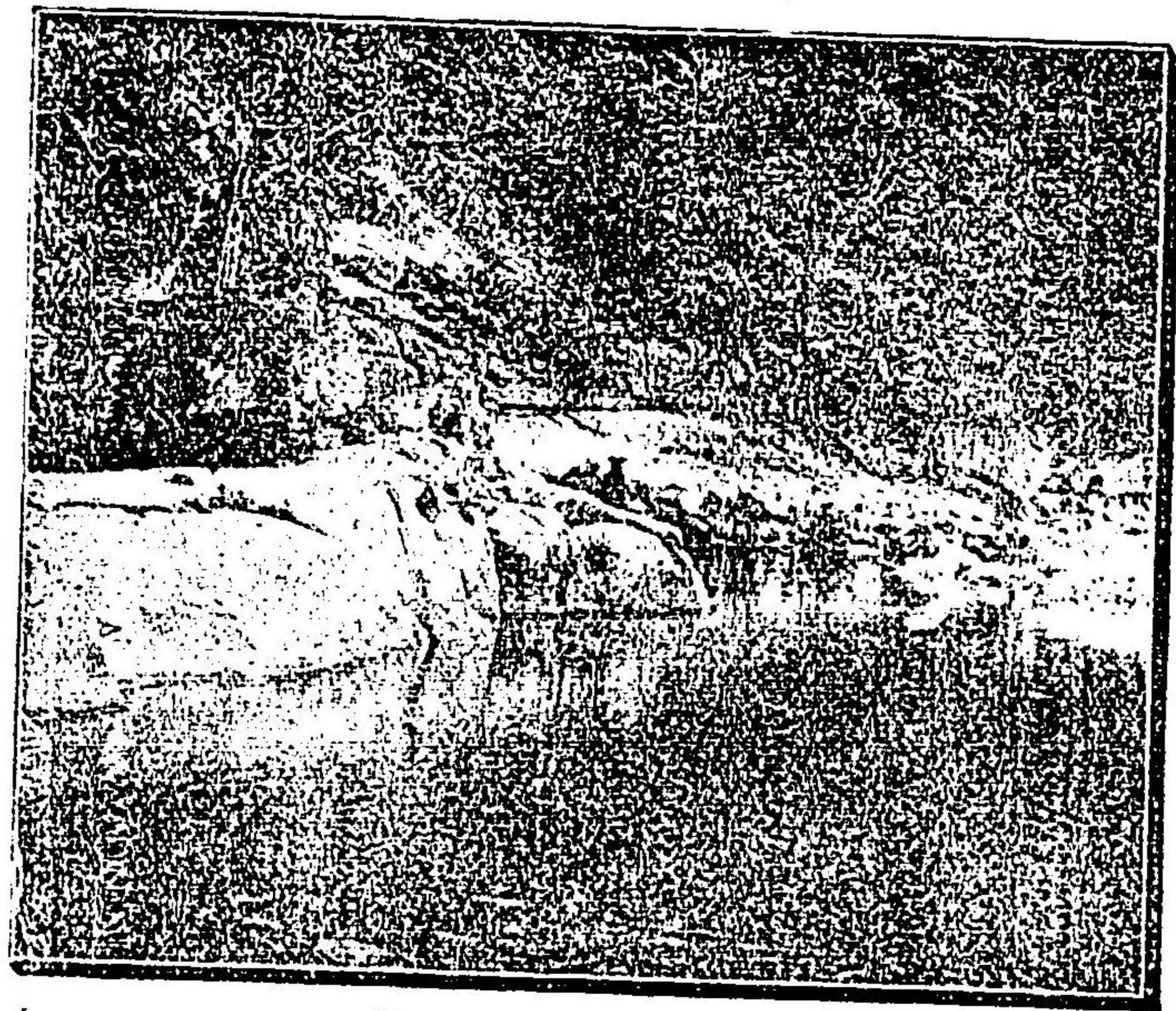
●大木森瀧 船津村大字船津の西北方四十餘町の山中に在りて前掲吉野に越ゆる道路の西方に當れり瀑布の高十五丈、巾一丈瀧壺深く兩側に奇巖屏立す引木村より遙かに之れを望むべし

●船津の狩獵 猪鹿兎雉子山鳥の類山野に盈ち鳴は大字馬瀬の大田沼に群集し獲物多き獵場にして狩獵家の樂天地と稱すべし

●魚跳溪 船津の隣村相賀村大字便山の西方銚子川の上流なる瀧の川にあり 引本より五丁舟便あり三里 水中鉅巖峙立して水流奔放瀉下し魚跳て溯るより此の名あり著名の勝區にして來遊の雅客常に踵を接する所なり



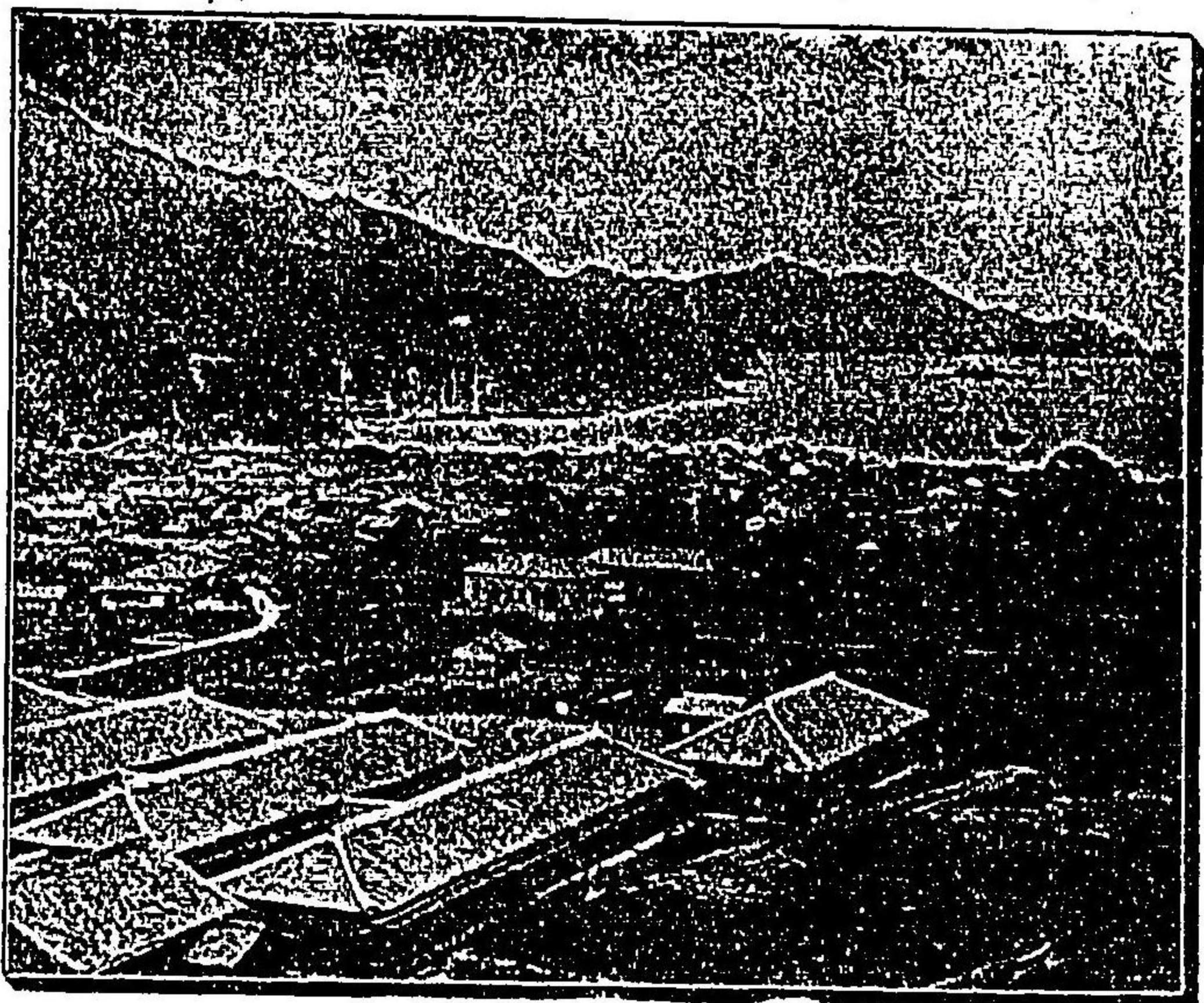
魚 跳



魚 跳



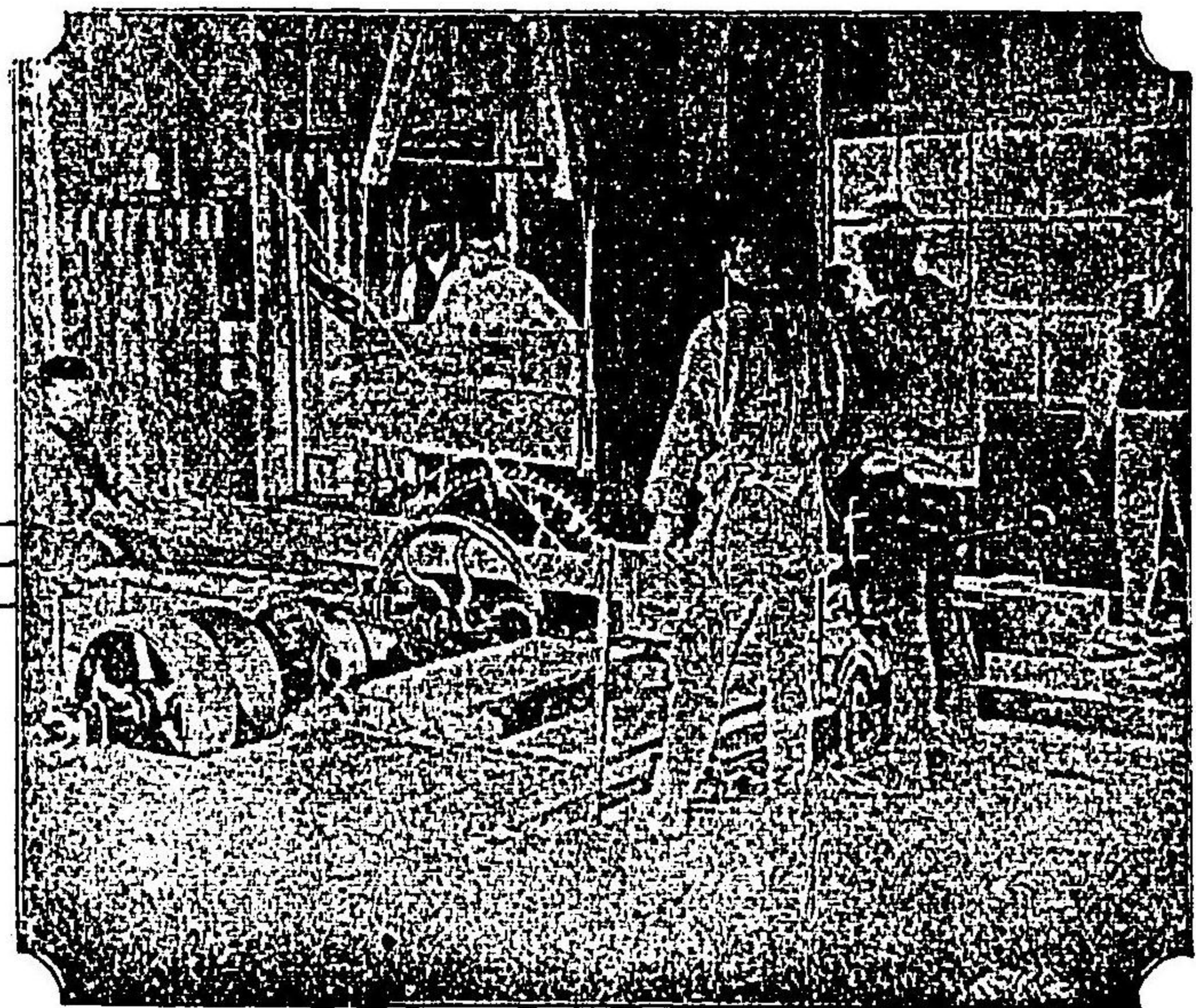
魚 跳 の 景



尾 鷲 町

尾鷲町 戸数一、六三五 同名の港に臨み形勝の地を占めたる北牟婁第一の市街なり尾鷲港は九木岬須賀利岬を以て灣口を扼し灣内廣く桃頭、娑婆留、雀島、裸島等の小嶼基布し奇岩怪石海岸に羅列して妙趣を添へ水深く浪静にして鉅艦の碇泊に適せる良港なり
 汽船發着(熱田大阪間通航)
 北行(伊勢行) 後四時四十分發
 南行(大阪行) 前零時五十分發
 汽船賃 長島へ四拾錢 九木港へ貳拾錢
 島崎へ參拾錢 鳥羽へ八拾五錢 神社へ九拾五錢
 木ノ本へ四十五錢 大阪へ一圓八十錢
 ●料理店 風吟樓 芳來館
 ●旅店 三隻屋 新宮屋
 ●中村山 尾鷲南浦の西方にある丘陵にして尾鷲港内の景を一時に集むるの景勝地たり尾鷲町の公園地となさんとするの計畫ありて現に加工中なり

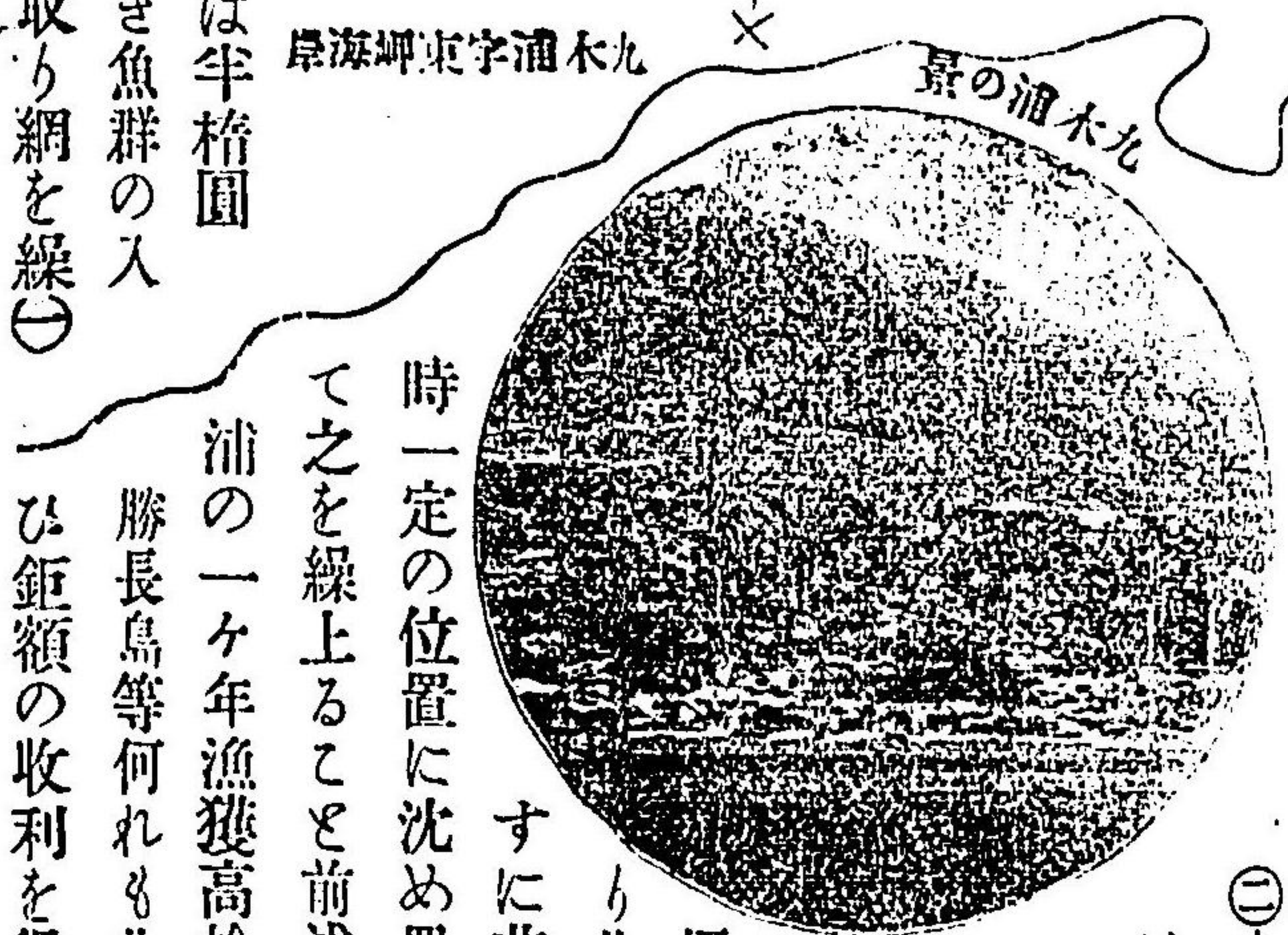
●竹林 尾鷲中井浦字倉の谷にある叢林は土井八郎兵衛の所有に係り面積一町余享保中薩摩より移植せし江南竹叢生し大なるは周圍三尺長八十尺に至るあり
 ●挽材工場 尾鷲矢の濱字國市海岸にあり土井八郎兵衛の所有にして明治三十五年三月の創立に係り工場九十坪、原動機室二十四坪、蒸汽罐はコルニッシュ形、汽機は不凝縮横置單筒度會郡大湊町菊川鐵工場の製作に係るを用ひ挽材及び飽滑の作業を爲し鋸は三十六吋の圓鋸にして摩擦ハンドル付機械を用ひし製造數量一日平均二百九十五本に達す其の挽割面は挽材機の進行して舊位に復するの時其の動力により之れを飽滑するの考案を爲せり



挽 材 工 場

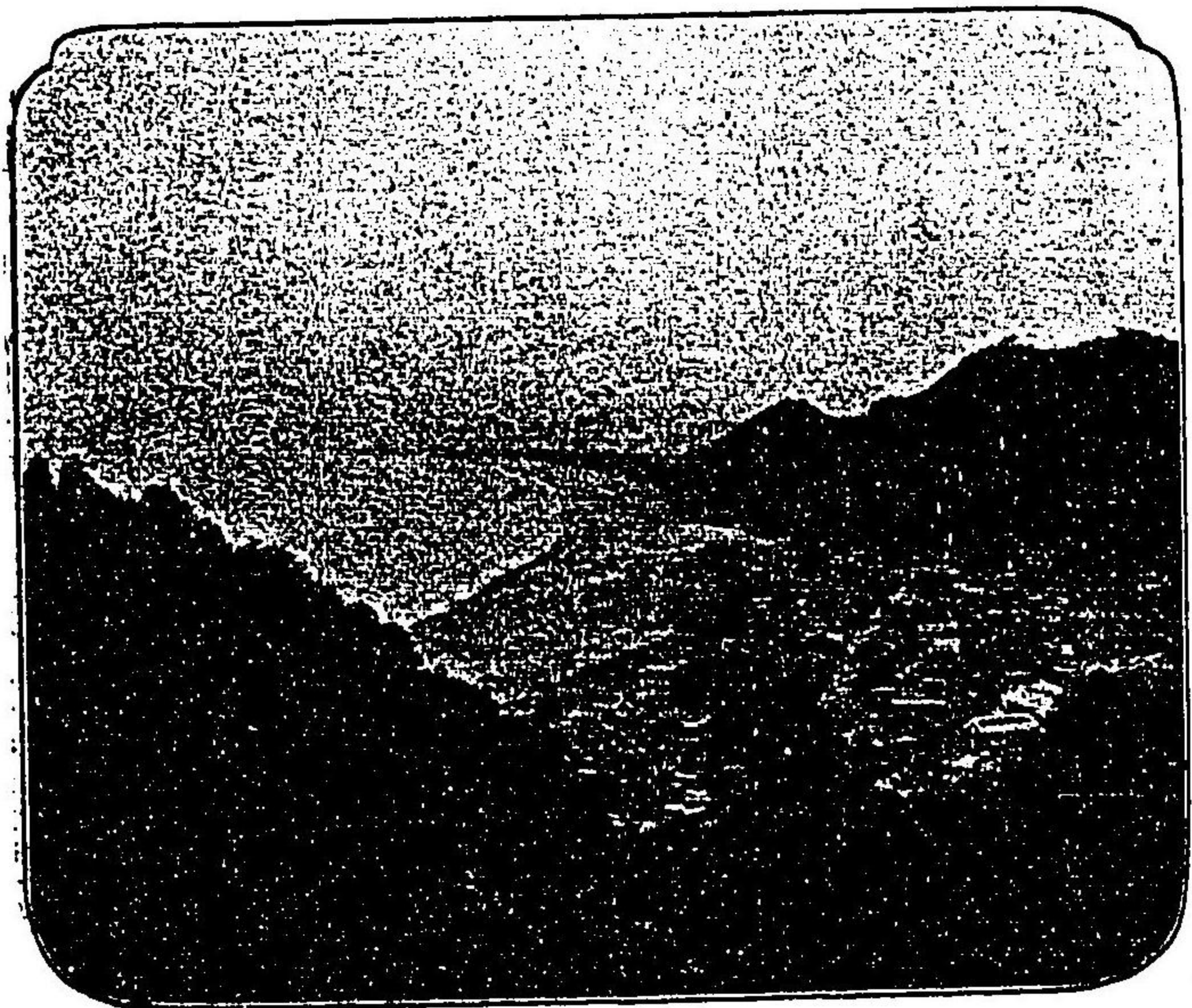
●**牟婁の漁業**

北牟婁の漁業は郡の命脈を繋げる生業なり年額壹萬圓以上の漁獲あるものを舉ぐれば鮪、鰯、鯉、小鰈、鰯、青串魚、石花菜等なり就中尤も多額なるは鰯にして冬期に大敷網と稱する漁網により捕獲す茲に九木浦尾鷲より三里流の寄港所なりの大敷網を紹介すべし此の網は圖に示せるが如く陸地の基点より百五十間は直線に之を張りて魚の湖に随ふて進行するを遮り折れて一方に進ましめて、には半楕圓形に沈めたる底ある囊狀の網を沈め置き魚群の入るを待ちて漁船數十網に循ふて位置を取り網を繰



時一定の位置に沈め置き潮勢を見て之を繰上ること前述の如し九木浦の一ヶ年漁獲高拾萬圓其他島勝長島等何れも此の漁法を用ひ鉅額の收利を得つゝあり

極めて壯觀なり此網は時々降すに非らずして常に一定の位置に沈め置き潮勢を見て之を繰上ること前述の如し九木浦の一ヶ年漁獲高拾萬圓其他島勝長島等何れも此の漁法を用ひ鉅額の收利を得つゝあり



木の町の景

●**木の町**

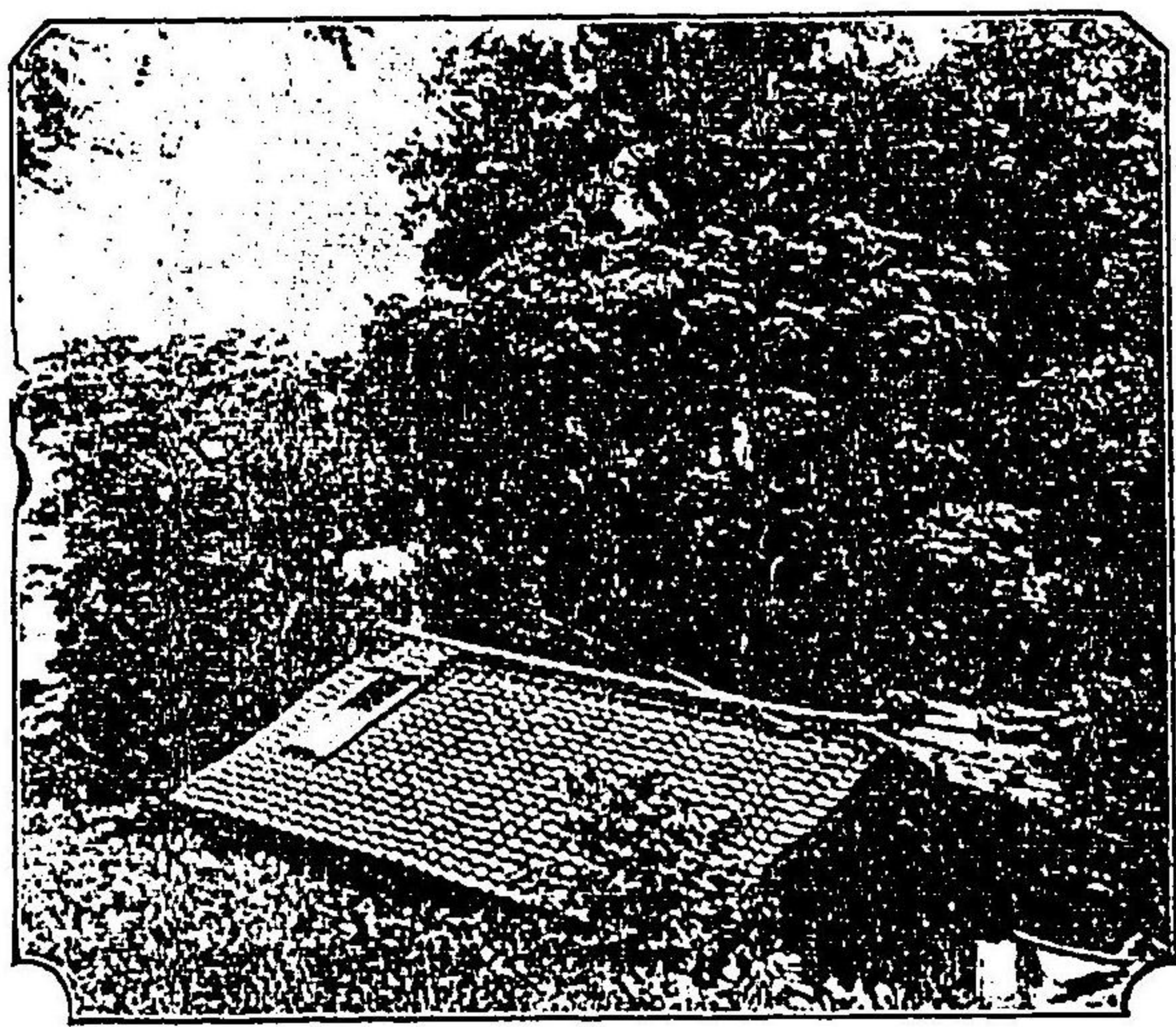
戸數 七六〇
人口 四、五六〇
南牟婁郡の中央に位し西北に一帶の長岡連、阜を負ひ東は滄渺たる大平洋に面し南牟婁郡隨一の都邑なり尾鷲より陸路十一里海路二十里といひ坦夷地の如き人道九里にして和歌山縣新宮に達すべし現時の状況陸路は尙十分の利便を得ざるも漁船の定期發着ありて貨物の吐納交通の自在を瞻し優に南紀屈指の市邑たるの面目を保てり

●**旅館** 熱田行 午前十一時三十分着午後零時三十分發
大阪行 午前四時二十分着午前五時三十分發
●**料理店** 龜崎館 喜多館 結城館
南牟婁の名勝を探るには先づ木ノ本に上陸し茲を中心として巡覽するを便とす以下順路により二三を紹介せむ

●秦徐福墓 木本町より泊峠大吹峠の二小坂を越ゆれば新鹿村大字波田須に達す此の間道程一里半こゝに秦徐福墓あり古昔秦の始皇帝六國を平げ天下を一統し溪壑の怨他くを知らず不死の薬を求めて萬年の榮華を食らんと徐福を蓬萊に遣はし仙薬を求めしめしが徐福は片帆滄溟を搜りて熊野に上陸し復還らず遂にこゝに住みてやがて歿せりと云ふ

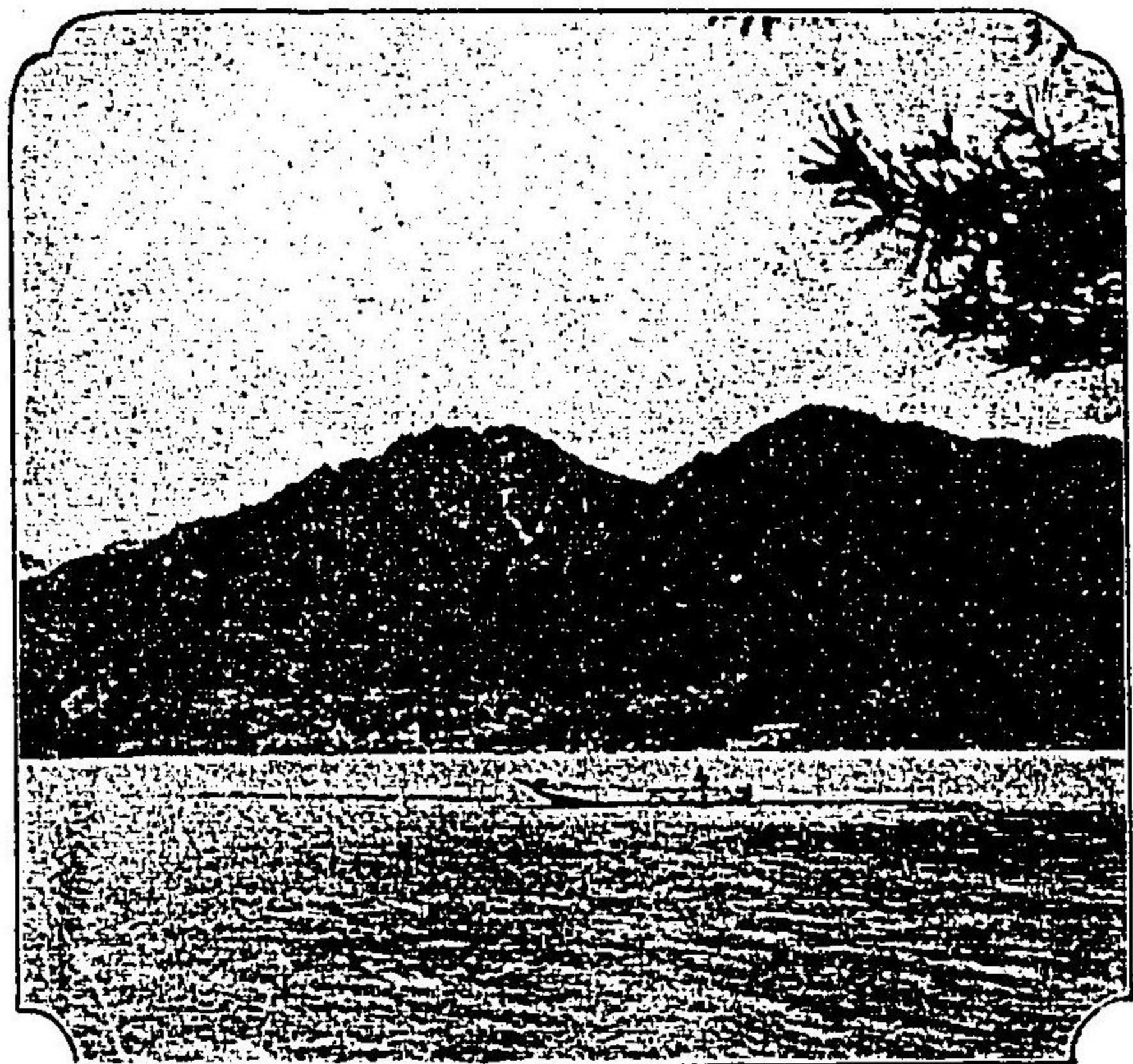
●室古、阿古師神社 波 須より新鹿を経て蓬神坂を越ゆれば荒坂村に室古、阿古師の兩神社入海を隔て、相對して鎮座す(木ノ本より三里)室古神社は彦稻飯命、阿古師明神は三毛入沼命を祭る傳説に云ふ神武東征の時舟師二木島沖にて暴風に遭ひ二神海に陥り號し給ひしを波靜りし後土人等天皇の之を搜し玉ふに行遣ひ奉り詔を受けて御屍を索め得て此に葬りしを後世神社を建てわがめ祭るとぞ

●二木島 荒坂村は神武東征の時丹敷戸畔を誅し玉ひし地にして荒阪津は今の二木島港なるべく荒阪とは二木島の東曾根太郎曾根次郎の峻坂を指せるなるべしと云ふ二木

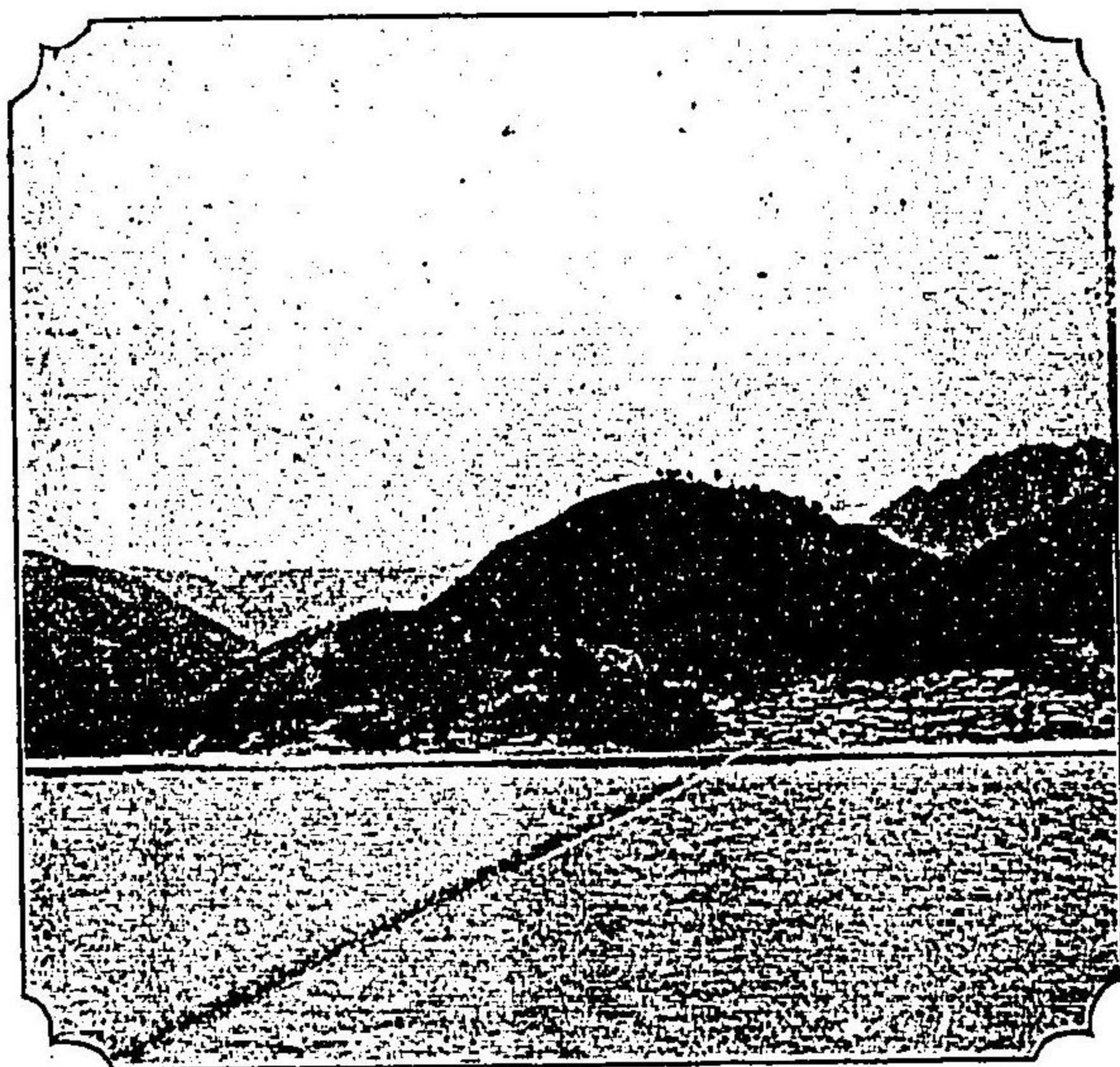


墓 福 徐

島港は汽船の寄港所にして木ノ本との往來最も便なりこゝより以東岬灣出入して鯉鮪其他の漁獲多く賀田古江三木里等の港浦何れも風光明媚の水郷にして南紀の勝地たり



(村内輪南) 港 田 賀



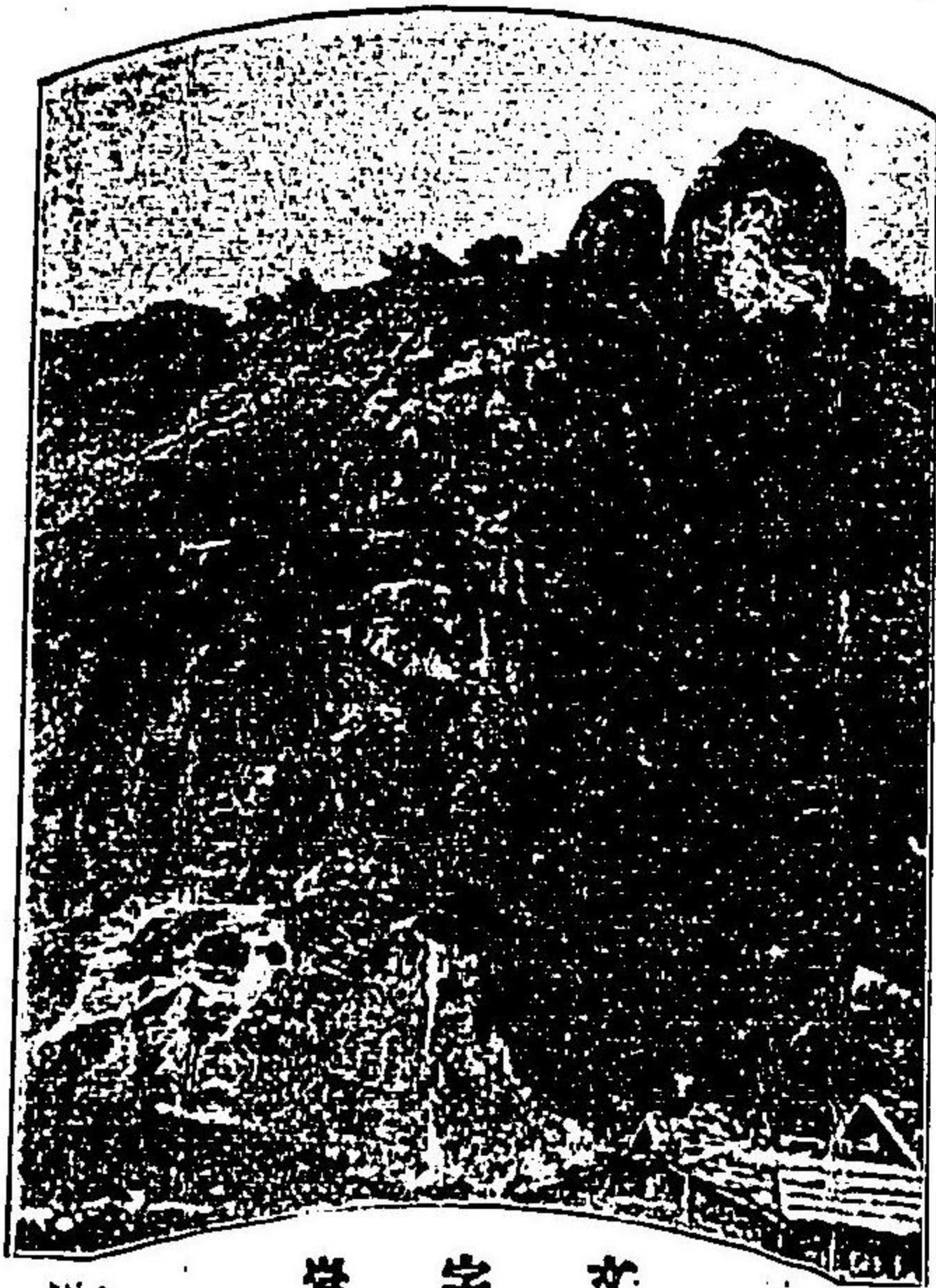
(村内輪南) 浦 江 古

●鬼ヶ城 二木島を未明に出て木本町に歸着し附近の名勝を探らんに市街を距る十町許東の海岸に鬼ヶ城とて絶景の地あり巨巖屋宇の如く高さ十間余其下、窟をなし猛濤激蕩して奇絶名狀すべからざるの勝地たり

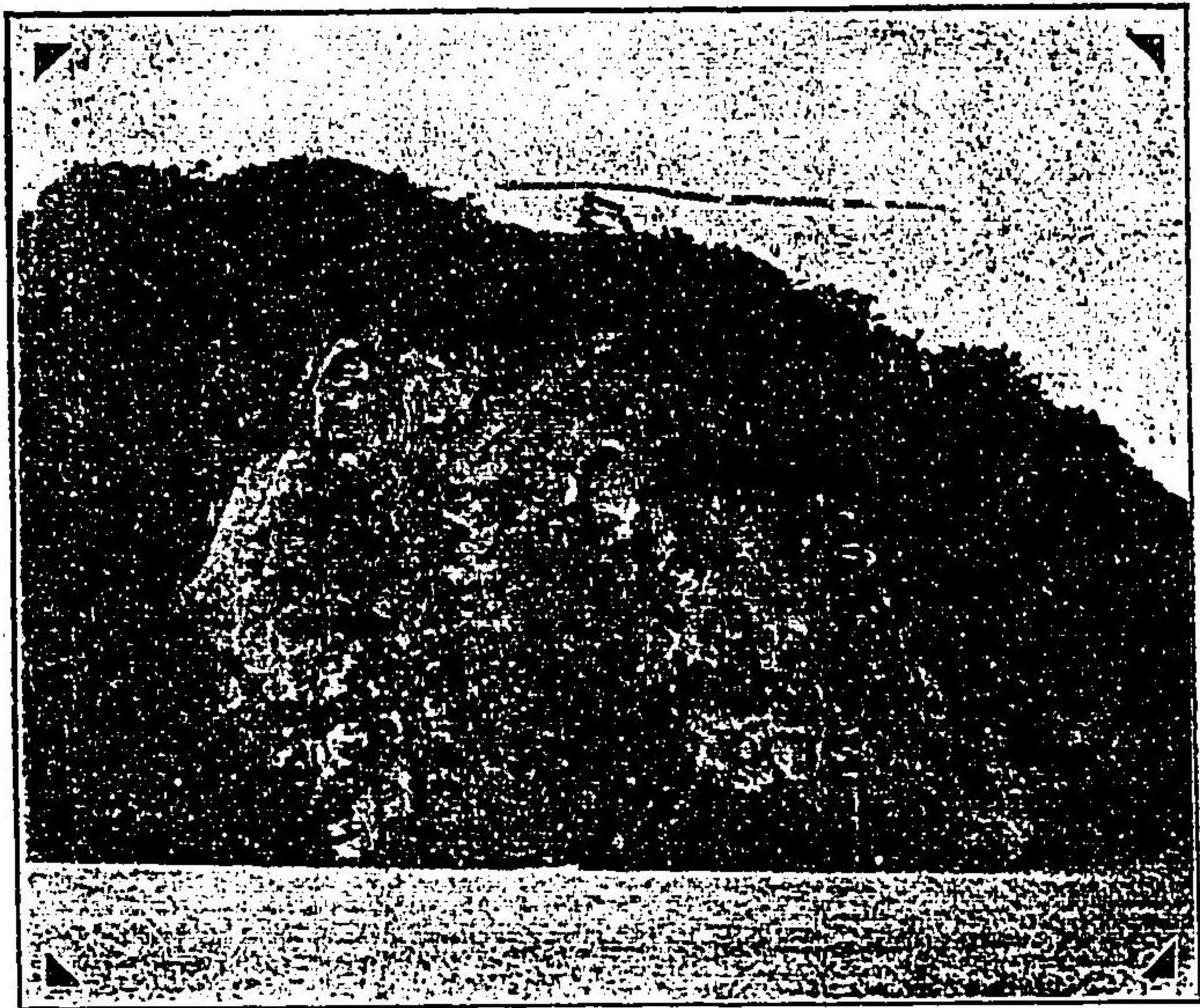


鬼ヶ城

●文字岩 木本町の西北花城山の西麓字盛堂と稱する所にあり鉅岩の高凡二十間幅凡十二間五言絶句「驚去徐仙子深入前峯靈借問超逸趣千古難似宿」を彫る文字の大と方一尺五寸傳へ云ふ楠南谿熊野に遊ひ秦徐福を追憶して此の詩を題せりと



文字岩



花の窟

●花の窟 木本町の西南五丁余有井村大字有馬の海邊に在り日本書記の一書に據るに伊弉丹尊の御陵なり巖石壁立すること二十七間正面に方三間許の壇を作り玉垣を周らし拜所を設く花窟の名は増基法師の記行に始めて見ゆ花を以て祭るより起れる名なり下より十間許の上に方五尺許の洞あり土人御からうとといふ祭日は毎年二月二日、十月二日の両度にして長き繩を以て窟の上より前なる松に掛け之れに繩を編みて造れる幡三旒を繋ぎ幡の下に種々の花を括りて神前に供す、故實を存せる奇異の祭事なり

神まつる花の時にや成ぬらん 光俊朝臣

ありまの村にかゝるしらゆふ

●王子の窟 花窟の側七八間を隔て、對せる岩を王子の窟といふ伊弉丹尊の御子軻遇突智の神靈を祀るにより此の名あり又聖の窟ともいふ拜所を設くること花窟に同じ



王子窟

●^{せう}湍八丁 奈良和歌山兩縣と交錯する處音無川の支流なる北山川の峽間を穿通して山水の絶勝を爲せる者なり藪々たる幽澗怪巖兩岸に並峙し或は渴驥の飲ぶか如く或は臥牛の横るが如く間々中流に溜て出るあり變幻の妙に加ふるに深穩清秀の態を以てし荆關の筆倪黄の手に非れば狀する能はざるの絶勝不幸にして文士の之を記するなく耶馬溪をして獨其の

名を擅にせしめたるも近來世の知る所となりて騷雅の士杖を曳く者漸く多きに至れり
木ノ本より小川口まで道程八里車行の便ありこゝに宿し翌朝舟を楫ひ北山川を溯ること二里許入鹿村大字木津呂なる湍八丁に達す



湍の口より入鹿

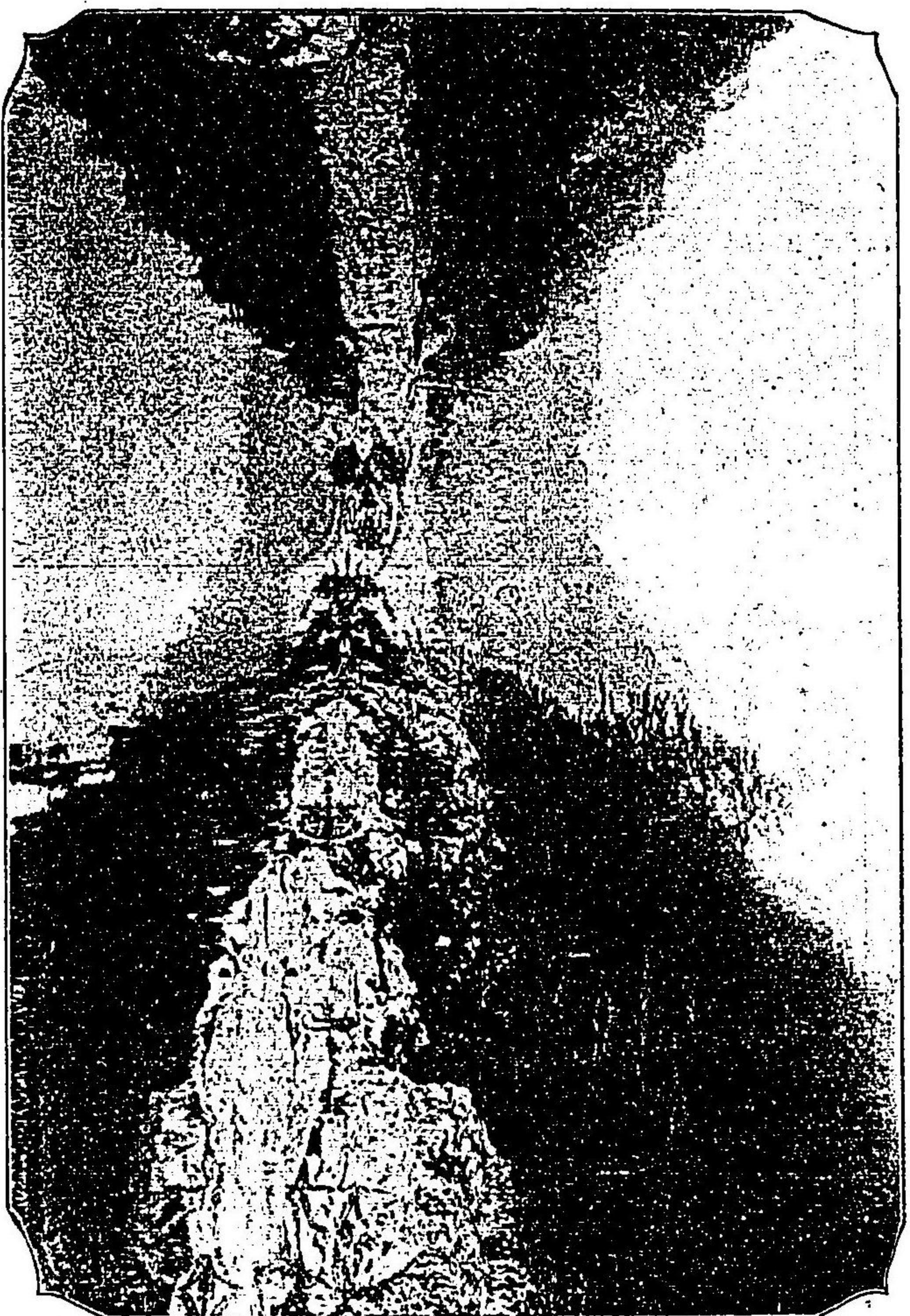


澗 八 丁



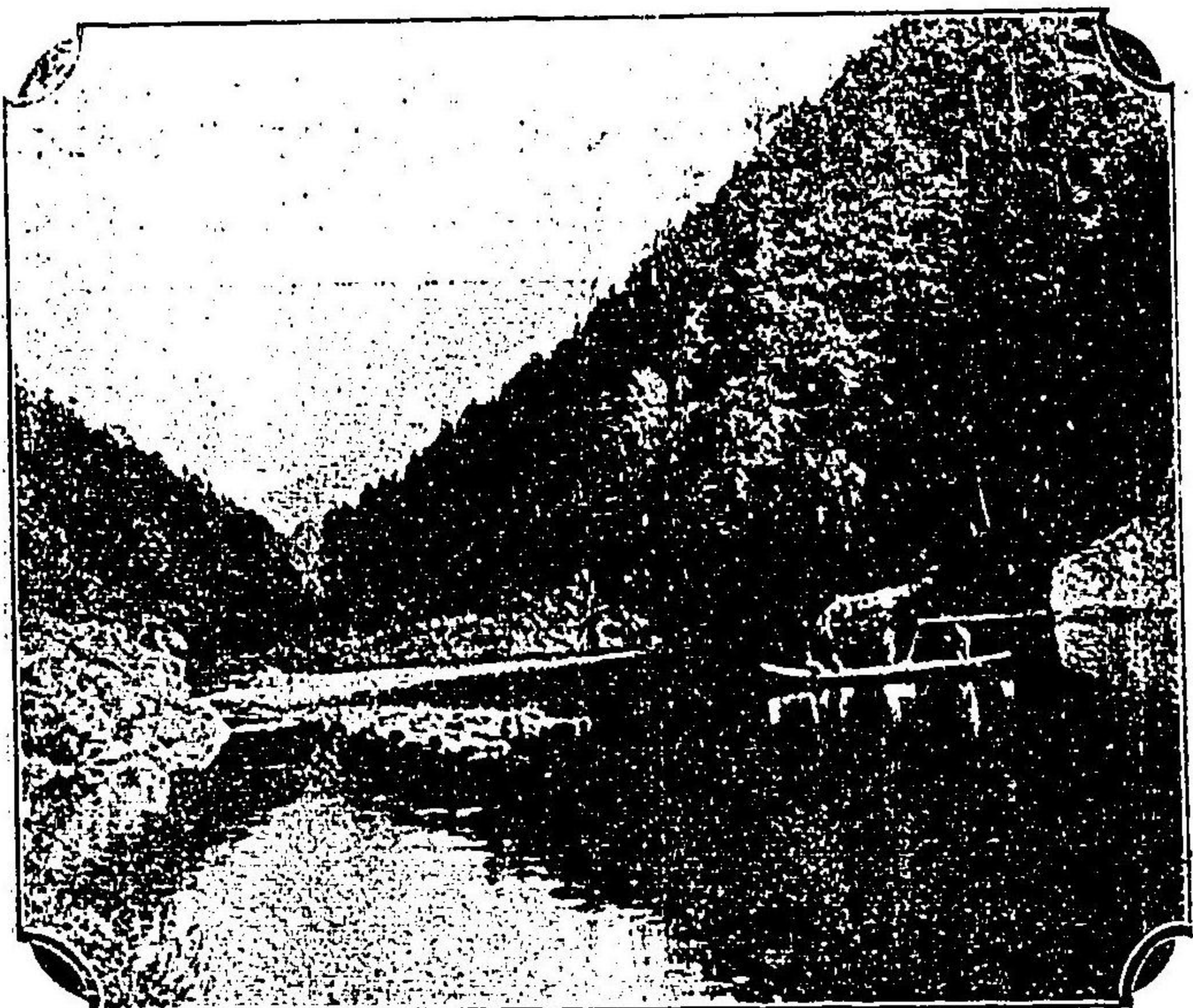
岩 澗 八 丁

井村非兵衛神川村神上を經道の名勝を採りつゝ花知に遊びて水蓮
 島に出て静八丁に至るも亦順路なり

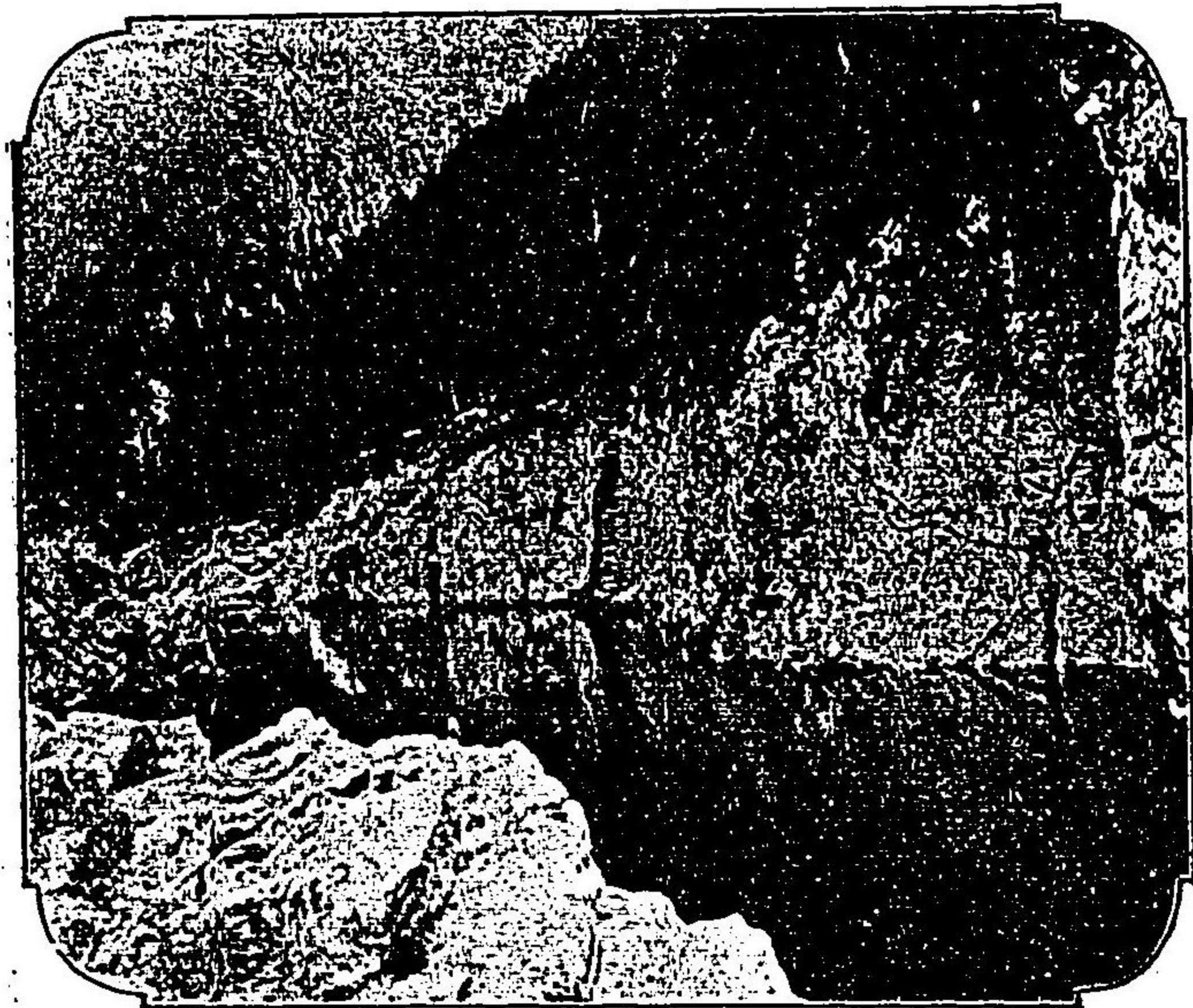


澗 大 知 花 1111

●花知の勝區 神川村の花知は静八丁より更に上流なる北
 山川沿岸の勝區なり本水町を距る西方五里餘にわたり水ノ本より有



花 知 鹿 の 湯



同 屏 風 岩

三三



辨 慶 産 家 捕 跡
坊 辨 慶 の 産
家 跡 乃 ち
傳 ふ 周 圍 九

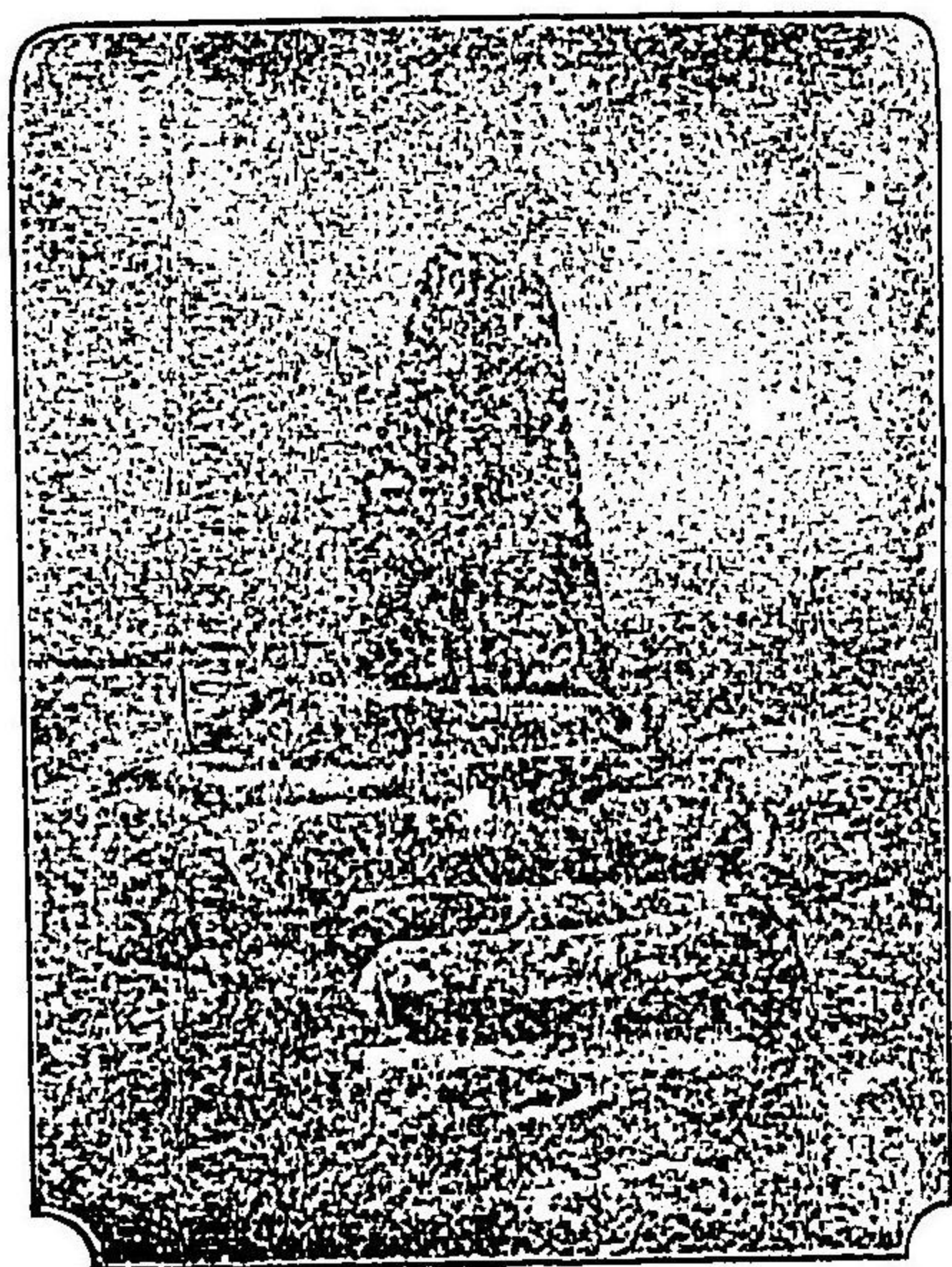
● **布引瀧** 入鹿村大字大河内に在り木ノ木より九里直下四十灣一大白練を懸くる如く巖石に循ふて落つ布引の名空しからず滌八丁より舟行音無川を下り上川村楊引枝より陸行一里にして此の瀧に達すべし

● **辨慶産家捕跡** 小船村大字鮎田にあり木ノ木より九里武藏

碑に餘る捕ありしに寛政の頃枯れしより碑を建て之を表せり楊枝村より舟行三里餘音無川の下流にあり又鮎田の近傍相野谷村は蜜柑の産地にして東京大阪其他に輸出す

● **阿田和の捕鯨** 縣境音無川の河口なる鵜殿村より木ノ本に至るの中央七里ヶ濱に臨みて阿田和村あり木ノ本より四里二十八丁此地は古來有名なる捕鯨地にして冬期には鯨魚の時々近海に來るあり漁船又は網を以て捕獲す

木ノ本鵜殿間七里廿三丁鵜殿より新宮町へ二里廿八丁

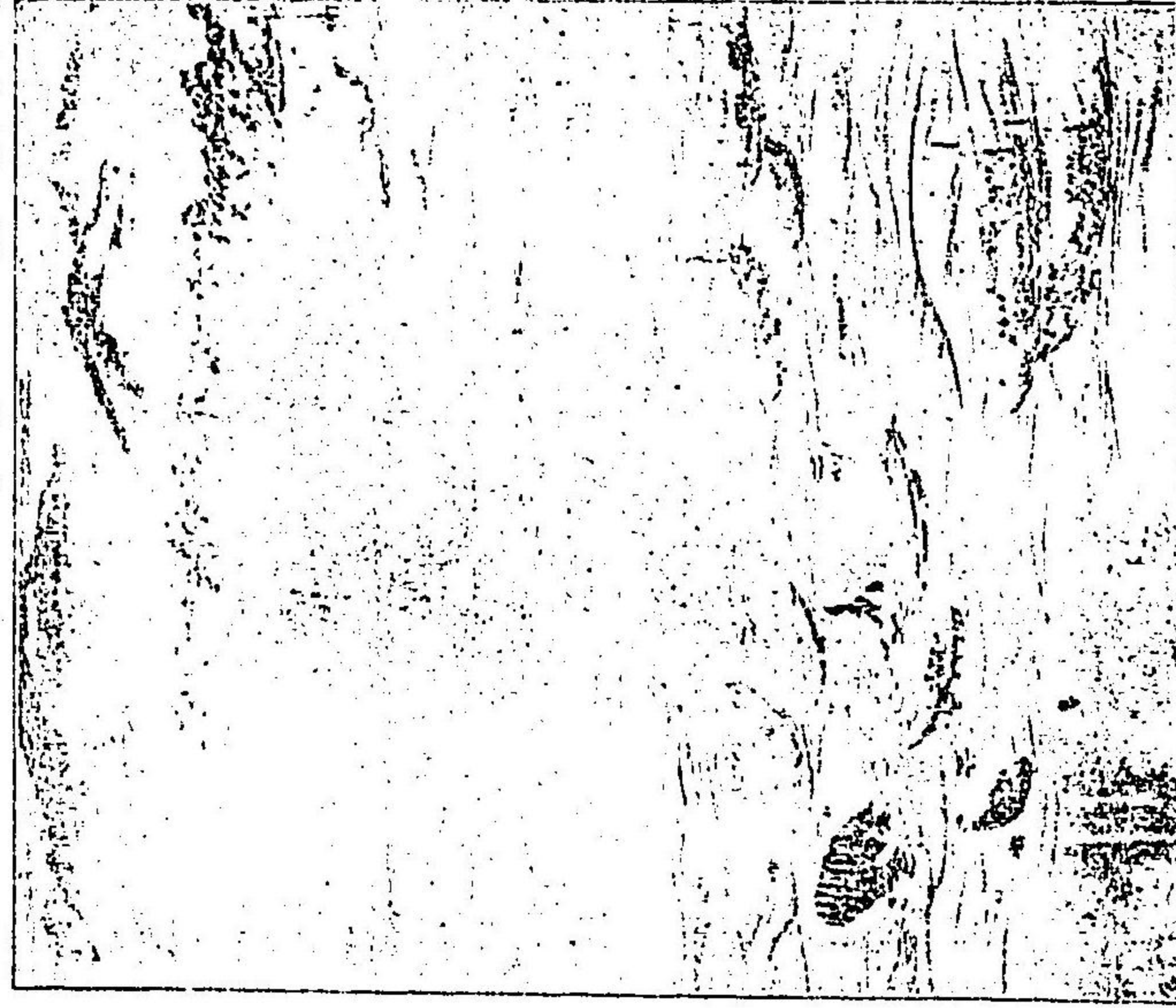


辨 慶 産 家 捕 跡

三三

11/1/37

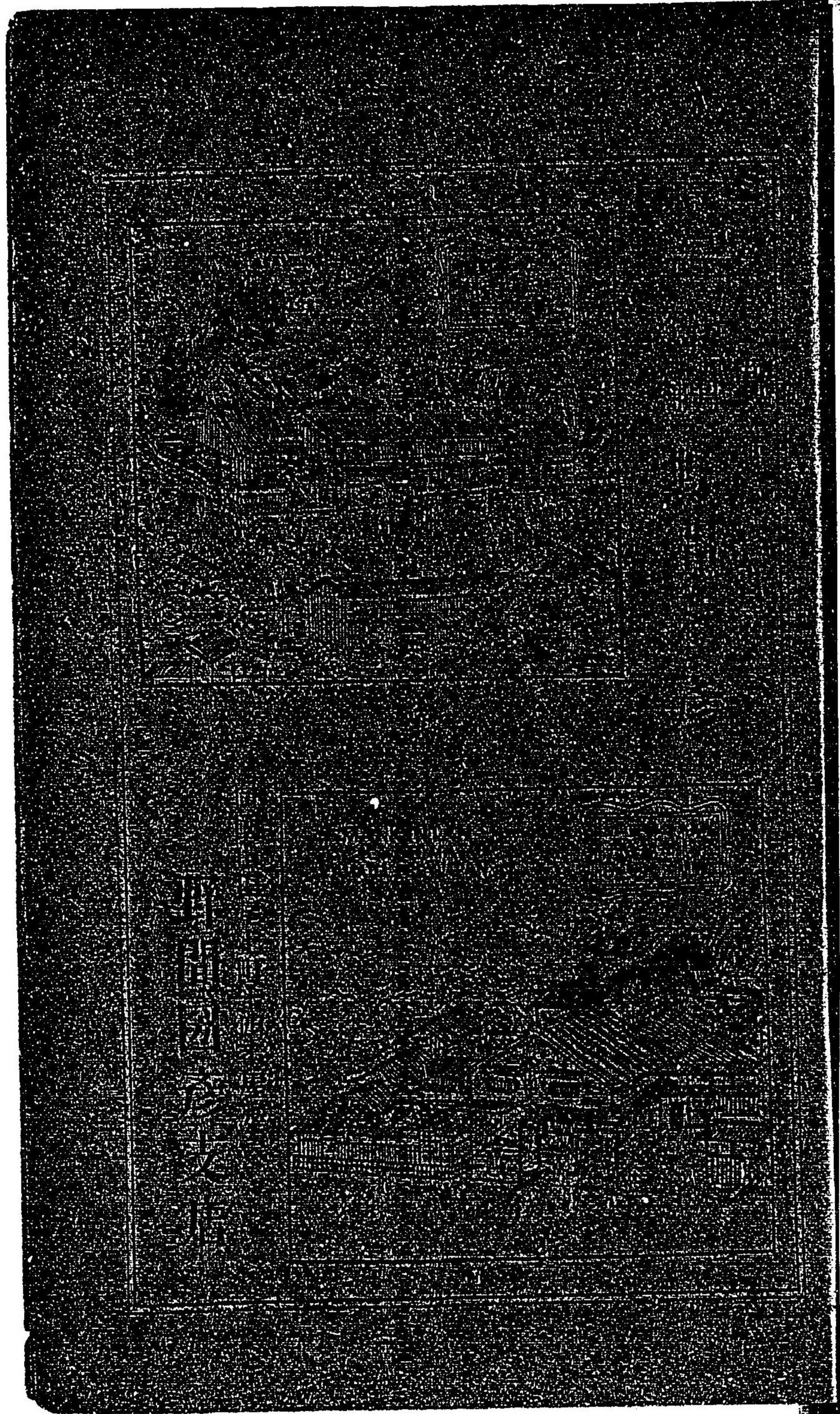
三重縣案内記終

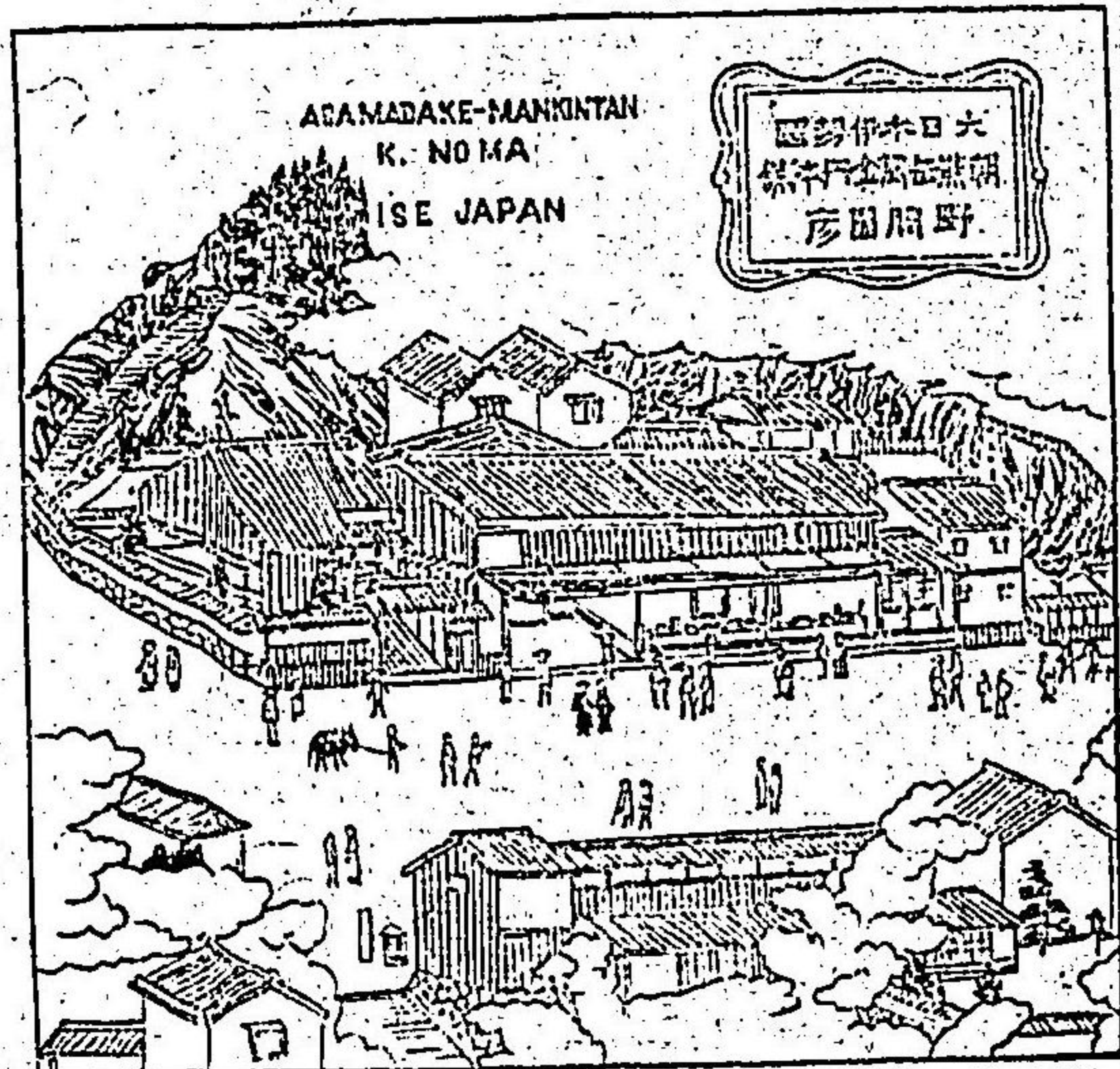


御杖の山



御杖の山 1115





ACAMADAKE-MANKINTAN
K. NOMA
ISE JAPAN

大日本伊勢國
朝日銀行本行
野間支店

伊勢國朝日銀行番屋
萬金丹
野間
支店



MANKINTAN
K. NOMA
YAMADA ISE JAPAN

大日本伊勢國
朝日銀行
野間支店

同國山田尾上町十四番屋敷
野間國彥支店

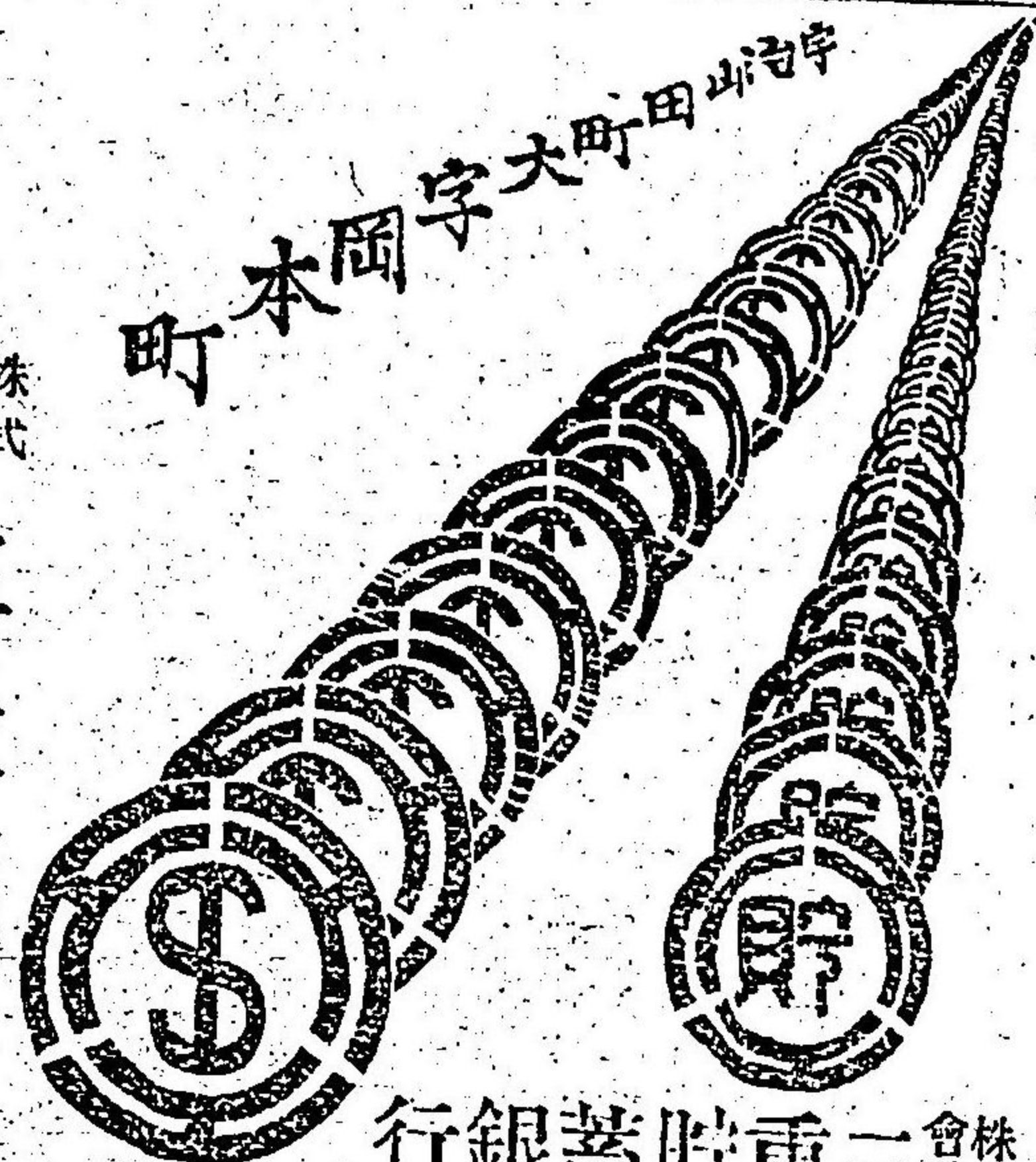
宇治出張店 河崎出張店 鳥羽支店

三重銀行

前島支店 浦口出張店 五所出張店

株式會社 三重貯蓄銀行

宇治山田町大字岡本町



千鳥館

津市阿漕浦 旅館兼海水浴



伊勢參宮ちか道 定期航線

鳥羽鐵工合資會社

<p>往 航</p> <p>鳥羽發 六、三〇 蒲郡發 一、三〇 二見發 七、〇〇 篠島發 三、三〇 豐濱發 九、〇〇 師崎發 三、三〇 篠島發 九、〇〇 豐濱發 四、〇〇 師崎發 九、〇〇 鳥羽發 六、〇〇 蒲郡發 一、四〇 鳥羽發 六、〇〇</p> <p>復 航</p> <p>浦郡着 一、四〇 鳥羽着 六、〇〇 篠島發 九、〇〇 二見發 六、〇〇 豐濱發 九、〇〇 師崎發 四、〇〇 師崎發 九、〇〇 鳥羽發 三、三〇 鳥羽發 六、〇〇 浦郡着 一、四〇</p>	<p>往 航</p> <p>熱田發 六、三〇 大野發 七、三〇 常滑發 七、三〇 野間發 三、三〇 豐濱發 八、五〇 野間發 四、一〇 內海發 八、五〇 野間發 四、一〇 野間發 九、三〇 豐濱發 四、一〇 師崎發 九、三〇 野間發 四、一〇 常滑發 九、三〇 野間發 四、一〇 大野發 九、三〇 野間發 四、一〇</p> <p>復 航</p> <p>熱田着 六、三〇 大野着 七、三〇 常滑着 七、三〇 野間着 三、三〇 豐濱着 八、五〇 野間着 四、一〇 野間着 九、三〇 野間着 四、一〇 野間着 九、三〇 野間着 四、一〇 野間着 九、三〇 野間着 四、一〇 野間着 九、三〇 野間着 四、一〇</p>
--	--

往 航

師崎發 七、〇〇 新川發 二、五〇
 福江發 八、四〇 半田發 一、三〇
 篠島發 九、三〇 武豐發 一、五〇
 大井發 一、五〇 一色發 三、三〇
 武豐發 二、二〇 篠島發 三、三〇
 福江發 二、二〇 福江發 四、三〇
 半田發 二、二〇 福江發 四、三〇
 師崎發 三、三〇 師崎發 五、三〇
 新川發 三、三〇 師崎發 五、三〇

復 航

新川着 三、三〇 師崎着 五、三〇
 師崎着 三、三〇 師崎着 五、三〇
 福江着 二、二〇 福江着 四、三〇
 福江着 二、二〇 福江着 四、三〇
 大井着 一、五〇 一色着 三、三〇
 一色着 一、五〇 武豐着 一、五〇
 武豐着 二、二〇 篠島着 三、三〇
 篠島着 二、二〇 福江着 四、三〇
 福江着 二、二〇 福江着 四、三〇
 半田着 二、二〇 福江着 四、三〇
 師崎着 三、三〇 師崎着 五、三〇
 新川着 三、三〇 師崎着 五、三〇

往 航

熱田發 六、三〇 大野發 七、三〇
 常滑發 七、三〇 野間發 三、三〇
 豐濱發 八、五〇 野間發 四、一〇
 內海發 八、五〇 野間發 四、一〇
 野間發 九、三〇 豐濱發 四、一〇
 師崎發 九、三〇 野間發 四、一〇
 常滑發 九、三〇 野間發 四、一〇
 大野發 九、三〇 野間發 四、一〇

復 航

熱田着 六、三〇 大野着 七、三〇
 常滑着 七、三〇 野間着 三、三〇
 豐濱着 八、五〇 野間着 四、一〇
 野間着 九、三〇 野間着 四、一〇
 野間着 九、三〇 野間着 四、一〇
 野間着 九、三〇 野間着 四、一〇
 野間着 九、三〇 野間着 四、一〇

往 航

熱田發 六、三〇 大野發 七、三〇
 常滑發 七、三〇 野間發 三、三〇
 豐濱發 八、五〇 野間發 四、一〇
 內海發 八、五〇 野間發 四、一〇
 野間發 九、三〇 豐濱發 四、一〇
 師崎發 九、三〇 野間發 四、一〇
 常滑發 九、三〇 野間發 四、一〇
 大野發 九、三〇 野間發 四、一〇

復 航

熱田着 六、三〇 大野着 七、三〇
 常滑着 七、三〇 野間着 三、三〇
 豐濱着 八、五〇 野間着 四、一〇
 野間着 九、三〇 野間着 四、一〇
 野間着 九、三〇 野間着 四、一〇
 野間着 九、三〇 野間着 四、一〇
 野間着 九、三〇 野間着 四、一〇

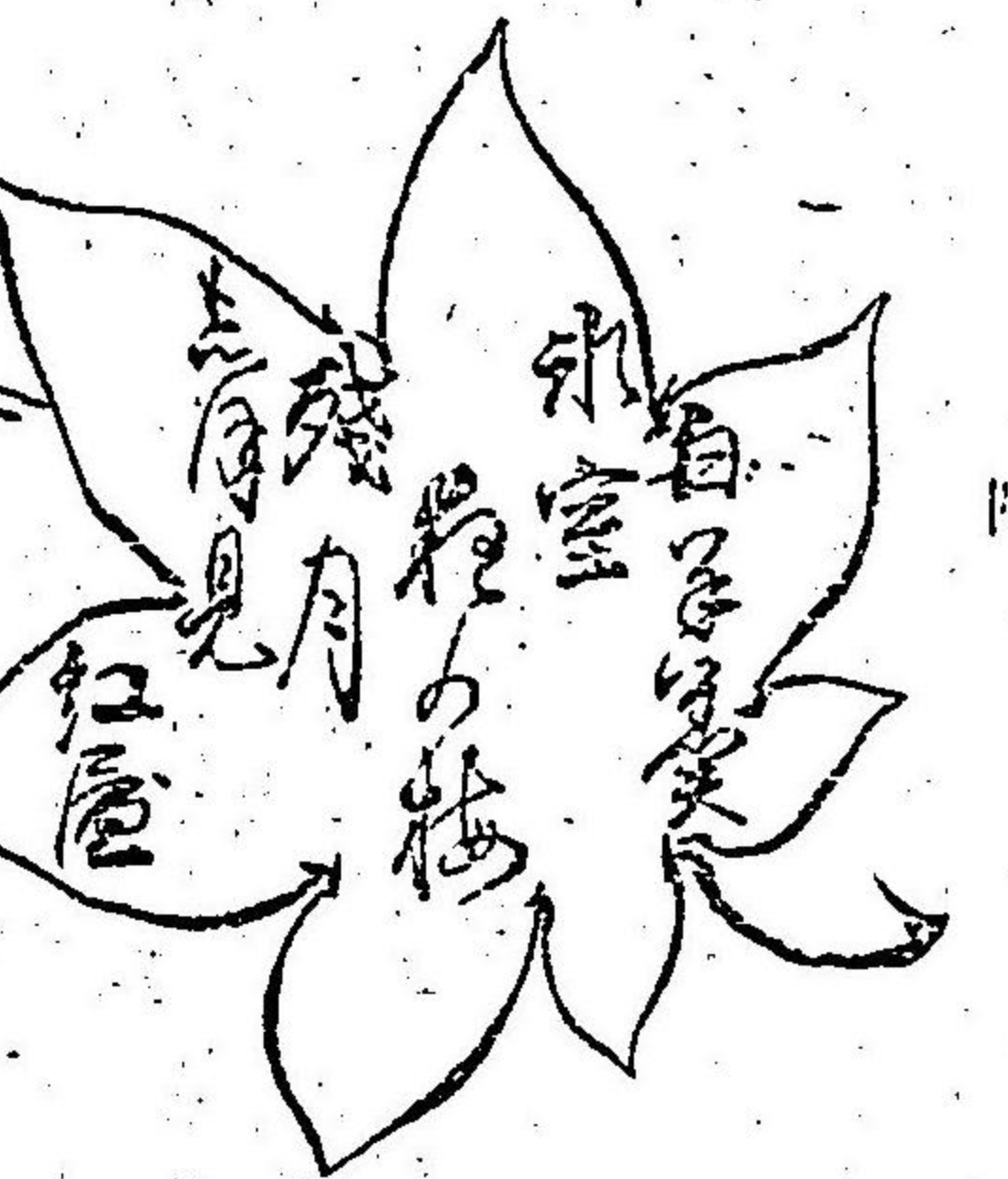
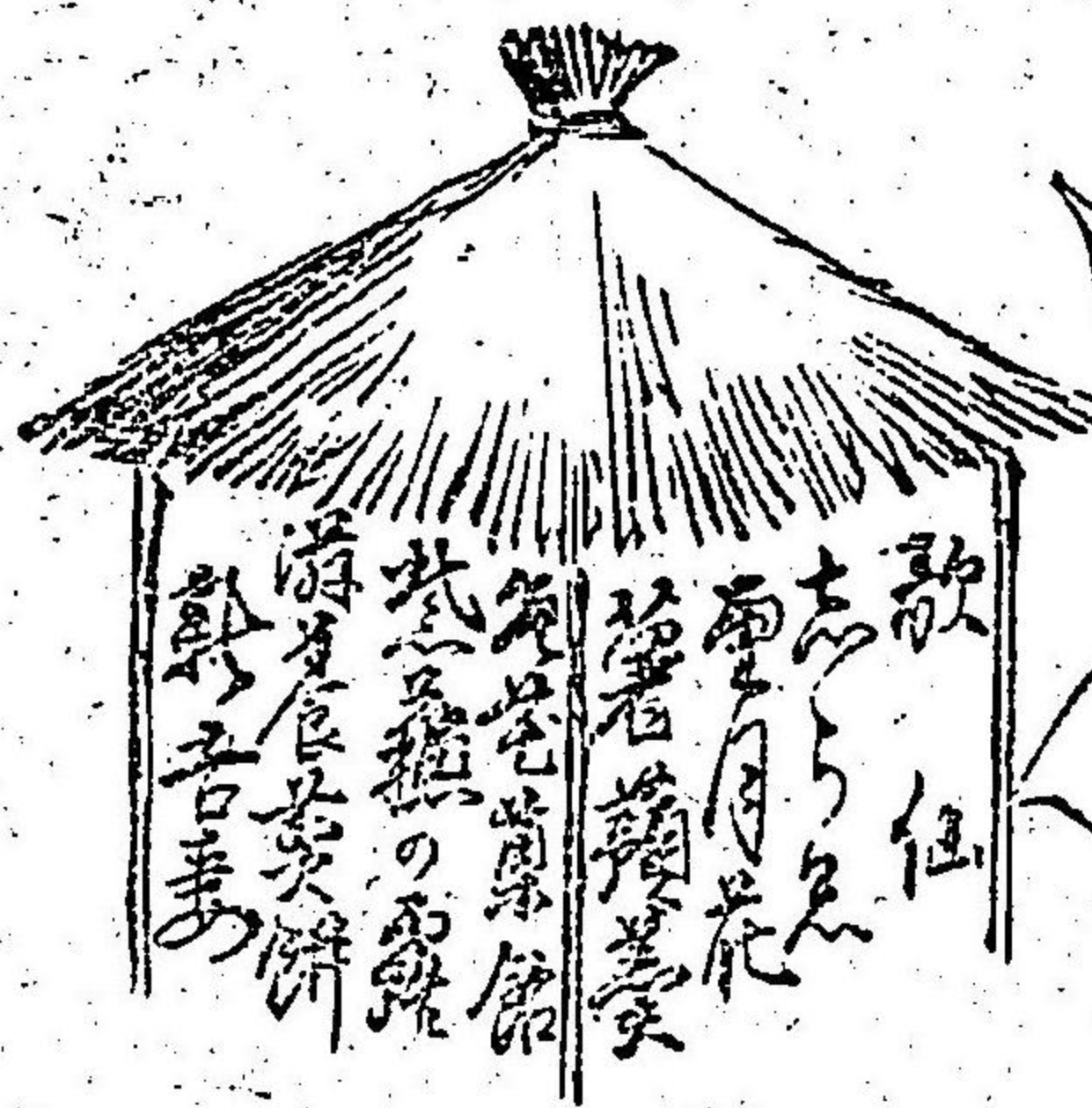
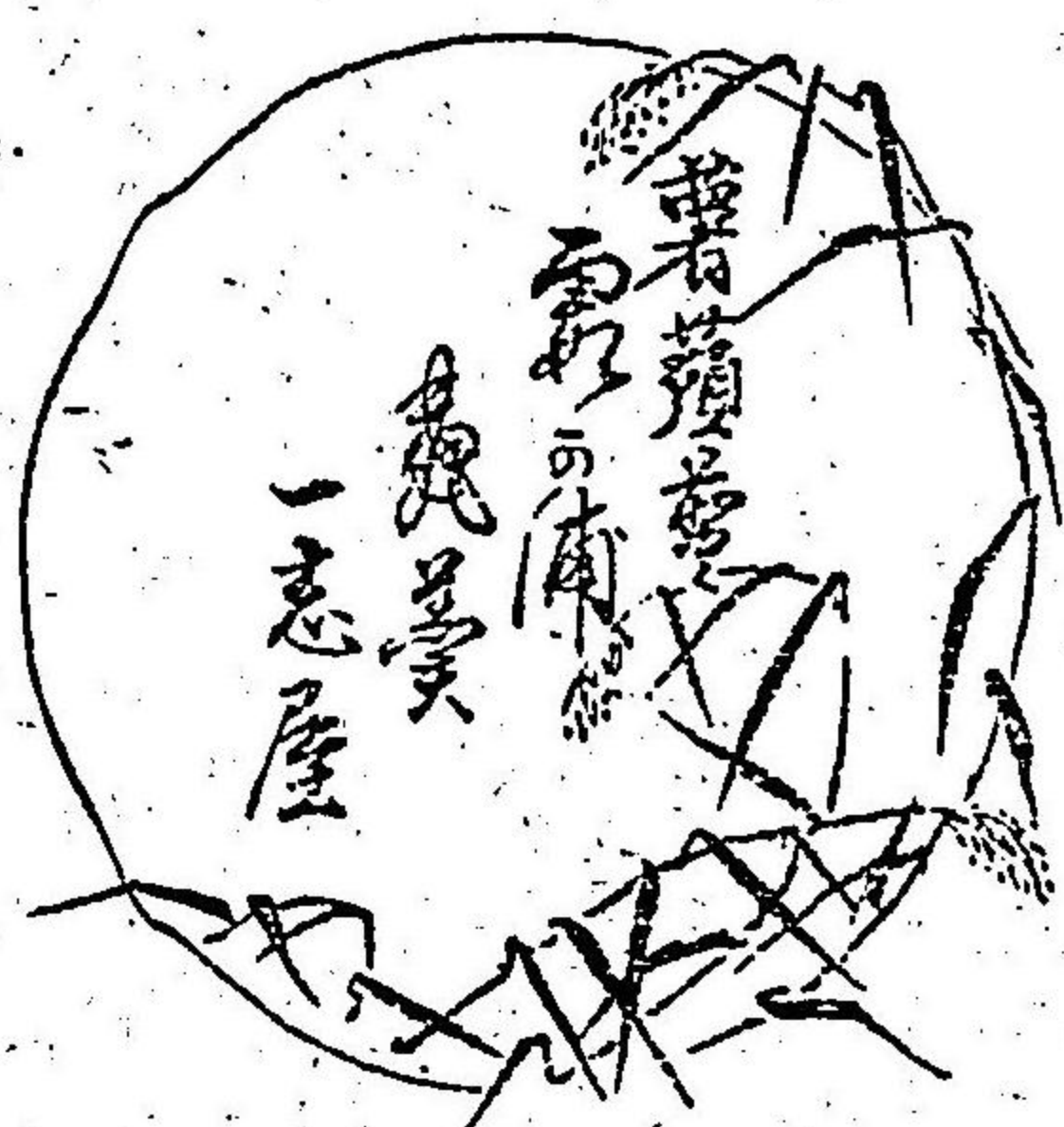
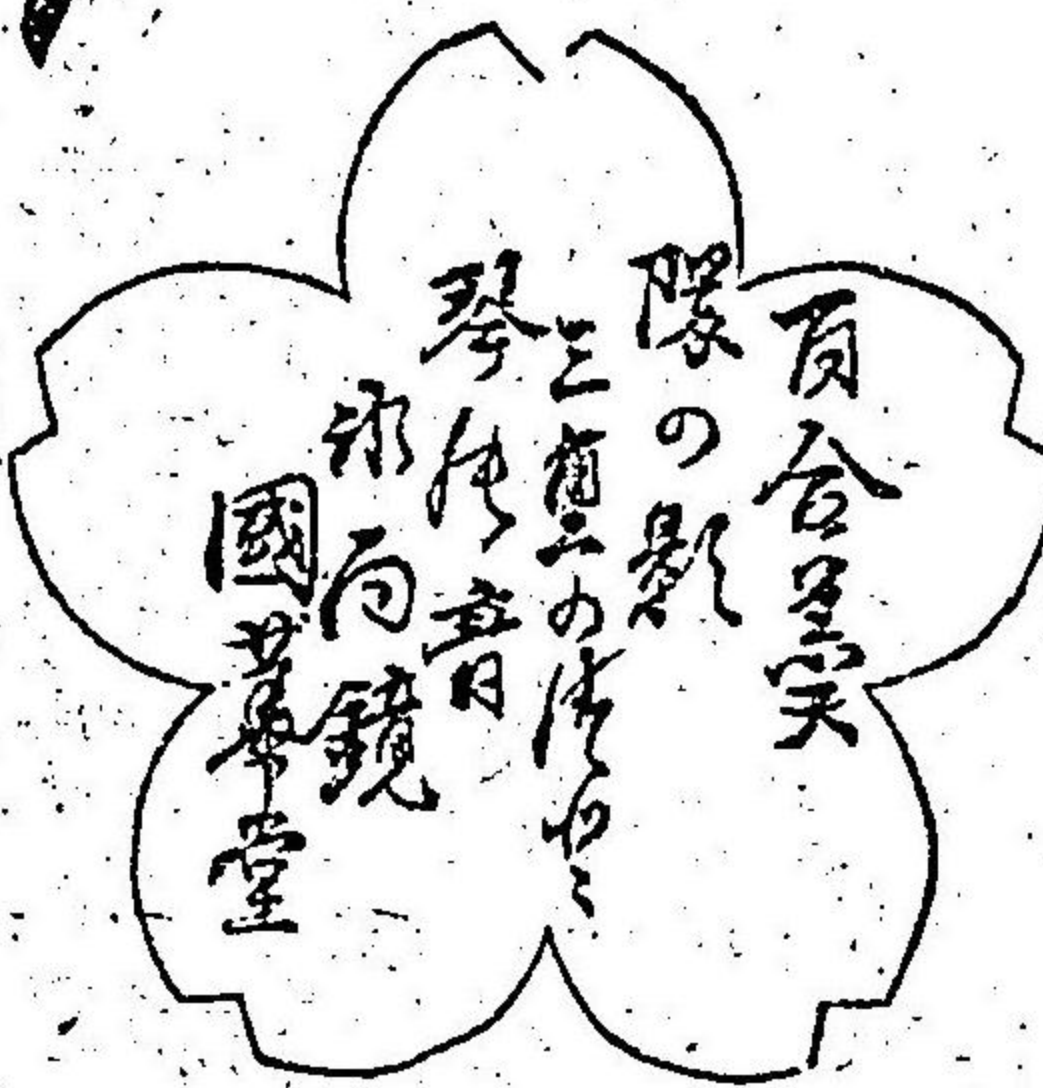
往 航

熱田發 六、三〇 大野發 七、三〇
 常滑發 七、三〇 野間發 三、三〇
 豐濱發 八、五〇 野間發 四、一〇
 內海發 八、五〇 野間發 四、一〇
 野間發 九、三〇 豐濱發 四、一〇
 師崎發 九、三〇 野間發 四、一〇
 常滑發 九、三〇 野間發 四、一〇
 大野發 九、三〇 野間發 四、一〇

復 航

熱田着 六、三〇 大野着 七、三〇
 常滑着 七、三〇 野間着 三、三〇
 豐濱着 八、五〇 野間着 四、一〇
 野間着 九、三〇 野間着 四、一〇
 野間着 九、三〇 野間着 四、一〇
 野間着 九、三〇 野間着 四、一〇
 野間着 九、三〇 野間着 四、一〇

告廣合聯商子菓市日四



津市名産菓子

土産進物用

何心焼

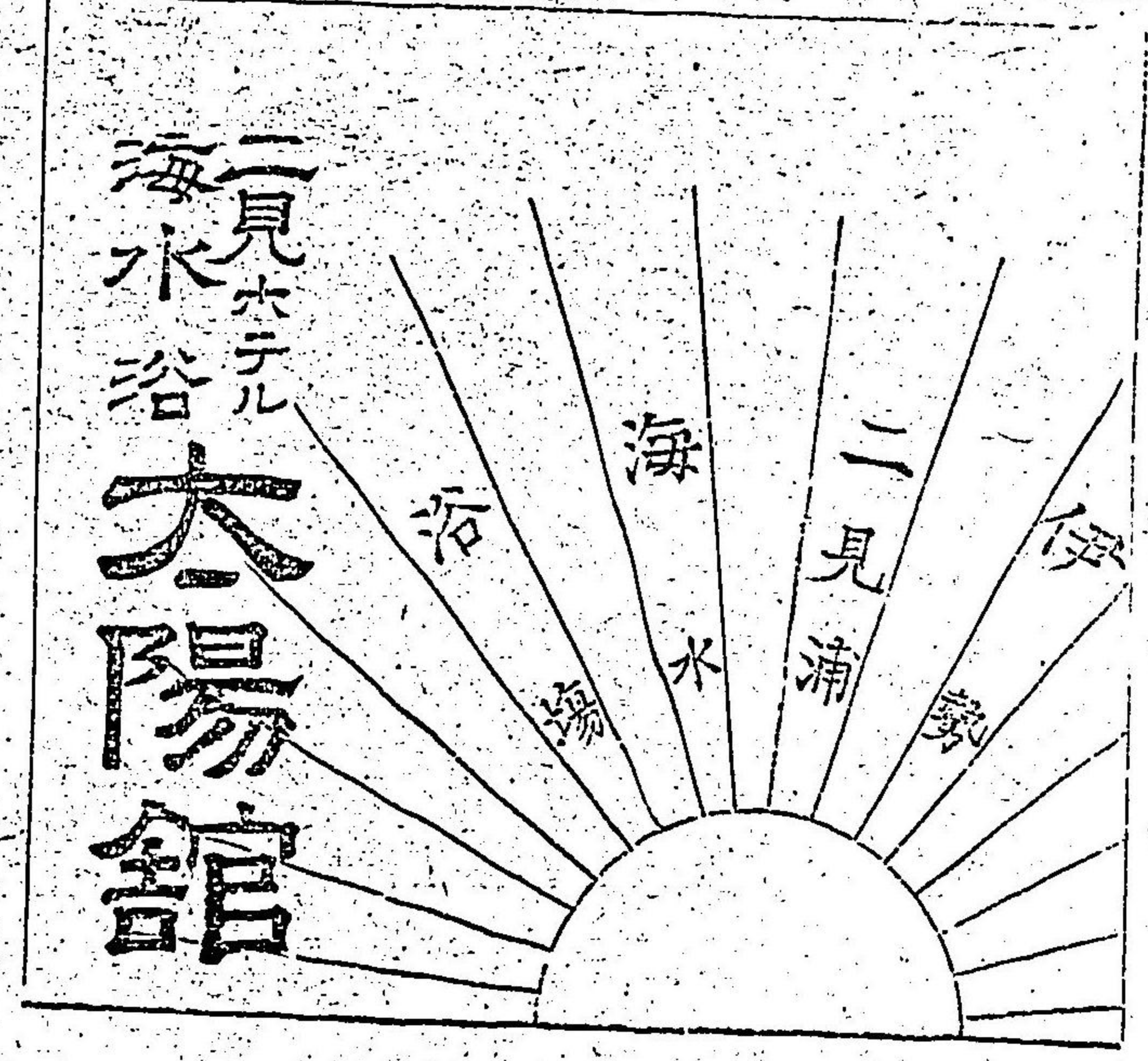
名産第一

立町平谷

名産第一

平松金王

北勢新聞
北勢新聞
北勢新聞
北勢新聞
北勢新聞
北勢新聞
北勢新聞
北勢新聞
北勢新聞
北勢新聞



創立明治十一年

伊勢新聞

三月十一日
第七十號

伊勢新聞は創立十一年を以て、その歴史を振り返ると、その成長の速さを驚かす。特に、その発行部数が増え、その影響力が拡大している。これは、伊勢新聞が地域の発展に貢献していることを示している。

伊勢新聞は、その正確な報道と、その迅速な発行によって、読者の信頼を得ている。また、その発行部数の増加は、その影響力の拡大を示している。これは、伊勢新聞が地域の発展に貢献していることを示している。

伊勢新聞は、その正確な報道と、その迅速な発行によって、読者の信頼を得ている。また、その発行部数の増加は、その影響力の拡大を示している。これは、伊勢新聞が地域の発展に貢献していることを示している。

發行所
伊勢新聞社

(三重縣津市丸之内四番屋敷)

支局 四日市 三番 四日市 三番 四日市 三番
支局 四日市 三番 四日市 三番 四日市 三番

當社卷煙草ハ原料ヲ精撰シ
 特種ノ技術ヲ施シ製造セル
 ナリテ需用者日ニ月ニ増加
 シ内地ハ勿論支那朝鮮ニ涉
 リ到ル處好評ヲ博フスルニ
 至レリ依テ自今一層業務ヲ
 擴張シ如何ナル製品ニテモ
 御高需ニ可應候間多少ニ拘
 ラス御注文ノ程奉希望候

伊勢國龜山町

伊勢煙草株式會社

伊賀國阿山郡上野町
 大字中町
 株式會社 第八十三野銀行

同國名賀郡名張町
 字新町
 同名張支店

(高茶屋驛より三十二丁車賃十二錢)

旅館兼海水浴

日出館

伊勢名勝辛州浦

(六軒驛より一里十二丁車賃十五錢)

伊賀國阿山郡上野町
 大字中町
 株式會社 第八十三野銀行
 同國名賀郡名張町
 字新町
 同名張支店
 伊賀國阿山郡上野町
 大字中町
 株式會社 第八十三野銀行
 同國名賀郡名張町
 字新町
 同名張支店

72
578

本書ノ表題
ハ神宮大宮
司冷泉伯爵
ノ揮毫ナリ

明治三十六年二月二十一日印刷
明治三十六年二月二十五日發行

第五回内閣勸業博覽會ニ出品管理事
發行所 第五回内閣勸業博覽會ニ出品管理事
印刷者 加藤三四郎
印刷所 伊勢新聞社活版部
原書愛知縣海部郡佐木町大字佐屋六十二番
戸平民三重縣津市市須原町四十二番屋敷寄留

三重縣伊勢國松坂街本町
旅館 山川永之九

伊勢國白子町
形紙 本店 寺尾齋兵衛
支店 寺尾齋兵衛
東島日本 區久六 三反番

伊勢國白子町
形紙 本店 寺村重右衛門
支店 寺村惠吉
東京日本橋區新泉町一番地

菓子商 伊勢國龜田西町
名産梅 右ノ七平松文七

伊勢國關町
絹織業 西尾芳五郎

伊勢國關町地蔵前
旅會津屋中村安五郎

82
578

本書ノ表題
ハ神宮大宮
司冷泉伯爵
ノ揮毫ナリ

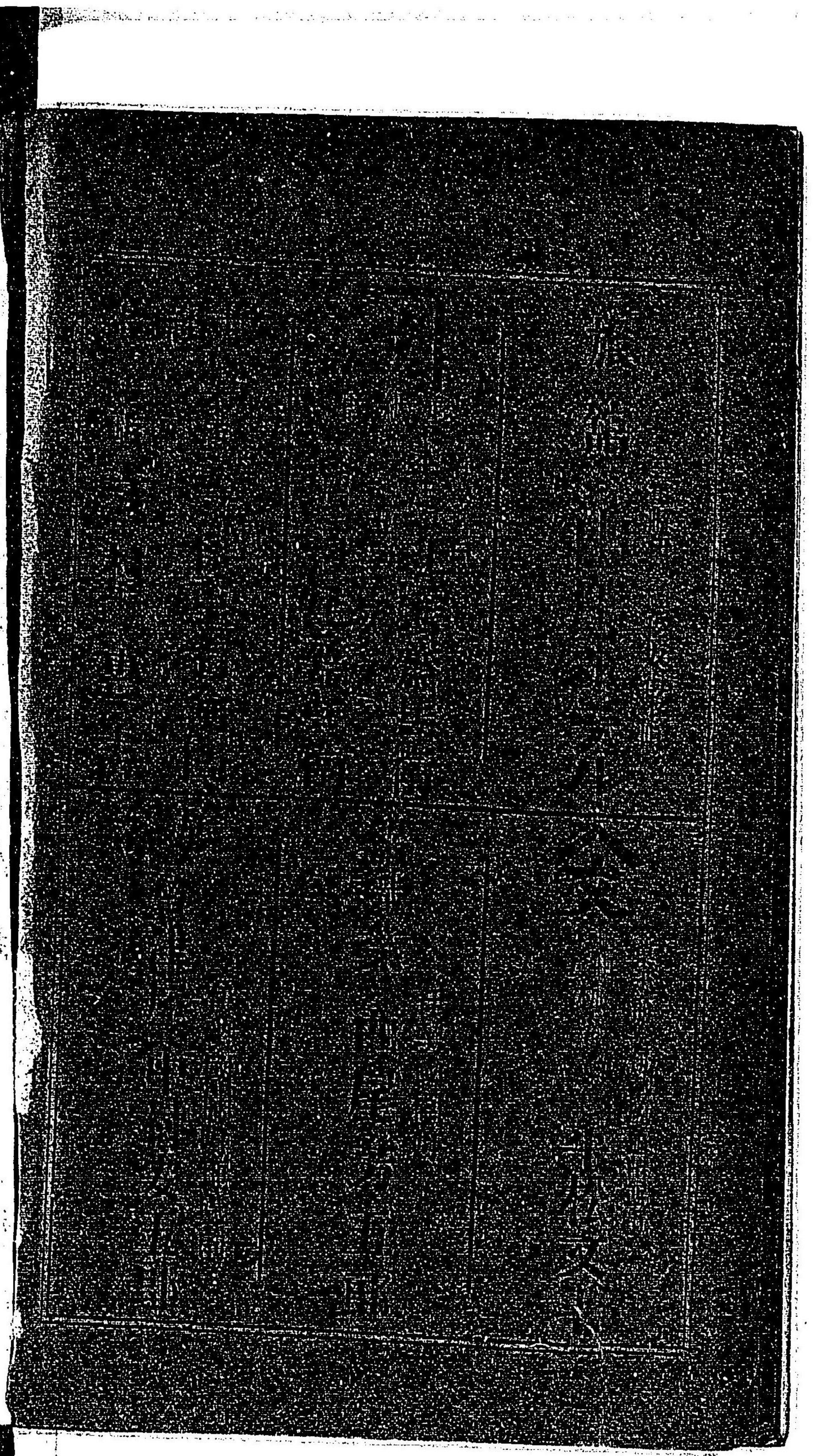
明治三十六年二月二十一日印刷
明治三十六年二月二十五日發行

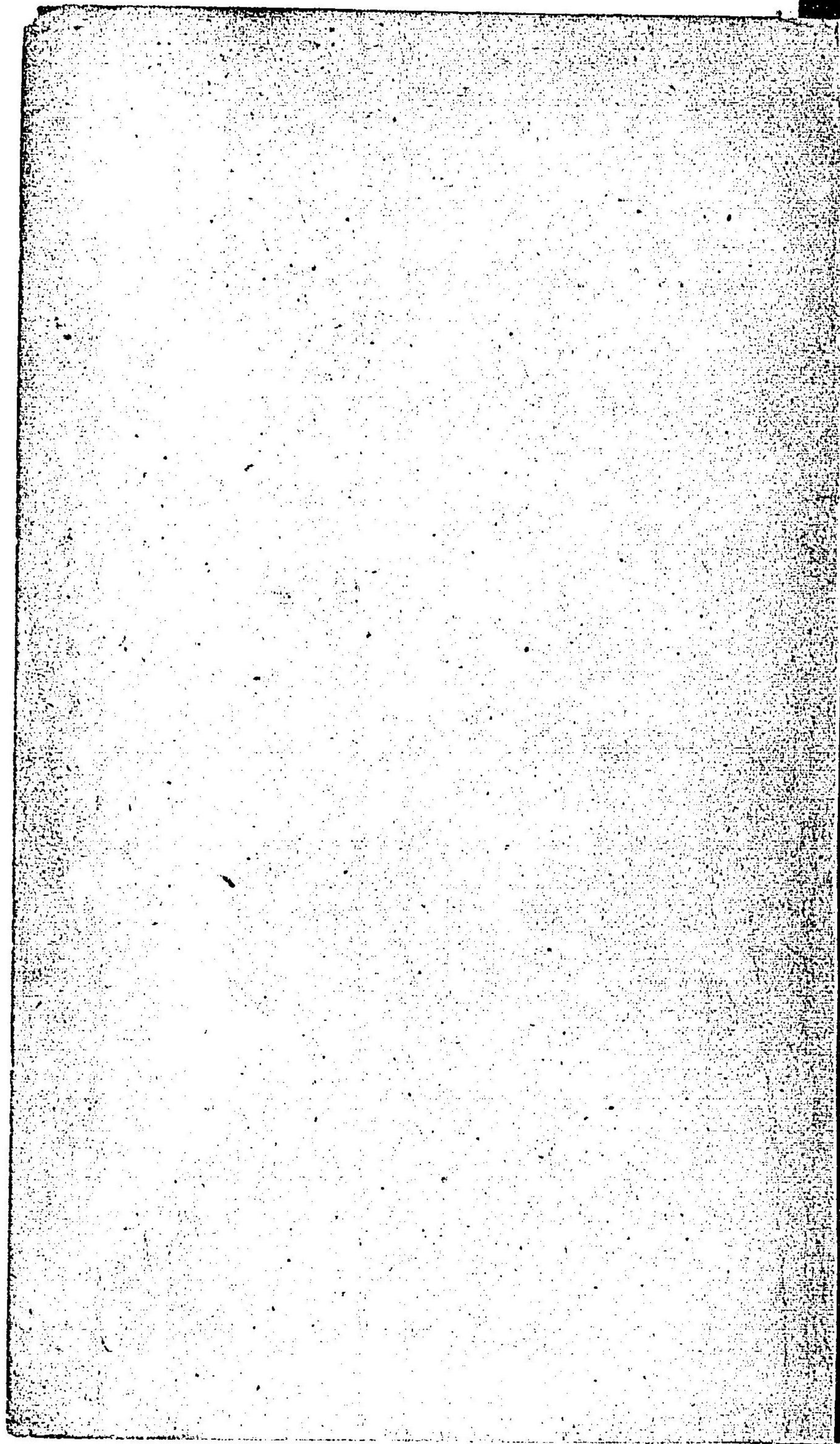
著者兼發行者
第五回內國勸業博覽會三重協贊會理事
梅原三千

發行所
第五回內國勸業博覽會
三重協贊會
三重縣內務部第四課內

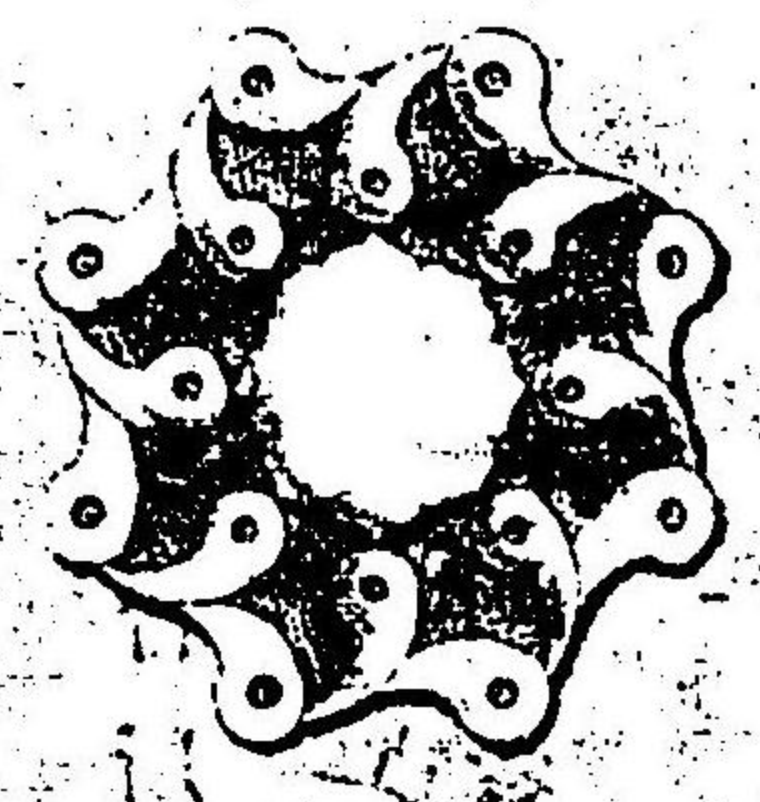
印刷者
加藤三四郎
原籍愛知縣海東郡佐衣木町大字佐屋六十二番
戶平民三重縣津市船頭町四十二番屋敷寄留

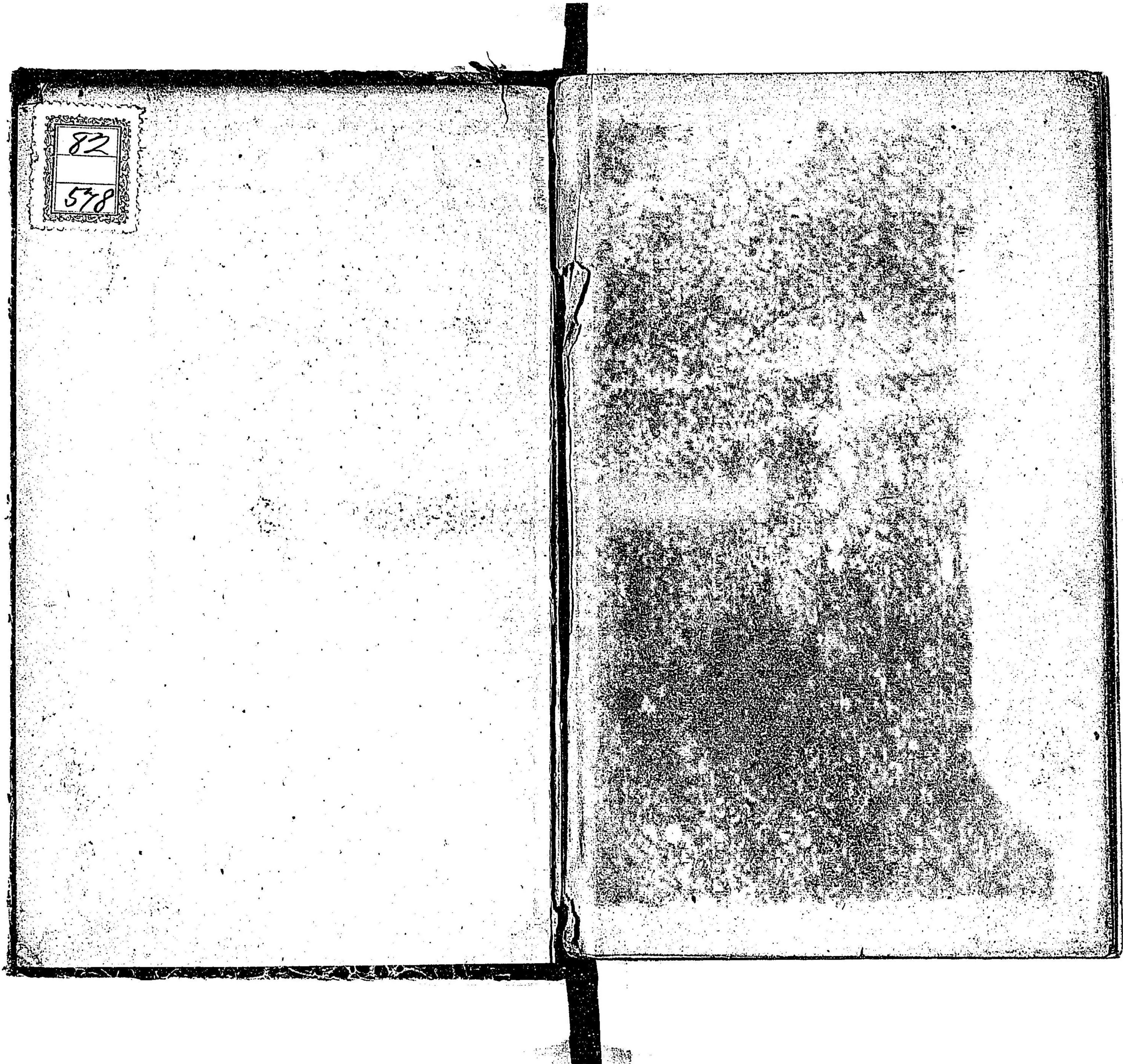
印刷所
伊勢新聞社活版部
三重縣津市丸之内四番地





Faint, illegible text or markings on the right page, possibly bleed-through from the reverse side. The text is arranged in vertical columns and is mostly obscured by noise and grain.





82

578

